

自己点検評価書（2021年度）  
教育研究年報（2020年度）

2021年7月

群馬パース大学

## 目 次

### 第 1 部 自己点検評価書 (2021 年度)

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等	1
II. 沿革と現況	4
III. 評価機構が定める基準に基づく自己評価	9
基準 1. 使命・目的等	9
基準 2. 学生	30
基準 3. 教育課程	61
基準 4. 教員・職員	76
基準 5. 経営・管理と財務	86
基準 6. 内部質保証	96
基準 A. 地域への貢献	101
基準 B. 国際交流の推進	106

### 第 2 部 教育研究年報 (2020 年度)

I. 教育活動の記録	110
1) 看護学科	111
2) 理学療法学科	114
3) 検査技術学科	117
4) 放射線学科	119
5) 臨床工学科	122
6) 保健科学研究科保健科学専攻博士前期課程	124
7) 保健科学研究科保健科学専攻博士後期課程	126
II. 研究活動の記録	127
1) 看護学科	128
2) 理学療法学科	163
3) 検査技術学科	181
4) 放射線学科	203
5) 臨床工学科	224
6) 教養共通教育部	234

第 1 部  
自己点検評価書  
(2021 年度)

# I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

## 1. 建学の精神

*Paz* (平和) 平和で公正な社会の発展  
*Pessoa* (個性) 個人の尊厳と自己実現、  
*Assistencia* (互助) 多様な人々の共存と協調、  
*Zelo* (熱意) 知の創造、  
への貢献

すべての人々が「Dum Spiro Spero ～人には生命ある限り希望がある～（以下、「基本理念」という。）」を「PAZ グループ（図 1-1）」の基本理念とした中から創設された、学校法人群馬パース学園（令和 3(2021)4 月「学校法人群馬パース大学」へ名称変更、以下、「本法人」という）は、平成 10（1998）年、人口 3,000 人ほどの高山村に看護短期大学を開校した。法人名と同じ、平和「Paz」を大学名にし、「群馬パース看護短期大学」とした。



図 1-1 PAZ グループ構成図

「Paz—平和」は、16 世紀、日本に初めて西洋医学を紹介したポルトガル人「ルイス・デ・アルメイダ」にちなんで、ポルトガル語から選んだ。

Paz は、すべての人が、「美しく、健やかに、元気で」老いる社会の実現を求めて、大学

名の Paz には、「平和で公正で安定し成長する」社会を希求する大学であることを示し、同時に大学も学生も「平和・公正・安定・成長」を旨とすることとしている。

看護短期大学の設立当初には、P、A、Z の各文字に Pessoa（人々・人類）、Assistencia（保健・医療・福祉）、Zelo（貢献・献身）という個別の概念を付与した。そこには「人類愛を抱き、看護を通して保健医療福祉に貢献する」という理念が込められている。その後、看護短期大学から「群馬パース大学（以下、「本学」という。）」に成長する過程で、看護短期大学の理念を発展させ、P、A、Z を現在の Pessoa（個性）、Assistencia（互助）、Zelo（熱意）として再構成した。これにより、群馬パース大学では、学生の「一個人、社会人、職業人」としての能力を磨くことを教育の三本柱とすることとした。

P、A、Z の表す能力をそれぞれ「柔軟な知的適応能力」、「円満な対人協調能力」、「有用な業務遂行能力」と呼び、簡略にして「P 力、A 力、Z 力」と書く。三つの力を併せて総合的な人間力を持った人材を世に送り出すことが、本学の使命であり、どんな地域であっても「PAZ グループ」の基本理念の体現者となり、「美しく、健やかに、元気で」老いる社会の実現に必要な人材となってもらいたいと願う。

## 2. 群馬パース大学の使命・目的

上記で説明したように、本学が大学名とする「Paz—平和」を希求する力（PAZ 力）を持った専門職を育成し、一人でも多くの PAZ 力を持った専門職を社会に送り出すことを本学の使命とするが、臨床の現場と教育とを循環させ、大学院や研究所活動を通じて再教育の仕組みを確立させることも大切な使命としている。

本法人は、医療法人を含む他の 5 つの法人とともに「PAZ グループ」を構成している。6 法人が基本理念を基に「美しく、健やかに、元気で」老いる社会の実現を目指し、事業展開をしている。

学校法人がグループ法人と密接な相互関係を持ち、医療・福祉の現場と一体的つながりをもった教育・研究機関であること、また、それらの周辺をサポートする関連会社があり、本学と積極的な協力関係を築いていること、そしてそれらを背景に本学が地域に存在する意義を持たせるように努めている。

## 3. 本学の個性・特色等

本学の建学の精神及び教育目標を、本学に学ぶ学生が理解できるよう、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを明確にし、「学生自身が、三つのポリシーの関係の背後にある大学の特色を理解する。」ことが重要であるという視点に立ち、毎年 1 年生全員に学長特別講義を実施する中で「P+A+Z=PAZ」という概念を以下のとおり説明している（図 1-2 学長特別講義資料（抜粋））。

P＝個人的側面—知的適応能力、A＝社会的側面—対人調整能力、Z＝職業的側面—業務遂行能力として、これを組み合わせ、「平和・公正・安定・成長」を目指している。

## 群馬パース大学の教育体系の理解と記憶のために

■本学の名称 PAZ（パース）は、16世紀に日本に初めて西洋医学を紹介し、日本初の病院を作ったルイス・デ・アルメイダにちなんでポルトガル語から選ばれた。

■「PAZ」は平和を意味し、「平和で公正で安定し成長する」社会を希求する大学であることを示し、同時に、大学も学生も「平和・公正・安定・成長」を旨とすることを示す。  
注：公正とは、規則を守ること、道を外れないこと。

■「P、A、Z」の各文字には、Pessoa（個性）、Assistencia（互助）、Zelo（熱意）という個別の概念が付与されている。読み方は、ペーソ、アシステンシア、ゼロ。

■この対応に基づいて、学生の「一個人、社会人、職業人」としての側面を高めた能力を磨くことを本学の「教育の三本柱」とする。

■P、A、Zの示す三つの能力を「P力、A力、Z力」とも書き総合能力を「PAZ力」と呼ぶ。それぞれの基本の表現は以下の通り。

「柔軟な知的適応能力」、「円満な対人協調能力」、「有用な業務遂行能力」

■本学は三力を併せて総合的な人間力をもった人材を世に送り出すことを目指す。ここで  
P力は「学識を増し、見識を磨き、人として成熟し、適応力を高める」ことで、  
A力は「共感力、協調力、交流力を高めて、円満な対人能力を伸ばす」ことで、  
Z力は「専門的な知識と技能を真摯に学び、有用な仕事力を修得する」ことで  
それぞれ得られる。下表では、以上の内容を整理したもの。

用語	意味する内容
PAZ（平和）	平和・公正・安定・成長を希求する
Pessoa（個性）	柔軟な知的適応能力（一個人としての側面）
Assistencia（互助）	円満な対人協調能力（社会人としての側面）
Zelo（熱意）	有用な業務遂行能力（職業人としての側面）

■医療の場で言えば、P力、A力、Z力は以下の内容を含む。

P力：「問題意識を高め、人格を磨き、倫理観を養い、研究する能力の基礎を育むこと」。

A力：「医療の現場で出会う人々に真摯に向き合い、思いやり、優しさ、共感を持って接し、的確なコミュニケーション能力を発揮し、チーム医療のセンスを育て、地域や社会に貢献する意志を養うこと」。

Z力：「日々進歩する医学医療の知識と技術を的確に学び、向上心を失わずに努力し、役割を理解し、医療の現場のさまざまな問題を発見し、評価し、解決し、主体的、意欲的、効率的にかつ責任感をもって職能を発揮する基礎を習得すること」。

図 1-2 学長特別講義資料（抜粋）

本学は、グループ法人である「医療法人社団ほたか会」の実践を通じた人材育成の必要性から創設されたものである。医療法人社団ほたか会では、病院・診療所・介護老人保健施設・ケアハウス・通所リハビリテーション等を運営している。これにより成立した臨床と教育のつながりの中から、指導者の育成と研究機能が求められるようになり、大学院の開設が導かれた。また、各株式会社では、福祉施設関連事業、医療職のための職業紹介事業及び学生支援関係事業等を営んでいる。

創設 23 年目を迎えた本学では、教職員全体で、大学を積極的に活動させることに取り組める状況である。学生数も、比較的小規模であることの利点が、教学や学生支援にも反映されている。

学校法人と大学の関係も毎月 1 回開催される法人運営会議の実施により、経営側と教側との意思疎通、連携、協働が円滑であり、機動的な意思決定がなされ、責任が明確にされ、大学の管理運営が統括されている。

## Ⅱ. 沿革と現況

### 1. 本学の沿革

平成 09 年 12 月	群馬パース看護短期大学の設置認可
平成 10 年 04 月	群馬パース看護短期大学の開学
平成 10 年 04 月	看護学科第 1 回入学式の挙行
平成 12 年 12 月	地域看護学専攻科の設置認可
平成 13 年 03 月	看護学科第 1 回卒業証書授与式の挙行
平成 13 年 04 月	地域看護学専攻科第 1 回入学式の挙行
平成 13 年 12 月	理学療法学科の設置認可
平成 14 年 03 月	地域看護学専攻科第 1 回修了証書授与式の挙行
平成 14 年 04 月	大学名を「群馬パース学園短期大学」へ変更
平成 14 年 04 月	理学療法学科第 1 回入学式の挙行
平成 15 年 09 月	高崎キャンパスの開設
平成 16 年 11 月	群馬パース大学の設置認可
平成 17 年 04 月	群馬パース大学の開学
平成 17 年 04 月	保健科学部看護学科、理学療法学科第 1 回入学式の挙行
平成 20 年 10 月	群馬パース大学大学院の設置認可
平成 21 年 03 月	保健科学部看護学科、理学療法学科第 1 回学位記授与式の挙行

平成 21 年 04 月	群馬パース大学大学院の開学
平成 21 年 04 月	大学院保健科学研究科保健科学専攻修士課程第 1 回入学式の举行
平成 22 年 02 月	新キャンパス（1 号館）の竣工
平成 23 年 03 月	大学院保健科学研究科保健科学専攻修士課程第 1 回学位記授与式の举行
平成 24 年 08 月	保健科学部看護学科が助産師学校の指定を受ける
平成 25 年 02 月	検査技術学科棟（2 号館）の竣工
平成 25 年 04 月	保健科学部検査技術学科第 1 回入学式の举行
平成 25 年 10 月	体育棟（3 号館）の竣工
平成 29 年 03 月	放射線学科・臨床工学科棟（4 号館）の竣工
平成 29 年 04 月	保健科学部放射線学科・臨床工学科第 1 回入学式の举行
平成 30 年 04 月	大学院保健科学研究科保健科学専攻博士後期課程第 1 回入学式の举行
平成 30 年 10 月	日本看護協会から認定看護師教育機関（摂食・嚥下障害看護）の認定を受ける。
令和元年 07 月	認定看護師教育課程（摂食・嚥下障害看護）第 1 回開講式
令和 2 年 01 月	認定看護師教育課程（摂食・嚥下障害看護）第 1 回修了式
令和 3 年 03 月	保健科学部放射線学科、臨床工学科第 1 回学位記授与式の举行
令和 3 年 03 月	保健科学研究科博士後期課程第 1 回学位記授与式の举行
令和 3 年 04 月	学校法人群馬パース大学に設置者名称変更
令和 3 年 04 月	リハビリテーション学部理学療法学科、作業療法学科開設、言語聴覚学科開設
令和 3 年 04 月	リハビリテーション学部理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科第 1 回入学式の举行



## 2. 本学の現況

### ・ 大学名

群馬パース大学      群馬パース大学大学院

### ・ 所在地

群馬県高崎市問屋町一丁目 7 番地 1 【1 号館】

(看護学科・理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・図書館棟)

群馬県高崎市問屋町一丁目 8 番地 1 【2 号館】 (検査技術学科棟)

群馬県高崎市問屋町一丁目 3 番地 8 【3 号館】 (体育棟)

群馬県高崎市問屋町三丁目 3 番 4 【4 号館】 (放射線学科・臨床工学科棟)

群馬県高崎市問屋町一丁目 5 番地 2 【5 号館】 (学生支援センター等)

群馬県吾妻郡高山村中山 6859-252 【グラウンド】

### ・ 学部構成

学部等	学科、専攻・課程
保健科学部	看護学科、理学療法学科※、検査技術学科 放射線学科、臨床工学科
リハビリテーション学部	理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科
大学院保健科学研究科	保健科学専攻 博士前期課程 保健科学専攻 博士後期課程

※ 令和 3(2021)年 4 月、学生募集停止

・学生数、教員数、職員数

保健科学部及びリハビリテーション学部の定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	在籍学 生総数	編入 学生数 (内数)	b/a
				(a)	(b)		
保健科 学部	看護学科	80	—	320	345	0	1.08
	理学療法学科※	—	—	180	202	0	1.12
	検査技術学科	60	—	240	272	0	1.13
	放射線学科	70	—	280	330	0	1.18
	臨床工学科	50	—	200	225	0	1.13
保健科学部合計		260	—	1,220	1,374	0	1.13
リハビ リテー ション 学部	理学療法学科	60	—	60	73	0	1.22
	作業療法学科	30	—	30	35	0	1.17
	言語聴覚学科	30	—	30	30	0	1.00
リハビリテーション学部 合計		120	—	120	138	0	1.15
学部合計		380	—	1,340	1,512	0	1.13

※保健科学部理学療法学科（令和3(2021)年度学生募集停止）

保健科学研究科の定員及び在籍学生数

研究科	専 攻	入学 定員	収容 定員	在籍学生 総数	b/a
			(a)	(b)	
保健科学研究科	保健科学専攻 博士前期課程	8	16	20	1.25
	保健科学専攻 博士後期課程	2	6	5	0.83
合 計		10	22	25	1.14

保健科学部及びリハビリテーション学部の教員数

学部・学科		専任教員数					助手
		教授	准教授	講師	助教	計	
保健科学部	看護学科	9	5	8	7	29	6
	理学療法学科	—	—	—	—	—	—
	検査技術学科	6	1	5	2	14	3
	放射線学科	7	4	2	3	16	2
	臨床工学科	6	0	4	5	15	0
リハビリテーション学部	理学療法学科	5	4	4	4	17	0
	作業療法学科	4	3	1	2	10	0
	言語聴覚学科	4	2	3	1	10	0
計		41	19	27	24	111	11

保健科学研究科の教員数

研究科・専攻、研究所等		研究指導教員及び研究指導補助教員		
		研究指導教員	研究指導補助教員	計
保健科学研究科	保健科学専攻 博士前期課程	27	4	31
	保健科学専攻 博士後期課程	13	2	15
保健科学研究科計		40	6	46

\*一部保健科学部との兼担

職員数	
正職員	39
その他	22
計	61

### Ⅲ. 評価機構が定める基準に基づく自己評価

#### 基準 1. 使命・目的等

##### 1-1 使命・目的及び教育目的の設定

##### 1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

##### 1-1-② 簡潔な文章化

##### 1-1-③ 個性・特色の明示

##### 1-1-④ 変化への対応

###### (1) 1-1 の自己判定

「基準項目 1-1 を満たしている。」

###### (2) 1-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### 1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

##### 1-1-② 簡潔な文章化

##### 1-1-③ 個性・特色の明示

##### 1-1-④ 変化への対応

大学の使命・目的及び教育目的の具体的な明文化と簡潔な文章化については以下のようになっている。

本学及び群馬パース大学大学院（以下、「本学大学院」という。）の使命・目的については、「群馬パース大学学則」（以下、「学則」という。）第 1 条及び「群馬パース大学大学院学則」（以下、「大学院学則」という。）第 2 条に定めている。

大学の使命は、「建学の精神」に学生の理解が深まる表現を用いた補足説明を加え表記している。

本学ホームページ、学生便覧等における「建学の精神」の補足説明

Paz は、平和を意味するポルトガル語、パース (Paz) に由来します。同時に Paz にはこの 3 文字を頭文字とする Pessoa (個性)、Assistencia (互助)、Zelo (熱意) の意味が与えられています。

#### Paz (平和) 平和で公正な社会の発展

*Pessoa* (個性)

*Assistencia* (互助)

*Zelo* (熱意)

個人の尊厳と自己実現、

多様な人々の共存と協調、

知の創造、

への貢献

次に大学及び大学院の目的は、簡潔な表現で以下のように具体的に文章化されている。

#### 【大学の目的】

豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療専門職を育成し、保健・医療・福祉サービスとの協働及び知の創造を通じて、国際社会、地域社会に貢献することを目的とします。

#### 【大学院の目的】

現代医療の高度化、複雑化、多様化に幅広く対応するために、保健科学を看護学、理学療法学、病因・病態検査学、放射線学、臨床工学の立場から探求するとともに、保健科学に共通する高度な学術的基盤を修得し、各分野における次世代を担える研究能力と豊かな人間性を備え、その分野で活躍できる教育者、研究者、指導者を育成することを目的とします。

本学の教育目的については、学則（第3条の3）及び大学院学則（第2条）で規定し、学内外に示している。

保健科学部及びリハビリテーション学部、保健科学研究科の教育目的については、以下のとおり本学ホームページ（以下、「本学HP」という。）において広く開示されている。

### 教育研究上の目的・養成する人材像

#### （ア）保健科学部

保健科学部では、建学の精神である「平和で公正な社会の発展」を目指す豊かな教養と人間愛、そして情熱に基づいた人間性の涵養を基盤とし、地域保健医療、国際保健活動、災害時保健活動等に対応し得る、高度な専門知識・技術と幅広い連携・協働活動の能力を備えた保健医療専門職を養成することを目標としています。

そのため、教育研究上の目的は、国際社会を生きる豊かな教養と人間性、科学的な思考力、人とかかわる力、創造する力、自ら学んでいく力を育てること、そして質の高い研究成果を、教育、地域の保健・医療・産業・経済、文化へと還元し、医療専門職として十分な貢献ができることを目指します。

#### 1) 看護学科

生命の尊厳を認識し、個人の人格を尊重する豊かな人間性と高い見識を具え、看護の基本的知識・技術を身に着け、多職種と協働して地域社会に貢献し、社会の変化に適応しながら看護職として成長し続ける人材育成を目指します。

看護における倫理的な判断の能力、科学的思考に基づいて主体的かつ創造的に看護を展開する能力、看護の対象である個人、家族、地域の人々と信頼関係を築く能力、多様な人々と協働して課題を解決する能力、自らの看護の向上を目指し、生涯に渡って自己研鑽を続

ける能力、社会の進歩や国際的な広がりに関心に向け、適応していく能力を培うことを教育目標としています。

## 2) 検査技術学科

生命の尊厳を理解し、思いやりの心を持つとともに高い倫理観を備え、臨床検査分野において健康や医療に関する専門知識と最新技術を学び、科学的根拠に基づく適切な判断ができ、臓器移植、遺伝子治療及び不妊治療分野などの生命科学や検査技術学分野に貢献できる人材で、実践的な診療支援ができる質の高い臨床検査技師（Clinical Laboratory Scientist）の人材養成を目指します。

医療の現場では様々な要素が要因・背景となって生じる課題や問題は千差万別であり、それらの状況に的確・柔軟に対応するため、実践的な高度な知識と技術を習得し、科学的根拠に基づく適切な判断能力と問題解決能力を培うことを教育目的としています。

## 3) 放射線学科

様々な疾病で苦しむ人々に対して、尊厳と人間愛をもって、診療画像検査、放射線治療の過程をとおして、病気の発見・治療を目指す高度医療技術をもった人材養成を目指します。

また、放射線による障害や防護、安全管理をとおして、画像生成と解析に関する知識、放射線と物理、生物、化学との相互作用による医療技術に関する知識を深め、問題解決能力を有し、高度なデータ・サイエンスと連携した臨床応用技術を自ら実践できる臨床力を養うことを目的とします。

## 4) 臨床工学科

生命の尊厳を自覚し、畏敬の念を持つとともに豊かな人間性と高い倫理観を備え、医学・工学に関する専門知識と技術を学び、論理的思考・高い洞察力と的確な判断力をもって医療機器の操作及び保守管理を行うことができ、チーム医療の一員として医療に貢献できる質の高い臨床工学技士の人材養成を目指します。高度化・複雑化する医療技術に対応するため、医工学に関する基本的知識・技術を修得し、医療分野におけるさまざまな課題に

対して、国際的視野を兼ね備えた広い視野で物事を捉え、問題意識と探求心、問題解決能力を培うことを教育目的としています。

### (イ) リハビリテーション学部

リハビリテーション学部では、建学の精神である「平和で公正な社会の発展」を目指す豊かな教養と人間愛、そして情熱に基づいた人間性の涵養を基盤とし、地域の医療・福祉と生活上の困難を抱える障害を持った人々の自立及び生活の質の向上を支援するために、専門機関や施設において、多職種と連携し共同してその責務を果たすことができる知識・技術と実践能力を備えたリハビリテーション専門職者を養成することを目的としています。

そのため、教育研究上の目的は、対象者の生活の質の向上と社会参加を目指すために、対象者の自分らしく生きようとする主体性を尊重し、対象者が必要とする機能の回復・代償あるいは残存能力の強化を最適に図ることができること、そして、地域社会を含めた生

活環境づくりに医療専門職として参加し、十分に支援できることを目指します。

### 1) 理学療法学科

いかなる障害を持つ人に対しても、人としての尊厳と権利を認識できる真摯で柔軟な心を持ち、身体に障害を持つ対象者が自分らしく活動し、社会へ参加するという目的のために、多様で最新の理学療法の知識と技術を求め、それらを駆使して、運動や動作能力の向上を図ることができる人材養成を目指します。急性期から回復期、維持期リハビリテーションにおいて活躍できるように、基本となる理学療法の知識と技術を幅広く学習し、多職種連携の中で実践し貢献できる能力を培うことを目指します。さらに、リハビリテーション分野にとどまらず、健康維持・増進に貢献できる力を養うことを教育目的としています。

### 2) 作業療法学科

年齢の差異や障害の程度に関わらず、対象者が自分らしく人生を送るよう支援する作業療法を学び、仕事・生産的活動・遊び、余暇活動、日常生活活動からなる作業を求める人間を多側面から理解し、多様な臨床現場や地域社会で求められる分野において、作業療法の専門性と知識を生かして柔軟に活躍できる人材養成を目指します。

対象者や家族、他職種との適切な対人関係を作るコミュニケーション能力、協調性を基盤とした多職種連携を図ることのできる能力、求められる問題の解決に向けて問いを立て続ける意識、複雑な人間行動を理解するために論理的に思考する科学的視点と対象者の個別で多様な生活を洞察する力、作業療法の発展と社会に貢献する活動や研究に参加しようとする能力を培うことを教育目的としています。

### 3) 言語聴覚学科

高いコミュニケーション能力を有し、他者や地域に貢献する意識、新たな課題や未知の課題を創造的に解決しようとする意欲、さらに専門知識・技術を生涯にわたって学習し続ける倫理観を有する人材養成を目指します。

言語聴覚士の役割の理解に基づき、人が地域で生活する視点に立ち、高次脳機能障害・言語発達障害・運動系障害及び聴覚系障害を持つ対象者のコミュニケーション能力の評価はもとより、活動、地域・社会参加の生活機能を多面的に支援でき、また、その方法の開発に関わろうとする姿勢を培うことを教育目的としています。

## (ウ) 保健科学研究科

### 1) 保健科学研究科（博士前期課程）教育目標

#### 1. 高度な専門知識・能力を有する実践者の育成

高度な倫理観と社会に対する深い洞察力、保健医療をとりまく社会システム、医学・医療の最新の知識を有し、根拠に基づいた高度な保健医療の実践を提供し、その結果を分析、蓄積するとともに、実践を研究、教育へと還元できる人材を育成します。

#### 2. 保健医療分野においてリーダーシップを発揮する指導者の育成

保健医療システムを包括し、対象者の QOL 向上のために資源を活用し、他職種

との協働の中でリーダーシップを発揮し、ケアを推進できる人材を育成します。

### 3. 実践分野において研究能力・教育能力を発揮する実践者・指導者の育成

臨床現場において生じる実践上の問題を抽出・分析し、その解決を図るために研究を推進・指導できる人材を育成します。また、臨床現場での新卒者、現任者を対象とする卒後教育、医療専門職養成機関での教育実践において、教育理論に基づいた教育方法を開発・構築し、実践できる人材を育成します。

## 2) 保健科学研究科（博士後期課程）教育研究上の目的

大学院修士課程における教育・研究を通して養われた知識や技術による高度な専門能力をさらに高め、医療科学領域において国際的な視野に立ち、自ら独創性の高い研究を遂行、指導できる教育・研究者、及び医療現場の高度な専門技術者を育成することを目的とします。

このように本学は使命・目的及び教育目的に大学の個性・特色を反映させ、各媒体でその趣旨を一貫した形で明示している。

### (3) 1-1 の改善・向上方策（将来計画）

本学は大学の目的を踏まえ、開学以来一貫して建学の精神に基づいて保健医療専門職を育成している。しかしながら、大学の使命・目的及び教育目的については各職種養成所の指定規則改正等の法令改正や、社会情勢の変化に注視し、本学の「中長期目標・中長期計画（以下、「中長期計画」という。）」の見直しを実施されるときなど、必要に応じて本学の使命・目的及び教育目的の見直しを実施していく予定である。

## 1-2 使命・目的及び教育目的の反映

### 1-2-① 役員、教職員の理解と支持

### 1-2-② 学内外への周知

### 1-2-③ 中長期的な計画への反映

### 1-2-④ 三つのポリシーへの反映

### 1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

#### (1) 1-2 の自己判定

「基準項目 1-2 を満たしている。」

#### (2) 1-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

### 1-2-① 役員、教職員の理解と支持

本学の教職員協働による大学運営体制を図 1-2-1 に示す。大学内の審議事項は各種会議などで発議され、教授会、研究科委員会又は大学協議会にて承認され周知される。審議内容が法人を含む場合は大学協議会から発議され、法人運営会議又は理事会にて承認され周知される。教職員への周知は、学科会議、事務局会議などを通して全員に行われる。

その意思決定機構の中で、教職員は学科会議、各種委員会等に参加し、意思決定プロセスに関わる。また意見なども前述の各種会議を通して十分に尊重され、組み込まれる仕組



みとなっている。

【大学・大学院共通】

会議名	構成員								
教員評価委員会	学長 研究科長 学部長(院長) 事務局2名								
大学協議会									
学長 研究科長 学部長(院長) 教養部責任者 学部長 IR推進室長 事務局5名									
会議名	構成員								
教学マネジメント会議	学長 研究科長 学部長(院長) 教養部責任者 学部長 事務局2名								
財務マネジメント会議	学長 研究科長 学部長(院長) 教養部責任者 学部長 事務局3名								
会議名	構成員								
	看護学科	検査技術学科	放射線学科	臨床工学科	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科	教養部	事務局
IR推進室会議	4名				3名		1名	4名	
会議名	構成員								
	看護学科	検査技術学科	放射線学科	臨床工学科	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科	教養部	事務局
SD委員会	4名				3名		1名	4名	
自己点検評価委員会	4名				3名		1名	4名	
情報システム委員会	4名				3名		1名	2名	
紀要編集委員会	4名				3名		1名	3名	
研究倫理審査委員会	学内委員：10名 学外委員：3名							3名	
利益相反マネジメント委員会	学内委員：8名 学外委員：2名							3名	
バイオセーフティ委員会	3名				3名		1名	4名	

【大学院】

研究科委員会	学長 研究科長(院長) 教員6名 事務局3名								
会議名	構成員								
博士前期・後期課程運営委員会	教員6名							事務局	6名
FD委員会	教員7名							事務局	3名
会議名	構成員								
	看護学科	検査技術学科	放射線学科	臨床工学科	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科	教養部	事務局
数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会	4名				3名			2名	3名

【大学】

教授会	学長 学部長(院長) 学部全教授 事務局3名								
会議名	構成員								
	看護学科	検査技術学科	放射線学科	臨床工学科	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科	教養部	事務局
教務委員会	8名				6名			2名	4名
学生委員会	8名				6名			2名	4名
入試委員会	7名				6名			2名	3名
広報委員会	7名				6名			2名	4名
FD委員会	8名				6名			2名	4名
国家試験対策委員会	8名				6名			2名	3名

【学部等】

会議名	構成員							
教員審査委員会(保健科学部)	学部長 教養部責任者 学部長 事務局2名							
教員審査委員会(看護・リハビリ学部)	学部長 教養部責任者 学部長 事務局2名							
教員審査委員会(保健科学研究科)	研究科長(院長) 領域長 事務局2名							

【大学附属施設等】

会議名	構成員								
	看護学科	検査技術学科	放射線学科	臨床工学科	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科	教養部	事務局
附属図書館運営委員会	4名				3名			1名	3名
附属研究所運営委員会	5名				3名			1名	6名
附属研究所先端医療科学研究センター運営委員会	学長 センター長 附属研究所運営委員長 事務局3名								
会議名	構成員								
	看護学科	検査技術学科	放射線学科	臨床工学科	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科	教養部	事務局
学生支援センター会議	6名				3名			1名	3名
健康管理センター会議	4名				3名			1名	3名
国際交流センター会議	3名				3名			2名	4名
地域連携センター会議	4名				3名			1名	5名
看護実践教育センター運営委員会	センター長 主任教員 専任教員 看護学科長 事務局5名								

図 1-2-1 教職員協働による大学運営体制

## 1-2-② 学内外への周知

本学の使命である建学の精神、大学の目的及び教育研究上の目的・養成する人材像は以下の形で周知される。

学外に対する周知は、本学 HP 及び「大学案内 2022」に掲載している。同じく、大学院の目的を学外に周知するため、本学 HP に掲載している。

一方、学内に対する建学の精神の周知は、学生の一番目につきやすい 1 号館学生ホールの壁面や附属図書館の出入口、また 4 号館の 2 階出入口に掲げる他、大学の目的及び教育研究上の目的・養成する人材像の周知は、学生に配付する学生便覧を通して行っている。

## 1-2-③ 中長期的な計画への反映

令和 2（2020）年 4 月に中長期目標・中長期計画を新たに策定した。今後も中長期計画は本学の重要な位置づけとし、企画課が策定した中長期計画を大学協議会や法人運営会議において定期的に見直しを行う。

## 1-2-④ 三つのポリシーへの反映

令和 3（2021）年度の新学部設置により、これまでの三つのポリシーを見直し、新たに学部・学科ごとに策定した。保健科学部、リハビリテーション学部、保健科学研究科（博士前期課程）及び保健科学研究科（博士後期課程）の三つのポリシーについては、以下のとおり本学 HP において広く開示されている。

### （ア）保健科学部

#### 1) ディプロマ・ポリシー

保健科学部の教育目的に基づき、学生が卒業時に身につけるべき知識や能力を次のように定めています。これらを身につけたことを卒業要件とし、学位を授与します。

1. 人権を尊重し、高い倫理観をもって社会に貢献する姿勢
2. チーム医療を実践するための、コミュニケーション能力と協調性
3. 保健医療専門職としての基礎的知識と技術、及び社会人としての教養
4. 保健医療分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる能力
5. 生涯にわたって専門分野を探求し、その発展に貢献する意欲と姿勢

#### ①看護学科 ディプロマ・ポリシー

看護学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時までには身につけるべき知識や能力を次のように定めています。

1. 社会人としての教養と人の健康にかかわる幅広い知識に裏打ちされた、看護実践に必要な基本的知識
2. 看護の諸課題を解決するための科学的思考力及び判断力
3. 安全で的確な看護の基本的援助技術
4. 多様な人々と協働して課題を解決する調整力及びリーダーシップ
5. 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢

## ②検査技術学科 ディプロマ・ポリシー

検査技術学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時に身につけている知識や能力を次のように定めています。

- 1.臨床検査で求められる基本的知識及び技術を修得し、これを実践の場で活用することができる能力
- 2.コミュニケーション能力を生かしチーム医療へ貢献する能力
- 3.検査技術学に関する課題等の発見とその解決に向け、科学的根拠に基づいた思考や適切な判断をする能力
- 4.幅広い教養と医療専門知識を身につけ、多様な価値観の認識と異文化を理解し、グローバル社会に適応できる能力

## ③放射線学科 ディプロマ・ポリシー

放射線学科では、科学的応用技術をとおして、対象である尊厳と人間愛を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時まで身につけている知識や能力を次のように定めています。

- 1.先進・高度化する専門分野の基本的技術を実践できる問題解決型臨床医療技術力
- 2.保健医療専門職としての基礎的知識と医療人としての教養と協調性をもつ医療コミュニケーション力
- 3.多様な情報を適切に分析し、放射線の管理、防護、制御技術をとおして、医療安全に寄与する実践力や研究能力
- 4.人と社会に関心を持ち、自らの医療技術力を応用し、様々な分野で貢献する活動力

## ④臨床工学科 ディプロマ・ポリシー

臨床工学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時に身につけている知識や能力を次のように定めています。

- 1.医工学分野の基本的知識及び展開される医療分野に対応できるスキルを身につけ、実践に活かす能力
- 2.チーム医療の一員として多職種と連携し、全人的医療の実践及び医療安全の確保に貢献できる能力
- 3.思考力・洞察力・判断力を身につけ、医療分野における諸課題について国際的知識水準を背景に解決する能力
- 4.異なる文化を理解・尊重し、国際的視野を持って考察できる能力

## 2) カリキュラム・ポリシー

保健科学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、看護学科、検査技術学科、放射線学科、臨床工学科のそれぞれの専門性に応じてカリキュラムを編成しています。その教育課程は、教養科目群・共通基盤科目群、専門基礎科目群、専門科目群から構成されています。

- 1.教養科目群は社会人としての教養、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、「人と社会及び自然の理解」の科目群と「情報と言語の理解」の科目群に大別された広範な科目を4学科共通科目として配置しています。

2. 共通基盤科目群は、「大学の学びの基盤」として、大学の学び入門、大学の学び一専門への誘い、多職種理解と連携の科目を4学科共通必須科目として配置しています。
3. 専門基礎科目群は、医療専門職を養成する4学科それぞれに展開される専門領域の理論、技能の習得のための学術的基盤となる科目を配置しています。
4. 専門科目群は各学科の専門領域とそれに関連する理論、技能を学ぶ科目を配置し、さらに高い実践力を獲得するため、臨地実習の科目を配置しています。

### ①看護学科 カリキュラム・ポリシー

看護学科ではディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 看護の基盤となる幅広い教養を身に着ける教養科目群、主体的に学習に取り組む姿勢を身につける共通基盤科目を、1年次を中心に配置しています。
2. 人間、健康及びそれらに関わる環境を理解する専門基礎科目群を1年次から2年次に配置し、専門科目を学ぶため準備を整えます。更に専門基礎科目と臨床看護を統合する科目を4年次に配置し、根拠に基づいた科学的思考力の強化を図ります。
3. 看護学専門科目は講義科目・演習科目・実習科目のすべてを1年次から配置し、看護への興味、関心を段階的に広げます。
4. 基礎看護学、並びに臨床看護学の各領域の基本構造は、いずれも講義科目、演習科目、実習科目をさせ、効果的に学習が進むよう配置されています。
5. 4年次には在宅看護学実習、総合実習、卒業研究を通して4年間の学習を振り返り、その統合を図るとともに、生涯にわたる看護の探求の基礎を築きます。
6. 専門科目に公衆衛生看護学、助産学の科目をおき、選択により保健師、助産師の専門知識・技術を修得できます。

### ②検査技術学科 カリキュラム・ポリシー

検査技術学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 幅広い教養を修得するため、教養科目群、専門基礎科目群を中心に学びつつ、医療専門職としての意識を高めるための専門基礎科目群に加え、「機器分析化学」、「医動物学」といった専門科目を必修科目として1年次から配置しています。
2. 多様な疾病、病態に沿った臨床検査を理解する上で必要となる知識と技術を修得するため、専門科目群の必修科目を2年次から多く配置しています。
3. 専門的知識、実践的検査技術を系統的に修得できるよう体系づけ、専門科目群の学内実習の必修科目を3年次に多く配置しています。
4. 実践的な高度な知識と技術を修得するための「臨地実習」と将来の医学・医療の発展に貢献できる評価能力及び研究能力を養うための「卒業研究」を4年次に配置しています。

### ③放射線学科 カリキュラム・ポリシー

放射線学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成し

ています。

- 1.自然科学の基礎、医学系科目や医療専門職としての医療コミュニケーションスキルを学ぶための専門基礎科目、大学の学び方を1年次で配置しています。
- 2.放射線学の基礎に関連する物理学、計測学、解剖学、診療放射線技師として必要な知識・技術・態度の基盤を形成する科学力を習得する科目を2年次に配置しています。
- 3.診療放射線技師の臨床実践での高度な思考と基本的技術を学ぶ科目は、3年次を中心にして、講義、演習、学内実習として配置しています。
- 4.専門分野の発展に寄与する科学的思考や倫理観を獲得するための診療放射線学研究は3-4年次を中心に、診療放射線技師としての知識、技術、態度を統合して臨床実践を学ぶ臨床実習は4年次に配置しています。

#### ④臨床工学科 カリキュラム・ポリシー

臨床工学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- 1.幅広い知識と教養の修得、豊かな人間性を身につけるための教養科目群と共通基盤科目群に加え、医療専門職として必要な医学・工学の基礎知識を修得するための専門基礎科目群を中心に学ぶとともに、臨床工学の概要を学ぶ専門科目を必修科目として1年次に配置しています。
- 2.医療者としての基盤を形成するため、生命の尊厳及び倫理観への認識を深めるための教養科目群の「生命倫理学」に加え、臨床工学に必要な臨床医学と理工学の基礎知識を修得する専門基礎科目群と、両者を有機的に統合して医療機器に応用するための知識・技術を修得するための専門科目群を中心に必修科目として2年次に配置しています。
- 3.生体医工学の理論・知識・技術を統合させ、医療技術の提供に必要となる実践的な知識と技術を修得するための専門科目（講義・学内実習）と、チーム医療の一員としての臨床工学技士の責任と役割の理解を深め、医療者としての自覚を身につけるための専門科目「臨床実習」を3年次に配置しています。
- 4.修得した知識と技術を整理し、連携させることにより総合的な理解を深め、医療分野における問題の発見と創造的な研究を行う能力、問題解決能力を修得する「卒業研究」を4年次に配置しています。

#### 3) アドミッション・ポリシー

豊かな教養と人間愛を兼ね備えた質の高い保健医療専門職を養成する保健科学部では、以下のような学生を受け入れます。

- 1.人に対する関心や思いやりがあり、相手の立場に立って物事を考えることができる人
- 2.保健医療専門職になる意志を持ち、積極的に学ぶ意欲を持つ人
- 3.入学後の修学に必要な高等学校で学んだ基礎学力を有し、基本的生活態度が身につけている人
- 4.問題解決のために、協調性をもって最善を尽くす熱意のある人
- 5.生命科学や医療専門職を生かし、多様な分野に貢献しようとする意欲のある人

### ①看護学科 アドミッション・ポリシー

人々の健康生活を支援し、命と向き合う看護職を養成する看護学科では、以下のような学生を受け入れます。

- 1.人が好きで、人を思いやり、人を援助することに労力を惜しまない人
- 2.相手の立場に立って物事を考えることのできる人
- 3.看護学に興味をもち、学ぶ意欲にあふれ、主体的に学習する姿勢のある人

### ②検査技術学科 アドミッション・ポリシー

生命の尊厳を理解し、高い倫理観を備えた医療職を養成する検査技術学科では、以下のような学生を受け入れます。

- 1.人を思いやる心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
- 2.臨床検査に関する技術と知識を学び、医療に貢献しようとする意欲のある人
- 3.協調性があり、独創性と粘り強さで問題を解決しようとする人
- 4.生命科学や検査技術学を生かし、多様な分野に貢献しようとする意欲のある人

### ③放射線学科 アドミッション・ポリシー

多職種との協働と連携からなるチーム医療を推進できる高度医療技術をもった医療職を養成する放射線学科では、以下のような学生を受け入れます。

- 1.人に関心を持ち、人を思いやる心、労る心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
- 2.社会に対し積極的に関わり、コミュニケーションを大事にできる人
- 3.診療放射線技師になるための意思を持ち、自ら学ぶ意欲、挑戦する意欲を持ち、粘り強く主体的に学習する意志のある人
- 4.生命科学や放射線科学を生かし、多様な分野で貢献しようとする意欲のある人

### ④臨床工学科 アドミッション・ポリシー

積極的に社会参加できる精神を培うとともに、生命倫理や人間に対する尊敬心が幅広く持てるよう、人間形成を重んじた医療職を養成する臨床工学科では、以下のような学生を受け入れます。

- 1.人を思いやる心、労る心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
- 2.臨床工学に関する知識と技術を深く学び、チーム医療及び医療の質の向上に貢献しようとする意欲のある人
- 3.社会に対し積極的に関わり、コミュニケーションを大切にし、相互支援に努めることができる人
- 4.生命科学や臨床工学を生かし、多様な分野で貢献しようとする意欲のある人

#### (イ) リハビリテーション学部

##### 1) ディプロマ・ポリシー

リハビリテーション学部の教育目的に基づき、学生が卒業時まで身に付けるべき知識や能力を次のように定めています。これらを身につけたことを卒業要件とし、学位を授与

します。

- 1.倫理観を持って障害の有無にかかわらず、人間の個性と尊厳を尊重する姿勢
- 2.人間や社会に関する幅広い教養に根差し、リハビリテーションを取り巻く諸問題を認識できる能力
- 3.リハビリテーションにおける専門領域に必要な基本的知識と技術
- 4.多様化する地域社会の諸問題を理解し、多職種と連携してリハビリテーションを実践できる能力
- 5.自己研鑽に励み、人格的成長を目指す姿勢

### ①理学療法学科 ディプロマ・ポリシー

理学療法学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時までに身につけている知識や能力を次のように定めています。

- 1.理学療法に必要な自然科学の学びだけでなく、人間が生み出した文化や歴史、社会の動きと仕組み、生命倫理、コミュニケーションの学びを積み重ねた豊かで幅広い教養
- 2.理学療法の実践に向かうための必要な基礎医学、臨床医学、理学療法学の基本的知識及び技術
- 3.地域に根差したリハビリテーションの必要性和多職種連携による問題解決の重要性の理解
- 4.自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力

### ②作業療法学科 ディプロマ・ポリシー

作業療法学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時までに身につけている知識や能力を次のように定めています。

- 1.心身の障害の有無によらず、家族、多職種との適切な対人関係を作るコミュニケーション能力と協調性
- 2.複雑な人間行動を理解するために論理的に思考する科学的視点と対象者の個別で多様な生活を洞察する能力
- 3.求められる問題の解決に向けて、問いを立て続ける能力
- 4.作業療法学の発展と社会に貢献する活動や研究に主体的に従事しようとする姿勢

### ③言語聴覚学科 ディプロマ・ポリシー

言語聴覚学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時までに身につけている知識や能力を次のように定めています。

- 1.QOLの向上を支援するための言語聴覚療法学に必要な基本的知識・技術
- 2.リハビリテーションに関わる多職種、家族、地域住民とのコミュニケーション能力と協調性
- 3.新たな課題、未知の課題に取り組み解決しようとする姿勢
- 4.人間の個性と尊厳を尊重し、言語聴覚療法に必要な知識と技術を生涯にわたり学習しようとする倫理観



## 2) カリキュラム・ポリシー

リハビリテーション学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、その専門性に応じ、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。特に、多職種連携の基礎となる科目と、国際生活機能分類（ICF）の概念に基づきリハビリテーションに対応できるように授業科目を工夫しています。

- 1.豊かな教養、コミュニケーション能力の育成、人工知能や情報社会に対応する能力、人間を多側面から理解するために、『人と社会及び自然の理解』と『情報と言語の理解』に区分した教養科目を配置しています。
- 2.『大学の学びの基盤』として、学び方入門、専門への導入、多職種理解と連携の科目を配置しています。
- 3.人間の運動や行動を解剖学、生理学、運動学、心理学、発達学的観点から分析・考察でき、リハビリテーション専門職として必要な医学的知識を学ぶための科目を配置しています。
- 4.リハビリテーションにおける専門領域に必要な基本的知識と技術を身につけるため、各学科に『評価学』『治療学』『支援学』の該当科目を配置しています。
- 5.保健医療チームとして、連携・協働を図りながら、社会参加、健康増進、障害予防の見方ができるように、「チーム医療とリハビリテーション」、「地域リハビリテーション学」を配置しています。
- 6.学内で学んだ知識と実践との経験を統合できる機会として、対象者との人間関係の構築、施設内外における多職種連携の構築を経験し、将来の人間像を形成する場として、『臨床実習』を配置しています。
- 7.専門職として基盤となる科学的思考や自己研鑽力を身につけるため、研究の基礎につながる科目を配置しています。

### ①理学療法学科 カリキュラム・ポリシー

理学療法学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- 1.幅広い教養と、専門に必要な物理学などの自然科学の科目、大学での学び方を1年次で学びます。
- 2.理学療法に必要な基礎医学と臨床医学などの専門基礎科目及び語学を1年次から2年次にかけて学ぶように配置しています。
- 3.理学療法の専門科目は、全学年で学べるように、評価学及び総論を1・2年次に、疾患別理学療法、及び分野別の理学療法を2・3年次に、臨床実習を順次内容が豊かになる形で3・4年次に配置しています。
- 4.自らの問題意識をもち、科学的手続きをもって解明していく機会として「理学療法研究論」、「事例研究法」、及び「卒業研究」を3・4年次で学べるように配置しています。

### ②作業療法学科 カリキュラム・ポリシー

作業療法学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成

しています。教養科目、専門基礎科目で修得した知識や技術を基に、専門科目でさらにそれを拡大していく編成としています。

- 1.幅広い教養を修得するため、教養科目群、共通基盤科目群を中心に学びつつ、医療専門職としての意識を高めるための専門基礎科目群に加え、「作業療法学概論」、「基礎作業学」といった専門科目を必修科目として1年次から配置しています。
- 2.基礎医学系及び臨床医学系の専門基礎科目を学び、作業療法の専門科目として『作業療法評価学』、『作業療法治療学』区分の科目を学ぶことで具体的な作業療法の知識の輪郭が理解できるよう段階的に配置しています。なお、後期の「見学実習」によって実践的な知識への導入を図ります。
- 3.作業療法の専門科目の学びから、より実践的に考えられるよう「作業療法理論」、「作業療法リーズニング」、「日常生活活動学」を深く学びます。また、「作業療法基礎実習Ⅰ」、「作業療法基礎実習Ⅱ」、「総合臨地実習Ⅰ」「総合臨地実習Ⅱ」でこれまでの学習効果が確認できる配置とします。
- 4.論理的な思考、問題解決能力を高めるために、「作業療法学研究法演習」、「事例研究法」、「卒業研究」を3・4年次で学ぶことができるよう配置します。

### ③言語聴覚学科 カリキュラム・ポリシー

言語聴覚学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- 1.大学で学ぶことの意味と学習の姿勢、地域への貢献、研究の姿勢、並びにコミュニケーション・スキルの向上、その他の言語聴覚士の役割について、教養科目、専門基礎科目、1年次の専門科目で学びます。
- 2.人間の尊厳並びに権利と障害、国際生活機能分類（ICF）の理解、個性の基盤である生活と地域・社会参加をそれが展開される地域そのものについて、1年次から2年次にかけて専門基礎科目、専門科目により理解を深めます。
- 3.言語聴覚機能の評価、機能回復訓練、機能回復の限界と障害を持ちながら地域・社会に参加するための支援並びに街づくりの実践について、2・3年次の専門科目に地域参加系科目を配置して学習します。
- 4.臨床実習は、学んだ知識を確認し、問題解決能力、創造力、実践力、応用力が育つよう1年次から4年次に配置します。

### 3) アドミッション・ポリシー

地域の医療・福祉と生活上の困難を抱える障害を持った人々の自立及び生活の質の向上を支援する専門職を養成するリハビリテーション学部では、以下のような学生を受け入れます。

- 1.人に対する関心や思いやりがある人
- 2.豊かな人間性、柔軟性、協調性を備え、他者との連携を保つことができる人
- 3.物事に対して自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人
- 4.入学後の修学に必要な、高等学校で学んだ基礎学力を有している人

- 5.保健・医療・福祉に対して強く関心を持ち、社会貢献しようとする意欲のある人
- 6.基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配ることができる人

### ①理学療法学科

身体に障害を持った方々を援助する医療職を養成する理学療法学科では、以下のような学生を受け入れます。

- 1.コミュニケーション能力を持って他者に共感でき、人間関係を作ることができる人
- 2.人の運動・動作やその障害に関心がある人
- 3.問題解決のために誠実で、常に協調性をもって最善を尽くす熱意のある人
- 4.理学療法士になる意志を持ち、積極的に学ぶ意欲を持つ人

### ②作業療法学科

生活や社会参加に問題を抱えた方々を援助する医療職を養成する作業療法学科では、以下のような学生を受け入れます

- 1.他者との関わりを大切にし、相手の立場に立って物事を考えることができる人
- 2.人の健康や生活、社会の動きに関心がある人
- 3.問題解決のために、粘り強く努力を続けることのできる人
- 4.作業療法士になる意志を持ち、積極的に学ぶ意欲を持つ人

### ③言語聴覚学科

コミュニケーション能力に問題を抱えた方々への援助者としての医療職を養成する言語聴覚学科では、以下のような学生を受け入れます。

- 1.社会の出来事に興味を持ち、思いやりと熱意を持って社会貢献しようとする人
- 2.未知の課題、新しい課題にひるまず向き合い、解決していこうとする意欲を持つ人
- 3.他者と適切にコミュニケーションをとり、協調して行動できる人
- 4.言語聴覚士になる意志を持ち、自分の能力を高め続けるための努力を惜しまない人

## (ウ) 保健科学研究科

### 1) 博士前期課程

#### ①ディプロマ・ポリシー

保健科学研究科博士前期課程を修了し、次に該当するものに修士（保健学）の学位を授与します。

1. 保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力を有する。
2. 保健医療分野の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力を有する。
3. 先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力を有する。
4. 地域保健医療の実践現場で他の分野と連携して社会に貢献できる教育能力を有する。

#### ②カリキュラム・ポリシー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる人材を養成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

#### 1. 研究者としての基盤の涵養

研究能力の基盤を形成するために、共通科目に「研究方法特論」、「研究方法論Ⅰ～Ⅴ」、「応用英語」、「保健医療統計学」などの科目を設置します。又、専門の領域における研究実践の方法、すなわち研究テーマの設定から学位論文の完成までを段階を追って教育するために、専門科目に各領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を設置します。

#### 2. 高度な実践力とリーダーシップの涵養

保健医療分野におけるリーダーに必要な、専門領域の枠を超えた総合的・学際的な教育を行うために、共通科目に「医療倫理学特論」、「医療経営・管理学特論」、「人体の構造と機能学特論」、「加齢医学特論」、「家族社会学特論」、「保健学特別セミナー」などの科目を設置します。特に、「保健学特別セミナー」は幅広い視野の育成という目的に加え、協働（チームアプローチ）の重要性に鑑み必修科目として設置します。

#### 3. 専門領域における教育能力の涵養

教育機関での教育志向だけでなく、保健医療の様々な場面における教育活動を想定した医療専門領域における教育学の教育を行うために、共通科目に「教育学」を設け、さらに専門科目の「特論」、「演習」のなかで領域ごとに、より実践的な内容を盛り込みます。

履修計画では、体系化された所属専門領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を基本に置く。並行して学ぶ共通科目は一部を除き、学習ニーズ、学習進度に合わせて年次にかかわらず柔軟に履修できるように配置します。また、家庭や職場など社会的事情により標準修業年限（2年）での修業が困難な場合に、標準修業年限を超えて履修可能な長期履修制度を設けます。以上のように、少人数教育の利点を活かし、学習者の志向・ニーズに対応できる柔軟で特色のある大学院プログラムを提供します。

### ③アドミッション・ポリシー

保健科学研究科博士前期課程ではアドミッション・ポリシーを以下のとおり定めます。

1. 高度な専門知識・能力を有し、実践の場を通して研究・教育に携わっていききたいと考えている人
2. 保健医療分野において対象者のQOLの向上に寄与したいと考えている人
3. 実践上の問題を抽出・分析し、その解決に努力を惜しまない人
4. 教育理論に基づいた教育方法を開発構築し、卒後教育に活かそうと考えている人

#### 2) 博士後期課程

##### ①ディプロマ・ポリシー

保健科学研究科保健科学専攻（博士後期課程）を修了し、次に該当するものに博士（医療科学）の学位を授与します。

1. 独創性・創造性に優れ国際的に通用する研究能力を備えた人材

2. 医療・保健科学分野の教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導ができる人材
3. 医療現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、自立的な研究ができる人材
4. 科学的エビデンスを構築しながら研究開発ができる人材

## ②カリキュラム・ポリシー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる人材を養成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

### 1. 高い倫理性と強い責任感、課題遂行力の涵養

共通科目において、社会的理解を得るための生命倫理に則った研究デザインと倫理的行動能力を修得することを目的とした「生命研究倫理論」と、自らの研究分野以外の幅広い知識と課題に適した研究方法を選択できる能力を修得することを目的とした「医療科学研究法」の科目を設置する。

### 2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力の涵養

専門科目において、科学的エビデンスを構築するための高度解析技術や最新評価法などを修得することを目的とした「特講科目」と、各領域の解決すべき課題を広く探求し、課題解決思考を発展させるため、英文文献講読と教員との討論により、研究の評価・応用能力を養い、国際的な情報発信ができることを目的とした「演習科目」、さらに、医療科学における新たな知見を得るための研究を行い英文論文として公表できることを目的とした「特別研究」を設置する。

## ③アドミッション・ポリシー

保健科学研究科博士後期課程ではアドミッション・ポリシーを以下のとおり定めます。

1. 科学的・論理的な思考に基づいて独創的かつ実践的な研究を遂行することに意欲のある人
2. 医療・保健科学分野の教育を行う大学、あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある人
3. 医療現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、自立的な研究を行うことに意欲のある人
4. 科学的エビデンスを構築しながら研究開発を行うことに意欲のある人

保健科学部、リハビリテーション学部及び保健科学研究科の三つのポリシーは、中長期計画により、具体的目標に変更の必要があった場合、各委員会を通して審議され、教授会及び研究科委員会を経て大学協議会にて決定され、法人運営会議の承認を経て速やかに反映される仕組みとなっている。

### 1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

本学は、学則第3条及び「学校法人群馬パース大学組織規程」（以下、「組織規程」とい

う。)第11条により保健科学部及びリハビリテーション学部を置き、保健科学部のもとに看護学科(入学定員80人)、検査技術学科(入学定員60人)、放射線学科(入学定員70人)、臨床工学科(入学定員50人)を、リハビリテーション学部のもとに理学療法学科(入学定員60人)、作業療法学科(入学定員30人)、言語聴覚学科(入学定員30人)を置いている。また、教育・研究・実践3面の還流を意図して、大学院学則第4条・第5条及び組織規程第11条により、本学に大学院保健科学研究科保健科学専攻博士前期課程(入学定員8人)、博士後期課程(入学定員2人)を置いている。

教育、研究を支える附属機関として、学則第4条・第5条及び組織規程第11条により群馬パース大学附属図書館(以下、「附属図書館」という。)、群馬パース大学附属研究所(以下、「附属研究所」という。)を有する(図1-2-2)。

組織構成は、学長による学務掌握・職員の監督・教育運営の管理(組織規程第11条・第15条)のもとに、研究科長が統理する大学院研究科(同第11条・第17条)、学科長が学務を行う看護学科、検査技術学科、放射線学科、臨床工学科から成り学部長が統理する保健科学部(同第11条・第18条・第19条2項)、同じく学科長が学務を行う理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、から成り学部長が統理するリハビリテーション学部(同第11条・第18条・第19条2項)、附属図書館(同第11条・第21条)及び附属研究所(同第11条・第22条)が設置され、重要事項の協議のために研究科委員会と教授会が、教授会のもとに教務委員会、学生委員会、入試委員会、広報委員会、FD委員会、国家試験対策委員会が置かれる(「群馬パース大学教授会規程(以下、「教授会規程」という。)」第4条)、という体制で運営されている。

以上から本学では、有機的に大学教員の教育研究をサポートし、また研究内容についても群馬パース大学附属研究所などを通して、速やかかつ丁寧にサポートする体制を敷いている。

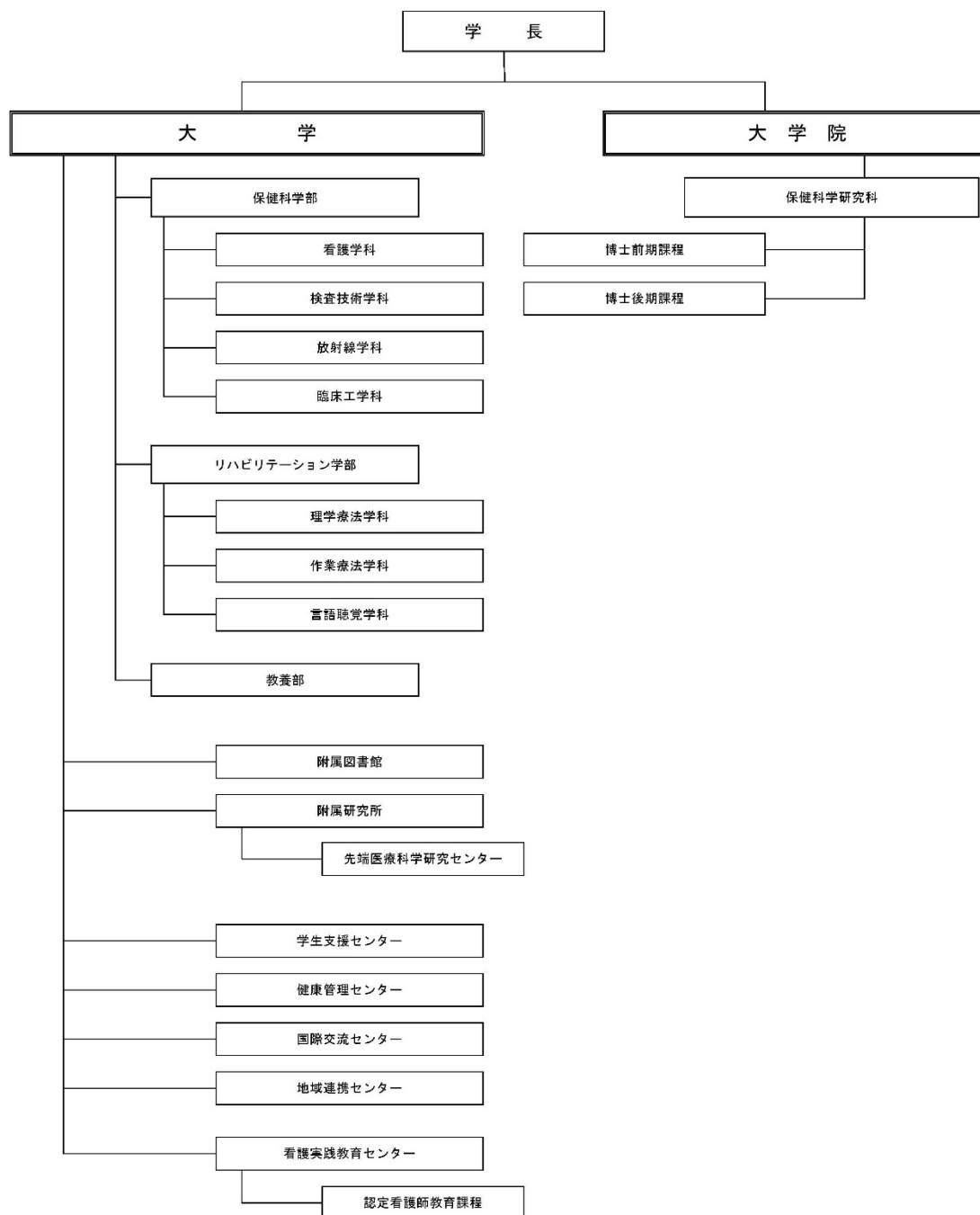


図 1-2-2 群馬パース大学・群馬パース大学大学院 教育研究組織図

### (3) 1-2 の改善・向上方策（将来計画）

社会情勢の変化や大学を巡る状況に迅速かつ適切に対応し、社会のニーズに応えるためにも、今後、大学の使命・目的を的確に遂行していく。大学を巡る状況の変化に対応するため、学長主導による大学協議会と理事会との調整機関である法人運営会議において毎月学内すべての審議事項に対し検証を行っている。また、三つのポリシーや教育研究組織の構成に関しては、中長期計画に基づく学部再編に合わせて、学部・学科ごとに

三つのポリシーを作成するなどの再整備を実施しており、今後も必要に応じ、継続して見直しを行う。

#### **【基準1の自己評価】**

大学の使命と目的は、学則の第1条に示され、教育目的は簡潔な文章で示されている。使命・目的及び教育目的を達成するための三つのポリシーは、本学HPで周知されているだけでなく、学内の目につきやすい場所に掲示したり、学生便覧に掲載したりしている。教育研究組織は、図1-2-2の通り、教育目的に照らして整備されている。令和2(2020)年4月に策定された中長期計画を踏まえ、教育目的に基づく三つのポリシーも時代に即して発展させる予定である。

以上のことから、基準1を満たしていると判断できる。



## 基準 2. 学生

### 2-1 学生の受入れ

#### 2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知

#### 2-1-② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証

#### 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

##### (1) 2-1 の自己判定

「基準項目 2-1 を満たしている。」

##### (2) 2-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知

##### (ア) 保健科学部

本学保健科学部のアドミッション・ポリシーは教育目的を踏まえ基準 1-2-④にあるように定めている。アドミッション・ポリシーは、学生募集要項、大学案内、本学 HP に掲載し、本学の情報を収集しようとする受験生、保護者及び高等学校関係者等に向けて周知している。

本学 HP では、トップページから直接アドミッション・ポリシーを含む三つのポリシーの掲載箇所にアクセスできるようにしている。

また、進学ガイダンスやオープンキャンパス等の参加者に対しては、担当者よりアドミッション・ポリシーを直接説明して、その浸透を図っている。

##### (イ) リハビリテーション学部

本学リハビリテーション学部のアドミッション・ポリシーは教育目的を踏まえ基準 1-2-④にあるように定めている。アドミッション・ポリシーは、学生募集要項、大学案内、本学 HP に掲載し、本学の情報を収集しようとする受験生、保護者及び高等学校関係者等に向けて周知している。

本学 HP では、トップページから直接アドミッション・ポリシーを含む三つのポリシーの掲載箇所にアクセスできるようにしている。

また、進学ガイダンスやオープンキャンパス等の参加者に対しては、担当者よりアドミッション・ポリシーを直接説明して、その浸透を図っている。

##### (ウ) 保健科学研究科

本大学院のアドミッション・ポリシーは教育目的（教育目標及び教育研究上の目的）を踏まえ基準 1-2-④にあるように定めている。アドミッション・ポリシーは、学生募集要項、大学案内、本学 HP に掲載し、保健科学研究科受験生等に周知している。

#### 2-1-② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証

##### (ア) 保健科学部

保健科学部では、アドミッション・ポリシーに基づいて各学科の特色、専門分野の特性に応じた能力を持つ学生の確保を目的として、学生募集要項（入学試験要項）を定め入学

試験を実施している。

令和3(2021)年度保健科学部入学試験においては、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜の区分を設定し、入学試験を実施している。

保健科学部入学試験では、学長の責任のもと「群馬パース大学入学者選考規程」、「群馬パース大学入試問題作成委員会規程」、「群馬パース大学入試委員会規程」、に基づき、入試委員会及び入試広報課が中心となり適切な実施体制を整備し、入試問題作成委員会及び入試広報課が中心となり入試問題を作成し、全学的に実施している。

入学者の選考に関しては「群馬パース大学入学者選考規程」に基づき、入試委員長を議長とする合否判定会議を開催し合否判定を行い、学長が決定している。

このように実施されている入学者選抜の方法や運用が妥当、適切であるかについては、入学者の追跡調査を毎年度入試委員会からIR推進室にデータ解析を依頼し、その解析結果を入試委員会において検証している。

入試問題の作成は本学が自ら行い基礎学力試験、一般選抜学力検査とともに、ヒューマンエラーの発生を抑えるべくチェックを重ね適切に実施している。

以上のように保健科学部ではアドミッション・ポリシーに基づき、「群馬パース大学入学者選考規程」、「群馬パース大学入試問題作成委員会規程」、「群馬パース大学入試委員会規程」に則って公正かつ妥当な方法により適切な運用ができているか検証を重ねながら、入学者選抜が実施されている。

なお、令和4(2022)年度入学者選抜より、保健科学部から医療技術学部に変更して実施する予定である。

#### (イ) リハビリテーション学部

リハビリテーション学部では、アドミッション・ポリシーに基づいて各学科の特色、専門分野の特性に応じた能力を持つ学生の確保を目的として、学生募集要項(入学試験要項)を定め入学試験を実施している。

開設初年度である令和3(2021)年度リハビリテーション学部入学試験においては、既存の保健科学部におけるこれまでの検証結果を踏まえ、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜の区分を設定し、入学試験を実施している。

リハビリテーション学部入学試験では、学長の責任のもと「群馬パース大学入学者選考規程」、「群馬パース大学入試問題作成委員会規程」、「群馬パース大学入試委員会規程」、に基づき、入試委員会及び入試広報課が中心となり適切な実施体制を整備し、入試問題作成委員会及び入試広報課が中心となり入試問題を作成し、全学的に実施している。

入学者の選考に関しては「群馬パース大学入学者選考規程」に基づき、入試委員長を議長とする合否判定会議を開催し合否判定を行い、学長が決定している。

入試問題の作成は本学が自ら行い基礎学力試験、一般選抜学力検査とともに、ヒューマンエラーの発生を抑えるべくチェックを重ね適切に実施している。

リハビリテーション学部は開設初年度であり、入学者の修学データが微小なため、まだ追跡調査はできないが、今後保健科学部と同様にIR推進室によるデータ解析を活用して、入学者選抜の方法や運用の妥当性、適切性について、入試委員会において検証していく予定である。

以上のようにリハビリテーション学部では、保健科学部と同様にアドミッション・ポリシーに基づき、「群馬パース大学入学者選考規程」、「群馬パース大学入試問題作成委員会規程」、「群馬パース大学入試委員会規程」に則って公正かつ適切な体制のもとに入学者選抜が実施されている。

#### **(ウ) 保健科学研究科**

保健科学研究科ではアドミッション・ポリシーに基づいて、博士前期課程及び博士後期課程各領域の特色、専門分野の特性に応じた能力を持つ学生の確保を目的として、入学試験要項を定め入学試験を実施している。

令和3(2021)年度保健科学研究科入学試験においては、博士前期課程及び博士後期課程でⅠ期とⅡ期の入試区分を設け、入学試験を実施している。

##### **1) 博士前期課程入学試験**

看護学領域、理学療法学領域、病因・病態検査学領域、放射線学領域、臨床工学領域において、共通の英語の筆記試験、志望する領域の専門科目に関する筆記試験、面接試験を行い、試験結果及び提出書類を総合して選考する。

##### **2) 博士後期課程入学試験**

医療科学領域においては、志望する研究分野に関する英語の筆記試験と口述試験、研究計画等に関する口頭試問を含む面接試験を行い、試験結果及び提出書類を総合して選考する。

保健科学研究科入学試験は、学長の責任のもと研究科委員会が中心となり実施体制を整備し、実施している。入学者の選考に関しては「群馬パース大学大学院入学者選考規程」に基づき、研究科長を議長とする合否判定会議を開催し合否判定を行い、研究科委員会において選考し、学長が決定している。

以上のように保健科学研究科ではアドミッション・ポリシーに基づき、適切な体制のもとに入学者選抜が実施されている。

### **2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持**

#### **(ア) 保健科学部**

臨床工学科における入学定員充足率については、開設初年度の平成29(2017)年度には132%であったが、その後初年度の受験生の動向を考慮した結果、平成30(2018)年度においては118%、平成31(2019)年度においては114%、令和2(2020)年度においては114%、令和3(2021)年度においては110%と適切な割合に留めることができている。それ以外の学科においても過去5年間の学科別の入学定員充足率(平均比率)については、120%以内を維持している。

また、保健科学部全体の収容定員充足率については、過去5年間115%以内を維持している。

以上のように教育を行う環境確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保している。

#### (イ) リハビリテーション学部

開設初年度であるリハビリテーション学部における令和3（2021）年度の入学定員充足率については、理学療法学科で122%となっているが、作業療法学科は117%、言語聴覚学科は100%と適切な割合に留めることができている。また、リハビリテーション学部全体の収容定員充足率についても、115%と適切な割合で満たしている。

以上のように教育を行う環境確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保している。

#### (ウ) 保健科学研究科

過去5年間の博士前期課程の入学定員充足率（平均比率）は115%となっており、適切に入学者の確保が行われている。博士後期課程の入学定員充足率（平均比率）は88%となっているが、収容定員6名に対して在籍学生数が5名であり、概ね適切に入学者を確保している。

博士前期課程では、看護学領域、理学療法学領域、病因・病態検査学領域に加え、平成29（2017）年度から放射線学領域、臨床工学領域を合わせた5領域の構成に変更している。このことから平成30（2018）年度に入学定員を2人増加した。

以上のように、教育を行う環境確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保している。

#### (3) 2-1の改善・向上方策（将来計画）

令和4（2022）年度入学者選抜より、令和4（2022）年4月に新設される看護学部の学生募集を開始する予定である。これに伴い、保健科学部を令和4年（2022）年4月より医療技術学部に名称変更する予定である。

今後も各学部及び保健科学研究科の入学者選抜が、教育目的（教育目標及び教育研究上の目的）を踏まえたアドミッション・ポリシーに沿った方法により適切に運用できているか検証を重ねながら、アドミッション・ポリシーの周知手段を常に見直し、周知するよう努める。また、保健科学研究科博士後期課程においては、入学定員充足率（平均比率）が88%となっていることから、入試及び広報活動の在り方について検討していく。

これまで同様に公正かつ適切な入学試験の実施、入学定員及び収容定員に沿った適切な在籍学生の確保を目標に入学者選抜に係る体制の整備・確立を推進していく。

## 2-2 学修支援

### 2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

### 2-2-② TA( Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実

#### (1) 2-2の自己判定

「基準項目2-2を満たしている。」

## (2) 2-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

### 2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

教職協働による学生への学修に関する支援及び授業支援に関する方針及び計画は、学部においては教務委員会によって検討され、その実施状況を適切に整備・運営している。教務委員会は委員長、副委員長、各学科教員、及び事務職員によって構成され、毎月1回開催される。

教務委員会は、①学事予定（年間授業計画）、時間割の策定、教育課程の編成、シラバスの作成、②履修登録管理及びキャップ制の遵守、③出欠・成績管理、修学ポートフォリオの推進、④教室や教育機器などハードウェアの保守点検、⑤単位認定及び進級・卒業判定基準の遵守、⑥学籍異動に関する事項の管理等を行っており、教職協働による学生への学修支援の要としての役割を果たしている。検討された内容は教授会に報告され、学長の承認を経て全学に周知されている。また、学生へは学内掲示やアクティブ・アカデミー、授業やガイダンスを通じて周知している。

保健科学研究科については、博士前期・後期課程運営委員会において、同様の活動がなされている。

### 2-2-② TA( Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実

#### (ア) 障害を有する学生への配慮

障害を有する学生が入学する場合には現在のバリアフリー環境に加え、更なる物理的環境や、人的支援・配慮を行うべく学生委員会において検討されている。

#### (イ) オフィスアワー制度の全学的な実施

オフィスアワー制度は、開講されている全科目で実施されており、受付時間と場所等がシラバスを通じて周知されるよう、全教員にシラバス作成要領で指示している。教務委員会においてシラバスをチェックし、不備がある場合は記載内容の修正を求めている。このような段階を経ることで、オフィスアワー制度を全学的に実施している。

#### (ウ) TA等の活用

TA制度は「群馬パース大学大学院ティーチング・アシスタント（TA）に関する規程」に定められ、主として指導教員の授業において補助的役割を持って運用されている。

実績としては、平成29（2017）年度5名、平成30（2018）年度3名、令和元（2019）年度2名、令和2年（2020）年度2名のTAが授業における実技や演習の補助として活動を行っている。

#### (エ) 中途退学、休学及び留年への対応策

本学では、学生1人ひとりに目の行き届いたきめ細やかな支援を行うために担任制度やチューター制度を導入し、随時面談を行うことで学生の状況把握に努めている。

また、Active Academy（アクティブ・アカデミーWebポータルシステム）（以下、「アクティブ・アカデミー」という。）を活用して、全教職員が学生の出欠状況や成績状況等

を確認し、学生の状況変化に早期に対応できるよう情報共有している。

加えて、中途退学、休学を希望する学生については、担任やチューターが学生本人や保護者と面談を実施し、必要に応じて学科長や他の教員、学生相談室などとも連携をとりながら対応している。

#### 《各学科の具体的取組》

##### ①看護学科

担任制度とチューター制度を併用し、随時面談を行うことで学生の状況把握と相談・支援を行っている。

また、アクティブ・アカデミーを活用して、全チューターが学生の出欠状況や成績状況等を確認し、学生の状況変化に早期に対応できるよう情報共有している。

##### ②検査技術学科

1～3年の各学年に担任2名、副担任2名を選任し、4学年は、少人数のゼミ単位で各ゼミ担当教員が学習面の細やかな指導を行っている。また、講義への欠席者を確認し、担任あるいはゼミ担当教員が各学生に連絡することで体調や精神的な管理を行っている。

中途退学者に関しては、退学理由やその後の進学等を伺い、保護者と連絡を取っている。

休学及び留年に関しては、担任あるいはゼミ担当教員が随時連絡を取り対応している。

##### ③放射線学科

休学及び留年者には、学年担任による個別支援を実施し、復学の支援、単位取得・学習支援を実施している。

##### ④臨床工学科

退学、休学希望者に対しては、担任により面談を行い、退学または休学希望の理由を聴取し、助言等を行っている。必要に応じて保護者を含めた面談を実施し、学生本人の意向を尊重したうえで、適切な選択に向けた助言・指導を行っている。留年者に対しては、担任により随時個別面談を行い、学修状況の把握および相談・指導を行っている。また毎月開催する学科会議において、学生の学修状況について情報交換を行い、学生指導の内容・方法についても協議を行うなど、情報共有を行いながら学生指導を行っている。

##### ⑤理学療法学科

進級率が高い傾向にあるためか、中途退学や休学は減少傾向にある。少ない事例で生じた休学と退学については、担任が保護者も含む面談にて、休学であれば理由とその期間になすべき事項、退学であれば理由と今後の進路について話し合い、無益な選択とならない配慮を行っている。

## ⑥作業療法学科

本年度（2021）開設のため、現時点で対応が必要な学生はいないがクラス担任による面談を実施しており、学生の現状把握を行いながら対応への準備をしている。

## ⑦言語聴覚学科

アクティブラーニングを実践するゼミの指導者（チューター）が、通常の授業、アクティブラーニング、国家試験対策などの学修支援のみならず健康管理、人間関係、就職活動等の生活支援も含めて支援している。将来的には、ゼミの上級生が下級生を支援するピアサポートの実施も検討している。

学部では、学科による差はあるが退学者および留年者とも若干の増加傾向にある。大学院にあつては、目的意識を強く持った社会人が多いため、これまで休退学者は多くない。

### (3) 2-2の改善・向上方策（将来計画）

オフィスアワー制度は全学的に実施しているが、シラバスへの記載内容が適切に実施されているか、今後、教務委員会においてチェック体制を強化する。

教職員協働による学生への学習支援体制については、アクティブ・アカデミーにおける修学ポートフォリオの活用を進めることが大きな課題である。

現在、修学ポートフォリオの利用状況は、各学生データの参照と学生指導の一部を記録する程度である。今後は、学生指導記録の活用を全教員に徹底するなど、修学ポートフォリオを積極的に活用し、在学中のエンロールメント・マネジメントの一助としたい。

## 2-3 キャリア支援

### 2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

#### (1) 2-3の自己判定

「基準項目 2-3 を満たしている。」

#### (2) 2-3の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

「群馬パース大学学生支援センター規程」に基づき、令和3（2021）年度より、学生支援センターを組織し、センターにキャリア支援室を置いた。キャリア支援室の管理は学生支援センターの下部組織であるキャリア支援室運営委員会が行っており、キャリア教育や就職支援全般に関する支援を行っている。詳細については、以下（ア）キャリア教育に関する支援体制、（イ）就職に関する支援体制で示す。

#### (ア) キャリア教育に関する支援体制

##### 1) 学生支援センターのキャリア支援室におけるキャリア教育の実施

キャリア支援室は、学生支援センター及びキャリア支援室運営委員会の管理のもと、本学のグループ会社の職業紹介部門（メディカルサフラン）のスタッフが本学の委託を受け、本学の職員と共にキャリア支援を行っている。また、必要に応じてキャリア支援室運営委員会の教員がキャリア教育を行える体制も整えている。

令和2（2020）年度は、放射線学科と臨床工学科の1期生が卒業することから、キャリア相談員を増員し就職支援を行った。具体的なキャリア相談件数（延べ）は、看護学科627人（4年生の求職者数83人）、理学療法学科236人（4年生の求職者数64人）、検査技術学科68人（4年生の求職者数47人）、放射線学科263人（4年生の求職者数71人）、臨床工学科203人（4年生の求職者数52人）であり、具体的な相談内容は、面接対策648件、履歴書添削が550件、小論文・作文の書き方257件、進路相談97件、添え状・送り状の書き方17件、であった。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、就職対策講座のオンライン開催やキャリア相談の柔軟な対応（対面の相談を含めた電話相談やオンライン相談）等を行い、学生の就職活動の不利益にならないよう配慮した。なお、令和3（2021）年度の6月より、電子メールでの相談を行う予定である。

## 2) 各学科におけるキャリア教育

### ①看護学科

看護学科キャリアサポートチームを組織し、学生へ就職・進学に関する情報提供を行っている。また、就職・進学に関するキャリア支援も含めた相談・助言体制を、担任及びチューターにより個別に対応している。

### ②検査技術学科

企業、衛生検査所、病院、健診センター等の協力を得て、2学年（希望者のみ）と3学年を対象とした学内進路相談会を実施し、キャリア教育の充実を図っている。また、就業体験も含め、4学年にて臨地実習をおこなっている。

### ③放射線学科

学科内に学生支援委員会を設置し、就職・進学学状況の把握、早期支援を実施している。また、就職支援・国家試験対策支援と連動して、関連資格取得支援として放射線取扱主任者国家試験受験支援対策講座を早期に実施している。

### ④臨床工学科

キャリア教育の一環として、全学年（希望者のみ）を対象に病院、クリニック、企業などへの一日見学を実施し、キャリア教育の充実を図っている。また、キャリアサポートセンターの支援と並行して、担任・ゼミ担当教員による就職・進学に関する相談・助言および応募書類の確認・面接対策を個別で対応し、就職活動の円滑な実施に向けた指導を行っている。

### ⑤理学療法学科

キャリアサポートセンターのキャリア支援と並行して、学科では担任および就職担当、更には卒業研究担当教員も協働して進路指導にあたっている。8月初旬に実施される大規模な就職説明会を起点として就職活動が遅延なく行える体制を有している。



## ⑥作業療法学科

本年度（2021）開設のため、具体的なキャリア支援、相談・助言体制での対応は行っていないが、新入生研修において群馬パース病院の協力を得て病院見学・講義・説明を作業療法スタッフから行ってもらい、将来の自己イメージにつながるよう実施した。

## ⑦言語聴覚学科

1年生より「就職支援セミナー・1年次就職対策講座」への参加を促している。また、キャリア教育の一環として、1年次から4年次までの病院・医療関連施設・福祉施設などへの学外見学実習や臨床実習も実施する予定であり、社会人としての自立を促す場と考えている。

### 3) インターンシップへの参加支援

本学のインターンシップについては、①教育課程や臨地・臨床実習などに位置付ける場合、②大学行事や課外活動の一環として位置付ける場合、③病院・施設・企業等が独自に実施し学生が個人的に参加する場合に分けられる。

①については、全学生が臨地・臨床実習を履修している。②については、課外授業において病院・施設見学を実施したり、教員が個別に得た情報を学科掲示板で案内している。③については、大学にきた情報を掲示やアクティブ・アカデミーで周知し、学生支援センターを窓口インターンシップへの参加をサポートしている。

なお、令和2（2020）年度より、上記②と③のインターンシップの参加について、学生の活動状況を把握することを目的に「インターンシップ参加届」の運用を全学的に開始した。

### (イ) 就職に関する支援体制

#### 1) キャリア支援室運営委員会における就職支援の実施

キャリア支援室運営委員会は、キャリア教育の他に求人票の管理、学外で行われる就職説明会の周知など、就職希望者を対象とした支援を行っている。病院や施設のパンフレット・ポスターなど求人票を含めた就職情報については、1号館は図書館、4号館は図書室にそれぞれ就職コーナーを設け、随時閲覧することができる。

なお、令和2（2020）年度の求人件数は、看護師345件、保健師67件、助産師112件、理学療法士483件、臨床検査技師271件、診療放射線技師184件、臨床工学技士167件（件数は同病院・施設の重複有り）であった。

また、令和2（2020）年度の卒業者のうち、就職を希望する学生は国家資格を活かした病院や施設、企業等に就職している。就職者数についての詳細は以下に示す（表2-3-1）。

表2-3-1 令和2（2020）年度学科別就職率一覧

卒業生数	求職者数			就職者数			就職率
		男子	女子		男子	女子	
看護学科 85名 (うち2名進学)	83名	13名	70名	83名	13名	70名	100.0%
理学療法学科 65名 (うち1名就職意思無し)	64名	25名	39名	63名	25名	38名	98.4%
検査技術学科 52名 (うち5名進学)	47名	14名	33名	45名	13名	32名	95.7%
放射線学科 76名 (うち5名進学)	71名	37名	34名	55名	32名	23名	77.5%
臨床工学科 54名 (うち1名進学) (うち1名進学検討中)	52名	34名	18名	43名	26名	17名	82.7%

## 2) 就職に関する情報提供

本学に届いた求人情報は、学内の就職コーナーの掲示と同時に、アクティブ・アカデミーからも配信しており、全学生が学内外を問わず最新の情報を閲覧することができる。

また、過去の就職試験や面接等のデータ「就職活動結果報告書」を収集、蓄積整理しており、学生は必要な情報を求人情報と同様に、掲示とアクティブ・アカデミーで閲覧が可能である。

## 3) 就職説明会

就職支援の一つに、病院、施設、企業の就職担当者を本学に招き、直接学生が面談できる就職説明会を例年実施している。参加者の専門職員の中には本学OB・OGも多数参加しており、先輩から直接就職の現場の説明を受けることにより、就職に対する強い動機付けとなっている。

令和2（2020）年度より全学科合同の進路相談会を年2回開催することとなり、新型コロナウイルス感染症の感染対策を施し、1回目を8月、2回目を3月に大学近隣の施設（展示ホール）を会場として実施した。

なお、1回目の進路相談会の参加施設数は91施設（コロナ禍のため資料参加をした14施設含む）で、参加した学生は201名、2回目の相談会の参加施設数は93施設（コロナ禍のため資料参加をした38施設含む）で、参加した学生は230名であった。

## 4) 就職対策講座の開催

令和2（2020）年度に行われた「就職対策講座」は、本学のキャリア相談員が受け持ち

実施した。また、国公立の施設に就職を希望する学生のため、地元の資格スクール校に協力を得て「公務員対策講座」を実施した。「専門職就活講座」では、医療現場で活躍している専門職の方を招いて講座を実施した。「みだしなみ講座」では、紳士服販売専門店のスタッフを講師に招き、採用担当者の視点からの就活マナーやスーツの着こなし等の講座を実施した。「ビジネスマナー講座」では、教養部責任者より紹介された元キャビンアテンダントの経歴を持つ講師によるビジネスマナーの基礎基本に関する講座を実施した。コロナ禍のため、年間を通じてオンラインの形式による開催が中心であった。

### 5) 国家試験に関する支援

本学の学生は、国家資格を必要とした病院、施設、企業などに就職するため、国家試験が不合格の場合、内定が取り消される場合がある。そのため、国家試験合格のための支援が就職に関する支援と同様に重要となる。

本学では、各学科教員及び事務職員から構成される国家試験対策委員会を設け、国家試験対策を全学的な取り組みとしている。

### 6) 再就職支援等

新規学卒者の事業所産業別離職状況（令和元（2019）年10月厚生労働省調べ）によると、医療職の早期離職率が必ずしも他の業種と比較して低いとは言えず、希望どおりに就職したものの、何らかの事由により3年以内に離職しているケースが多いとの報告がなされている。本学では、雇用のミスマッチや結婚・出産などの事情により退職した卒業生に対して、本学のグループ会社の職業紹介部門（メディカルサフラン）が再就職支援を行っている。具体的に、令和2（2020）年度にメディカルサフランで再就職支援を受けた本学卒業生は34人（中途退学者1名を含めると35人）であった。

### 7) キャリア教育と就職支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

学生の意見をくみ上げる仕組みの一つとして、学生委員会が実施している「卒業時アンケート」と「卒業後アンケート」がある。

2019年度卒業生（看護学科、理学療法学科、検査技術学科の3学科）を対象に、令和2（2020）年3月に「卒業時アンケート」を、8月に「卒業後アンケート」を実施し、学生の意見・要望を集約した。「卒業時アンケート」は227人のうち225人が回答（回答率99.1%）、「卒業後アンケート」は72人が回答（回答率31.7%）した。この調査では、在学中のキャリア教育や就職支援に関する調査が含まれており、本学のキャリア教育と就職支援の重要な基礎資料となると同時に、改善と向上に役立つものとする。この調査結果は学生委員会から各学科にフィードバックしており、キャリア教育、就職支援の改善を全学的に行う体制を整えている。

### (3) 2-3の改善・向上方策（将来計画）

放射線学科と臨床工学科の1期生が令和2（2020）年度に卒業した。低学年のうちからキャリア教育を段階的に導入し、専門職としての意識付けを卒業年度までに確立するよう心掛けた。

キャリア支援室運営委員会が主体となって行う合同進路相談会や就職対策講座などを低学年から実施することにより、広がりや深みのあるキャリア支援を全学的に展開した。

また、令和2（2020）年度には、理学療法学科の卒業生がいる就職先へのアンケート調査を行い、早期離職防止や再就職支援のために活用した。令和3（2021）年度には、検査技術学科の卒業生がいる就職先にも同アンケートを実施する予定である。

令和2（2020）年度はコロナ禍でのキャリア教育と就職支援となり、計画外の予定変更を余儀なくされたが、学生の不利益にならないよう細心の注意を払って対応した。令和3（2021）年度も、新型コロナウイルス感染症の感染状況は予断を許さない状況ではあるが、本学の開設以来蓄積してきたキャリア支援及び就職支援のノウハウを最大限に生かしつつ、学生の安全を第一に考えた、社会的・職業的自立に関する支援を継続して行いたい。

## **2-4 学生サービス**

### **2-4-① 学生生活の安定のための支援**

#### **(1) 2-4 の自己判定**

「基準項目 2-4 を満たしている。」

#### **(2) 2-4 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）**

令和2（2020）年度は、本学における学生サービス、厚生補導のための取り組みは学生委員会が主体となっていたが、令和3（2021）年度より本学の組織改編のため、新たに学生支援センターと健康管理センターを置き、学生サービス、学生の課外活動への支援は学生委員会と学生支援センター、厚生補導は学生委員会、奨学金など学生に対する経済的な支援は学生支援センター、学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談は学生支援センターと健康管理センターで役割を分担し、組織的な学生生活の安定のための支援を行っている（図2-4-1）。

また、組織的な支援とは別に、個別の対応として各学科の担任やチューターが、学生の様々な問題についてきめ細やかな支援を行っている。

<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生の生活指導に関する事項</li> <li>(2) 学生の福利厚生に関する事項</li> <li>(3) 教授会から諮問された事項</li> <li>(4) その他学生に関する事項</li> </ul> </li> <li>●学生支援センター <ul style="list-style-type: none"> <li>【キャリア支援室運営委員会】 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) キャリア支援室の運営及び管理に関する業務</li> <li>(2) キャリア相談に関する業務</li> <li>(3) 職業教育及び職業意識の啓発に関する業務</li> <li>(4) 就職支援事業の企画・実施に関する業務</li> <li>(5) 就職情報の収集・提供に関する業務</li> <li>(6) 就職に関する調査・分析に関する業務</li> </ul> </li> <li>【学生相談室運営委員会】 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生相談室の運営及び管理に関する業務</li> <li>(2) 学生（当該学生に関係する職員・家族等を含む。）からの相談に関する業務</li> <li>(3) 学生相談に係る研究・調査に関する業務</li> <li>(4) 学生の発達援助に関する予防啓発活動に関する業務</li> <li>(5) 学生生活の相談・助言に関する業務</li> <li>(6) 障害学生（当該学生に関係する職員・家族等を含む。）からの相談に関する業務</li> <li>(7) 障害学生への合理的配慮の提供に関する業務</li> <li>(8) 障害学生の修学及び学生生活に係る連絡調整に関する業務</li> <li>(9) 障害学生支援の啓発に関する業務</li> </ul> </li> <li>【その他】 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生の課外活動に関する業務</li> <li>(2) 奨学金に関する業務</li> <li>(3) 学生保険に関する業務</li> <li>(4) 学生マンションに関する業務</li> <li>(5) 学内の飲食店や売店等の管理に関する業務</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●健康管理センター <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 健康管理センター、保健室、静養室の運営及び管理に関する業務</li> <li>(2) 健康診断の実施及びその事後措置に関する業務</li> <li>(3) 健康相談及び健康指導に関する業務</li> <li>(4) 学内の環境衛生及び保健衛生に関する業務</li> <li>(5) 感染症の予防に関する業務</li> <li>(6) 臨地・臨床実習における感染予防に係る検査及び予防接種に関する業務</li> <li>(7) 健康管理に関する研究・調査に関する業務</li> <li>(8) 健康管理計画の立案に関する業務</li> </ul> </li> </ul>
---

図 2-4-1 組織表

## (ア) 奨学金などによる学生への経済的支援

本学における独自の奨学金制度の概要、及び令和2（2020）年度の奨学生数について以下に示す。日本学生支援機構の奨学金、修学支援新制度の授業料等の減免、地方公共団体や病院施設等の奨学金も含め、奨学金に関する情報については、学内掲示やアクティブ・アカデミーを通じて広く周知している。

### 1) 本学独自の奨学金制度

本学独自の奨学金は平成27（2015）年度より新設され、令和2（2020）年度では、26人の特待生（特待生S：2人、特待生A：12人、特待生B：12人）、15人の神戸（かんべ）奨学生、7人の兄弟姉妹奨学生、本学の卒業生及び修了生が対象となる同窓生奨学生は4人となっている。本学独自の奨学金のうち、特徴的な奨学金として「群馬パース大学神戸奨学金」がある。この奨学金は本学創設者である樋口建介の教育の原点に多大な影響を及ぼし、学園創設に当たり多額の私財を投じた神戸照子先生の思いを尊重して設立された制度である。高い志があり、学業が優秀であるにも関わらず経済的な理由により修学困難な学生に対し給付すると定めている。

なお、令和2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症のため家計が急変した学生を対象に「2020年度特別奨学金」を設け、18人に奨学金を給付した。

### ①特待生奨学金

申請資格：一般選抜（前期）の出願者のうち、特待生選抜を希望する者

採用条件：経済的理由により修学困難な者（入試成績優秀者）

給付方法：学納金と相殺し、現金給付無し

特待生の種類：特待生S 給付額－授業料全額相当

給付期間－4年間 ※進級時に継続可否の審査あり

特待生A 給付額－後期授業料全額相当

給付期間－4年間 ※進級時に継続可否の審査あり

特待生B 給付額－後期授業料全額相当

給付期間－1年間（入学年度のみ）

### ②神戸奨学金

2～4年生で、人物、学業ともに特に優れ、経済的理由により修学困難な者に対し、300,000円（当該年度の後期授業料と相殺し、現金給付無し）を給付する。

### ③兄弟姉妹奨学金

1人以上の兄弟姉妹が本学に在籍（同時入学含む）しているか、本学を卒業した兄弟姉妹がいる新入生で経済的理由により修学困難な者に対し、100,000円（1年次後期授業料と相殺し、現金給付無し）を給付する。

### ④同窓生奨学金（群馬パース大学大学院生対象）

本学を卒業して本大学院に入学した者、又は本大学院の博士前期課程（修士課程含む）を修了して本大学院の博士後期課程に入学した者で、経済的理由により修学困難な者に対し、入学金相当額（100,000円）を給付する。

### ⑤2020年度特別奨学金

本学の学部 に在籍する学生及び大学院の研究科に在籍する学生で、新型コロナウイルス感染症の拡大や、緊急事態宣言の発令などの一連の事象を原因とした家計の急変等により、経済的に困窮し修学困難な学生に対し、300,000円（2020年度の後期授業料と相殺し、現金給付無し）を給付する。

## 2) 学外の奨学金制度

学外の奨学金制度は、日本学生支援機構奨学金や地方公共団体奨学金、医療機関等による奨学金等がある。地方公共団体や医療機関等による奨学金は、令和2（2020）年度では99件の募集案内が本学に寄せられており、学内の就職コーナーに配置した資料を自由に閲覧することができる。また同情報をアクティブ・アカデミーで配信しており、学外でも閲覧が可能である。

## 3) 日本学生支援機構奨学金、高等教育の修学支援新制度

令和2（2020）年度、日本学生支援機構の奨学金、及び高等教育の修学支援新制度については、予約採用、在学採用等対象者別の説明会を開催し、各種手続方法から返還まで概要を説明した。令和3（2021）年4月12日現在の日本学生支援機構奨学生数と高等教育の修学支援新制度の給付者数を表2-4-2に示す。

表 2-4-2 日本学生支援機構奨学生数と高等教育の修学支援新制度の給付者数

第一種 奨学金 貸与者数	第二種 奨学金 貸与者数	第一種・第二種 貸与者延べ数	第一種・第二種 貸与者実数	給付奨学金 給付者数
349人	394人	743人	590人	132人

給付奨学金 給付者数	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分
132人	70人	40人	15人

※その他、休・停止区分7名

(イ) 学生の課外活動への支援

1) 学友会活動の支援

学生の課外活動の基幹的な役割を担っているのは、学生が主体となって運営している学友会である。学友会は「学業と同様に大きな意義を持つ課外活動を円滑に行うと共に学生相互の親睦を図り、学生生活をより豊かに、かつ充実したものにする（学友会会則第3条）」を目的とした組織である。学友会は全学生から役員（会長、副会長、会計、書記）を選出し、その役員により学友会執行部が組織され、様々な課外活動の主体となっている（図2-4-1）。また、学友会活動の拠点として、1号館1階に学友会室を設置している。なお、学友会の活動に対しては、学生自治を尊重することを念頭に置きながら、学生委員会が助言及び支援を行っている。

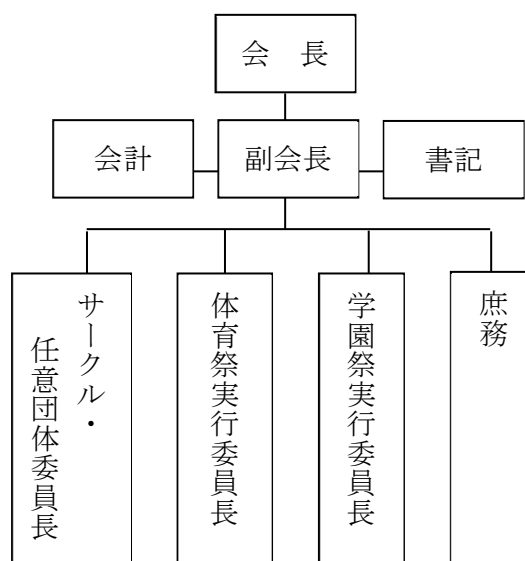


図2-4-1学友会組織図

学友会執行部管理のもと、サークル活動が行われており、学生は才能や趣味に合わせ自由に選択、入会ができる。各サークルには顧問として本学専任の教職員が就き、活動に関する助言、支援を行っている。サークル活動に関する経費については、学友会費より学生委員会の助言のもと学友会執行部が配分し執行している。令和3（2021）年5月現在の公認サークルの一覧を以下に示す。

#### 公認サークル一覧（18団体）

- ・ Winter Sportsサークル
- ・ サッカーサークル
- ・ 卓球サークル
- ・ テニスサークル
- ・ トレーナーズサークル
- ・ バスケットボールサークル
- ・ バドミントンサークル
- ・ バレーボールサークル
- ・ フットサルサークル
- ・ アカペラサークル
- ・ 音サークル
- ・ 軽音サークル
- ・ コーラスサークル
- ・ ボードゲームサークル
- ・ ボランティアサークル
- ・ 漫画研究会
- ・ ダンスサークル
- ・ 野球・ソフトボールサークル

予算的支援はないが、任意団体を結成することが本学では認められている。令和3（2021）年5月現在の任意団体は、学生消防分団と東北県人会の2団体である。

任意団体もサークル活動と同様に、学友会執行部管理のもと活動が行われ、各団体に顧問として本学専任の教職員が就き、活動に関する助言・支援を行っている。

## 2) 公認部活動に関する支援

公認部活動は本学で公式に認定された部活動で、体育会・文化会の活動を通して学生の自立心や人間形成を促進することにより学生生活を充実させるとともに、本学の伝統を構築し、帰属意識を高めることを目的にしている。

公認部の設立は構成人数が複数学年に渡り10人以上として、全国規模の大会があり、その大会を運営する大学連盟に所属していなければならない。なお、令和3（2021）年5月現在の公認部は硬式野球部のみである。

硬式野球部においては、専任教職員が各種助言・支援を行うとともに、本学として活動の資金的支援を行っている。また、3号館（体育棟）には、硬式野球部専用のブルペン練習場、バッティング練習場を整備し、練習環境の支援も行っている。

## (ウ) 学生への心身に関する健康相談、心的支援、生活相談など

### 1) 健康管理センター

健康管理センターは、令和3（2021）年4月より発足した「群馬パース大学健康管理センター規程」に基づく新しい組織である。健康管理センター会議は月1回の頻度で開催され、保健室や静養室の管理、インフルエンザの学内予防接種、法令に基づく定期健康診断の実施、臨地・臨床実習における抗体検査及び予防接種等について協議し、学生の健康管理全般を管理している。

保健室は、学生の健康管理、健康相談の窓口として5号館の健康管理センター内に設置している。保健室職員は、養護教諭と看護師の資格を有するパート職員2人、看護師と助



産師の資格を有するパート職員1名、看護師の資格を有するパート職員2人の計5人で構成されている。通常は保健室に1人が常駐し、日々の保健室業務とともに学生の健康に関する不測の事態にも対応できる体制を整えている。

臨地・臨床実習における抗体検査及び予防接種に関しては、実習部会と連携を図りながら、学生が本学に入学する段階から学外実習が始まるまで接種記録等の管理を行っている。

その他、「日常の健康相談・傷病等発生時の対応図」、「近隣病院・診療所リスト」、「感染症発生時の対応図」(図 2-4-2)、「感染症の種類等に応じた出席停止の期間の基準」などを定めている。

2021年4月1日  
健康管理センター

2021年度 感染症発生時の対応図

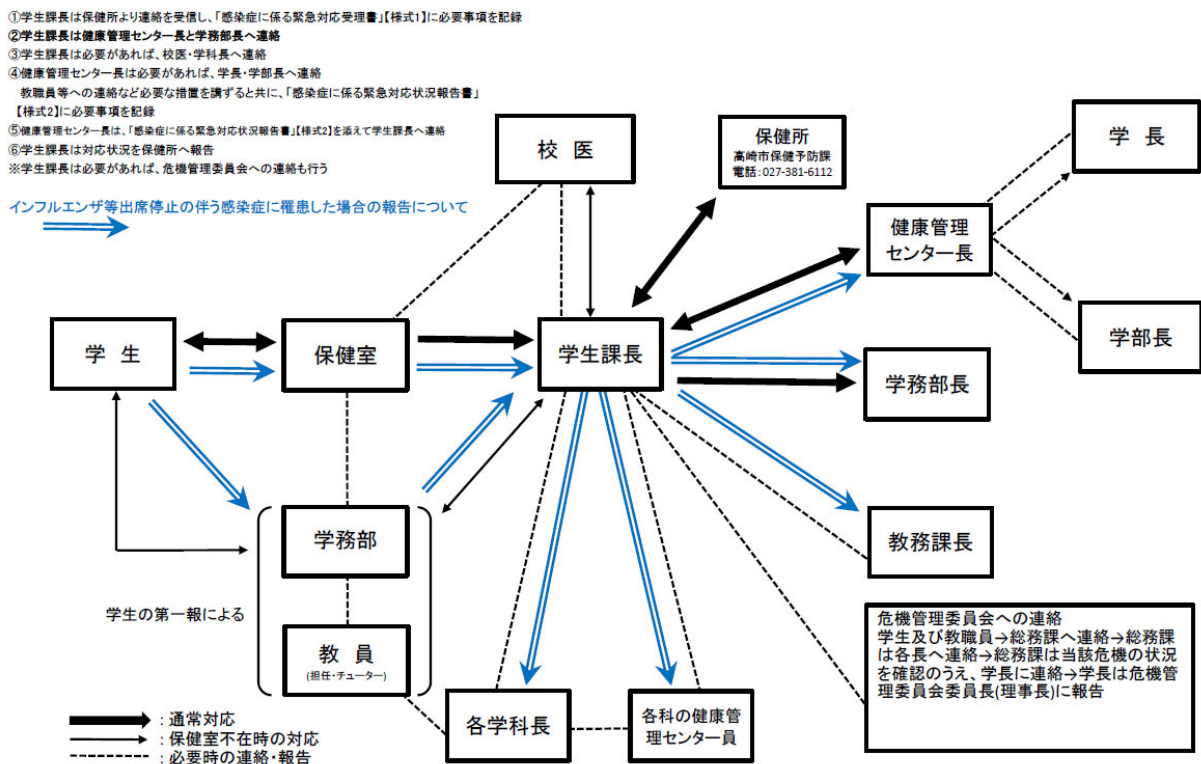


図 2-4-2 感染症発生時の対応図

## 2) 学生相談室

学生相談室(5号館学生支援センター内)は、学生支援センターの下部会である学生相談室運営委員会の管理のもと運営されている。学生相談室運営委員会は、看護学科長を委員長として、検査技術学科長、放射線学科長、臨床工学科長、理学療法学科長、作業療法学科長、言語聴覚学科長、教養部責任者と学生相談室カウンセラー、及び事務職員で構成されている。各学科の学生が抱えている心の諸問題について話し合わせ、学生相談室及び各学科での学生の心理的・精神的な問題を共有し、即座に全学的に対応できる体制を整え

ている。

学生相談室では、専任の臨床心理士の資格を有するカウンセラーがカウンセリングを中心とした専門的な適応支援・教育的支援を行い、学生の心理的援助・発達・回復を促している。また、学生相談に関する不測の事態に備え、学生相談室来談ケースの対応において、通常対応に加え緊急時も含めた対応図を作成している（図2-4-3）。

なお、令和3（2021）年度より、学生相談室の組織改編のため、相談員を1名増員し、計4名による学生相談業務を行っている。

## 学生相談室 緊急時の対応図

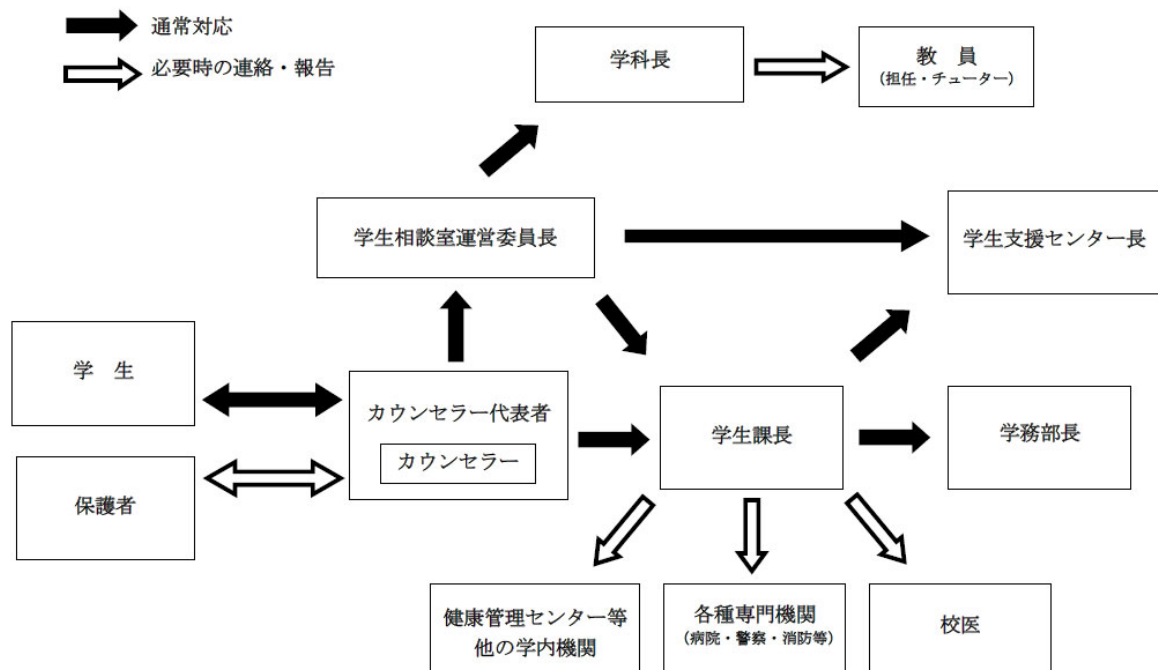


図2-4-3 学生相談室来談ケースの対応図

### 3) その他、各学科における個別支援の取り組み

保健室や学生相談室以外においても、担任やチューターが、学生の個別支援を行っている。必要に応じて保護者との連携を図りながら、きめ細やかな個別支援を行っている。学科別の取り組みについては以下に示す。

#### ①看護学科

チューターが新学期開始後、夏・冬・春季休業前と、必要に応じて随時個別面談を行っている。担任は、クラス運営に関する学生からの相談を受け、指導を行っている。

#### ②検査技術学科

1～3年の各学年に担任2名、副担任2名を選任し、学生面談や相談窓口となること

で、きめ細やかな指導を行っている。また、担任だけでは解決できない問題については学科会議で情報を共有し、問題解決にむけて協議している。さらに、4 学年については、少人数のゼミ単位で各ゼミ担当教員が国家試験対策や就職活動を含めた様々なサポートを行っている。

### ③放射線学科

1 年から 3 年時は、学年担任 2 名が、健康管理センターと連携して学生の健康状態・生活状況等の把握を行っている。また、3 年後期からは、卒業研究ゼミナールを通して研究指導教員による支援を行っている。

### ④臨床工学科

各学年の担任および副担任が年 1～2 回及び必要に応じて随時個別面談を行い、学生の個別の状況把握および悩みや相談などの諸問題に対する助言や指導を行っている。また、教員間で情報を共有し、学科全体で学生を支援する体制を整えており、必要時には学生相談室のカウンセラーへの相談および連携のもとで学生の支援を行っている。

### ⑤理学療法学科

各学年の担任と学生全体の担当教員が協働し、複数体制で学習や生活および悩み事に関して相談に応じる体制をとり、学生の個別の状況把握と時宜にかなった個別指導が行えるようにしている。事例によっては学生相談室との連携も行っている。指導の状況は修学ポートフォリオと学科会議で共有され、学生の心身にかかわる支援について遅滞なく検討できる体制を有している。

### ⑥作業療法学科

クラス担任 1 名、副担任 1 名による学生面談を行って個別の情報を収集するとともに、学生相談室カウンセラーを通じた家族の希望などをあわせて学科教員に必要な情報と対応について共有している。また、学生からの奨学金希望相談にも卒業後の返還も含めた適切な情報提供を行っている。

### ⑦言語聴覚学科

言語聴覚学科内部に FD(Faculty Development)会議を設定し、学生情報を日常的に共有し、合理的配慮が必要な学生がいる場合、その対応を検討している。また、ゼミ(学生 5 人程度)担当教員が学生と日常的にコミュニケーションを取る中で、きめ細かな相談・支援を行なっている。

## (3) 2-4 の改善・向上方策（将来計画）

令和 3（2021）年には、学生数の増加に対応するため、学生相談室カウンセラーを 1 名増員し、学生生活の安定のための支援を強化している。また、就職活動が本格的に始まるピーク時に合わせてキャリア相談員を 1 名増員し、学生がストレスなくキャリア相談ができる環境を整えている。

令和3（2021）年度は本学の組織改編による学生支援センターと健康管理センターが新しく設けられ、既存の学生委員会と共に学生生活の安定のための支援の向上を適切に行っている。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、前年度は学園祭が中止となり、今年度も5月に予定していた体育祭が前年度と同様に中止となった。本学における学友会活動やサークル活動等の課外活動が衰退しないよう、オンラインで行う学園祭やサークルの勧誘など、学友会と知恵を絞りながら学生の安全を第一に考えた次の世代に繋がる学生活動の援助を心掛ける必要がある。

## **2-5 学修環境の整備**

### **2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理**

#### **2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用**

#### **2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性**

#### **2-5-④ 授業を行う学生数の適切な管理**

##### (1) 2-5 の自己判定

「基準項目 2-5 を満たしている。」

##### (2) 2-5 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

### **2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理**

#### **(ア) 適切な施設整備**

本学の校舎については、平成 22（2010）年 4 月に完成した 1 号館（看護学科・理学療法学科・図書館棟）に、令和 3（2021）年 4 月にリハビリテーション学部を開設したことにより、作業療法学科、言語聴覚学科が使用する校舎（ANNEX（別館））を令和 3（2021）年 1 月に増築した。平成 25（2013）年 2 月に完成した 2 号館（検査技術学科棟）、同年 10 月に完成した 3 号館（体育棟）、平成 29（2017）年 3 月に完成した 4 号館（放射線学科・臨床工学科棟）に加え、学生の福利厚生施設の充実に向けて、学生支援センター・健康管理センター等及び学生寮などの機能を有する 5 号館を令和 2（2020）年 9 月に新設した。各校舎の施設概要を表 2-5-1 に示す。

表 2-5-1 校舎の施設概要（令和 3（2021）年度）

名称	校舎敷地	校舎面積	階	主要施設
1号館 【ANNEX (別館)】	3,141m <sup>2</sup>	12,050m <sup>2</sup> 【内 2,693m <sup>2</sup> 】	8階 【7階】	学長室、会議室、事務室、図書館、講義室、演習室、ゼミ室、実習室、解析室、研究室、静養室、グループ学習室、学友会室・部室、コンビニ、学生ホール、印刷室、ロッカー室
2号館	764m <sup>2</sup>	2,402m <sup>2</sup>	6階	学科長室、管理室、会議室、応接室、講義室、実験室、実習室、測定室、準備室、研究室、共同ゼミ室、印刷室、ロッカー室
3号館	1,483m <sup>2</sup>	2,705m <sup>2</sup>	3階	野球ブルペン練習室、野球バッティング練習場、更衣室、アリーナ、ホール、多目的スペース
4号館	897m <sup>2</sup>	6,447m <sup>2</sup>	12階	事務室、会議室、応接室、静養室、実習室、実験室、解析室、撮影室、準備室、講義室、ゼミ室、研究室、図書室、印刷室、ロッカー室、ブックカフェ（カフェ・書店）、売店
5号館	1,773 m <sup>2</sup>	2,410m <sup>2</sup>	5階	学生支援センター、健康管理センター、国際交流センター、地域連携センター、看護実践教育センター、学生相談室、保健室、会議室、研究室、講義室、学生専用マンション(40室)

1号館は8階建てで、3階から8階に20人から230人（8階大講義室）の講義室を整備している。実習室として5階に2室、6階に3室、7階に5室が整備されている。また、リハビリテーション学部の開設に伴い増築したANNEX（別館）は、7階建てで、6階と7階で既存の校舎と接続している。2階と3階に30人の講義室（計6室）を整備し、4階には聴覚検査室等5室の他、実習室1室、5階には実習室2室が整備され、各教室に実習に必要な機器及び設備を設置している。

これらの講義室及び実習室には規模に応じた視聴覚機器を設置している。また、小規模のゼミや学生指導を実施する教室として、3階に4室、4階に9室、7階に6室のゼミ・演習室が、ANNEX（別館）には、6階・7階に演習室（計8室）が各々設けられている。

2号館は6階建てで、2階及び3階に70人の講義室が整備されている。実習・実験室は3階に1室、4階に4室、5階に3室が整備され、実習に必要な機器及び設備を設置している。6階には共同ゼミ室が2室設けられている。

3号館は3階建ての体育棟で、2階にバスケットボール、バレーボール、フットサル、バドミントン等を行うことが可能なアリーナを整備している。3階には多目的スペース及び観覧スペースを整備している。

4号館は12階建てで、5階から12階に60人から240人（12階大講義室）の講義室を整備している。実習・実験室は3階に学科教員が管理する放射線実習エリアとして9室、4階に3室、10階に3室、11階に4室が整備され、実習に必要な機器及び設備を設置している。また、小規模のゼミや学生指導を実施する教室として、6階に10室、10階に6室のゼミ室が各々設けられている。

5号館は5階建てで、1階に学生支援センター、健康管理センター、国際交流センター、地域連携センター、学生相談室、保健室を置き、学生生活支援の拠点としての機能を有する。2階は看護実践教育センターを置き、Lecture Hall 5(80人) 演習室1室、研究室が整備され、臨床研修などの企画・実施を通じて地域の看護職の資質の向上を目的に整備されている。3階から5階には学生専用マンション(40室)を整備している。

### 1) 飲食スペースの設置

1号館1階に学生の就学時間に営業時間（平日9:00～18:00営業）を合わせたコンビニエンスストアを整備し、4号館1階には外部の方も利用できるブックカフェ、売店を設置している。ただし、これらのスペースですべての学生が食事をするには十分でないため、昼休みに限り、普通教室（1号館：7室、2号館：3室、4号館：6室）で飲食できるようにしている。

また、学生と周辺地域を結びつけ、周辺店舗の利用により学生自身も利益享受ができるよう周辺店舗の協力を受け「CAMPAZ（キャンパス）」という本学独自のクーポン付きフリーペーパーを作成し、全学生に配付している。

### 2) 個人用ロッカーの設置

演習時に活用する個別の白衣や用具等を収納できるように1号館1階に看護学科及び理学療法学科、ANNEX（別館）4階・5階に作業療法学科及び言語聴覚学科、2号館3階・4階・5階に検査技術学科、4号館4階・10階に放射線学科及び臨床工学科の全学生用の個人用ロッカーを設置している。

### 3) 駐輪場の整備

本学の学生の通学形態の約3割を占める自転車通学の学生支援として、490台分の駐輪場を5箇所に分けて整備している。

### 4) 学生ホール等の設置

1号館1階・3階・6階には開校時間中に学生が自由に利用できる学生ホール及びオープンスペースを設けている。

4号館1階には開校時間中に学生が自由に利用できるブックカフェを設けている。学生ホール及びブックカフェは自由に飲食ができるスペースであり、昼休みの昼食の際の主要

な場所として活用されている。

これらの施設は、学生の自己学習、グループワーク、各種サークル活動等にも利用される。

#### (イ) 施設・備品の維持管理の体制

校地及び校舎の維持、管理等は施設管理課が担当し、各施設設備の状況を把握して日常管理や定期点検を実施している。清掃業務は一部外部業者に委託している。教育設備に関する維持、管理等は教務課が担当している。図書館・図書室の維持、管理は附属図書館運営委員会で協議の上、図書館司書及び補助員が行っている。学生の貸与パソコンの故障等の対応窓口は5号館学生支援センターで、修理は外部業者が行う体制を整備している。学内無線LANやパソコン関連機器の維持、管理はネットワーク管理者や学生課で行っている。

また、横長の教室において、両端の座席からスクリーンが見え難いという学生からの意見や遠隔授業等にも対応するため、全6教室にプロジェクターとスクリーンを2台ずつ設置するなど、常に学生の要望や社会情勢に配慮した施設維持管理を心掛けている。

### 2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用

#### (ア) 実習施設

医療職を養成する本学では、全ての学科で各養成施設指定規則等に基づき必要な演習・実習室が完備されている。演習・実習室の管理は各学科が行っている。

#### (イ) 図書館・図書室の整備

1号館1階及び2階に図書館、4号館5階及び8階に図書室が整備されている。

1号館図書館は床面積800㎡、閲覧席数174席で、書架、書庫、閲覧スペース、グループ学習室等で構成されている。開館時間は月曜日から金曜日が9時～21時、土曜日が9時～17時となっており、学生が長時間学習及び研究ができるよう対応している。また、定期試験期間中には土日を除く開館日の開館時間を8時30分～21時30分と延長することで、試験に備える学生へ学習場所の提供を行っている。4号館図書室は5階、8階合わせて床面積92㎡、閲覧席数48席で、月曜日から金曜日の9時～20時の開室時間となっている。学生及び教職員は1号館図書館及び4号館図書室共に自由に利用することができる。

附属図書館には図書館長（教員兼務）の他専任職員として司書が1名、非常勤職員が3名（うち1名司書）配置され、その運営と利用者サービスに努めている。専任の司書は業務全般、非常勤職員は主に閲覧、雑誌受入などを担当している。また、通常業務以外に蔵書点検を1年に一度実施している。附属図書館では、群馬県大学図書館協議会、日本看護図書館協会に加盟しており、各協会が主催する研修に定期的に参加することで、職員の質を高め、図書館運営や学習、研究支援に役立っている。

蔵書数は図書館、図書室合わせて図書53,355冊、雑誌4,960誌（電子ジャーナル含む）、視聴覚資料1,402点であり、毎年教員や学生からの要望を基に購入し、提供を行っている。蔵書は全てシステムによってデータベース化されていて検索が可能である。その他電子リソースとして電子ジャーナル、文献検索データベースも体系的に整備している（表2-5-2）。

また、学内の入館者数や貸出点数などの利用実績は、表 2-5-3 の通りである。

表 2-5-2 電子ジャーナル・文献検索データベース一覧

電子ジャーナル	文献検索データベース
メディカルオンライン(1,499 誌)	医学中央雑誌 Web 版
CINAHL Plus with Full Text(770 誌)	最新看護索引 Web
MEDLINE with Full Text(1,470 誌)	CiNii Articles
外国雑誌個別購読誌 46 誌	

表 2-5-3 過去 3 年間の図書館利用実績

	入館者数		貸出冊(点)数	
	延べ人数	学外利用者 (実数)	学内利用者	学外利用者
平成 30(2018)年度	67,910	440	14,575	313
令和元(2019)年度	73,107	224	14,195	201
令和 2(2020)年度	31,465	0	7,543	0

※令和 2(2020)年度はコロナ禍のため学外者向けサービス休止

電子リソース（電子ジャーナル、文献検索データベース、電子書籍）や蔵書検索システムはインターネット環境があれば学内外を問わず利用することが可能である。学生への図書館・図書室利用ガイダンスは、教員と連携し、初年次教育の一環として 1 年次全員を対象とした授業「大学の学び入門」の 1 コマで、レポート作成のための初歩的な情報検索の方法も含め、講義として行っている。また、教員からの依頼によって看護学科 3 年次を対象とした授業「看護研究概説」の 1 コマで論文執筆のために、初年次と比較しより高度な文献検索の演習を行っている。その他、個別のガイダンスや他館からの資料貸借、文献複写の取り寄せなども含めたレファレンスの希望にも対応している。附属図書館ホームページも開設しており、学内外に利用案内や各種情報収集ツールのガイドを行っている。

#### (ウ) IT 施設の整備

本学では、全館無線 LAN 環境を整備し、学習・情報収集環境を整えている。

また、学生サービスの一環として、IC 機能付学生証を利用して印刷したいデータをインターネットで送信して印刷することができる学内プリンタを 1 号館 4 階及び 7 階、1 号館 ANNEX（別館）2 階及び 3 階、2 号館 3 階、4 号館 6 階及び 10 階に設置し、学習成果や収集した情報をアウトプットできるようにしている。また、デスクトップ PC を図書館に 2 台設置し、学生がインターネットによる情報収集や各種作業が可能な環境を整備している。

#### (エ) アクティブ・アカデミーの整備活用



アクティブ・アカデミーとは、インターネットを利用して休講・補講情報など大学から発信された情報をパソコン・スマートフォン等で確認したり、履修登録や成績表の閲覧をしたりすることも可能なシステムで、学生が主体的に日々の学習活動に取り組めるようサポートすることを目的として導入された（表 2-5-4）。

表 2-5-4 アクティブ・アカデミーの機能名称と内容

機能名称	内容
個人へのお知らせ・連絡事項	大学・教員からの連絡事項の確認
休補講情報	授業変更の確認（休講・補講・教室変更）
履修登録	履修科目の登録
レポート提出	<p>【講義資料の事前配付】</p> <p>各授業科目について、事前配付資料がある場合はここからダウンロード・印刷</p> <p>【課題提出】</p> <p>各授業科目について、課題（レポート等）が課される場合はここから内容を確認し、適宜作成した課題をここからアップロードして提出</p>
シラバス	シラバスの閲覧
修学ポートフォリオ	<p>学生自身の基本情報の確認、履修状況の確認、成績（修得単位・GPA 等）の確認、欠席率の確認</p> <p>【修学記録】</p> <p>学修目標にそって自己評価を入力、反省点を記録</p>
キャリア相談予約	キャリア相談の予約
企業検索	求人票の検索 ※大学に届いている求人
授業評価アンケート	学生による授業アンケートへの回答 ※学期末に実施
アンケート	その他アンケートへの回答
Web フォルダ	各種届出用紙や操作マニュアル等のダウンロード・印刷

#### （オ）施設・設備の安全性（耐震など）の確保

本学の校舎は、平成 22（2010）年 4 月に完成した 1 号館（看護学科・理学療法学科・図書館棟）、平成 25（2013）年 2 月に完成した 2 号館（検査技術学科棟）、同年 10 月に完成した 3 号館（体育棟）、平成 29（2017）年 3 月に完成した 4 号館（放射線学科・臨床工学科棟）に加え、令和 2（2020）年 9 月に 5 号館（学生支援センター、健康管理センター

等、学生専用マンション)が完成し、令和3(2021)年1月に1号館にANNEX(別館)(作業療法学科・言語聴覚学科棟)を増築した。各校舎の設計は昭和56年(1981年)6月1日の建築基準法改正(新耐震基準)を満たし設計されている。安全性に関しては震度7の地震に耐えうる構造で耐震性が確保され、十分な構造安定性を備えている。

### 2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

本学では、障害を有する学生や講師、高齢者等の来校を想定し、障害者・高齢者に配慮した環境を整備している。

バリアフリー環境の確保のために、1号館は段差のない構造、手すりの設置、車いす用エレベータの設置(1基)、1階・2階・4階・6階・8階に車いす用トイレを設置、ANNEX(別館)においても、同様に車いす用エレベータの設置(1基)、1階に車いす用トイレが設置され、車いす用駐車場の整備をしている。2号館は段差のない構造、手すりの設置、車いす用エレベータの設置(1基)、2階に車いす用トイレの設置、車いす用駐車場の整備をしている。3号館は段差のない構造、手すりの設置、車いす用エレベータの設置(1基)、1階に車いす用トイレの設置、車いす用駐車場の整備をしている。4号館は段差のない構造、手すりの設置、車いす用エレベータの設置(1基)、2階に車いす用トイレの設置、車いす用駐車場の整備をしている。5号館も段差のない構造、手すりを設置し、車いす用エレベータを設置(1基)している。

### 2-5-④ 授業を行う学生数の適切な管理

#### (ア) 保健科学部及びリハビリテーション学部

学科、学年ごとに講義を行う上での適切なクラスサイズを確保した上で、実施されるよう努めている。複数学科にまたがる合同講義においては、1号館8階大講義室や4号館12階大講義室を使用している。また、英語と情報処理科目はクラスを分割し、少人数教育を実施している。各講義室の収容定員及び収容定員充足率を表2-5-5に示す。

表 2-5-5 講義室の収容人数と在籍者数（保健科学部）

学部学科・学年	在籍者数	校舎	使用教室	面積	収容人数	充足率	
保健科学部 合計	1,374人	-	-	-	-	-	
看護 学科	学科合計	345人	-	-	-	-	
	1年生	90人	1号館	403講義室	143.0m <sup>2</sup>	90人	1.00 倍
	2年生	94人		402講義室	143.9m <sup>2</sup>	90人	1.04 倍
	3年生	87人		401講義室	145.6m <sup>2</sup>	90人	0.97 倍
	4年生	74人	-	-	-	-	-
理学 療法 学科	学科合計	202人	-	-	-	-	
	1年生	-	-	-	-	-	-
	2年生	68人	1号館	802講義室	143.9m <sup>2</sup>	70人	0.97倍
	3年生	67人		803講義室	143.0m <sup>2</sup>	70人	0.96倍
	4年生	67人	-	-	-	-	-
検査 技術 学科	学科合計	272人	-	-	-	-	
	1年生	66人	2号館	221講義室	129.4m <sup>2</sup>	70人	0.94 倍
	2年生	68人		322講義室	129.6m <sup>2</sup>	70人	0.97 倍
	3年生	68人		321講義室	124.0m <sup>2</sup>	70人	0.97 倍
	4年生	70人	-	-	-	-	-
放射線 学科	学科合計	330人	-	-	-	-	
	1年生	88人	4号館	4501講義室	142.0m <sup>2</sup>	80人	1.10 倍
	2年生	88人		4502講義室	145.0m <sup>2</sup>	80人	1.10 倍
	3年生	74人		4601講義室	145.0m <sup>2</sup>	80人	0.93倍
	4年生	80人	-	-	-	-	-
臨床工 学科	学科合計	225人	-	-	-	-	
	1年生	56人	4号館	4901講義室	118.6m <sup>2</sup>	55人	1.02 倍
	2年生	56人		4902講義室	118.6m <sup>2</sup>	55人	1.02 倍
	3年生	57人		4903講義室	121.0 m <sup>2</sup>	55人	1.04倍
	4年生	56人	-	-	-	-	-

表 2-5-6 講義室の収容人数と在籍者数（リハビリテーション学部）

リハビリテーション 学部 合計		138人	-	-	-	-	-
理学 療法 学科	学科合計	73人	-	-	-	-	-
	1年生	73人	1号館	801講義室	145.6m <sup>2</sup>	70人	1.04倍
	2年生	-人		802講義室	143.9m <sup>2</sup>	70人	-
	3年生	-人		803講義室	143.0m <sup>2</sup>	70人	-
	4年生	-人	-	-	-	-	-
作業 療法 学科	学科合計	35人	-	-	-	-	-
	1年生	35人	1号館 別館	311講義室	85.2m <sup>2</sup>	30人	1.17倍
	2年生	-人		312講義室	83.6m <sup>2</sup>	30人	-
	3年生	-人		313講義室	84.4m <sup>2</sup>	30人	-
	4年生	-人	-	-	-	-	-
言語 聴覚 学科	学科合計	30人	-	-	-	-	-
	1年生	30人	1号館	211講義室	85.2m <sup>2</sup>	30人	1.00倍
	2年生	-人		212講義室	83.6m <sup>2</sup>	30人	-
	3年生	-人		213講義室	84.4m <sup>2</sup>	30人	-
	4年生	-人	-	-	-	-	-
-	-	-	1号館	大講義室	361.3m <sup>2</sup> *	230人	-
-	-	-	4号館	大講義室	292.5m <sup>2</sup> *	240人	-

\*控室、調整室、倉庫の面積も含まれた数値である。

### (イ) 保健科学研究科

保健科学研究科で使用する講義室は 1 号館 3 階の 301 講義室及び 302 講義室となっている。各講義室に対する大学院生数の充足率は 0.65 倍以下であり、使用環境として適切に活用されている。また、大学院生には個別の調査研究活動に使用可能な大学院生室 1 (22.8 m<sup>2</sup>)、大学院室 2 (22.8 m<sup>2</sup>) が 3 階に設けられている。各講義室の収容定員及び収容定員充足率を表 2-5-7 に示す。

表2-5-7 講義室の収容人数と使用学生数（保健科学研究科）

研究科	使用学年	在籍者数	使用教室	面積	収容人数	充足率
保健科学 研究科	合計	25 人	-	-	-	-
	博士前期 1 年生	13 人	301 講義室	47.0 m <sup>2</sup>	20 人	0.65 倍
	博士前期 2 年生	7 人	302 講義室	46.5 m <sup>2</sup>	20 人	0.35 倍
	博士後期 1 年生	1 人	302 講義室	46.5 m <sup>2</sup>	20 人	0.05 倍
	博士後期 2 年生	3 人	302 講義室	46.5 m <sup>2</sup>	20 人	0.15 倍
	博士後期 3 年生	1 人	302 講義室	46.5 m <sup>2</sup>	20 人	0.05 倍

### (3) 改善・向上方策（将来計画）

リハビリテーション学部の新設に伴い、1 号館に ANNEX（別館）を増築、また、学生の厚生補導業務の拠点として 5 号館を新築するなど学習環境や学生生活支援に向けて整備してきた。授業を行う環境整備は適切であるため、全学的に収容定員を適切に保持する努力が必要となる。また、通学時の自転車利用率の高まりに対し、駐輪場の増設を行ったが、今後も学生の通学方法の把握など、学生の状況変化に注視する。

## 2-6 学生の意見・要望への対応

### 2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

### 2-6-② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

### 2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

#### (1) 2-6 の自己判定

「基準項目 2-6 を満たしている。」

#### (2) 2-6 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

## 2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

## 2-6-② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

## 2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

学生の意見をくみ上げる仕組みの一つとして、学生委員会が実施している「学生生活実態・満足度調査」がある。この調査は毎年実施し、学科、学年問わず全ての学生を対象として意見、要望を集約している。令和2（2020）年度に実施した満足度調査は、在籍している1,453人のうち1,257人が回答（回答率87%）し、この調査で集めた意見、要望については学生委員会で協議し、回答が必要と判断されたものについては学生に対してフィードバックしている。

なお、学生からの意見要望が多い項目については、大学の回答も含めQ&A方式で学生に周知している。

また、令和2（2020）年度に実施した満足度調査では、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する本学の感染症対策の改善に生かすべく、学生から意見、要望を聞く項目を増やして実施した。

### （ア）学修支援に関する意見をくみ上げるシステム構築とその反映状況

前述の「学生生活実態・満足度調査」が学修支援に関する学生の意見・要望をくみ上げるものとして挙げられる。調査では自主学習、履修、講義、国家試験対策など様々な学修関連の意見・要望が寄せられるため、それらの分析や改善の検討を学生委員会が中心に行っている。

また、例年実施している卒業生を対象とした「卒業時アンケート（令和2（2020）年3月実施）」と、「卒業後アンケート（令和2（2020）年8月実施）」では、在学中に受けた教育やサービス等に関する設問があり、今後の本学における学生の意見・要望への対応における重要な基礎資料となると同時に、「学生生活実態・満足度調査」と同様に学修支援及び学習環境の改善と向上に寄与する調査であると考えられる。なお、卒業時アンケートは卒業生227人のうち225人が回答（回答率99.1%）、卒業後アンケートは72人が回答（回答率31.7%）した。この調査で集めた意見、要望については学生委員会から各学科にフィードバックし、改善に役立てている。

### （イ）心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する意見をくみ上げるシステム構築とその反映状況

学生生活の意見や要望については、日常的に各学科の担任やチューター、及び事務室（学務部）で受け付け、適宜対応している。聞き入れた学生の意見や要望の中で、専門的な対応が必要とされる場合には、学生支援センター、健康管理センターを経てキャリア支援室、保健室、学生相談室などの機関で適切な対応が可能な仕組みを構築している。

学生相談室運営委員会が全学生に行っている、学生の心に関する「学生生活アンケート」や、健康管理センター管理のもと行っている新入生対象の「健康ミニガイドのアンケート」は、学生の心身に関する把握に役立てている。

学生支援センターでは、経済的支援として奨学金の業務も含まれており、日本学生支援

機構の奨学金や、国の修学支援新制度の対応、市区町村や施設等の奨学金の周知や本学独自の奨学金等の業務も行っている。奨学金の周知は本学のアクティブ・アカデミーと学内掲示で行っており、知りたい情報は学内外問わず得ることが可能である。

また、アクティブ・アカデミーでは修学支援ツールとして学生個々の成績や履修の状況、教員から学生への指導記録等の項目が確認でき、これを教職員で共有することができる。このシステムを利用し、教職員全体で学生の生活改善の反映に役立てている。

### (ウ) 学修環境に関する意見をくみ上げるシステム構築とその反映状況

施設・設備に対する学生の意見などのくみ上げも前述の「学生生活実態・満足度調査」を中心に行っている。調査で集めた意見・要望をもとに行った令和2(2020)年度以降の主な学内の施設・設備の改善について以下に挙げる。

#### 1) 学生専用マンションについて

本学には遠方の地域から入学する学生が多数おり、特に県外の学生より学生専用の居住施設の要望が例年あった。学生の要望を受ける形で、令和3(2021)年度より5号館の3階～5階に学生専用マンションを設置し、40部屋を準備し、入居状況については予定していた入居者数に達している。なお、防犯の観点から、校舎の無人入口に設置した学生証で自動ドアが開錠するシステムと同様なものを学生マンションにも設置し、防犯と利便性の両立を図っている。

#### 2) ファミリーマート(コンビニエンスストア)の学内誘致について

「学生生活実態・満足度調査」より、学内の売店に関して、品ぞろえを良くして欲しい、販売するものを充実して欲しい、4号館にも売店が欲しい等の意見が例年多数あり、学生の要望を受ける形で、令和2年(2020)年度、学内(1号館)にファミリーマートを誘致し10月15日より販売を開始した。また1号館で営業していた既存の売店を4号館に移設し、同年の9月28日より販売を開始し、全学的に学修を後押しする学生サービスの向上に寄与したものとする。

#### (3) 2-6の改善・向上方策(将来計画)

学生の支援については、学生委員会や、学生支援センター及び健康管理センターに設けられている専門性が求められるキャリア支援室等の施設とともに、学科にチューターや学年担任、副担任を設け、学生に対して多角的、且つ重層的な支援体制を整備している。

令和3(2021)年度、作業療法学科及び言語聴覚学科開設に伴い1号館にANNEX(別館)が増設された。学生の増加に対応すべく、学生委員会、学生支援センター、健康管理センターを中心としたきめ細やかな配慮、問題意識への共有等、学生目線に立った学生生活の安定のための支援を継続したい。

### 基準 3. 教育課程

#### 3-1 単位認定、卒業認定、修了認定

##### 3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

##### 3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

##### 3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

###### (1) 3-1 の自己判定

「基準項目 3-1 を満たしている。」

###### (2) 3-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### 3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

ディプロマ・ポリシーは、「豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療専門職を育成し、保健・医療・福祉サービスとの協働及び知の創造を通じて、国際社会、地域社会に貢献する」という大学の目的と、それを具現化する教育目的を踏まえ策定され、以下に示すとおり本学 HP 及び学生便覧を通じて周知している。

###### (ア) 保健科学部 ディプロマ・ポリシー

保健科学部の教育目的に基づき、学生が卒業時に身につけるべき知識や能力を次のように定めています。これらを身につけたことを卒業要件とし、学位を授与します。

1. 人権を尊重し、高い倫理観をもって社会に貢献する姿勢
2. チーム医療を実践するための、コミュニケーション能力と協調性
3. 保健医療専門職としての基礎的知識と技術、及び社会人としての教養
4. 保健医療分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる能力
5. 生涯にわたって専門分野を探求し、その発展に貢献する意欲と姿勢

###### (イ) リハビリテーション学部 ディプロマ・ポリシー

リハビリテーション学部の教育目的に基づき、学生が卒業時までには身につけるべき知識や能力を次のように定めています。これらを身につけたことを卒業要件とし、学位を授与します。

1. 倫理観を持って障害の有無にかかわらず、人間の個性と尊厳を尊重する姿勢
2. 人間や社会に関する幅広い教養に根差し、リハビリテーションを取り巻く諸問題を認識できる能力
3. リハビリテーションにおける専門領域に必要な基本的知識と技術
4. 多様化する地域社会の諸問題を理解し、多職種と連携してリハビリテーションを実践できる能力
5. 自己研鑽に励み、人格的成長を目指す姿勢

###### (ウ) 保健科学研究科

保健科学研究科のディプロマ・ポリシーは、博士前期課程、博士後期課程それぞれの目的、及びそれらを具現化する教育目標を踏まえ、課程ごとに策定され、以下のとおり本学



HP 及び学生便覧を通じて周知している。

#### 1) 博士前期課程のディプロマ・ポリシー

群馬パース大学大学院保健科学研究科の博士前期課程を修了し、次に該当するものに修士（保健学）の学位を授与します。

1. 保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力を有する
2. 保健医療分野の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力を有する
3. 先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力を有する
4. 地域保健医療の実践現場で他の分野と連携して社会に貢献できる教育能力を有する

#### 2) 博士後期課程のディプロマ・ポリシー

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻（博士後期課程）を修了し、次に該当するものに博士（医療科学）の学位を授与します。

1. 独創性・創造性に優れ国際的に通用する研究能力を備えた人材
2. 医療・保健科学分野の教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導ができる人材
3. 医療現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、自立的な研究ができる人材
4. 科学的エビデンスを構築しながら研究開発ができる人材

### 3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

#### (ア) 保健科学部及びリハビリテーション学部

保健科学部及びリハビリテーション学部における単位認定基準は、各科目の目的を指標化した「学修到達目標」に対する到達度が6割以上であることとしている。各科目の目的はディプロマ・ポリシーを踏まえて定め、その対応はシラバスに明示している。また、医療職を養成するという教育課程の性質上、学修は段階を追って積み上げていく必要があるため、各学年の進級基準を満たすことを進級の要件としている。進級基準は各学科、各学年で開講される必修科目の単位を全て修得することである。卒業認定基準は、本学に4年以上在学し、学則に定める授業科目を履修して所定の単位を修得することとしている。これらの定めは学生便覧に明記し、学生へ周知している。

#### (イ) 保健科学研究科

保健科学研究科の単位認定基準は、ディプロマ・ポリシーを踏まえて定められた各科目の目的を指標化した「学修到達目標」に対する到達度が、6割以上であることとしている。修了認定基準は、博士前期課程にあつては2年以上、博士後期課程にあつては3年以上、本大学院に在学し、大学院学則に定める所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で学位論文の審査及び最終試験に合格することとしている。学位論文等の審査基準

は「群馬パース大学学位規程」に詳細を定め、学生便覧への掲載により学生へ周知している。

### 3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

#### (ア) 保健科学部及びリハビリテーション学部

保健科学部及びリハビリテーション学部の単位認定は、「群馬パース大学履修規程」第11条（単位認定）に基づいて行われている。成績評価方法は、シラバスに示す学修到達目標及び成績評価方法に従って点数化し、成績評価基準に基づいて評価している。編入学を除き他大学等での既修得単位は60単位を上限に、教務委員会の審議を経て学長が認定している。

進級及び卒業認定は、学科ごとに定められた基準に基づき、学科別の進級判定会議、教務委員会、教授会の議を経て学長が承認する形で厳正に適用されている。

表 3-1-1 保健科学部及びリハビリテーション学部 成績評価基準

点数区分	評価の表示方法	GP (グレード・ポイント)	合否
100 ～ 90 点	A+	4.0	合格
89 ～ 80 点	A	3.0	
79 ～ 70 点	B	2.0	
69 ～ 60 点	C	1.0	
59 点以下	F	0	不合格

#### (イ) 保健科学研究科

保健科学研究科の単位認定は、「群馬パース大学大学院履修規程」第12条（単位認定）に基づいて行われている。評価方法については学部と同様シラバスに示す学修到達目標及び成績評価方法に従って点数化し、成績評価基準に基づいて評価している（表3-1-2）。

保健科学研究科における進級基準は定めていないが、大学院生の実情を勘案し弾力的に指導している。修了認定は、定められた基準に基づき、修了判定会議、研究科委員会の議を経て学長が承認する手続きにより、厳正に適用されている。

表 3-1-2 保健科学研究科成績評価基準

点数区分	評価の表示方法	合否
100 ～ 90 点	A+	合格
89 ～ 80 点	A	
79 ～ 70 点	B	
69 ～ 60 点	C	
59 点以下	F	不合格

(3) 3-1 の改善・向上方策（将来計画）

ディプロマ・ポリシーは本学の目的と使命から導き出されたものであり、学部及び研究科それぞれ学内外に向けて適切に周知されている。本学が養成する医療職は、直接的対人サービスの頻度が高い看護師、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士、主としてテクノロジーを使って診断に従事する臨床検査技師及び診療放射線技師、工学の知識を駆使しつつ人とも接する臨床工学技士と多岐に渡る。今後は、中長期計画に基づく学部再編に合わせて慎重に改正することも検討する。

3-2 教育課程及び教授方法

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

3-2-④ 教養教育の実施

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

(1) 3-2 の自己判定

「基準項目 3-2 を満たしている。」

(2) 3-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

(ア) 保健科学部

保健科学部のカリキュラム・ポリシーは、保健科学部ディプロマ・ポリシーの策定を受けて策定され、ディプロマ・ポリシーの各構成要素とカリキュラム・ポリシーを体現した各学科の教育課程の関係を明記したカリキュラム・マップにより、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係性に基づく一貫性を示している。

これらは、本学 HP 及び学生便覧を通じて以下のとおり周知している。

1) 保健科学部のカリキュラム・ポリシー

保健科学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、看護学科、検査技術学科、放射線学

科、臨床工学科のそれぞれの専門性に応じてカリキュラムを編成しています。その教育課程は、教養科目群・共通基盤科目群、専門基礎科目群、専門科目群から構成されています。

1. 教養科目群は社会人としての教養、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、「人と社会及び自然の理解」の科目群と「情報と言語の理解」の科目群に大別された広範な科目を4学科共通科目として配置しています。
2. 共通基盤科目群は、「大学の学びの基盤」として、大学の学び入門、大学の学び一専門への誘い、多職種理解と連携の科目を4学科共通必須科目として配置しています。
3. 専門基礎科目群は、医療専門職を養成する4学科それぞれに展開される専門領域の理論、技能の習得のための学術的基盤となる科目を配置しています。
4. 専門科目群は各学科の専門領域とそれに関連する理論、技能を学ぶ科目を配置し、さらに高い実践力を獲得するため、臨地実習の科目を配置しています。

## 2) リハビリテーション学部のカリキュラム・ポリシー

リハビリテーション学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、その専門性に応じ、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。特に、多職種連携の基礎となる科目と、国際生活機能分類（ICF）の概念に基づくリハビリテーションに対応できるように授業科目を工夫しています。

1. 豊かな教養、コミュニケーション能力の育成、人工知能や情報社会に対応する能力、人間を多側面から理解するために、『人と社会及び自然の理解』と『情報と言語の理解』に区分した教養科目を配置しています。
2. 『大学の学びの基盤』として、学び方入門、専門への導入、多職種理解と連携の科目を配置しています。
3. 人間の運動や行動を解剖学、生理学、運動学、心理学、発達学的観点から分析・考察でき、リハビリテーション専門職として必要な医学的知識を学ぶための科目を配置しています。
4. リハビリテーションにおける専門領域に必要な基本的知識と技術を身につけるため、各学科に『評価学』『治療学』『支援学』の該当科目を配置しています。
5. 保健医療チームとして、連携・協働を図りながら、社会参加、健康増進、障害予防の見方ができるように、「チーム医療とリハビリテーション」、「地域リハビリテーション学」を配置しています。
6. 学内で学んだ知識と実践との経験を統合できる機会として、対象者との人間関係の構築、施設内外における多職種連携の構築を経験し、将来の人間像を形成する場として、『臨床実習』を配置しています。
7. 専門職として基盤となる科学的思考や自己研鑽力を身につけるため、研究の基礎につながる科目を配置しています。

## (イ) 保健科学研究科

大学院博士前期課程のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーに掲げる研究能力、判断能力、実践能力、教育能力の4つの要素ごとにその達成に必要な教育課程編成の方針を明示している。同カリキュラム・ポリシーは、大学HP及び学生便覧を通じて以下のとおり周知している。

### 1) 大学院博士前期課程のカリキュラム・ポリシー

群馬パース大学大学院は学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる人材を養成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

#### 1. 研究者としての基盤の涵養

研究能力の基盤を形成するために、共通科目に「研究方法特論」、「研究方法論Ⅰ～Ⅴ」、「応用英語」、「保健医療統計学特論」などの科目を設置する。又、専門の領域における研究実践の方法、すなわち研究テーマの設定から学位論文の完成までを段階を追って教育するために、専門科目に各領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を設置する。

#### 2. 高度な実践力とリーダーシップの涵養

保健医療分野におけるリーダーに必要な、専門領域の枠を超えた総合的・学際的な教育を行うために、共通科目に「医療倫理学特論」、「医療経営・管理学特論」、「人体の構造と機能学特論」、「加齢医学特論」、「家族社会学特論」、「保健学特別セミナー」などの科目を設置する。特に、「保健学特別セミナー」は幅広い視野の育成という目的に加え、協働（チームアプローチ）の重要性に鑑み必修科目として設置する。

#### 3. 専門領域における教育能力の涵養

教育機関での教育志向だけでなく、保健医療の様々な場面における教育活動を想定した医療専門領域における教育学の教育を行うために、共通科目に「教育学」を設け、さらに専門科目の「特論」、「演習」のなかで領域ごとに、より実践的な内容を盛り込む。

履修計画では、体系化された所属専門領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を基本に置く。並行して学ぶ共通科目は一部を除き、学習ニーズ、学習進度に合わせて年次にかかわらず柔軟に履修できるように配置する。また、家庭や職場など社会的事情により標準修業年限（2年）での修業が困難な場合に、標準修業年限を超えて履修可能な長期履修制度を設ける。以上のように、少人数教育の利点を活かし、学習者の志向・ニーズに対応できる柔軟で特色のある大学院プログラムを提供する。

大学院博士後期課程のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーに掲げる創造性、高い倫理観、国際的に通用する研究能力、研究開発・研究指導能力の涵養という主旨を踏まえ、その達成に必要な教育課程の編成方針を定めており、本学HP及び学生便覧を通じて以下のとおり周知している。

### 2) 大学院博士後期課程のカリキュラム・ポリシー

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻（博士後期課程）は学位授与の方針

(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を養成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

1. 高い倫理性と強い責任感、課題遂行力の涵養

共通科目において、社会的理解を得るための生命倫理に則った研究デザインと倫理的行動能力を修得することを目的とした「生命研究倫理論」と、自らの研究分野以外の幅広い知識と課題に適した研究方法を選択できる能力を修得することを目的とした「医療科学研究法」の科目を設置する。

2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力の涵養

専門科目において、科学的エビデンスを構築するための高度解析技術や最新評価法などを修得することを目的とした「特講科目」と、各領域の解決すべき課題を広く探求し、課題解決思考を発展させるため、英文文献講読と教員との討論により、研究の評価・応用能力を養い、国際的な情報発信ができることを目的とした「演習科目」、さらに、医療科学における新たな知見を得るための研究を行い、英文論文として公表できることを目的とした「特別研究」を設置する。

### 3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

#### (ア) カリキュラム・マップの作成

保健科学部及びリハビリテーション学部の教育課程は、学則第 24 条（授業科目）において学科ごとに定められており、各学科の教育課程はカリキュラム・ポリシーに従って体系的に編成され、効果的に教授が展開されるよう工夫されている。このことは、学科ごとに定めるカリキュラム・マップにより説明されている。カリキュラム・マップは、アクティブ・アカデミー上で公開し、学生に周知している。

#### (イ) シラバスの適切な整備

各科目の授業内容が、ディプロマ・ポリシー及び学科の教育目標から導出される学習到達目標を体現したものとなるよう、シラバスの記載項目に改良を重ねている。各科目の単位認定者により作成されたシラバスは、各学科教務委員によりその適切性について点検・確認作業が行われ、必要に応じて単位認定者へ加筆修正を求めている。

また、シラバスに沿った授業展開がなされているか毎学期末に実施する「学生による授業アンケート」により検証を行っている。

#### (ウ) 履修登録単位数の適切な上限設定と単位制度の実質を保つための工夫

単位制度の実質を保つため CAP 制を導入し、履修登録可能な単位数の総数を年間 48 単位と定めている。ただし、成績優秀者（前期 GPA が 3.50 以上の者）には後期の履修登録時に、定められた履修登録単位数の上限以上の履修を認めることとしている。

本学の全ての学科は、国家資格を要する医療職の養成課程であることに鑑み、医学的知識と医療技術を段階的に修得させる進級制度をとっている。進級制度では、上位学年へ進級するために取得すべき科目を指定しているが、進級に必要な科目の単位数は CAP 制で指定する上限の範囲内であり、実際の履修単位数を見ても年間 48 単位以内に収まってお

り、学修の質が担保されている点から単位制の実質が保たれている。

### 3-2-④ 教養教育の実施

令和3(2021)年度よりリハビリテーション学部がスタートし、従来の保健科学部と合わせて2学部制の大学となった。これに伴い、組織規程第11条に基づき、これまでの教養共通教育部は教養部と名称変更となり、位置付けも学部と等位となった。この組織変更は、2学部制となっても、教養部が組織として全学的視野に立った教養教育を円滑かつ有効に実施できるようにするためである。構成員についても見直された。これまで教養科目担当教員と専門基礎科目担当教員から構成されていたが、より全学的に共通の教養教育を実施するという観点から、教養科目担当教員のみが担うこととなった。また、そのうちの一人の教員が教養部責任者として統括することとなった。

組織の名称と位置付け、構成員に変更はあったが、全学共通の教養教育の実施という点では変わらない。

2学部制となっても、大学生にふさわしい教養、知識を身につけ、将来豊かな教養と人間性を兼ね備えた医療人を育成するという目的は変わらず、その目的を達成するために、教養教育を教養科目群と共通基盤科目群の2つの科目群に分けている。

教養科目群では、基礎的教養、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるために、「人と社会及び自然の理解」、「情報と言語の理解」の2つの上位区分とそれを構成する7つの下位区分から満遍なく学べるよう授業科目を配置し、多様な知識、思考力を身に付けられるように多種多様な科目を提供している。また、学科によって多少の差異はあるが、選択と必修のバランスにも配慮している。学科合同で開講する科目も多く設定し、幅広い授業科目で扱う多様な知識を他学科の学生と共に学ぶことにより、学生が様々な考え方の違いを理解し、柔軟な思考力を身につけるよう図っている。

共通基盤科目群では、初年次教育として、大学での学びに必要な姿勢やスキルを学ぶ科目を1年前期に全学科必修科目として開講し、大学での学びへの円滑な移行を促すとともに、学科合同で学ぶことにより、学科の壁を越えた学生間の交流を図っている。また、入学後早期から専門科目への関心・意欲を高めるための科目を、同じく1年次に開講し、専門教育の導入部分を提示し、或いは、実務者をゲストスピーカーとして招き卒後の職業人としてのイメージの具体化を促す等の工夫により、学生の学習意欲の向上を図っている。さらに、異なる医療職種を養成する学科を擁する本学の特徴を活かし、2年次には、学科の教員がそれぞれの職種の立場からチーム医療に関する話題を提示する科目を開講し、専門性、役割、立場等の違いを理解して協働していく力の基礎を育んでいる。

幅広い教養を身につけることと同時に、群馬パース大学の学生として学科の専門にとらわれない共通の意識を身につけるということも教養教育の目指すところである。そのために大学の学びの姿勢やスキルを学ぶ科目において、教養部が企画・実施しているものがある。本学の理事長と学長、本学のグループ病院の院長による新生へへの講義である。理事長からは本学設立の歴史、建学の精神、教育理念、学長からは教育理念と教育目標、PAZの表す意味と目標、病院長からはグループ病院での医療、およびチーム医療についてお話ししている。これらの講義を通じて、学科を超えた全学共通の意識、連帯感、医療職としての基本的姿勢の養成を目指している。これらを通じて教養部が専門基礎教育と専

門教育への接続の一翼を担っている。

教養教育の実施について、今年度加えるべきことは次の2点である。前述の通り、リハビリテーション学部がスタートしたことに伴い、教養科目群、共通基盤科目群についてカリキュラム上の再編、クラス数の見直しを行い、新学部と既存学部の両方にとって質、量ともにバランスの良いカリキュラムを整えたこと、そして、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症に対して万全の感染症防止策を講じつつ、今年度はスタート時点から対面授業を行っており、学生の学修の質を保つよう対応しているということである。

### 3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

#### (ア) 授業内容・方法などの工夫

##### 1) 保健科学部及びリハビリテーション学部

保健科学部及びリハビリテーション学部では、保健医療専門職としての能力を育成するため、カリキュラム・マップに示すように4年間の学修進度において、講義、演習・実技、実習をバランスよく配置するよう工夫がなされている。特に、実習科目は認知、行動、情意を統合する機会として重視し、学内実習から学外実習へと学修の進度に応じて段階的、体系的に配置している。また、問題解決能力の育成のため、各学科が演習科目においてグループワーク等による課題解決型の学習方法を多用している。

以下、学科ごとの授業内容・方法などの工夫を示す。

#### ①看護学科

1 学年に「大学の学び—専門への誘い—」を開講し、現職の看護職をゲストスピーカーに迎えた講義と小グループによる PBL（課題解決型学習）により、学修の動機付けとキャリア教育を早期から展開している。また、対象理解と看護倫理観の涵養のため患者等を招き療養体験を聴く語りの授業を設けている。さらに、実践能力を高める授業展開としてシミュレーション教育や段階的に問題解決能力を高めるための PBL を取り入れている。

#### ②検査技術学科

1 学年に PBL（課題解決型学習） テュートリアル教育に準じたグループ学習「大学の学び—専門への誘い—」を開講し、医療や臨床検査に関連付けた課題を小グループにて実施し、自ら問題を発見・設定し解決できるよう工夫している。3 学年には「臨床検査解析学(Reversed CPC)」を開講し、患者データをグループ内で討論し、患者の病態を推測する実践的なトレーニングを行っている。4 学年では小グループで「卒業研究」を行い、科学的な評価能力と研究能力を養っている。

#### ③放射線学科

医療専門職としての知識を修得し、その能力を現場で発揮させるために4年間において基礎知識の理解から思考力、判断力、技術力の養成へと重点を移しながら教育を行えるよう教育課程を配慮している。1年後期に「大学の学び—専門への誘い—」を開講し、チーム医療や専門職志向をテーマに、小グループによる PBL（課題解決型学習）、プレゼンテ



ーションによる情報発信、グループディスカッションによるコミュニケーション能力の醸成を行っている。また、3年時には、学内実習を展開し、従来の実験系科目から、より臨床系実習に重点を置き、実践的体験型教育を実施している。

#### ④臨床工学科

1学年では「チームとは何か」をテーマとして、グループワークによる協調学習を行い、コミュニケーションや協調の動機付け、さらに競争と協調作業による学習の動機付けを行っている。2学年以降では、現職の臨床工学技士や医師、医工学に関するスペシャリストなど多彩な非常勤講師（またはゲストスピーカー）を招いた講義や小グループによるPBL（課題解決型学習）を実践し、社会を知るとともに自発的な学習能力を引き出せるよう取り組んでいる。

#### ⑤理学療法学科

「身体的に弱い立場におかれた人たちの満足度を高める援助を行うために必要なこと」の理解を基本にしている。教授方法の工夫として、知識伝達方式の講義だけではなく、討論と発表を通じたアクティブ・ラーニングを初学年より行っている。また患者様を指し、アプローチの手順を学ぶPBL（課題解決型学習）、および患者様との治療場面を想定した立ち居振る舞いや適切なボディコンタクト、患者様の立場を実感する練習のためにOSCEを実施している。また、臨床実習後には振り返りのセミナーを討論形式で実施し、臨床体験を定着させる工夫を行っている。令和3（2021）年度よりリハビリテーション学部理学療法学科の開設にあたり、「チーム医療と地域リハビリテーション」、「国際保健」、「人工知能及びロボティクスに関する学び」を追加し、これらの科目にもアクティブ・ラーニングの方法を取り入れている。

#### ⑥作業療法学科

1学年（後期）に「大学の学びー専門への誘いー」を開講し、専門職を目指し、臨床で働き、現在に至るまでを学科教員のすべてが講義し、質疑応答形式の中からキャリア教育としての位置づけを行う計画である。

#### ⑦言語聴覚学科

言語聴覚療法領域は急速に発展・変化しており、従来の知識詰め込み型の教育ではこれに対応できない。そこで言語聴覚学科では学生自らが情報を収集し、アイデアを発展させていくアクティブ・ラーニング(AL)を積極的に導入している。そして、それを実践する場として少数の学生で構成されるアクティブ・ラーニング・ゼミを組織化している。ゼミ担当教員は学生の自発的な学修を尊重し、その成果を最大限評価する方針で指導にあっている。

#### 2) 保健科学研究科

保健科学研究科は少人数教育の利点を活かし、共通科目の多くを各専門領域に所属する学生が合同で履修できる内容とし、それぞれの専門性を基盤に共同活動によって課題を探

求するよう授業を展開している。このことは、保健医療分野においてリーダーシップを発揮する実践者・指導者の育成という教育目的の達成のために有効に機能している。

#### (イ) 教授方法の改善を進めるための組織体制の整備と運用

教育方法の改善を進めるため、FD 委員会を設置し、計画的に FD (Faculty Development) の推進を図っている。例年は、相互授業見学、研修会及びワークショップ、「学生による授業アンケート」を実施しているが、令和 2 (2020) 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により相互授業見学は任意での実施、「学生による授業アンケート」は質問項目を一部変更して実施した。授業アンケートについては、結果を受けて各教員が授業改善計画を立案し、FD 委員会が取りまとめている。

保健科学研究科においては、学部とは独立した FD 委員会を設置し、大学院独自の FD に関する事項を協議し、FD (Faculty Development) の推進を図っている。令和 2 (2020) 年度は研修会、「学生による授業アンケート」を実施した。

#### (3) 3-2 の改善・向上方策 (将来計画)

カリキュラムとそれを実行する授業の展開は、社会の要請と学生の実態に応じて発展させなければならない。医療職を養成する本学において検討すべき点は、一般教養科目の構成内容と学年配当、専門基礎科目及び専門科目の学習内容の精選と学習時間の担保、国家試験受験準備学習と卒業研究の比重按分、養成施設指定規則等の変更などがある。今後、これらの点を注視し、社会に貢献できる人材養成を目指す。

また、令和 2 (2020) 年度は、前期において新型コロナウイルス感染症の影響で授業の形態をオンラインと対面とハイブリッドの併用を行う形での授業となったが、後期は感染症に注意を払いつつ通常の形態で対面授業を実施した。今後も、学生の学修機会の確保と感染対策の徹底の両立を図るとともに、学生が安心し、また十分納得した形で学修できるような対応を講じていくよう努める。

### 3-3 学修成果の点検・評価

#### 3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

#### 3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

##### (1) 3-3 の自己判定

「基準項目 3-3 を満たしている。」

##### (2) 3-3 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

#### 3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

三つのポリシーを踏まえた学修成果の達成状況について、学生の学修状況、資格取得状況、就職状況、「学生による授業アンケート」により学修成果を点検・評価したものを以下に明示する。次年度より「卒業時アンケート」も評価の対象に加えることを検討している。

### (ア) 学生の学修状況

保健科学部における令和 2 (2020) 年度の学生の修得単位数は、1 年次では 31 単位から 40 単位を修得した者が 16.1%、41 単位以上を修得した者が 81.7%であった。2 年次では 31～40 単位を修得した者が 58.0%、41 単位以上を修得した者が 39.7%であった。3 年次では 21～40 単位を修得した者が 94.9%、4 年次では 11 から 20 単位を修得した者が 92.1%であった。当該年次に必要な単位を修得し、進級又は卒業した学生は、1 年次 374 人中 369 人、2 年次 347 人中 340 人、3 年次 355 人中 338 人、4 年次 344 人中 332 人であり、1～3 年次の進級率は 97.3%、4 年次の卒業率は 96.5%であった。

学部では、前掲「表 3-2 保健科学部成績評価基準」の GP 基準に則り GPA を算出している。この結果は、アクティブ・アカデミー上の修学ポートフォリオの頁に掲載することにより、学年担任、チューター等教員が随時閲覧し、個々の学生の学習成果の点検・評価及び学習支援に活用している。さらに、学科・学年ごとの学習成果の点検・評価のため、学科ごとに全在籍者の GPA を各学科の学科長及び学科教務委員が学内グループウェア・システム上で閲覧できる仕組みをつくっており、過年度からの推移や学年による特徴を比較検討し、教育活動の改善に活用している。学年進行に応じた適切な単位取得状況、良好な進級状況および高い卒業率および妥当な成績分布の状況は、良好な学修状況を示しており、ディプロマ・ポリシーに基づく教育が適切に進められている証左である。

### (イ) 学生の資格取得状況

令和 2 (2020) 年度の保健科学部卒業生の資格取得状況は、看護学科卒業生 85 人のうち看護師国家試験合格者は 84 人 (合格率 98.8%)、保健師課程履修者 20 名のうち保健師国家試験合格者は 20 名 (合格率 100%)、助産師課程履修者 6 名のうち助産師国家試験合格者は 6 名 (合格率 100%)、理学療法学科卒業生 65 人のうち理学療法士国家試験合格者は 55 人 (84.6%)、検査技術学科卒業生 52 人のうち臨床検査技師国家試験合格者は 51 人 (98.1%)、放射線学科卒業生 76 名のうち診療放射線技師国家試験合格者は 51 名 (合格率 67.1%)、臨床工学科卒業生 54 名のうち臨床工学技士国家試験合格者は 49 名 (合格率 90.7%) であった。看護師国家試験、保健師国家試験、助産師国家試験、理学療法士国家試験、臨床検査技師国家試験、臨床工学技士国家試験のいずれにおいても合格者率の全国平均を上回っている。

### (ウ) 就職状況

令和 2 (2020) 年度保健科学部卒業生の就職状況は、看護学科卒業生の就職率 100%、理学療法学科卒業生の就職率 98.4%、検査技術学科の就職率 95.7%、放射線学科の就職率 77.5%、臨床工学科の就職率 82.7%であった。保健科学研究科修了生 8 人は、在学中から勤務していた医療機関又は教育機関等で就労している。また、看護学科保健師課程卒業生のうち保健師として就職した学生が 8 人、助産師課程卒業生のうち助産師として就職した学生が 6 人と、その取得資格を活かして就職している。検査技術学科では一般企業等への就職もみられるが、検査会社や研究施設など医療に関連する企業への就職が多い。高い就職率は、ディプロマ・ポリシーの良好な達成度合いを示している。

### (エ) 学生による授業アンケート

学生自身による学修状況の評価を把握するために、「学生による授業アンケート」の結果も活用している。アンケートは、授業の内容・教員の教える姿勢・学生の学ぶ姿勢の三つの視点からなる 18 項目の質問に対して、学生の感じたことを、そう思う・どちらかというと思う・どちらかというと思う・そう思わない、そう思わないの 4 段階で答えるもので、4 点満点で降順に点数化されるものである。自由記載項目も配置されている。

授業の内容については計画性・興味・構成・理解し易さ・進度の 5 項目、担当教員の教える姿勢については、内容の準備・学生の観察・時間遵守・質問への対応・教材選定・声の大きさ・板書とプレゼンテーション・課題提示・学修環境管理の 9 項目、学生自身の学修姿勢は、出席・態度・予復習・質問の 4 項目であるが、それぞれの領域について 4 点満点平均点で評価している調査である。

アンケートの 3 つの領域の平均点及び自由記載項目の抄録は授業科目ごとに、学年学科別に本学 HP にて公開されている。学生の主観的評価の総体ではあるが、全科目の平均でみれば、4 点満点中で授業の内容は平均 3.6 点、教員の教え方は 3.6 点、学生の姿勢は 3.5 点であり、教育水準及び満足度ともよい水準に保たれていると考える。この学生による評価が比較的高い点は、ディプロマ・ポリシーによる教育が実行されている経過にあることを示している。

### (オ) 就職先機関のアンケートの活用

就職先機関のアンケートは、ディプロマ・ポリシーに沿って知識・理解、思考・判断、技能・表現、意欲・関心、態度の各側面についての評価を受ける内容とし、大学が主催する就職説明会の機会を利用して実施した結果、卒業生の評価は概ね良好であった。この点はディプロマ・ポリシーの良好な達成度合いを示している。

## 3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

### (ア) 教育内容・方法及び学修指導方法改善へ向けてのフィードバック

学生の学修状況については、年度末に各学科の進級判定会議及び卒業判定会議において学部長、学科長、教務委員に報告され、学科の学習指導方針等に関する協議の機会となっている。また、各学生の単位取得状況及び GPA はアクティブ・アカデミー上の修学ポートフォリオの頁に掲載され、学年担任、チューター等、学生指導を行う教員が随時閲覧し、個々の学生の学習成果の点検・評価及び学習支援に活用している。

学生の資格取得状況は国家試験対策委員会、就職状況はキャリア支援室運営委員会が各学科と協力して集約・分析し、教授会、学科会議を通して全教員にフィードバックされている。

「学生による授業アンケート」の集計結果については、集計表はアクティブ・アカデミー、自由記載の内容はグループウェア・システムを用いて各教員にフィードバックされている。各教員は、前年度のアンケート結果を受けて行った工夫・留意点の振り返り、また当該年度のアンケート結果に対する今後の改善計画を「授業アンケート教員コメント用紙」に記載して提出することとしており、各授業科目の PDCA サイクルに学生自身による学習

成果の評価を反映させる仕組みとなっている。さらに、同用紙は FD 委員会への提出を義務づけることにより実施が担保されている。

また、「教育研究年報」として本評価書の巻末に年度ごとの各授業科目の開講状況、授業の方法、使用した教材、素点平均等の記録や研究活動の記録を掲載したり、アクティブ・アカデミーの Web フォルダページ上に成績分布状況を公開したり、教員間で共有することにより、教授方法改善の資料としている。

#### (イ) 学生に対する学修状況評価のフィードバック

個々の学生の学修状況は、担任またはチューターがアクティブ・アカデミーで確認し、学生にフィードバックし、学修の振り返りを促している。加えて、科目担当者による試験後の解答解説や正答開示など学修到達状況のフィードバック、学生が確認できるアクティブ・アカデミーで公開された成績分布状況により学生が到達度を自己評価できるよう支援している。学修の到達目標に達しない学生に対しては対面による直接指導も行っている。

また、必要に応じて保護者に対しても個々の学生の学修状況をフィードバックし、家庭における学修環境の整備等について相談・助言を行っている。

#### (3) 3-3 の改善・向上方策（将来計画）

アクティブ・アカデミーの導入により学修状況を一元管理し、学修指導に活用できる環境が整いつつあるが、学修に関する情報を教職員・学生間で共有するための修学ポートフォリオの活用は未だ途上である。今後、修学ポートフォリオ上で教職員・学生間が共有する情報の種類と双方向コミュニケーションの在り方を検討し、学生自身が学修状況を随時確認して自己の学修課題とその後の取り組みについて教員の助言を得ながら自主的・主体的に学習を進めるための、合理的かつ汎用性の高い修学指導システムを確立する予定である。

平成 25（2013）年度から新たに導入した GPA を修学支援の実質的で合理的な指標とするため、教務委員会と IR 推進室との連携により、現行の進級基準、卒業認定基準との関連等について検証を進め、適正な評価基準や運用方法を検討していく。

「学生による授業アンケート」の結果を直ちに授業改善に反映させるため、アンケート実施時期を授業実施期間の中間と終了時の 2 回とする等、実施方法を検討する。

ディプロマ・ポリシーに基づく学修成果の点検・評価の項目に「卒業時アンケート」を新たに加えてゆき、多様な指標から学修成果の点検・評価をおこなうと同時にそれらの評価を全学で共有する方法について検討する。

#### 【基準 3 の自己評価】

大学及び大学院の教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーと、それを達成するためのカリキュラム・ポリシーを有し、広く公開している。教育課程はカリキュラム・ポリシーに基づき、一般教養を重視して編成され、カリキュラム・マップによりディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの一貫性がわかり易く示されている。教育課程を実践する授業にあっては、保健医療専門職として必要な能力を育成するための様々な工夫がなされ、明確な成績評価基準、単位認定基準によって評価されている。学年進行にあたっては、

進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等が学則等で明示され厳正に適用されている。学修成果の点検・評価は、学修状況、資格取得状況、就職状況、「学生による授業アンケート」、就職先機関アンケートを用いて多面的に行われ、教育内容・方法及び学修指導の改善のために適切にフィードバックされている。

以上のことから、基準3を満たしていると判断できる。

## 基準 4. 教員・職員

### 4-1 教学マネジメントの機能性

#### 4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

#### 4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築

#### 4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性

##### (1) 4-1 の自己判定

「基準項目 4-1 を満たしている。」

##### (2) 4-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

学長がリーダーシップを適切に発揮するための補佐体制として、平成 26 (2014) 年度に「群馬パース大学・群馬パース大学大学院大学協議会規程」（以下、「協議会規程」という。）を整備し大学協議会を毎月 1 回のペースで開催している。大学協議会は学長を議長と定め（協議会規程第 5 条）、その構成メンバーは学長、研究科長、学部長、各学科長、教養部責任者、事務局長、各部長、IR 推進室長、（協議会規程第 4 条）である。

審議事項は法人運営会議への提案事項及び教授会と研究科委員会へ審議を要請する事項（全学的な教育課程の編成方針、本学の将来構想、本学の予算、競争的資金の獲得に関すること及び学長が必要と認める事項）であることが協議会規程第 6 条に定められており、大学協議会での審議を経て学長が審議要請を決定し、法人運営会議への提案及び教授会への審議要請指示は学長が直接行っている。また、大学協議会の下部会議として教学マネジメント会議と財務マネジメント会議が定められており（協議会規程第 3 条）、それらに特化しかつ十分な協議の必要性を学長が認めた場合、必要な人材を加えて（協議会規程第 4 条 2 項）会議が開催されている。

群馬パース大学・群馬パース大学大学院 委員会組織図

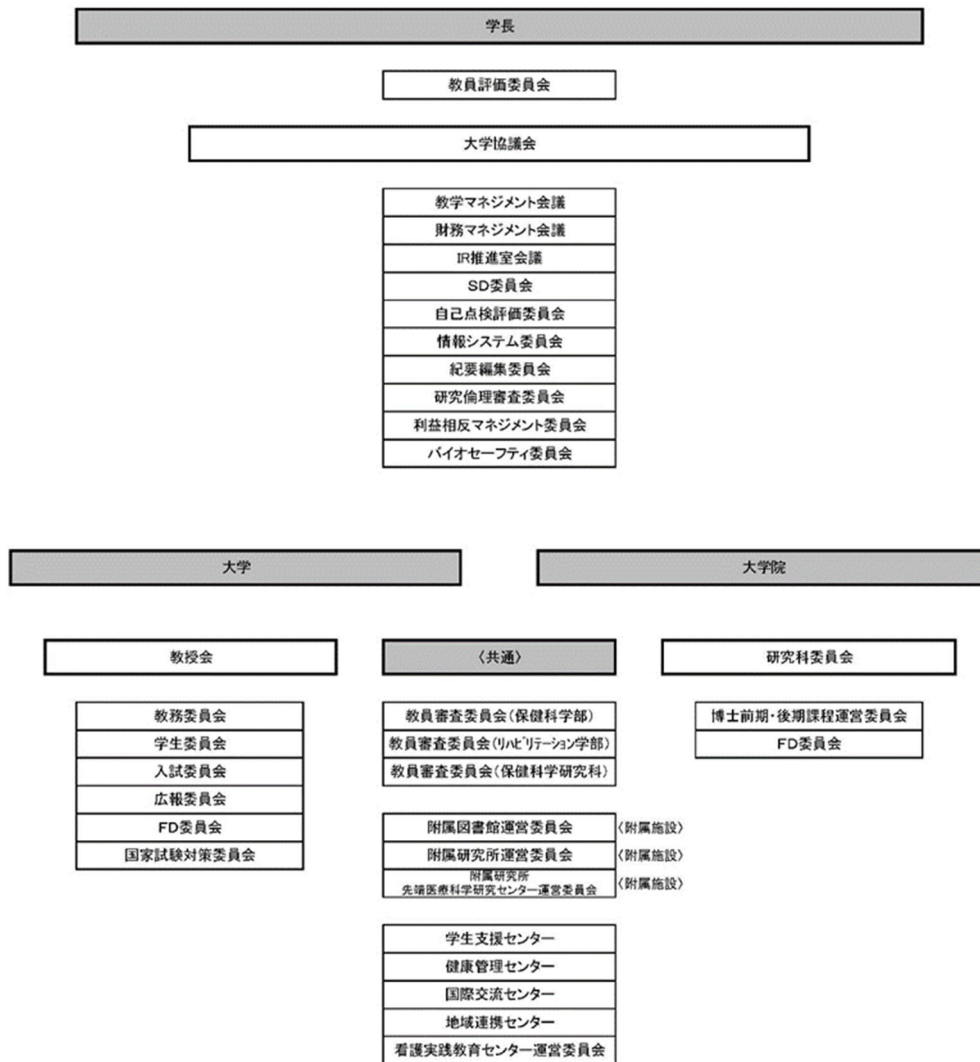


図 4-1-1 群馬パース大学・群馬パース大学大学院組織図

4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築

学則に定めた使命・目的の達成のために、学則第 8 条に基づき、学長・教授及び事務局長をもって構成される教授会を設置し、大学における学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与、教育に関する重要事項（①教育課程の編成、②教員の教育研究業績等の審査、③中長期目標・中長期計画）を審議すると同時に学長による決定が下される場として位置付けられている。教授会は毎月 1 回開催されている他、学長が必要と認めたときは臨時教授会を開くことができる。

また、教授会は教学マネジメントを適切に行う上で必要な事項を調査・審議するために各種委員会（教務委員会等）を置き、各委員会規程において、全ての審議結果を学長に報告し承認を受けることを定めている。各委員長は教授会開催に先だち、学内グループウェ



ア・システムを通じて審議結果を学長及び教授会メンバーに報告・公表し、教授会において学長の一括承認を得ている。

なお、本学大学院については、大学院学則第 12 条に基づき、同大学院の教授にて構成される研究科委員会を設けている。

学長は、組織規程第 12 条により、「教育、研究に関する校務をつかさどり、所属職員を監督して学内の教育運営全般を管理し、大学を代表する」と規定されている。

また、学長は（後述の）法人運営会議の構成員であるとともに理事・評議員を兼任しており、大学及び法人の意思決定と執行責任を負っている。

以上に示したとおり、大学の意志決定及び教学マネジメントは大学の使命・目的に沿って、適切かつ円滑に行われている。

#### **4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性**

本学・本学大学院におけるすべての会議には、必ず事務職員を配置し、教職協働を実施している。各種委員会等の規程においても職員の担当課を明確にしている。教職員は常に学内における問題点・検討課題を共有し、その解決・実施のために協働している。

##### **(3) 4-1 の改善・向上方策（将来計画）**

2 学科増設による学生数・教職員の増加等、拡大・発展する中で、さらに強い学長のリーダーシップを確立するために、IR 推進室のさらなる有効活用を行う。今後は教職員の協働強化のため、FD・SD 活動の全体参加や職員の個々の職能開発のための研修にも教員参加を促すなど、教職員それぞれの立場の相互理解に力を入れる。

#### **4-2 教員の配置・職能開発等**

##### **4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置**

##### **4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施**

###### **(1) 4-2 の自己判定**

「基準項目 4-2 を満たしている。」

###### **(2) 4-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）**

##### **4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置**

本学においては大学設置基準上の教員数【基礎資料：様式 1（データ編）】はもとより、各指定規則に定められた教員数を上回るよう確認しながら、独自に学科別の教員採用上限である「学科別・職位別教員定数」を大学協議会において定め、教育の質が担保されるよう努めている。全学科長が各基準を上回りながら、採用上限に達するまで教員審査委員会に諮ることができる仕組みとしている。

本学大学院においては、大学院設置基準上の教員数【基礎資料：様式 1（データ編）】を満たすよう適切に配置している。

教員の採用・選考にあたっては、公募（本学 HP・JREC-IN 等）を基礎として応募された中から、各学科長等が推薦する教員を教員審査委員会に諮り、「群馬パース大学教員選考

規程」に基づき審議され、教授会の議を経て法人運営会議で採用が決定される。ただし、教授の任命においては理事会の承認を必要としている。

また、教員の昇任や特別昇給等は、「群馬パース大学教員評価規程」（以下、「教員評価規程」という。）に基づき、評価対象教員全員に自己評価報告書・教員個人調書（履歴書）・教育研究業績書を提出させ、教員評価委員会で審議される。教員評価委員会では、特に優れた活動を行ったと評価された教員の昇任について、教員審査委員会に推薦することができる仕組みとしている。

#### **4-2-② FD(Faculty Development)をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施**

本学では、群馬パース大学 FD 委員会（以下、「学部 FD 委員会」という。）、群馬パース大学大学院 FD 委員会（以下、「大学院 FD 委員会」という。）をそれぞれ独立の委員会として設置している。

学部教員を対象とする FD は、学部 FD 委員会が年間活動計画に基づき、学生による授業アンケート、教員間の相互授業見学・評価、教育研修、ワークショップ等の活動を組織的、計画的に展開している。研修については、集合研修と OJT を連動させた段階的、持続的研修体系「群馬パース大学教育研修体系」を平成 30（2018）年度に構築し、定期的に内容の見直しを行いながら運用している。活動実績と評価は学部 FD 委員会定例会議に随時報告し検討を行い、さらに、年次報告書を作成し、次年度の活動計画立案の資料とすると共に、本学 HP に掲載し、内外へ周知している。

また、平成 29（2017）年度まで「(旧)群馬パース大学年報」に収録してきた教員の教育活動の記録のうち、各授業科目の開講状況、授業方法、使用教材等の記録を、平成 30（2018）年度分から「群馬パース大学教育研究年報」に移行し、毎年発刊することにより、自己評価と関係者への説明の機会としている。また、同じく「(旧)群馬パース大学年報」に収録してきた各授業科目の成績分布、素点平均を、アクティブ・アカデミーをとおして、学生および全教員の閲覧に供し、教授方法改善の資料としている。

この他、各学科、又は教育研究領域ごとの取り組みとして、新任教員、若手教員の教育能力育成のため、補助者としての授業への参加、教壇に立つ前の模擬授業等のトレーニング、指導案の点検・検討会等の活動を行っている。また、同じく新任教員、若手教員の研究能力向上のため、共同研究組織内での指導、新任教員、若手教員が単独で行う研究への助言、科学研究費補助金応募の支援をはじめとする内外の研究費獲得の支援等を行っている。

大学院の教員を対象とした FD については、学生による授業アンケートの継続実施に加え、大学院 FD 委員会のもとで活動している。

#### **(3) 4-2 の改善・向上方策（将来計画）**

本学では、大学（院）設置基準を満たす教員編成であることはもとより、全ての学科が職業資格関連の指定基準に定められた教員数を上回るよう配置している。今後もそれらの基準及び学内における基準を意識しながら教員採用に努める。また、指定規則の改正や学生数の増減等、推測される状況を意識しながら、特に若手教員（助手を含む）の採用を積

極的に推進し、教員の年齢構成が永続的に保たれるよう注視する。

年間活動計画に基づく FD 関係各事業を継続の上、充実させていく。特に、「群馬パース大学教育研修体系」に基づく体系研修の年次計画を円滑に進め、完成を目指す。また、教員間の相互授業見学・評価の結果を授業改善に活用するための方策に重点を置く。

### 4-3 職員の研修

#### 4-3-① SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み

##### (1) 4-3 の自己判定

「基準項目 4-3 を満たしている。」

##### (2) 4-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

全学教職員を対象とする SD の推進は、SD 委員会が全教職員の SD を統括する委員会として大学協議会の基に設置され、年間活動計画に基づき教職員 SD 研修、ワークショップ、事務職員研修等の活動を組織的、計画的に展開している。また、教職員研修の体系化を図るため、平成 30 (2018) 年 6 月に「群馬パース大学教職員研修の概要」を作成、2021 年 3 月には概要を一部修正した (図 4-3-1)。今後も定期的に見直しを行い、社会情勢や本学の実情に応じた教職員研修を実施していく。

#### 群馬パース大学教職員研修の概要

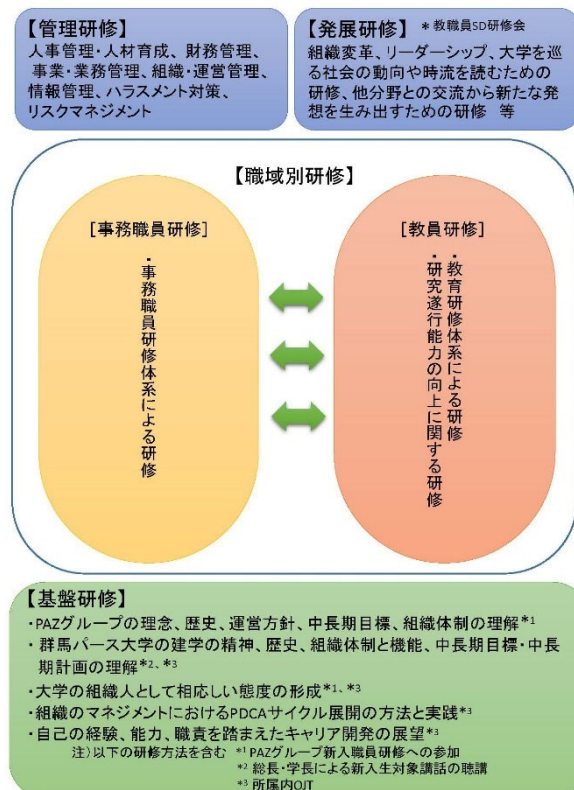


図 4-3-1 群馬パース大学教職員研修の概要

また、SD 委員会では SD 研修等の実績に基づき、今後の研修計画の見直しを行っている。教職員 SD 研修・ワークショップは、事後アンケートにより研修内容及び企画に対する参加教職員の満足度を評価すると共に、SD 活動に対するニーズを把握し次期企画に反映させている。令和 2（2020）年度については、10 月に「大学における自殺予防」、2 月に「モチベーション・マネジメント」をテーマに全教職員対象の研修会を開催した。

事務職員研修については、時事の話題や本学の運営上の課題を取り上げ年度ごとに企画・実施してきた従来の方法を見直し、階層別、部門別研修を含む研修体系「群馬パース大学事務職員研修体系」を構築し、平成 30（2018）年度より運用を開始している。令和 2 元（2020）年度は、「課題解決のためのコミュニケーション」をテーマに研修会を開催し、全事務職員が受講するとともに一部の教員も受講した。

### (3) 4-3 の改善・向上方策（将来計画）

現行の SD 関係研修を継続の上、充実させていく。特に、教職員それぞれの職責に応じた職務遂行能力に係る研修（教職員研修・事務職員研修）の一部共有により、大学の諸活動に対する教職員の理解を促進する。また、教職員共通の大学運営・経営能力の開発に関する研修の充実、強化を図る。

## 4-4 研究支援

### 4-4-① 研究環境の整備と適切な運営・管理

#### 4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用

#### 4-4-③ 研究活動への資源の配分

##### (1) 4-4 の自己判定

「基準項目 4-4 を満たしている。」

##### (2) 4-4 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

### 4-4-① 研究環境の整備と適切な運営・管理

研究環境の整備として、大学における研究活動の一層の発展と地域貢献を促進することを目的に群馬パース大学附属研究所を設置し、「群馬パース大学附属研究所規程」を定め、主として、研究者に対する研究活動支援及び研究活動に基づく社会連携、地域貢献を行っている。

運営に関しては、附属研究所運営委員会にて、個人研究費や学内課題応募型研究費（特定研究費、附属研究所研究助成費）、研究予算に関する事項を審議し、適切な運営・管理を行っている。また、本学に交付された公的研究費は、管理・監督体制を明確にするため、「群馬パース大学公的研究費の管理・監督に関する規程」を制定し、研究費を有効かつ円滑に運営・管理している。

教職員等の研究活動について不正行為の防止、不正行為が生じた場合又はその恐れがある場合の措置等に関しても、「群馬パース大学研究活動の不正行為及び研究費の不正使用の防止等に関する規程」にて必要な事項を定めている。

## 《各学科における取組》

### ①看護学科

学科内は、9つの領域（基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、助産学）に分かれており、それぞれの領域内において共同研究への取り組みなどを通し、領域責任者を中心に若手研究者の支援を行っている。

### ②検査技術学科

細胞・タンパク質機能解析室（質量分析装置）、生体試料分析室（フローサイトメーター）、分析化学準備室（バイオインフォマティクス）、遺伝子解析室（リアルタイムPCR装置）などの研究を行う実験室が各階にあり、それぞれに必要な装置が整備されている。卒業研究や大学院生の研究に使用しており、教員の研究に関しても有効に活用している。

### ③放射線学科

学科内で大学院研究指導担当者会議、放射線学研究指導者会議を開催し、学生の研究指導を通して、研究環境の整備を実施している。また放射線学科連携委員会を通して、学術・国際交流・海外連携大学等、研究活動基盤の拡充を模索している。

### ④臨床工学科

実験室には、各種分析機器を配置し、教員および卒業研究対象学生が中心となり活用している。実験室は、主に血液を中心とした検体を扱う「実験室1」、およびクリーンベンチを設置し清潔区域とする「実験室2」の2部屋に仕切られており、実験内容に応じて利用している。また基礎医学実習室・臨床工学実習室・基礎工学実習室には、各種医療機器及び計測機器を配置しており、学内実習以外に医療機器を用いた実験や工学的基礎実験として有効利用している。各実験室および実習室は、管理責任者、各種機器類の管理担当者、薬品管理担当者、感染管理担当者を取り決め、教員による管理を行っている。

### ⑤理学療法学科

学科の教育で使用する測定機器類およびその設置空間は、研究にも対応できる水準のものを備えている。また、科研費への応募を支援する中で今年度は新たに2名が採用され（継続と延長を含めると5名）、外部資金の導入と学内での研究費での増加に一定の成果を得ることができた。学科内の研究推進委員会も設置し、英文購読などのとりくみも継続されるなど、研究啓発についても取り組んでいる。

### ⑥作業療法学科

教員未経験者に対して学内研究助成、若手科研の応募に対して相談にのり、学科内教員相互による外部研究資金への応募支援体制を整備している。

### ⑦言語聴覚学科

学科として教員の研究活動を支援するため、臨床の場・時間の確保、研究内容の相互共

有や研究論文作成支援のための勉強会、学会発表の支援ための予演会を実施する。また、学会、研修会の参加機会を積極的かつ平等にするため、参加者による伝達講習を行う。

#### 4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用

個人の尊厳、人権の尊重・個人情報保護、その他倫理的観点から研究者等がより円滑に研究を実施することができるよう、本学では、平成17(2005)年「群馬パース大学・群馬パース大学大学院 研究倫理審査委員会規程」(以下、「研究倫理審査委員会規程」という。)を定め、研究の的確な推進を図ってきた。

また、本学では、「科学者の行動規範」(日本学術会議 平成18年10月3日)に準拠し、「群馬パース大学研究活動に関する行動規範」を平成27(2015)年4月に定め、研究者の責任・行動、説明・公開、法令順守など研究者の倫理的な行動と判断とともに説明責任を果たすことを求めてきた。研究倫理に関する学内審査機関については、本学及び本大学院に所属する教員や教員の指導のもとに学生が「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成29年2月28日一部改正 文部科学省・厚生労働省)及び「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(平成29年2月28日一部改正 文部科学省・厚生労働省・経済産業省)に該当する研究及び関連する研究を実施する場合の適否について、倫理面からの正当性を審査するため、研究倫理審査委員会規程に従い、研究倫理審査委員会で審査している。研究倫理審査委員会は、「臨床研究・疫学研究倫理審査」の場合、委員長、副委員長、保健科学部代表(社会学者を含む)、学外学識経験者(弁護士)、一般人、事務系職員で構成している。さらに、「ヒト遺伝子解析倫理審査」の場合は、他大学の遺伝子学研究者を加え審査に当たっている。

研究倫理審査は、教員等からの申請に基づき、実施計画の内容等を、主として(1)研究等の対象となる個人の人権擁護、(2)研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法、(3)研究等によって生ずる個人への不利益並びに危険性並びに医学上の貢献の予測等から、説明書と同意書の提出を求めた上で、その内容や表現に至るまで審査を行っている。審査の判定は、「群馬パース大学・群馬パース大学大学院研究倫理審査委員会規程」に基づき、厳正に行われている。

研究倫理審査は、基本的に「研究倫理審査フローチャート」に従い審査される。審査を希望する教員及び学生は、各自、「群馬パース大学における研究倫理審査に関するチェックシート」(以下、「チェックシート」という)を含む申請書類一式を研究倫理審査委員会に提出する。

研究倫理審査申請は、随時受け付けており、記載されたチェックシートを参考に、申請された案件ごとに、研究倫理審査委員長から指名された担当委員2名により、指針に基づき事前審査が行われる。共同研究機関において研究倫理審査委員会の承認を受け、その実施について適当である旨の意見を得ている場合や、侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する場合などは、迅速審査として審査・判定される。迅速審査によることが不相当と判断された場合は、年4回(4月・7月・10月・1月)の通常審査に回され審査・判定される。

通常審査の結果、改訂が必要な場合は意見書を作成し、申請者に送付し、改訂を求める。

改訂後の再申請書類を委員長・副委員長が検討し必要があれば再度改訂を求める。迅速審査で侵襲性が少なく介入研究でないものについては、予め指名された委員・委員長の合意が見られた場合、審査結果を学長に報告する。これらの審査を経たものについて、学長に審査結果を報告する。学長は、承認の是非を判定し判定結果通知書を発行する。

本学に所属する教員が研究を実施する場合の適否その他の事項について、利害関係が想定される企業等との関わり（利益相反）を含めて調査審議し、適当な管理措置について検討することを目的として利益相反マネジメント委員会を設置し、利益相反に関する審査を行っている。

#### 4-4-③ 研究活動への資源の配分

教員の研究費については、教育研究の成果を上げることを目的に「群馬パース大学研究費規程」を定め、個人研究費、学内課題応募型研究費（特定研究費、附属研究所研究助成費）、学科研究費、及び研究旅費が配分されている。

また、学外からの研究費を獲得するため、科学研究費補助金及び各種団体等が募集する助成金の申請を奨励するとともに、共同研究の受入れを積極的に行っている。

個人研究費は、教員 1 人あたり一律 10 万円（年間）である。これは各教員の研究活動を支援するための基礎となる費用で、主に通信費、消耗品費等に充てられる。学内研究支援費としては学内課題応募型研究としての「特定研究費」等、科学研究費への申請・採択件数によって個人へ配分される「学科研究費」がある。「特定研究費」は主に若手研究者を育成し、その研究費を使い実績を作ることににより、科学研究費又は外部の助成金に申請し、採択に繋げることが目的である。特定研究費に応募する教員は、原則として申請年度から 2 年以内に科学研究費又は外部の助成金に申請することを条件とする。学科研究費は個人研究費等で不足となる必要研究経費を補充し、実績を作ることににより、科学研究費等の外部助成金への申請及び採択率向上に繋げることが目的とする。また、研究旅費を予算化し、利用方法の詳細を定め、全教員に周知している。国内外問わず学会発表や情報収集など、教員が研究活動を遂行する際に使用可能とする。実際の運用に当たっては、個人研究費、学内課題応募型研究費（特定研究費、附属研究所研究助成費）、研究旅費とも「学内研究費利用の手引き」に従って運用されている。

#### (3) 4-4 の改善・向上方策（将来計画）

専門業務型裁量労働制を導入し研究時間の確保についての自己管理を薦めている。学内の教育研究体制とその環境については改めて整備し、科学研究費を始めとした外部研究費の獲得に向け取り組みをさらに強化していきたい。

特に、文部科学省等の科学研究費への全教員における応募率は 37%、採択率も 15%と決して高い水準にあるとは言えないことから、学科ごとに科研費採択推進プロジェクトチームを編成し学科内の申請書のチェック体制などを強化しながら採択率の向上にさらに努力していきたい。また、若手研究者に対する支援が必ずしも十分ではなく、外部資金の獲得による研究の活性化を図るため、研究費の配分比率を見直すなど、各学科内における協力共同体制の構築を推進するよう努力したい。

研究倫理では学内外での不一致を是正する。具体的には、本学 HP への問題事例集の掲

載などの検討も必要である。また、卒業研究や大学院生による研究などでも研究計画書、説明と同意等基本的な倫理事項で課題があり、教員に対して倫理に関する指導法を教授するなどの **FD** 研修会（研究倫理の基本的な理解、研究計画書の作成方法、説明と同意の手続き、個人情報の保護等）や、学生向け講習会も開催していきたい。



## **基準 5. 経営・管理と財務**

### **5-1 経営の規律と誠実性**

#### **5-1-① 経営の規律と誠実性の維持**

#### **5-1-② 使命・目的の実現への継続的努力**

#### **5-1-③ 環境保全、人権、安全への配慮**

##### **(1) 5-1 の自己判定**

「基準項目 5-1 を満たしている。」

##### **(2) 5-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）**

###### **(ア) 組織倫理に関する規程に基づいた適切な運営**

本法人の組織の基本となる「学校法人群馬パース大学寄附行為」（以下、「寄附行為」という。）第 3 条及び本学の組織の基本となる学則第 1 条において教育基本法及び学校教育法に従うことを明確に定めている。なお、「学校法人群馬パース大学理事会の運営に関する規程」（以下、「理事会運営規程」という。）第 6 条に基づき年 4 回の定例理事会を、毎月 1 回の法人運営会議を開催している。また、本学においては、協議会規程に基づき毎月 1 回の大学協議会を、教授会規程に基づき毎月 1 回の教授会を開催している。

###### **(イ) 使命・目的を実現するための継続的な努力**

大学運営を円滑に行うため、将来計画の資金として第 2 号基本金の組入れ、常時かつ継続的に保持すべき運転資金として、第 4 号基本金の組入れを行っている。

###### **(ウ) 環境や人権への配慮**

地域社会や自然環境との共存を目指し東京電力初となるオール電化キャンパス（1 号館及び 4 号館）を建築、また、保健医療専門職を目指す学生を養成する教育機関として敷地内全面禁煙（県より禁煙認定施設として認定）とし、禁煙教育等を併せて実施することにより、環境保全のみならず学生の健康管理も促している。

「学校法人群馬パース大学個人情報保護に関する規程」、「学校法人群馬パース大学ハラスメント防止規程」、「学校法人群馬パース大学危機管理規程」、「学校法人群馬パース大学安全衛生管理規程」、「学校法人群馬パース大学ストレスチェック制度実施規程」を制定し、人権・安全への配慮に努めている。

###### **(エ) 学内外に対する危機管理体制の整備とその機能**

学生、教職員及び近隣住民等の安全等を図るため「学校法人群馬パース大学危機管理規程」を設け、危機事象への対処が必要と判断した場合には危機対策本部を設置することとしている。危機事象への対応については危機管理基本マニュアルに記載している。なお、危機管理の対象となる事象を以下に示す。

表 5-1-1 危機管理対象

大 区 分	小 区 分	具 体 例
(1)教育研究活動の遂行に 重大な支障のある事態	海外渡航等	海外研修、海外留学、海外出張
	教育、実験、実習業務	教育・実験・実習等の事故
(2)学生等の安全に関わる 重大な事態	地震	地震による人的・物的被害
	火災、爆発	火災・爆発による人的・物的被害
	台風、豪雨、落雷等	台風・豪雨・落雷等による人的・物的被害
	有害物質	毒・劇物・放射性物質等紛失・流出
	廃棄物	廃棄物による汚染
(3)施設管理上の重大な事 態	不審者侵入	不審者侵入による盗難・傷害
	施設の管理	施設に起因する事故
	危険有害業務	危険作業・有害作業での事故
	労働災害	労働災害
	コンピューターネッ トワーク	ネットワーク障害、ハッキング、 ウィルス感染
(4)社会的影響の大きな事 態	機密情報	機密情報漏洩
	個人情報	個人情報漏洩
	入試業務	入試ミス
(5)本法人に対する社会的 信頼を損なう事態	セクシュアルハラス メント	セクシュアルハラスメント
	その他のハラスメン ト	パワーハラスメント、アカデミッ クハラスメント、差別、いじめ
	知的財産権侵害	著作権侵害、特許侵害
	ねつ造、盗用	実験結果のねつ造、論文盗用
	横領	保管金等の横領
	不正使用	研究費等の不正使用
	不祥事、犯罪	学生・教職員の不祥事・犯罪
(6)前各号と同等以上の重 大な事態	一般疾病	学生・教職員の病気
	メンタルヘルス	学生・教職員精神的病気
	感染症	学生・教職員の感染症
	食中毒	学生・教職員の食中毒

上記、危機管理の対象となる事象で、学生等の安全にかかわる重大な事態のうち、発生する可能性が高い地震については、「地震発生からの行動マニュアル」を全講義室に掲示するとともに教職員へ配付・周知している。また、火災については毎年11月に避難訓練を実施している。その他、学生におよぶ可能性のある様々な危険等に対する事象について、毎年度、学生部が主体となりセミナーや講習会を以下の通り開催している（表5-1-2）。

表 5-1-2 セミナー・講習会一覧

内容	対象学年（全学科）			
	1年	2年	3年	4年
交通安全教室	○			
防犯教室	○			
健康教育・禁煙教育	○			○
薬物乱用防止教室			○	
情報モラル講習（サイバーセキュリティ）		○		
SNSに係わる防犯教室	○	○		

### (3) 5-1の改善・向上方策（将来計画）

大学を取り巻く社会情勢や法令、社会的責任やニーズの変化に対し、各種規程の制定・改廃や積極的な情報公開等、今後とも柔軟に対応する。

環境への配慮として、学内のペーパーレス化をさらに強化する。具体的には、平成27（2015）年度後期より、講義資料を学生ヘデータで配信することを全教員に周知している。さらに、学内における各委員会等の資料においても、iPadを活用しペーパーレス化に努めている。

## 5-2 理事会の機能

### 5-2-① 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性

#### (1) 5-2の自己判定

「基準項目5-2を満たしている。」

#### (2) 5-2の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### (ア) 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備と機能

本法人の運営管理は私立学校法に基づき理事会、評議員会が行っている。理事会は業務の決定とその執行にあたり、評議員会は諮問機関として置かれている。理事長は本法人を代表して、法令及び寄附行為に規定する職務を行い、内部の業務を統括する。

学校法人（理事会・評議員会）と大学（大学協議会・教授会・研究科委員会）との意思疎通、連携、協議を円滑にすることによって「豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療専門職を育成し、保健・医療・福祉サービスとの協働及び知の創造を通じて、国際社会、地域社会に貢献する」という本学の目的の追求・実現に資するため、学校法人（理事

会・評議員会)と大学(大学協議会・教授会・研究科委員会)の間に法人運営会議を設置(理事会運営規程第3条2項・組織規程第7条・学校法人群馬パース大学運営会議規程(以下、「法人運営会議規程」という。))し、機動的な意思決定がなされている。

**(イ) 理事会の適切な運営(選任、事業計画の執行など)**

寄附行為第15条により設置される理事会は、同寄附行為第5条に規定される役員(理事6人以上8人以内、監事2人又は3人)にて組織されており、理事の選任条項は以下のとおりである。

- (1) 学長(大学長) 1人
- (2) 校長(専門学校長) 1人
- (3) 評議員のうちから評議員会において選任した者 2人
- (4) 学識経験者のうち理事会において選任した者 2人以上4人以内

また、「学校法人群馬パース大学 理事職務分担等に関する内規」で示してあるとおり、本学専任理事の職務に関しては、財務担当・教学担当・広報担当・地域連携推進担当が理事長から委嘱される。理事長に事故があるとき、又は、理事長が欠けたときは、その職務を代理する順序は、財務担当・教学担当・広報担当・地域連携推進担当の順としている。職務分担においては適宜見直すことができる仕組みとし、円滑に業務が遂行できるように規定している。

理事会の開催については、理事会運営規程第6条に規定されたとおり、毎年度5月、9月、12月及び3月に定例理事会を開催する他、必要に応じて臨時理事会を開催している。5月の定例理事会においては、前年度決算について、12月は補正予算、3月は次年度事業計画及び予算に関する事項が主な審議事項である。

**(ウ) 理事の出席状況及び欠席時の委任状など**

過去2年間の理事会における理事の出席状況は表5-2-1のとおりで、適切な運営がなされている。なお、委任状には、議案に対する賛否及び意見がある場合は、記して提出することとしている。

表 5-2-1 過去 2 年間の理事会における理事の出席状況

開催年月日等			出席者数	開催年月等			出席者数
令和 元 年度	5/9	臨時	4	令和 2 年度	5/28	第91回	7
	5/30	第86回	6		5/28	第92回	7
	5/30	第87回	6		8/18	臨時	7
	9/12	第88回	6		9/17	第93回	7
	11/28	第89回	6		11/26	第94回	7
	3/17	第90回	6		3/25	第95回	7

**(3) 5-2の改善・向上方策(将来計画)**

理事会は寄附行為等に定められているとおり適切に運用されているが、今後もこれを維

持することはもちろん、理事の職務分担における責任体制を明確にし、変化する大学を取り巻く環境に法人全体で対応する。

### **5-3 管理運営の円滑化と相互チェック**

#### **5-3-① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化**

#### **5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性**

##### (1) 5-3 の自己判定

「基準項目 5-3 を満たしている。」

##### (2) 5-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### **5-3-① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化**

##### (ア) 法人及び大学の各管理運営機関の意思疎通と適切な連携

理事会運営規程第 3 条第 2 項、組織規程第 7 条及び法人運営会議規程により、法人の組織（理事会・評議員会）と大学の組織（大学協議会・教授会・研究科委員会）の意思疎通を図り協議及び意思決定を行うとともに教職員の提案などをくみ上げることを目的とした法人運営会議を設置し、毎月 1 回開催している。法人運営会議の構成員は、理事長、学長、副学長、研究科長、学部長、専門学校長、事務局長、事務局各部長及び理事長が必要と認めたとしている。構成員のほか、監事は会議に出席し、意見を述べることにしている（法人運営会議規程第 3 条）。

また、法人運営会議の審議事項は、理事会・評議員会から執行を委任された事項、理事会・評議員会に提案する事項、法人業務の執行に関する重要な事項、教育及び研究に関する事項、教員人事に関する事項、大学協議会への諮問事項、大学協議会からの理事会・評議員会への建議事項などである（法人運営会議規程第 4 条）。

##### (イ) 理事長のリーダーシップと内部統制環境

理事長は学校法人を代表し、法令及び寄附行為に規定する職務を行い、法人内部の業務を統括している（寄附行為第 11 条）。学校法人の最高意思決定機関である理事会、その諮問機関である評議員会を通じて本法人の業務を決定し、執行にあたっている。大学組織に対しては、「寄附行為第 6 条 1 項(1)」により学長を第 1 号理事として選任していることなどからも理事長の運営方針など意思の疎通が図られている。また、法人運営会議を設置していることにより、学長をはじめとする教学の各責任者及び事務部門の責任者に対しても理事長の意向が伝えられ、その意思の疎通が図られており、理事長のリーダーシップと理事長の意思を反映する体制を整えている。

#### **5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性**

##### (ア) 監事の適切な選任、管理運営機関の相互チェック体制と機能、監事の理事会及び評議員会への出席状況

本法人は 2 人又は 3 人の監事（寄附行為第 5 条）を置き、その選任は、寄附行為第 7 条にこの法人の理事、職員（学長（大学長）、校長（専門学校長）、教員その他の職員を含む）、評議員又は役員配偶者若しくは三親等以内の親族以外の者であって理事会において選任

した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任した者と規定している。ただし、選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に防止することができる者を選任することとしている。これに則り、本法人は2人の監事のうち、1名は地方自治体の首長経験者、1名は金融機関の監査業務の経験者を選任している。

監事の職務については、寄附行為第14条及び監事監査規程に規定しており、本法人の業務若しくは財産及び理事の業務執行状況について適正かつ効率的な運営に資するため、監事は監査計画書及びそのスケジュールを作成し、教学・学生支援を含む業務監査、財務関係を含む会計監査を実施している。監査の結果について、監事は監査調書を作成し、法人運営会議で報告しており、法人及び教学組織の相互チェック体制を整えている。

また、監事は法人の運営に関する重要事項についての諮問機関である評議員会、方針を決定する理事会、決定された方針に基づいて業務を執行する理事長が適切に機能するよう理事会及び評議員会に出席し、法人業務並びに財務状況等に関する意見等発言している。

過去2年間の理事会及び評議員会における監事の出席状況は表5-3-1のとおりで、積極的な参加がなされ、有効に機能している。

更に、理事長のもとに内部監査室を設置し、(内部監査規程)内部監査機能の充実を図るとともに、監事が行う監査を支援するほか、公認会計士(監査法人を含む)が行う監査の実施に関し協力している。

表 5-3-1 過去 2 年間の理事会及び評議員会における監事の出席状況

開催年月日等		出席者数	開催年月等		出席者数		
令和 元 年度	5/9	臨時	2	令和 2 年度	5/28	第91回	2
	5/30	第86回	2		5/28	第92回	2
	5/30	第87回	2		8/18	臨時	2
	9/12	第88回	2		9/17	第93回	2
	11/28	第89回	2		11/26	第94回	2
	3/17	第90回	2		3/25	第95回	2

#### (イ) 評議員の選任と出席状況並びに評議員会の適切な運営

「寄附行為」第18条により、法人の運営に関する重要事項についての諮問機関である評議員会を設置、「学校法人群馬パース大学評議員会規程」第6条に規定のとおり、各年度5月、9月、12月及び3月に定例評議員会を開催し、適切に運営されている。

同寄附行為第22条に規定される評議員の選任条項は以下のとおりである。

1. この法人の職員で理事会において推薦された者のうちから、評議員会において選任した者 6人
2. この法人の設置する学校を卒業したもので年齢25歳以上のもののうちから、理事会において選任した者 3人
3. 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 8人

過去2年間の評議員会における評議員の出席状況は表5-3-2のとおりで、積極的な参加

がなされ、有効に機能している。

表 5-3-2 過去 2 年間の評議員会における評議員の出席状況

開催年月日等			出席者数	開催年月等			出席者数
令和 元 年度	5/30	第 86 回	17	令和 2 年度	5/28	第 90 回	16
	9/12	第 87 回	17		9/17	第 91 回	17
	11/28	第 88 回	17		11/26	第 92 回	16
	3/17	第 89 回	17		3/25	第 93 回	17

#### (ウ) 教職員の提案などをくみ上げる仕組み

評議員 17 人の中には、第 1 号評議員として教職員 6 人が含まれており、教職員等の意見を反映させる体制を築いている。

#### (3) 5-3 の改善・向上方策（将来計画）

法人運営会議の開催により、成し得ている法人の組織と大学の組織の連携・協働を今後も継続、発展させていく。

監事の監査報告は法人運営会議にて口頭で行われているが、今後、提出された報告書に基づき、改善の余地がある事項等は理事会に諮るよう努める。

### 5-4 財務基盤と収支

#### 5-4-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

#### 5-4-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

##### (1) 5-4 の自己判定

「基準項目 5-4 を満たしている。」

##### (2) 5-4 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 5-4-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

財務運営については、各委員会等から提出された予算申請を集計、進行年度の予算・実績対比の確認と調整して中長期計画を基に予算案を編成し、理事会・評議員会の承認を受けている。また、実際の予算執行時には起案書を作成・回覧し、改めて使用内容等の詳細について確認・検討を行うこととしている。

#### 5-4-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

平成 22（2010）年 4 月、群馬県の中心部である高崎市問屋町に校舎新築及び移転以後、学生募集状況は順調であり、平成 25（2013）年度には検査技術学科（入学定員 60 名、収容定員 240 名）を設置、また平成 29（2017）年度には放射線学科（入学定員 70 名、収容定員 280 名）及び臨床工学科（入学定員 50 名、収容定員 200 名）を 2 学科同時に設置し、学生数は増加の一途を辿っている。大学の収容定員充足率についても各年度 100%超で安定的に推移しており、学生生徒等納付金を主たる収入源とする本学の財務体

制は健全に保たれている（表 5-4-1）。また、教育活動収支差額比率及び経常収支差額比率ともに日本私立学校振興・共済事業団発行の「令和 2 年度版 今日の私学財政」内で公表されている令和元（2019）年度の財務比率平均値を大きく上回っている（表 5-4-2）。

表 5-4-1 収容定員に対する現員及び学生生徒等納付金収入の推移一覧

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
収容定員	812 名	932 名	1,056 名	1,180 名	1,302 名
現員 ※5 月 1 日現在	898 名	1,071 名	1,213 名	1,346 名	1,452 名
収容定員 充足率	110.5%	114.9%	114.8%	114.0%	111.5%
学生生徒等納 付金 (単位：千円)	1,427,392	1,699,033	1,939,207	2,157,735	2,349,175
備 考		放射線学科 臨床工学科 設置	博士後期課程 設置		

表 5-4-2 事業活動収支計算書関係財務比率の比較一覧

比 率	計 算 式	「令和 2 年度版 今日の私学財政」より		
		系統別	規模別	ブロック別
		(単一学部) 保健系学部平均	1～2 千人平均	北関東平均
経常収支 差額比率	経常収支差額 ／ 経常収入	2.8% (前年度比 -1.6%)	-1.1% (前年度比 +7.7%)	2.6% (前年度比 +8.2%)
教育活動収支 差額比率	教育活動収支差額 ／ 教育活動収入計	2.4% (前年度比 -1.5%)	-1.7% (前年度比 +7.5%)	2.0% (前年度比 +7.9%)

比 率	計 算 式	群馬パース大学		
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
経常収支 差額比率	経常収支差額 ／ 経常収入	24.0%	26.7%	27.9%
教育活動収支 差額比率	教育活動収支差額 ／ 教育活動収入計	25.5%	28.1%	28.8%



各新学科設置に係る施設設備取得資金については、高崎市より校舎新築・増築事業に対する補助金交付を受けている（表 5-4-3）。

また、寄付金額 10,000 円以上の寄付者につき葉をモチーフとしたメモリアルプレートを作成・校舎内に展示する等、寄付意欲に繋がるような工夫を図るとともに、平成 23(2011)年の税制改正時当初から税額控除法人としての証明を受け、日本私立学校振興・共済事業団の受配者指定寄付金制度と併せて、寄付者に対する税的優遇措置に関する情報提供を積極的に行っている。

表 5-4-3 高崎市からの校舎等新築事業に係る補助金交付一覧

年度	平成 21 年度	平成 25 年度	平成 28 年度	令和 2 年度
補助金対象事業	校舎新築 (1 号館)	校舎新築 (2 号館) ※検査技術学科 体育棟 (3 号館)	校舎新築 (4 号館) ※放射線学科、 臨床工学科	校舎増築 (1 号館) ※リハビリテーション学部
補助金額	24,000 千円	20,000 千円	20,000 千円	10,000 千円

### (3) 5-4 の改善・向上方策（将来計画）

学生生徒等納付金を主たる収入源とする本学の、安定した財務基盤を確立するためには、引き続き堅調な学生確保を維持することが必要である。社会情勢の変化や地域からの要請に柔軟に対応すべく、「中長期計画」も随時見直しを行いながら、新学部・新学科の設置等により大学の拡充を図っていく。

また、収入財源の多様化を図るべく、科学研究費補助金を始めとする外部競争的研究資金の獲得に向け、研究施設・設備の整備等支援強化の取り組みに着手している。

## 5-5 会計

### 5-5-① 会計処理の適正な実施

#### 5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

##### (1) 5-5 の自己判定

「基準項目 5-5 を満たしている。」

##### (2) 5-5 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 5-5-① 会計処理の適正な実施

本法人の会計処理については、学校法人会計基準に準拠し、「学校法人群馬パース大学 経理規程」、「学校法人群馬パース大学 経理規程施行細則」に則した上、適宜、公認会計士の指導・助言を仰ぎながら実施している。

また、日本私立学校振興・共済事業団や群馬県、その他の外部団体が開催する実務研修

等へ参加することにより、学校法人会計基準への理解を深め、スキルアップと会計処理の適正化を図っている。

前年度 3 月に承認された予算に対し、4 月から 10 月の半期決算に基づき補正予算を編成し、11 月の理事会で承認を得ている。

### 5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

本法人の会計監査については、(ア) 公認会計士による外部監査、及び(イ) 監事による学内監査、から成っている。

#### (ア) 公認会計士による外部監査

平成 14 (2002) 年度から現在まで、加藤会計事務所による期中監査及び決算監査を受けている。なお、監査契約書に定められている監査従事者の監査見積時間数は以下のとおりである。

監査責任者	50時間	
公認会計士	80時間	
その他	80時間	※合計210時間

#### (イ) 監事による学内監査

「学校法人群馬パース大学 監事監査規程」に基づき作成された監査計画に沿った監査が行われている。

理事会及び評議員会への出席に加え、学校法人の管理運営を適正に行うため、理事会と教学間の意志疎通を図ることを目的として毎月 1 回開催される法人運営会議に監事も出席しており、学校法人の業務全般を状況把握した上で、期中・期末には決算等概要について、会計課及び公認会計士より概況聴取及び意見交換を実施している。

#### (3) 5-5 の改善・向上方策 (将来計画)

監事や公認会計士の監査は適正に実施されているが、学内における会計担当者の更なる知識の向上や技能の習得のため、学内 SD 研修等への積極的参加を促す。また、外部研修にも積極的に参加させ、学校法人会計への更なる理解を深める。

今後も公認会計士及び監事との連携を密にしながら、適正な会計処理の継続を図る。

## **基準 6. 内部質保証**

### **6-1 内部質保証の組織体制**

#### **6-1-① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立**

##### (1) 6-1 の自己判定

「基準項目 6-1 を満たしている。」

##### (2) 6-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### **6-1-① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立**

本学では、自ら掲げる目標に向けて教育研究活動を行う中で、定期的な自己点検・評価の取り組みを踏まえた自主的・自律的な質保証への取り組みが基本であることを踏まえ、「群馬パース大学・群馬パース大学大学院自己点検評価委員会規程」における目的および審議事項ならびに自己点検評価書の作成の公表を通じて内部質保証の方針を全学に示している。

その実行体制として、大学組織のみならず、法人全体として自律的な改革サイクルとしての質保証に関与する組織体制を整備している（図6-1-1 群馬パース大学・大学院 内部質保証組織図及び責任体制）。

大学全体の内部質保証に責任を負う組織として、大学協議会の下に、学生のエンロールメント・マネジメントの支援を主業務とする IR 推進室、本学の教職員が必要な知識及び技能を習得し、その能力及び資質を向上させるために必要な取り組みを行うことを目的とする SD 委員会、本学における教育・研究上の活動及び運営について、自ら点検評価するとともに、第三者評価に付すことを通じて、本学の教育・研究に係る適切な水準の維持及びその向上を図ることを目的とする自己点検評価委員会を置く。

大学協議会では上記組織の活動の詳細を報告・協議し、必要に応じ教授会及び研究科委員会に審議を要請している。審議された事項のうち、重点的な課題については最終的に外部監事が参画する法人運営会議で承認される。

## 群馬パース大学／群馬パース大学大学院 内部質保証組織図及び責任体制

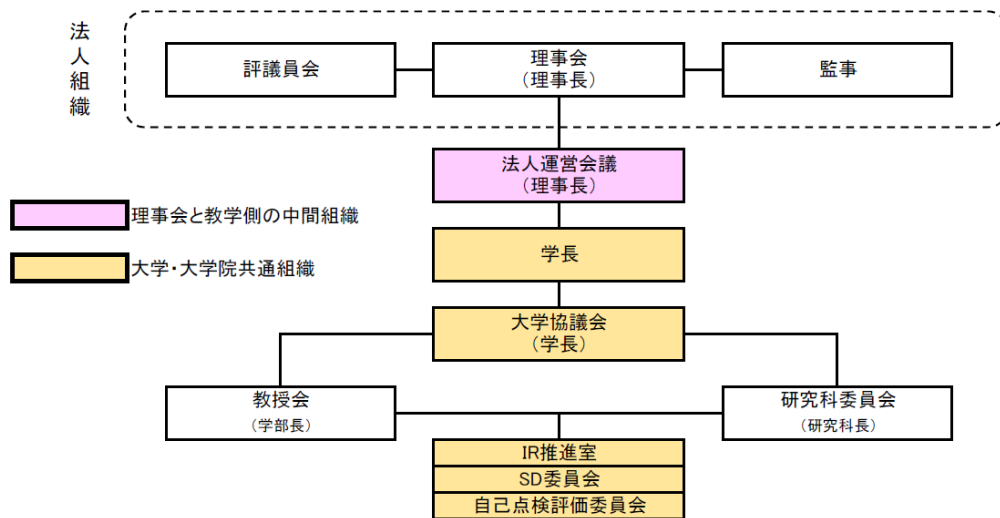


図6-1-1 群馬パース大学・大学院 内部質保証組織図及び責任体制

### (3) 6-1の改善・向上方策（将来計画）

内部質保証のための組織は整備され、その責任体制も確立されつつあるが、組織体制やその仕組みを外部に向けてさらに理解しやすく公表するよう努める。また、学内でもその認識を高めるために、示されている全学的な方針にもとづき、日本高等教育評価機構が示す6つの基準に沿いつつ、中長期計画の視点を意識してPDCAを実施することとするが、「PDCAの諸過程の可視化による意識化」に取り組んでいく。

ホームページやソーシャルメディアを利用し、本学の内部質保証への取り組みを分かりやすく、さらに、外部の意見も取り入れることができる仕組みを今後確立させていく予定である。

## 6-2 内部質保証のための自己点検・評価

### 6-2-① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

#### 6-2-② IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析

##### (1) 6-2の自己判定

「基準項目 6-2 を満たしている。」

##### (2) 6-2の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

### 6-2-① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

#### (ア) 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検評価の実施とその体制

##### 1) 自己点検評価の実施体制

自己点検評価を恒常的に実施するため、自己点検評価委員会では、自己点検評価・認証評価に関する報告書の作成及び公表と自己評価・認証評価の実施に係る作業を行う。委員

会は、教授会において選出された教員、企画部長、企画課長、事務職員で構成されている。

## 2) 自己点検・評価項目

自己点検評価活動とその結果を確実・最大限本学の教育研究水準の改善・向上に還元するため、以下のとおり自己点検・評価項目を設定し、それらが常に最適・最善のものであるよう見直す体制としている。

評価項目は、認証評価受審と有効に連動させるため、認証評価機関の評価項目を用い、これに本学の使命・目的の追求達成に必要な項目を独自に設定する（表 6-2-1）。

表 6-2-1 自己点検・評価項目

① 使命・目的等	② 学生	③ 教育課程
④ 教員・職員	⑤ 経営・管理と財務	⑥ 内部質保証
⑦ 地域への貢献	⑧ 国際交流の推進	

## 3) 評価結果の共有と社会への公表

自己点検評価書は本学 HP に掲載して公表するとともに、学内では、グループウェア・システムを通じて全教職員に配布し、全員が内容を共有している。

また、評価の結果、良好順調と判断された点を成熟・伸長させ、不十分・課題ありと判断された点を改善するための取り組みを、自己点検評価委員会の取りまとめのもと、各項を所掌する委員会・部門で検討し、教授会、大学協議会の審議、学長の承認を経て、実行に移す。

### (イ) エビデンスに基づく、自己点検評価の定期的な実施

自己点検評価の結果を自己点検委員会がエビデンスに基づいて集約し、毎年度自己点検評価書を実施し、まとめる形で進め、毎年7月にその内容を大学HPで公表することで、評価の継続性と公開性を保っている。

平成23（2011）年度に受審した初回の機関別認証評価の3年後の平成26（2014）年度に中間評価として自己点検評価書をまとめ、その後平成30（2018）年に2度目の審査を受け、平成31（2019）年3月に日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に「適合している」と認定された。

## 6-2-② IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析

現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行う体制として、平成 26（2014）年より IR 推進室を整備している。

IR 推進室では、年度ごとの全体的な指標データとして、各学科の入試区分別合格者数及び入学者数と入学率、各学科の収容定員数及び充足率と学年別在籍者数、各学科の学年別

の留年者数と休学者数及び退学者数、各学科の卒業生数及び4年間での卒業率、各学科の国家試験合格者数及び合格率、各学科の就職率を収集している。

また、学生個々の年次データとしては、性別、入学時年齢、出身地域、入試区分、入試成績、各セメスターの素点平均及びGPA、留年と休学及び退学などの学籍異動、課外活動、奨学金受給、賞罰、国家試験合否、就職先と種別について収集している。

IR推進室では、データ収集活動が主であるため、IR推進室会議は年に数回の開催となっているが、集積されたデータ情報を学長のみならず学科や委員会などから要請があれば開示可能とし、要望に沿った解析も行えることを周知している。実際に、毎年の入試制度の策定においては、過去の入学生の入試区分と入学後の成績や学籍異動の状況を詳細に検討し、現行入試で適正に選抜を行えていることを検証するなどの活動を行っている。

### (3) 6-2の改善・向上方策（将来計画）

自己点検評価委員会が収集したデータとIR推進室が集積したデータを集約・検証することで、学生が感じている問題の背景を分析できる仕組みを構築する。

IR推進室では、学長がエンロールメント・マネジメントにおける懸案事項等を直接指示し、各種データ解析を実施しているが、今後は教育課程および成績評価の検証や、各委員会等が抱える問題を段階的に解決するために積極的にIR推進室を活用できるよう周知する。

## 6-3 内部質保証の機能性

### 6-3-① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性

#### (1) 6-3の自己判定

「基準項目6-3を満たしている。」

#### (2) 6-3の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

本学では前述のとおり、学部教育においてはディプロマ・ポリシーと、その達成のための学部全体及び学科ごとのカリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを一体的に定めている。そして、あらゆる教育活動はこれをより高度な水準で達成することを目指して組織的、かつ継続的に改善が図られている。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは本学HP及び学生便覧への掲載により教職員に共有され、教員個人及び学科、学部の教育活動の評価に活用されている。各教員による授業改善はFD委員会が実施するFD諸活動（詳細は基準4に記載）により、組織的に支援されている。また、各学科は学科会議を通じて多様な大学の諸委員会の機能を学科に応じて実践・実行し、教育課程、教育方法の持続的な点検・評価と改善を行っている。さらに、学部全体としては教務委員会の主導によりディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて教育課程、成績評価、学籍、その他の教育活動をモニタリングし、学部に通ずる課題について決定し、具体策を遂行している。

大学院教育においては、保健科学研究科博士前期課程、後期課程それぞれにディプロマ・

ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを一体的に定め、それらは本学 HP 及び学生便覧への掲載により教職員に共有され、教員個人及び研究科の教育活動の評価に活用されている。

平成 30 (2018) 年度に受審した日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価において、改善を要する点、又は参考意見として付された事項については、教授会において項目ごとに担当部署を割り当てて取り組みの進捗を監視し、概ね改善が確認された。その改善結果は「改善報告書」としてまとめ、令和 2 (2020) 年 7 月に HP に公開し、日本高等教育評価機構より承認された。

令和元 (2019) 年度より毎年作成している自己点検評価書は学内グループウェア・システムに登録され、全教職員の閲覧に随時供されている。記載された改善・向上方策は、担当する委員会等の活動計画に適宜盛り込み、持続的に改善を図っている。また、これに基づく PDCA サイクルの展開を大学運営全体の取り組みとして位置づけ、機能させるため、中長期計画に自己点検評価に関する目標を大項目として明記している。

### (3) 6-3 の改善・向上方策 (将来計画)

本学は、令和 3 (2021) 年度にリハビリテーション学部を新設し、組織の大幅な再編を行ったところである。今後、新たな組織体制が円滑に機能し、PDCA サイクルが個人レベル、組織レベルともに適正に展開されるよう、教職員全体による現状と課題の共有及び、更なる向上を目的とした組織的取り組みを強化していく。そのために、日本高等教育評価機構が示す 6 つの基準に加え、中長期計画の視点からも PDCA を実施できるロードマップとそれに基づくフォーマットを作成することや、その内容をホームページに掲載することで「可視化による意識化」に取り組み、自己点検評価が持続的に進む環境を整えていく。

#### [基準 6 の自己評価]

内部質保証のための自己点検・評価の体制は、責任が明確にされて整備されている。学内の様々なエビデンス (データ) に基づく自主的・自律的な自己点検・評価を定期的を実施しており、それらの結果を学内グループウェア・システムで共有し、本学 HP で広く社会に公表している。現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行う組織としては IR 推進室を整備している。

また、内部質保証は三つのポリシーを起点として行われ、自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果を大学運営の改善・向上に活用している。

以上のことから、基準 6 を満たしていると判断できる。

## **基準 A. 地域への貢献**

### **A-1 地域への貢献**

#### **A-1-① 高崎市への地域貢献にむけた取り組み**

#### **A-1-② 渋川市への地域貢献にむけた取り組み**

#### **A-1-③ 近隣市町村への地域貢献にむけた取り組み**

##### **(1) A-1 の自己判定**

「基準項目 A-1 を満たしている。」

##### **(2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）**

本学は、学則 1 条（目的）で「地域社会に貢献する」ことを目的としている。その目的達成に向け、「群馬パース大学地域連携センター規程」に基づき、地域連携センターを設置している。同センターでは、本学の所在地である高崎市と、本法人が運営する群馬パース大学福祉専門学校が所在する渋川市を主とし、群馬県内各市町村への地域連携活動を行っている。

#### **A-1-① 高崎市への地域貢献にむけた取り組み**

高崎市は本学がキャンパスを置く地域であり、地域の各種団体や行政との接点を持ち以下の地域貢献活動を行っている。

##### **(ア) 高崎市との連携による「群馬パース大学 新型コロナウイルス検査センター」を通じた地域貢献**

本学は、検査技術学科における高度な実験・研究環境を活用し、令和 2（2020）年 5 月に、衛生検査所として「群馬パース大学 新型コロナウイルス検査センター」が高崎市より認可を受けた。感染症学の専門家である教員が民間企業と共同開発した従来の半分以下の時間（開発当時）で判定できる PCR 検査キットを用い、高崎市をはじめ、群馬県や医師会などとも緊密に連携して新型コロナウイルス感染症にかかわる PCR 検査業務を行い、県内の感染拡大防止や診断補助等、公衆衛生行政ならびに医療に積極的に貢献した。

##### **(イ) 高崎卸商社共同組合との連携による「まちづくり委員会」を通じた地域貢献**

本学が所在する高崎市問屋町は、昭和 42（1967）年に全国に先駆けて完成した卸商業団地を主とする地域である。時代の推移によって生ずる産業構造の変化により卸商業団地が従来の姿から変化する中で、平成 22（2010）年に本学が高崎市問屋町に移転設置された。本学は設置当初より地域の活性化のために貢献する立場から、高崎卸商社街協同組合に業界側委員として参加し、活動を進めてきた。

主に、同組合の組織である「まちづくり委員会」の活動（詳細は「団地再整備事業報告書」）に参加し、駅前開発、共同駐車場整備、セントラルパーク整備、本学が接する道路を含むシンボルロード景観形成、そして大学との連携について建設的な意見交換等を重ねてきた。本学との連携にあたっては、本学学生からアンケートをとったところ、「多くの学生や若者が行き交う賑わいのあるまち」という意見が多く寄せられた。そのような中で、大学の課外活動と組合の活動が同時に実現できる「課外活動支援プロジェクト」として、平



成 30 (2018) 年には、学園祭である「流星祭」と群馬県の名産品を一同に集めるイベントである「上州どっと楽市」を同日に連携させて開催した。

#### (ウ) 高崎市との連携による防災活動による地域貢献

高崎市との防災協定の締結により、本学は地域住民及び労働者の一次非難の区域・施設となっている。緊急時には避難場所を提供するだけでなく、備蓄してある食糧も地域住民・労働者に提供する。

#### (エ) 高崎市の各種事業を通じての地域貢献

本学理学療法学科の専門性を活かし、平成 29 (2017) 年度より高崎市介護予防事業として高崎市の「高齢者あんしんセンター希望館」で地域貢献活動を行っている。春夏期には浜尻地区に、秋冬期には塚沢地区にて開催される「希望館運動教室」へ理学療法士である教員がそれぞれ月 1 回程度出向き、運動方法指導、腰痛予防体操、骨盤底筋群トレーニング、ボール体操、自主運動マネジメント、ウォーキング、バランストレーニング等の指導を行っている。令和 2 (2020) 年度は、当初年間で 13 回の実施が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響から実施を見送った。

また、平成 29 (2017) 年度より、高崎市が支援する高齢者の自主グループである「高崎市いきいきサロン」へ理学療法士である教員が出向き、腰痛予防体操、骨盤底筋群トレーニング、ストレッチ等の指導を行っている。令和元 (2019) 年度には、継続した支援を 5 回行った。令和 2 (2020) 年度は新型コロナウイルス感染症の影響から実施ができなかった。

#### (オ) 大学の企画したイベントを通じて発信する高崎市への地域貢献

平成 30 (2018) 年に「音とダンスの祭典 2018」を大学が主催して、高崎卸商社街協同組合のイベント施設である「ビエント高崎」で開催した。大学の学生サークルの一つである舞踏研究会の研究成果を市民に公開することに加え、「日本介護予防ダンス協会」との連携により介護予防ダンスも知ることができ、大学も呼応してダンスと介護予防の関連性について講話も行った。このイベントは大学と地域の交流、楽しくできる介護予防の啓発という点で地域貢献に資するものとなった。このイベントには地域の方々が 300 人集まり地元紙でも報道された。

また、本学では地域連携センターが企画・主催して公開講座を実施している。令和元 (2019) 年度は計 3 回開催し、第 1 回は「医療専門職の特徴とそれぞれの歩み」をテーマに、看護師、理学療法士、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士である本学教員 5 名が講演を行った。第 2 回は「その人らしく生きるための摂食嚥下リハビリテーションー安全に食を楽しむー」をテーマに外部講師 2 名を招いて講演を行った。第 3 回は「Quality of Life を考える」をテーマに、生理学、心理学、生命倫理をそれぞれ専門とする本学教員 3 名により講演を行った。令和 2 (2020) 年度は計 2 回開催し、第 1 回は「新型コロナウイルスの医療現場を知る」をテーマに、感染症学、生体医工学をそれぞれ専門とする本学教員 2 名により、PCR 検査、ECMO を題材にした講演を行った。第 2 回は「コロナ禍時代を生きるために」をテーマに、自分らしく社会生活を送ることを支援する立場から作業

療法士である本学教員 2 名が講演を行った。

#### **(カ) 企業・団体を対象としたオープンレクチャー（出前講義）実施による地域貢献**

保健医療専門職や医療について関心を持ってもらえるよう、高等学校向けに案内・実施しているオープンレクチャーを、平成 30（2018）年度、企業・団体を対象に、(イ)に記載されている「まちづくり委員会」へ提案した結果、開催依頼が 1 件あり理学療法士である教員が出向いて、肩こり解消についての講座を行った。

また、令和元（2019）年度には、高崎卸商社街共同組合より年 10 回の講座依頼があり、4 回の健康にかかわる講座を実施した。小学校のキャリア教育の一環として、看護学科の教員が出向き看護師の仕事について小学生に伝える活動なども行っている。

令和 2（2020）年度には、高崎市より「企業等関係者人権啓発研修会」として感染症予防に関する講座依頼があり、感染症学が専門である検査技術学科の教員が出向き講演を行った。

### **A-1-② 渋川市への地域貢献にむけた取り組み**

渋川市は、群馬パース大学福祉専門学校（以下、「専門学校」という。）の所在地でもあり、行政や地域の諸団体と接点を持ち、以下の地域貢献活動を行っている。

#### **(ア) 渋川市との業務協定に基づく地域貢献**

専門学校が「渋川市渋川総合病院」の移転にあたって生ずる跡地に移転するにあたり、「渋川市渋川総合病院跡地利用事業協定書」を平成 28（2016）年に締結している。この協定の第 15 条には、本法人は、地域活性化のために法人の人材・情報・資源を活用し、市民や地域と連携や協働により実効性の高い地域貢献・地域連携方策を講ずることが明示されており、次の（イ）（ウ）に示す地域貢献に取り組んでいる。

また、令和 2（2020）年度には渋川市と「渋川市と学校法人群馬パース学園との包括的連携に関する協定」を締結し、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与する地域貢献活動を展開していく予定である。

#### **(イ) 渋川市赤城地域いきいきサロンへの地域貢献**

平成 29（2018）年よりそれぞれ 3 回、渋川市の赤城地域にある「宮田地区いきいきサロン」及び、「勝保沢地区いきいきサロン」の 2 箇所に、本学及び専門学校教員にて訪問し、指導を行っている。宮田地区では体組成測定に加えて健康維持のためのロコモティブシンドローム、心理的健康、食生活の講話を行っている。勝保沢地区では体組成測定に加えて健康維持のためのストレッチ、ウォーキング、骨盤底筋群の講話を行っている。また、赤城地区全体に対して、健康運動推進員主催の健康教室に介護予防に関する講演を行っている。令和元（2019）年度には、渋川市の社協および地域包括支援センターの関連組織に対して理学療法学科の教員が出向き 3 回の健康増進に関する講演を行った。

「渋川市赤城地域いきいきサロン」としての活動は令和元（2019）年度をもって終了したが、この地域貢献活動による同市との良好な関係構築により、令和 2（2020）年度は、渋川市より「介護予防教室ーお家でできるリフレッシュ体操ー」として講師派遣依頼があ

り、理学療法士である教員が出向いて、高齢者の健康指導・体操指導を行った。

#### (ウ) 地域連携センター企画の公開講座を通じての地域貢献

平成30(2018)年に「子育て支援に関する公開講座」を地域連携センターが主催し、保育学科のある専門学校(渋川市)で開催した。「障がいを持つ子ども達の子育てを考える」をテーマに、理学療法士の教員及び外部講師2名を招いて講演を行い、35名の保育・福祉関係者、保護者が参加した。令和元(2019)年度には、「発達障がいの療育ー地域で一緒に楽しく育つー」をテーマに公開講座を行い、理学療法士の教員及び外部講師2名を招いて講演を行い、50名の保育・福祉関係者、保護者が参加した。令和2(2020)年度は、令和元(2019)年度のテーマが好評であったことから「発達障がいの療育ー乳幼児期からの継続的な支援のためにー」をテーマに公開講座を行い、理学療法士の教員及び外部講師2名を招いて講演を行い、25名の保育・福祉関係者、保護者が参加した。

#### A-1-③ 近隣市町村への地域貢献にむけた取り組み

本法人が設置する大学及び専門学校の所在地である高崎市と渋川市への地域貢献の取り組みが、徐々に近隣市町村や地域の諸団体へも広がりを見せ、令和2(2020)年度には以下の地域貢献活動を行っている。

- ・介護予防事業における技術的助言(昭和村) 2020年4月～2021年3月(全31回)  
講師派遣(理学療法学科教員) ※5月までは新型コロナウイルスの関係で中止
- ・介護予防教室における運動指導(長野原町) 2020年4月～2021年3月(全12回)  
講師派遣(理学療法学科教員)
- ・小児看護の基礎知識についての講座(安中市) 2020年11月  
講師派遣(看護学科教員)
- ・玉村町すくすく教室(玉村町) 2020年7月～2021年3月(計9回)  
講師派遣(理学療法学科教員)
- ・下川淵いきいき生活講座「命をつなぐ人工呼吸器」(前橋市) 2020年9月  
講師派遣(臨床工学科教員)
- ・介護支援専門員研修会(高齢者あんしん相談センタークローバー荘(館林市))  
2020年10月  
講師派遣(検査技術学科教員)
- ・太田市学校保健会養護教諭部会研修会(太田市学校保健会、太田市教育委員会)  
2020年11月  
講師派遣(検査技術学科教員)
- ・介護予防サポーターフォローアップ研修(藤岡市) 2020年12月  
講師派遣(理学療法学科教員)
- ・群馬県視覚障害者福祉協会研修会(群馬県視覚障害者福祉協会) 2021年1月  
講師派遣(理学療法学科教員)

#### (3) A-1の改善・向上方策(将来計画)

「地域社会に貢献する」ことを目的とする本学では、今後も更なる地域貢献活動を推進する。本法人が設置する大学及び専門学校の所在地である高崎市と渋川市を対象地域の中心としながら、徐々に広がりを見せている近隣市町村への地域貢献活動を充実させる。そして、地域連携センターを令和 2（2020）年 10 月に完成した 5 号館に構え、レクチャーホールを活用して公開講座を充実させていく。

また、本法人全体で取り組む地域貢献については、本大学の地域連携センターと専門学校の教職員が行う地域貢献活動を一体管理する組織である「学校法人群馬パース大学地域連携推進委員会」と協働で実施する。

### **【基準 A の自己評価】**

令和 2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から例年続いていた活動が中止になることもあったが、一方で、本学が医療分野の大学であることから、新型コロナウイルス感染症に対する予防や、コロナ禍での健康維持増進等について「正しく知りたい」というニーズに応える機会が、高崎市、渋川市だけでなく、群馬県内各地域から得られた。また、本学の新型コロナウイルス検査センターが群馬県の衛生検査所の 1 つとして高崎市より認可を受けて、新型コロナウイルス感染症にかかわる PCR 検査業務を行ってきたことは、大きな地域貢献活動となった。

専門学校が所在する渋川市とは、令和 2（2020）年度に新たに「渋川市と学校法人群馬パース学園との包括的連携に関する協定」を締結できたことは、協定に基づく具体的な地域貢献活動をより活発に進めていく体制の強化につながった。本学における地域貢献活動は、組織的にも実践的にも、緒に就いた段階であるが、地域連携を実行する体制の強化と具体的活動を着実に進めている。

以上のことから、基準Aを満たしていると判断できる。

## 基準 B. 国際交流の推進

### B-1 国際交流の推進

#### B-1-① 国際交流にむけた取り組み

##### (1) B-1 の自己判定

「基準項目 B-1 を満たしている。」

##### (2) B-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

###### (ア) 概要

「群馬パース大学国際交流センター規程」に基づき、本学に国際交流センターを置いている。国際交流センターは、海外の高等教育機関・医療機関等との学術・文化の交流及び国内での国際交流を通じて教育研究の充実・発展を図り、国際的視野を持ったリーダーシップのとれる保健医療専門職の育成を目的とする。

「群馬パース大学海外研修補助規程」第 2 条に基づき、本学が許可した研修に限り海外研修費用の一部を補助する。補助については、本学学生一人当たり在学中一回限りとし、本学が許可したプログラム費用の 4 分の 3、但し上限 20 万円までとしている。

本学の目的に「国際社会に貢献する」という文言が含まれていることから、本学では国際交流を積極的に推進している。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界規模での感染拡大のため、予定していた海外に赴く研修ができなくなり、令和 2（2020）年度の国際交流は、協定を締結している以下の大学とオンラインによる研修を実施した。

##### 1) 海外の大学との協定

###### ①ハワイ大学（アメリカ ハワイ）との協定

協定名「STUDENT CONFERENCE ON HEALTH PROFESSIONS IN USA Gummapaz College John A.Burns School of Medicine（JABSOM）」

###### ②リンカーン大学（マレーシア クアラルンプール）との協定

協定名「AGREEMENT FOR ACADEMIC EXCHANGES AND COOPERATION BETWEEN Lincoln University college, Malaysia AND Gunma Paz University, Japan」

##### (イ) 協定を締結している大学への訪問

###### 1) ハワイ大学

ハワイ大学との協定に基づき、希望者を募りアメリカ ハワイ研修を例年実施している。令和 2（2020）年度の訪問はコロナ禍のため、研修生の募集を行う前に中止とした。

###### 2) リンカーン大学

リンカーン大学との協定に基づき、理学療法学科の希望者（2～3 学年）を対象にマレーシア クアラルンプール研修を例年実施している。しかしながら、令和 2（2020）年度はコロナ禍のため、前年度と同様に研修の催行を中止とした。

## (ウ) 協定を締結している大学とのオンライン研修の実施

コロナ禍のため、令和2（2020）年度は、上記（イ）の協定校訪問の代わりに、オンラインによる研修を実施した。なお、前年度、コロナ禍のため研修が中止となり申し込みをされていて参加できなかった学生に対し、オンラインによる研修に優先して参加可能とする配慮を行った。

### 1) ハワイ大学とのオンライン研修

日 時：2021年3月2日（火） 9:00～12:00

場 所：1号館8階 PAZ Hall

演 者：町 淳二氏（ハワイ大学医学部外科教授）

Yuka Hazam 氏（Global Nursing Education and Consultation 所属）

演 題：Global Nursing アメリカの看護と異文化対応看護について

参加者：学生 77 名（Ns2 年 75 名、RS2 年 1 名、CE2 年 1 名）、教員 12 名

内 容：・ハワイの現状・一般情報について（JTB）

- ・グローバルスタンダードケアとは（Dr.Machi）
- ・アメリカの看護師と連携医療について（Yuka Hazam,RN）
- ・異文化対応看護について（Yuka Hazam,RN）
- ・アメリカ看護学生との交流

オンライン研修終了後、学生に実施したアンケート結果（回答者数：57 名 回答率：74%）は、「非常に良かった」27 票（47.4%）、「まあまあ良かった」24 票（42.1%）、海外の活動に対する関心について、「非常に関心が高まった」20 票（35.1%）、「まあまあ関心が高まった」29 票（50.9%）、今後の国際交流に係わる講演の参加希望については、「強く希望する」7 票（12.3%）、「やや希望する」37 票（46.6%）であった。

### 2) リンカーン大学とのオンライン研修

日 時：2021年3月11日（木） 13:00～18:00

場 所：1号館8階 PAZ Hall

演 者：Ravi Kumar 氏

演 題：マレーシアの医療システムと理学療法役の役割

参加者：学生 34 名（PT2 年 8 名、PT3 年 18 名、RS2 年 1 名、CE2 年 1 名、オンライン参加 PT3 年 6 名）、教員 14 名

内 容：・JTB KUL によるオンライン観光の動画

- ・Introduction & brief talk of Life, Culture & Environment in Malaysia done by CEO of Lincoln University.
- ・Video show of Lincoln University campus.
- ・Introduction of education of physiotherapy, done by Dr Ravi or the team.
- ・Lecture of Roles & Activities of Physiotherapy as Malaysian medical system, done by Dr.Ravi or the team
- ・Effect of Swiss Ball & Thera Band Exercise Training in Physiotherapy

## - Practical Session, done by Dr. Ravi or the team

オンライン研修終了後、学生に実施したアンケート結果（回答者数：15名 回答率：44%）は、「非常に良かった」5票（33.3%）、「まあまあ良かった」9票（60%）、研修受講後の海外の活動に対する関心について、「非常に関心が高まった」6票（40%）、「まあまあ関心が高まった」6票（40%）、今後の国際交流に係わる講演の参加希望については、「強く希望する」6票（40%）、「やや希望する」37票（64.9%）であった。

### （カ）国際交流センター主催特別講演

国際交流センターでは、国内においても保健医療分野の国際的な繋がりを学生に意識させるため、平成 28（2016）年度より国際交流センター主催の特別講演を例年開催しており、以下の特別講演は 5 回目の開催となる。コロナ禍のため、スウェーデンと本学間でのオンラインによる講演を実施した。

令和 2（2020）年度に実施したエーミル・オストベリ氏（スウェーデンクオリティケア所属）による講演の詳細について以下に示す。

日 時：2020 年 11 月 24 日（火） 18:10～19:30

場 所：1 号館 8 階 PAZ Hall

演 者：エーミル・オストベリ氏（スウェーデンクオリティケア所属）

演 題：スウェーデンの医療と福祉 高齢者・障害者におけるノーマライゼーションについて

受講者：学生 35 名（Ns8 名、PT6 名、MT13 名、RS6 名、CE2 名）、教員 26 名

講演終了後、学生に実施したアンケート結果（回答者数：28 名 回答率：70%）は、「非常に良かった」23 票（82.1%）、「まあまあ良かった」5 票（17.9%）、海外の活動に対する関心について、「非常に関心が高まった」17 票（60.7%）、「まあまあ関心が高まった」11 票（39.3%）、今後の国際交流に係わる講演の参加希望については、「強く希望する」14 票（50%）、「やや希望する」14 票（50%）であった。

### （3）B-1 の改善・向上方策（将来計画）

「国際社会・地域社会に貢献する」ことを目的とする本学は、今後も国際交流活動を推進する。国際交流センターは、平成 28（2016）年度に設立された学内組織であり、センター長の強いリーダーシップのもと本学の国際交流活動を推進している。

本学と海外の大学との協定については、現状では学術交流や学生間交流等の協定を締結している海外の大学が 2 大学と多くない状況である。そのため本学の各学科に合わせた大学間協定を今後締結し、学生の有益となる海外研修プログラムを作成していかなければならない。

平成 30（2018）年度より訪問しているカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校との MOU（基本合意書）締結に向けて、令和元（2019）年度のロサンゼルス研修には、本学から国際交流センター長と看護学科長が同行する予定であったが、コロナ禍のため訪問は取

りやめとなった。また、同年度のマレーシア研修では、協定校であるリンカーン大学との単位互換制度に係わる協定の改定のため、理学療法学科長が研修に同行する予定であったが、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校と同様に、コロナ禍のため訪問ができず現在に至っている。しかしながら、アフターコロナの国際交流がスムーズに展開できるよう、引き続き協定の締結や改定の業務は継続する。また、本学の学生が協定を締結している大学に赴く研修だけではなく、海外からの学生を受け入れる体制も構築する必要がある。単位互換や教員間の研究に係わる交流も推進する必要がある。

### **【基準 B の自己評価】**

海外研修においては、大学間協定を締結している大学の訪問を中心とした研修プログラムを実施しているが、令和 2（2020）年度については、コロナ禍のため前年度と同様に全ての研修プログラムが中止となった。しかしながら本学の国際交流事業が衰退しないよう、本学と協定を締結しているアメリカのハワイ大学と、マレーシアのリンカーン大学とオンラインによる研修を実施した。その際、前年度現地に赴く予定であった学生については、優先してオンライン研修に申込みができるよう配慮した。

大学間協定については、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校との MOU（基本合意書）の新規締結や、リンカーン大学と本学との単位互換制度に係わる協定の改定に向け引き続き注力する。

オンラインで行われた国際交流センター主催の令和 2（2020）年度の特別講演は、令和元（2019）年度中止となったスウェーデン研修に携わっていた現地の演者による特別講演を実施した。スウェーデンの医療と福祉高齢者・障害者におけるノーマライゼーションを学ぶことができ、コロナ禍ではあるが学生の海外の知見を広める良い機会となった。

以上のことから、基準Bを満たしていると判断できる。



第 2 部  
教育研究年報  
(2020 年度)

## 教育研究年報の背景

本学においては 2005 年度より、医療系高等教育機関としての質の向上を図る活動の一環として、本学の教育活動と研究活動の実績を社会に公表し、社会的責任を果たすことを目的に「群馬パース大学年報」を年 1 回発行してきた。

この年報については、発行以来何度か見直しを行い、(1) 各領域の教育活動の総括、(2) 教育活動の諸記録、(3) 研究活動の諸記録、(4) FD 活動の記録、(5) 学生サービスの記録、の内容を掲載してきた。

2018 年度からは上記 (1) (4) (5) の内容を自己点検評価書に組み入れ、(2) (3) の内容を「群馬パース大学教育研究年報」として、「教育活動の記録」及び「研究活動の記録」の 2 部で構成し、自己点検評価書とともに毎年度作成・公表している。

### I. 教育活動の記録

教育活動の記録は、各専任教員が担当した科目において実施内容とシラバスとの対応性、授業の方法、使用した教材、成績評価における学習目標の到達度の測定などを教育実績として収集したデータである。

個人、また各学科で毎年教育実績を振り返ることで改善の促進をはかり、PDCA サイクルを機能させることで、大学に求められる役割の一つである「学生の教育の充実」に対する継続的な教育活動の質の向上に繋げ、教育面での自己点検の一環として、一つの指標となっている。

本年度、各専任教員が担当した学部、大学院の各科目の実施内容とシラバスの対応性は、コロナ禍においても全体で 86.6%の科目でシラバス通りに講義が進められており、成績評価における学習目標の到達度の測定においては全体で 98.9%の科目において的確に測定できているという結果となった。



看護学科 教育活動の記録（専任教員）

授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位数	単位認定者	実施内容とシラバスの対応性		授業の方法							使用した教材					成績評価方法			成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか																	
						選択	備考	講義	個人課題	グループ課題	討論	実技・実習	メディアの利用	その他	教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR	その他	定期試験	授業内試験	レポート・課題	その他	選択	備考														
基礎看護学特論	4	後期	選択	1	上星 浩子	シラバスに沿って実施した		○		○	○						○	○	○			文献			○	プレゼン	できた													
成人看護学概論	1	後期	必修	1	萩原 英子	シラバスに沿って実施した		○	○																○		できた													
成人看護学総論	2	前期	必修	1	萩原 英子	シラバスに沿って実施できなかった	新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、授業の方法を一部変更した	○	○																			○	できた											
成人看護方法論Ⅰ	2	後期	必修	1	堀越 政孝	シラバスに沿って実施した		○	○		○																		○	できた										
成人看護方法論Ⅱ	3	前期	必修	1	金子 吉美	シラバスに沿って実施した		○	○																					○	できた									
周手術期看護論	3	前期	必修	1	萩原 英子	シラバスに沿って実施できなかった	新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、講義順を一部変更した	○	○																				○	できた										
クリティカルケア看護論	3	前期	必修	1	堀越 政孝	シラバスに沿って実施した		○	○		○	○																			○	できた								
成人看護学演習	3	前期	必修	1	金子 吉美	シラバスに沿って実施した		○	○		○	○																				○	できた							
救急法	3	前期	選択	1	小池菜穂子	シラバスに沿って実施できなかった	COVID-19のため開講日時が変更となり2日間の集中講義となったため	○																								○	できた							
成人看護学特論	4	後期	選択	1	萩原 英子	シラバスに沿って実施した		○	○		○																						○	できた						
老年看護方法論Ⅰ	2	後期	必修	1	星野 泰栄	シラバスに沿って実施した		○																									○	できた						
老年看護方法論Ⅱ	2	後期	必修	1	清水美和子	シラバスに沿って実施した		○	○																									○	できた					
老年看護学演習	3	前期	必修	1	清水美和子	シラバスに沿って実施した		○	○																										○	できた				
小児看護学総論	2	前期	必修	1	中下 富子	シラバスに沿って実施した		○	○																										○	できた				
小児看護方法論	2	後期	必修	1	内山かおる	シラバスに沿って実施した		○	○																										○	できた				
小児看護学演習	3	前期	必修	2	内山かおる	シラバスに沿って実施した	一部修正	○	○	○	○	○																							○	できた コロナで一部修正が必要であったがほぼできた				
小児看護学特論	4	後期	選択	1	中下 富子	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																								○	発表（方法と内容）できた				
母性看護学総論	2	前期	必修	1	中島久美子	シラバスに沿って実施した		○																											○	できた				
母子の健康支援	2	前期	必修	1	早川 有子	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																									○	できた			
母性看護学特論	4	後期	選択	1	早川 有子	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																									○	できた			
精神保健	2	前期	必修	1	西川 薫	シラバスに沿って実施した		○	○																												○	できた		
精神看護学総論	2	前期	必修	1	西川 薫	シラバスに沿って実施した		○																													○	できた		
精神看護方法論	2	後期	必修	1	西川 薫	シラバスに沿って実施した		○																													○	できた		
精神看護学演習	3	前期	必修	1	西川 薫	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																											○	できた	
精神看護学特論	4	後期	選択	1	西川 薫	シラバスに沿って実施した		○	○																												○	できた		
在宅看護方法論Ⅰ	2	後期	必修	1	山野えり子	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																											○	できた	
在宅看護方法論Ⅱ	3	前期	必修	2	山野えり子	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																											○	できた	
臨床看護管理学	4	前期	必修	1	萩原 一美	シラバスに沿って実施した		○	○																												○	定期外だが授業内ではない できた		
災害看護論	3	前期	必修	1	矢島 正栄	シラバスに沿って実施した		○	○																												○	できた		
公衆衛生看護学概論	2	後期	必修	2	矢島 正栄	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																											○	できた	
公衆衛生看護方法論	2	後期	選択	2	廣田 幸子	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																											○	できた	
公衆衛生看護技術演習	4	前期	選択	1	桐生 育恵	シラバスに沿って実施できなかった		○	○	○	○																										○	できた		
公衆衛生看護活動展開論	4	前期	選択	2	小林亜由美	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																											○	できた	
対象別公衆衛生看護活動Ⅰ	3	前期	選択	1	桐生 育恵	シラバスに沿って実施できなかった		○	○																												○	できた		
対象別公衆衛生看護活動Ⅱ	3	前期	選択	1	廣田 幸子	シラバスに沿って実施できなかった	授業開始が変更になったため	○																														○	できた	
公衆衛生看護管理	4	前期	選択	1	矢島 正栄	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																											○	できた	
助産学概論	4	前期	選択	1	早川 有子	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																											○	できた	
助産基礎医学	4	前期	選択	1	早川 有子	シラバスに沿って実施した		○	○	○	○																											○	できた	
母子と家族の心理・社会学	4	前期	選択	1	中島久美子	シラバスに沿って実施した		○	○																													○	できた	
分娩期助産診断技術学	4	前期	選択	2	中島久美子	シラバスに沿って実施した		○	○																													○	できた	
助産診断技術学演習	4	前期	選択	2	中島久美子	シラバスに沿って実施した		○	○																														○	技術試験 できた

































## Ⅱ. 研究活動の記録

研究活動の記録は、専任教員の研究活動状況について収集したデータである。

研究活動状況を広く社会へ公表することにより、地域の方々と連携した生涯学習や課題解決に取り組んだり、企業等との受託研究や共同研究などのかたちで研究成果の社会還元を促進したりすることを通じて、大学の目的である「地域社会への貢献」を恒常的に実施し、定着させることを目的としている。また、個人で毎年研究実績を振り返ることによりPDCA サイクルを機能させ、研究活動の推進と質の向上を図っている。

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 看護学科 氏名 矢島正榮

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
20-50歳代男性のメタボリックシンドロームに関わる認識、生活環境、保健行動の年代間比較	共著	(2020年12月受理)	群馬バース大学紀要 第26号	メタボリックシンドロームに関する認識、生活環境、保健行動の年代別の特徴を明らかにすることを目的とし、関東地方1県内の20 - 50歳代男性304人を対象にヘルスビリーフモデルを枠組みとする質問紙調査を実施した。有効回答184件、年代間の差は罹患性と重大性の認識8項目中4項目、有益性と障害の認識7項目中2項目、行動のきっかけ8項目中3項目、専門家の支援2項目中2項目でみられ、特に20歳代と各年代の間に差がみられた項目が多かった。生活環境4項目、知識4項目はいずれも差はみられなかった。20 - 30歳代に対する知識の提供および専門家の支援を受ける機会の確保の必要性が示唆された。 (橋本いずみ、矢島正榮)

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
産業看護職による発達障害者支援のプロセス	—	2020年5月	第93回日本産業衛生学会	発達障害者支援のプロセスを明らかにすることを目的に産業看護職10名を対象に半構成的面接法を用いてインタビューを行い、質的帰納的に分析した。結果、9コアカテゴリーが生成された。産業看護職は発達障害者支援を職場でのトラブル解決への支援としてとらえ、本人と上司、人事労務担当者や産業保健スタッフの事業場内支援者と共に、支援方針に応じて医療機関、専門支援機関や家族と協働していた。また、就労継続を可能にする本人への直接支援に加えて上司や家族による本人支援へのサポート、事業場内外の支援者の調整など事業場における支援体制整備に向けた支援がなされていた。産業看護職には個別支援と共に支援体制整備に向けた多様な力量が求められることが示唆された。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) (廣田幸子、矢島正榮、奥野みどり、小林亜由美)
保育所、認定こども園における発達障害児等の保育の現状と連携の課題	—	2020年8月	日本地域看護学会 第23回学術集会、誌上发表	保育所等における発達障害児等の保育の現状を明らかにし、連携の課題を検討することを目的に、発達障害児等の保育に携わる保育士12名に半構造化面接を実施し、質的に分析した。その結果、各施設は子どもの特性の理解、保育の工夫、保護者への支援、支援機関の確保等を独自の努力で行っており、施設の力量による差が生じる可能性が示唆された。 (主たる研究者) (矢島正榮、奥野みどり、廣田幸子、小林亜由美、桐生育恵)
1歳6か月児健康診査における社会性の発達評価に関する実態	—	令和2年12月25日-令和3年1月24日 (オンライン開催 誌上发表)	第9回日本公衆衛生看護学会学術集会	発達評価を目的とした行動観察スキルの活用の実態を明らかにするため、行動観察スキルアップ研修会に参加した市町村保健師57人を対象に、自記式質問紙調査を実施した。保健師の行動観察スキルの評価は、1.6健診時期に重要な指差し、共同注意において低く、評価の活用は保健指導において全数を満たしておらず、保護者の思いや希望を聞き取り、具体的な関わり方を示す等支援の割合も6割にとどまっていた。1.6健診から継続的な支援の開始に向け、発達評価やその結果を反映した支援のスキルの必要性が明らかになった。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) (奥野みどり、小林亜由美、廣田幸子、矢島正榮)

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 看護学科 氏名 早川有子

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
45 助産学実習への効果的な移行を目指した妊娠期シミュレーション教育の学習効果と課題 (査読付)	共著	令和2年	群馬パース大学紀要第25号	妊娠期シミュレーション教育を通じた学びの内容、助産学実習に活かされた内容を明らかにし、助産学実習への効果的な移行を目指した妊娠期シミュレーション教育の学習効果と今後の課題を検討することを目的とした。その結果、妊娠期シミュレーション教育後の学び及び助産学実習で活かされた内容は、「基本的助産技術」「コミュニケーション技術」「助産師のアイデンティティであった。(共同研究により本人担当部分抽出不可能)(中島久美子、広瀬文乃、臼井淳美、早川有子)
46 Feelings of older Japanese primiparous couples and satisfaction of older primiparous wives with their husbands' support during pregnancy: Focus on the perceptions of pregnant couples (査読付)	共著	令和2年	Nursing Open published by John Wiley & Sons Ltd	Aim: This study was to explore the feelings of older primiparous wives and husbands and satisfaction of older primiparous wives with their husbands' support during pregnancy. Design: This study is a qualitative research design based on the characteristics of clarifying the recognition of older primiparous couples. Methods: Participants were eight older Japanese primiparous couples. Older primiparous couple's feeling and support by husband during pregnancy were elected using semi-structured interviews. The analysis was used by content analysis method. Results: Two categories of the couples' feeling during pregnancy included "Mental stress and physical burden associated with older age" and "Richness and strong will to actively accept the older age." Three categories of the husbands' support for wives' satisfaction included "Empathy regarding the older primiparous wives," "physical and mental health" and "Cooperation of housework with husband." This study has greatly contributed to nursing support for marital relationships. (Kumiko Nakajima   Atsumi Usui   Yuko Hayakawa)。 (共同研究により本人担当部分抽出不可能)

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
47 高校生の将来の乳児栄養に対する意思とその関連要因(査読付)	共著	令和2年	日本母乳哺育学会14巻1号p27-38	高校生の将来の乳児栄養に対する意思とその関連要因を明らかにすることが目的である。高校生682人を対象に、将来乳児を母乳で育てたいか、お母さんの意思とその関連要因について無記名自記式質問紙調査を行った。結果、高校生の約6割が母乳で育てたいという積極的な意思を持っていた。乳児栄養に関する経験と知識には関連がみられた。積極的群は消極的群に比べて母乳栄養に降雨艇的な感情・考え方を持っている一方で、母乳育児は大変そうだと思っていた。(共同研究により本人担当部分抽出不可能)(荒井基子、早川有子、中島久美子)
48群馬県A氏の保育施設における母乳育児支援の実態(査読付)	共著	令和2年	群馬パース大学紀要第25号	群馬県A氏の1歳未満の乳児の受け入れに関わっている保育施設における母乳育児支援に関する実態を明らかにすることを目的とした。対象は保育施設90の代表者に依頼した。その結果、回答が得られたのは47施設(51.1%)だった。結論策母乳をあづかっている施設は14施設(29.8%)、搾母乳を預からない理由の多くは「母親のニーズがない」、母乳育児に関する学習会を希望している保育施設が35施設(74.5%)と多かった。(共同研究により本人担当部分抽出不可能)(臼井淳美、中島久美子、早川有子)

## その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
83. 職場のマタニティハラスメントが妊婦の心身に及ぼす影響	—	令和2年	第22回日本母性看護学会	職場のハラスメントについて、勤労女性の背景によるマタハラ被害の有無の差と、妊娠中にマタハラ被害を受けた女性の被害前後の心身の自覚症状の変化と被害状況を明らかにすることを目的とした。その結果、女性の背景とマタハラ被害の有無に関連はなかった。被害を受けた30名(17.4%)は妊娠初期に上司の男性から居心地の悪い職場環境の被害等を受けていた被害前後の自覚症状で有意差のあったものは、15項目中、10項目であった。(広瀬文乃、中島久美子、早川有子)
84. 妊娠中のマタニティハラスメント被害を受けての想いと被害時の対処	—	令和2年	第34回日本助産学会学術集会 久留米大学医学部看護学科	妊娠中にマタハラ被害を受けた女性がどのように思い、対処を行ってきたかを明らかにすることでマタハラ被害に対する助産支援を検討することを目的とした。その結果、職場の上司、同僚からは「妊娠のために何が起るかわからないと仕事を任せてもらえない」「急に休まれたら困ると業務を任せてもらえない」等があった。(広瀬文乃、中島久美子、臼井淳美、早川有子)
85. 高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性を強化するプログラムの実践・産後プログラムの評価	—	令和2年	第34回日本助産学会学術集会 久留米大学医学部看護学科	高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性を強化するプログラムを実践し、プログラムの評価を行うことを目的とした。今回は産後プログラムの評価を検討した。その結果、プログラムの評価は妻の心身の負担への理解、妻への夫の関りの重要性の理解、良好な夫婦コミュニケーションの活用への期待について夫婦ともに評価が高かった。プログラム全体の満足度についても概ね高得点であった。(中島久美子、広瀬文乃、臼井淳美、早川有子)



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科                      氏名                      上星 浩子

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要
CKD看護ケアガイド	共著	2020年 7月	東京, 照林社	A4版 全130 第3章 CKD各ステージ別にみた患者のからだ・こころ・社会への影響 ②高度低下から末期腎不全 a 食事・内服管理が必要な人のからだ・こころ・社会への影響 P. 75-81  上星浩子
CKD看護ケアガイド	共著	2020年 7月	東京, 照林社	A4版 全130 第3章 CKD各ステージ別にみた患者のからだ・こころ・社会への影響 c 尿毒症症状を有する人のからだ・こころ・社会への影響 P. 89-94  木村和美, 上星浩子

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
看護アセスメント能力の概念分析	共著	2020年 7月	日本保健医療行動科学会雑誌 2020 Vol. 35 No. 1 P. 30-43	看護アセスメント能力についてRodgers法を用い概念分析を行った。先行文献より5つの属性、1つの先行要因、3つの帰結が抽出された。看護アセスメントの定義は「専門的知識や過去の経験を有効活用しながら、対象の情報をプロセスの中で繰り返し、収集し、見極め、推論したことを表現する能力である」と結論付けた。  川島美佐子, 岡美智代, 上星浩子



その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
医療的セルフケアが必要な患者の退院支援における看護師の役割－IMCHBを用いた看護アセスメント	共著	2020年1月	日総研出版、月刊ナースマネジャー	医療的セルフケア支援のためのアセスメントおよび看護介入の有用なツールとして、クライアントの保健行動相互作用モデルを紹介した。  本井裕二，岡美智代， <u>上星浩子</u> ，木嶋千枝，松本光寛
入院支援における必須の視点 在宅療養・セルフケア支援の最前線 第4回 ストレングスモデルの活用と多職種連携	共著	2020年2月	日総研出版、月刊ナースマネジャー	セルフケアはその人が自己決定をしたうえでの自己管理であり、在宅においてセルフケアを継続するためにはその人の持てる力を信じて支援する必要がある。よって退院支援の実際を踏まえ、患者の強みを生かしたストレングスモデルと多職種連携について紹介した。  <u>上星浩子</u> ，岡美智代，本井裕二，木嶋千枝，松本光寛
入院支援における必須の視点 在宅療養・セルフケア支援の最前線 第5回 ～アドバンス・ケア・プランニングと病みの軌跡理論による二つの視点	共著	2020年3月	日総研出版、月刊ナースマネジャー	予定外の再入院を防ぐため対策として「健康状態・病気のステージに応じたACPの類型」1)と病みの軌跡理論について紹介した。  木嶋千枝，岡美智代，本井裕二， <u>上星浩子</u> ，松本光寛
入院支援における必須の視点 在宅療養・セルフケア支援の最前線 第6回 心不全患者の最期を守る－その人らしさを支える意思決定支援・エンドオブライフケア	共著	2020年4月	日総研出版、月刊ナースマネジャー	特徴的な病期を迎える心不全患者の背景を踏まえ、意思決定支援・エンドオブライフケアについて紹介したいかなる疾患の終末期においても、患者の思いを尊重し意思決定支援を行う必要について述べた。  松本光寛，岡美智代，本井裕二， <u>上星浩子</u> ，木嶋千枝
2年目看護教員が授業VTRを通して知覚したこと（査読あり）	—	2020年10月～オンライン開催	日本看護学教育学会学術集会	看護教員の授業実践能力は必要不可欠な能力である。本研究の目的は初任期にある看護教員が自己の授業実践をどのように知覚しているかを明らかにすることである。結果、「授業実践の実情を再確認する」「看護教員としての自分を自覚する」の2つのカテゴリが抽出された。2年目教員は授業の中で必要なポイントが伝えられないもどかしさや授業案と実践のずれを認識しながら学生の反応に対応していた。  萩原一美， <u>上星浩子</u>
腎センター看護師が血液透析患者の自分史を知ることにより抱く感情－聞き書き活動で作成した血液透析患者の自分史を「読んでー」（査読あり）	—	2020年11月～オンライン開催	第23回日本腎不全看護学会学術集会	血液透析患者を対象に「聞き書き」活動を行い、作成した冊子を看護師が読み、今まで知らなかった患者の世界を知ること、患者や家族に対して抱く感情を明らかにすることを目的に自記式質問紙調査を行った。結果、【生活と共に生きている透析患者の理解】【透析看護への気づき】の2つのカテゴリが抽出された。  石倉美穂子・ <u>上星浩子</u>

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 看護学科 氏名 西川 薫

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
アクティブ 公衆衛生学 ラーニング	共著	2020年3月	株式会社ウイネット	公衆衛生学と関連分野（疫学、保健統計、法規、医療安全等）の国家試験対策を主眼としたアクティブ・ラーニング方式による教科書である。その中で日本の精神保健医療福祉政策の動向について歴史的連続性な観点から政策について述べた。 共著者：藤谷克己、瀧口 徹、石上和夫、宇田優子、平田幸夫、川原一郎、 <u>西川 薫</u> ほか8名

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
精神科認定看護師資格取得の期待と実際	共著	令和2年3月	新潟医療福祉学会誌 Vol. 19, No. 3 pp. 114-122	本研究は、精神科認定看護師（CEPN）の資格取得前の期待と取得後の評価を類型化し、専攻領域との関連を明らかにすることを目的とした。研究対象者は559名（回収率は50.3%）に28の質問項目の因子分析で得られた8因子と総合評価指標等の総計12の評価指標を目的変数として段階式重回帰分析を行った。その結果、CEPN専攻領域の評価指標の強弱との関連は一律でなく、精神看護経験年、学位（博士）、退院調整、精神科訪問看護、老年期精神障害看護が高度に有意であった。 共著者：西川 薫、高野晃輔、木下直彦、瀧口 徹
患者からの言葉の暴力によって傷ついた看護師の心のプロセス	共著	令和2年3月	新潟看護ケア研究学会誌 Vol. 6 pp. 1-8	本研究は、患者からの言葉の暴力によって傷ついた看護師の心のプロセスを明らかにすること目的とした。急性期病棟に勤務し患者から傷つく言葉を発せられた経験のある看護師5名に対して、フォーカス・グループ・インタビューを実施し修正版グラウンテッド・セオリー・アプローチに準じて分析した。分析の結果として、6つのカテゴリー、15のサブカテゴリー、40の概念、1つのコアカテゴリーが抽出された。看護師は、傷つきながらも患者のケア向上と自身の成長のために真摯に取り組んでいた心のプロセスとして明らかになった。 共著者：江部由恵、平澤彩子、上村正紀、石野みや子、樋山麻優子、 <u>西川 薫</u>

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
			134	

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科 氏名                      中下富子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論―理論と実践―第2版	共著	2021年3月 発行予定	東山書房	本書は養護教諭が児童生徒の「養護をつかさどる」専門職であり、その役割を果たすことを追及している。養護教諭養成の必修科目「養護概説」の教科書として広く用いられている。第1版以来好評を得て第2版が決定した。担当した「第11章特別支援教育と養護教諭（119p～126p）」の加筆修正に当たった。

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 看護学科 氏名 萩原 英子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
なし				

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
なし				

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
1. 成人期にある患者に対する ロールプレイング演習での学 生の学び-退院指導場面に焦 点をあてて-	共著	2020年9-11月	第46回日本看護研究学会 学術集会 北海道(web開催)	より効果的な演習方法の検討に向けて、ロールプレイング演習を通して学生が得た学びを明らかにすることを目的として、A大学看護学科3年生91名が作成した「ロールプレイング演習を通しての学び」のレポートを質的帰納的に分析した。結果、81名(回収率89.0%)のレポートが分析対象となり、学生の学びとして、[わかりやすい指導をすすめる大切さ] [患者の背景を踏まえた指導の必要性] [正確な知識や根拠に基づいた指導の必要性] [患者の理解に合わせた指導の必要性] [家族への指導の大切さ] [患者・家族を尊重した指導の大切さ] の6カテゴリーが形成された。学生は、患者と看護師両者の視点から患者指導の在り方に関する学びを得ていることが明らかとなった。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) (金子吉美、湯澤香緒里、安田弘子、佐藤亜紀、高橋翔、小池菜穂子、萩原英子、堀越政孝)
2. 若年女性がんサバイバーが 求めるピア・サポート	共著	2020年9-11月	第46回日本看護研究学会 学術集会 北海道(web開催)	若年女性がんサバイバーが必要としているピア・サポートを明らかにすることを目的として、A病院に通院中の診断時年齢が20～39歳である婦人科がん・乳がんのがんサバイバーで研究の同意が得られた12名に半構成的面接を行い、質的帰納的に分析した。結果、若年女性がんサバイバーが求めるピア・サポートの内容として、【ピアの体験を参考にがん治療に臨むため心身を整えたい】 【ピアとの関りで心を休めたい】、自分に近い状況のピアと関わることで共鳴したい】 【ピアと話しかうことでライフスタイルへの支障を解決していきたい】 が形成された。若年女性がんサバイバーがピア・サポートを獲得するための支援、ピアからの情報に翻弄されないための支援、若年女性同士のピア・サポートを推進するための支援の必要性が示唆された。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) (室田紗織、塚越徳子、京田亜由美、瀬沼麻衣子、堀越政孝、萩原英子、二渡玉江)

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 看護学科 氏名 廣田 幸子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
保育園・幼稚園・認定子ども園における「気になる子ども」と関わる保育士の現状と課題（査読付）	共著	令和2年1月	保育と保健	<p>保育士・幼稚園教諭の雇用形態と保育者の「気になる子ども」およびその保護者への支援の現状を明らかにするため、保育士・幼稚園等に勤務する保育者を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。272人から回答を得て、「気になる子ども」と関わっている保育者は84.9%であった。保育者の「気になる子ども」と保護者に向けての支援の取り組みは職種者雇用形態により差がみられた。保育者の気づきは早期支援を可能にするが、支援につなげる知識と技術が必要であり、支援の継続には雇用形態の違いからくる課題を認識しつつ、職員間のコミュニケーションの充実や研修等の体制整備の必要性が明らかになった。</p> <p>（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） （奥野みどり、廣田幸子、東泉貴子）</p>

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
産業看護職による発達障害者支援のプロセス	-	令和元年5月	第93回日本産業衛生学会	<p>本研究では産業看護職による発達障害者（疑いを含む、以下「発達障害者等」）の支援の現状と課題を明らかにすることを目的とした。日本産業衛生看護部会の会員を対象にして無記名自記式質問紙による調査を実施した。381人から回答を得て発達障害者等の支援経験がある者は約70%であった。産業看護職による発達障害者等の支援は、日常的に人事労務担当者と直属の上司との連携と、産業医等、産業保健スタッフと協働した発達障害者等本人及び職場の上司や同僚に対する個別的な対応を主としていた。発達障害者等に対する適切な配置や作業内容、職場の管理監督者に対する助言等の具体的な支援内容に関する課題があり、発達障害者支援専門機関による後方支援体制及び事業場として発達障害者等支援体制構築の必要性が示唆された。</p> <p>（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） （廣田幸子、矢島正榮、奥野みどり、小林亜由美）</p>

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 看護学科 氏名 中島久美子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
				特記事項なし

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
臼井淳美, 中島久美子, 早川有子. 群馬県A市の保育施設における母乳育児支援の実態調査「査読あり」	共著	2020	群馬パース紀要 vol. 25, pp. 41-47.	群馬県A市の保育施設における母乳育児支援に関する実態を明らかにした。結果、搾母乳を預かっている施設は29.8%であり、搾母乳を預からない理由は「母親のニーズがない」であった。母乳育児に関する学習会を希望している施設は74.5%であり、正しい情報と知識を希望していた。
新井基子, 早川有子, 中島久美子. 高校生の将来の母乳栄養に対する意思とその関連要因「査読あり」	共著	2020	日本母乳哺育学会誌 vol. 14, no1, pp. 27-38.	高校生の将来の母乳栄養に対する意思とその関連要因を明らかにするため実態調査を行った。結果、高校生の約6割が将来の母乳で育てたいという積極的な意思を持っていた。積極的意思には、母乳栄養に関する経験と知識に関連していた。
Kumiko Nakajima, Atumi Usui, Yuko Hayakawa THE HUSBANDS' FEELING AND SUPPORTIVENESS TO OLD PRIMIPAROUS WIVES' SATISFACTION DURING PREGNANCY 「査読あり」	共著	2020	Nursing Open vol. 00, pp1-9.	The old primiparous wives' feeling and perception regarding husbands' supportiveness during pregnancy were study. The purpose of this study was to explore husbands' feeling and supportiveness to old primiparous wives' satisfaction during pregnancy. Nursing care should focus on enhancing the intimacy of a couple, the family system, the realization of consciousness of parenthood toward an unborn baby.
中島久美子, 廣瀬文乃, 臼井淳美, 早川有子. 助産学実習への効果的な移行を目指した妊娠期シミュレーション教育の学習効果と課題 「査読あり」	共著	2020	群馬パース紀要 vol. 26, (12/18受理、印刷中)	助産学実習への効果的な移行を目指して妊娠期シミュレーション教育を行い、学習効果と課題を明らかにした。結果、妊娠期の基本的助産技術の獲得と知識の再確認、コミュニケーション技術の向上等の学習効果が示唆された。今後の課題として、事例や教授法の検討が必要である。
中島久美子, 早川有子, 臼井淳美. 親への移行期における高年初産婦の夫婦が認識する夫婦の関係性の変化 「査読あり」	共著	2020	群馬パース紀要 vol. 26, (12/18受理、印刷中)	高年初産婦の夫婦の親への移行期における、夫婦の関係性の変化を事例研究によって明らかにした。結果、8組の夫婦の関係性は、〈向上〉～〈やや低下〉の5タイプに分類された。特に〈低下〉タイプの夫婦への支援として、妊娠期から夫のサポートの重要性や親になる意識に働きかける支援、夫婦コミュニケーションを高める支援の重要性が示唆された。
廣瀬文乃, 中島久美子, 早川有子. マタニティハラスメント被害が妊婦の心身の自覚症状に及ぼす変化 「査読あり」	共著	2020	群馬パース紀要 vol. 26, (12/18受理、印刷中)	マタニティハラスメント被害が妊婦の心身の自覚症状に及ぼす変化を明らかにした。結果、就労中に妊婦がマタハラ被害を受けることにより、身体的・心理的な自覚症状を呈し、母子の健康状態に影響を及ぼす可能性が示唆された。妊婦がマタハラ被害を予防できるような助産支援が必要であると示唆された。

## その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
中島久美子，廣瀬文乃，臼井淳美，早川有子. 高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性を強化するプログラムの実践 - 産後プログラムの評価	共著	2020年3月	第34回日本助産学会 (新潟朱鷺メッセ)	高年初産婦の心身の健康状態と夫婦の親密性を強化する産後プログラムを実施し、その評価について発表した。
廣瀬文乃，中島久美子，臼井淳美，早川有子. 妊娠中のマタニティハラスメント被害を受けての想いと被害時の対処	共著	2020年3月	第34回日本助産学会 (新潟朱鷺メッセ)	妊娠中にマタハラ被害を受けた妊婦3名に面接を行い、マタハラ被害を受けての想いと被害時の対処について発表した。

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科                      氏名                      堀越政孝

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
1. 若年女性がんサバイバーが 求めるピア・サポート	共著	2020. 09. 29- 11. 08Web開催	第46回日本看護研究学会 学術集会	室田紗織, 塚越徳子, 京田亜由美, 瀬沼麻衣子, 堀越政孝, 萩原英子, 二渡玉江 目的) 若年女性がんサバイバーが必要としている ピア・サポートを明らかにする。方法) A病院に 通院中の12名を対象とし、面接データを質的帰納 的に分析した。結果) 95記録単位、14サブカテ ゴリ、4カテゴリ【ピアの体験を参考にがん治療に 臨むため心身を整えたい】【ピアとの関りで心を 休めたい】【自分に近い状況のピアと関わること で共鳴したい】【ピアと話し合うことでライフス タイルへの支障を解決していきたい】。必要な看 護支援として、ピア・サポートの獲得、情報に翻 弄されないための支援などが示唆された。 (共同研究のため担当部分抽出不可能)
2. 成人期にある患者に対する ロールプレイング演習での学 生の学び 退院指導場面に焦 点をあてて	共著	2020. 09. 29- 11. 08Web開催	第46回日本看護研究学会 学術集会	金子吉美, 湯澤香緒里, 安田弘子, 佐藤亜紀, 高橋 翔, 小池菜穂子, 萩原英子, 堀越政孝 目的) A大学の退院指導場面のロールプレイング 演習を通して学生が得た学びを明らかにする。方 法) 対象は看護学科3年生81名のレポート。学び の記述をデータ化し質的帰納的に分析した。結 果) 327文脈、6カテゴリ【わかりやすい指導を する大切さ】【患者の背景を踏まえた指導の必要 性】【正確な知識や根拠に基づいた指導の必要 性】【患者の理解に合わせた指導の必要性】【家 族への指導の大切さ】【患者・家族を尊重した指 導の大切さ】が抽出された。学生が学びを共有 し、より深められる演習方法を検討する必要があ る。 (共同研究のため担当部分抽出不可能)



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科 氏名                      佐藤 晶子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
なし				

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
なし				

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
なし				

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科                      氏名                      星野泰栄

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
なし				

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
なし				

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
なし				



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科                      氏名                      金子吉美

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概	要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概	要

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概	要
成人期にある患者に対するロールプレイング演習での学生の学び—退院指導場面に焦点をあてて—	—	2020年9～11月	日本看護研究学会 第46回学術集会, Web開催.	成人看護学演習において、胃切除術を受ける患者の事例を用い、退院指導場面のロールプレイングを実施した。学生はロールプレイングで、どのような学びが得られたのかをレポートを用いて、質的帰納的に研究を行い、発表した。 (金子吉美、湯澤香緒里、安田弘子、佐藤亜紀、高橋翔、小池菜穂子、堀越政孝、萩原英子)	

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属                      看護学科                      氏名                      堀込 由紀

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
該当なし				

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
該当なし				

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
1. Attributes of nursing personnel desired by nursing directors in Japan: Content analysis of open-ended questionnaires	-	2020/2/29	The 6th International Nursing Research Conference of world Academy of Nursing Science. Osaka International Convention Center.	[Purpose] To elucidate the attributes of nurses desired by hospital nursing directors in Japan. [Methods] Cross-sectional questionnaire survey by mail Question, Items: "What type of nursing personnel do you consider necessary in your facility? ", [Result] Classification: 8 categories , Sub classification: 29. categories . [Discussion] Nursing skills had the highest priority among nurse attributes required by nursing directors. This result reflects the fact that nurses' highly- specialized skills have been evaluated in recent medical fees. Nursing directors may desire motivation and independence in individual qualities , and sincere attitude to nursing. <u>Yuki Horigome</u> , Keiko Kunie , Ryohei Kida , Minako Sasaki , Yukie Takemura
2. Recruiting specialist and Senior nurses- Recruiting nurses with specific certification and nurses beyond retirement age: A survey in the medical care and elderly care facilities in Japan-	-	2020/2/29	The 6th International Nursing Research Conference of world Academy of Nursing Science. Osaka International Convention Center.	[Purpose] To investigate the healthcare facility managers' interest in recruiting and hiring nurses with specific certification and nurses beyond retirement age [Method] A cross-sectional survey questionnaire to hospitals, home-visit nursing providers, and elderly care facilities, chosen by random sampling across the country. [Results] All three types of facilities recruited specialists and nurses aged over 60. Although 13.0% of hospitals recruited specialists, only 4.9% indicated that they hired specialists. Few home-visiting nursing stations or care facilities reported hiring specialists. <u>Keiko Kunie</u> , Minako Sasaki , Ryohei Kida , <u>Yuki Horigome</u> , Masatoshi Saiki, Yuki Yonekura , Maho Inoue, Naoko Ichikawa, Yukie Takemura

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 指定インフォーマーショ ン・エクステンジ カテゴリ リ04組織運営・組織開発：看 護補助者の確保と効果的な活 用に向けた戦略「看護管理者 の組織的方略、看護師の協働 のあり方」報告及び議論	-	2020/8/28	第24回看護管理学会学術 集会, オンライン開催	令和二年度厚生労働行政推進調査事業費補助金事 業の助成を受け、「看護師と看護補助者の協働の 推進に向けた実態調査研究（研究代表者：坂本す が）」として実施した研究結果を活用して看護補 助者の確保や活用の実態を示し、看護管理者たち と課題を共有した。また、調査で明らかになった 看護補助者に関する多角的な組織的方略をふま え、今後の看護補助者の効果的な確保・活用戦略 について議論した。企画及び発表を担当した。堀 込由紀、坂本すが、佐々木美奈子、本谷園子、末 永由理、高橋陽子
4. 急性期病院における看護補 助者の活用実態	-	2020/8/28	第24回看護管理学会学術 集会, オンライン開催	看護師と看護補助者の協働の推進に向けた実態調 査研究として、Web調査を看護管理者に実施し、 急性期病院のデータを分析した。その結果、雇用 形態として非常勤雇用が多く、経験を不問にして いる傾向があり、入職後の教育研修の必要が高い 人材の採用をしている傾向があった。Web調査に 参画した。小笠原京子、佐々木美奈子、堀込由 紀、末永由理、本谷園子、白瀬紗苗、小澤知子、 駒崎俊剛、坂本すが
5. 看護補助者の活用～タスク シフトの視点から～	-	2020/9/26	第4回ヘルスケアダイ バーシティ学会 シンポ ジウム2多様な人材のマ ネジメント シンポジス ト	看護補助者に関して戦略的な組織活動をしている 6病院のヒアリングを行った結果を基に、看護補 助者の採用活動や業務内容、継続させるための戦 略とその結果が及ぼすケアへのインパクトについ て発表した。
6. 医療安全管理者の養成研 修に対するニーズ-FGIからみ えたこと-	-	2020/10/7	第22回日本医療マネジメ ント学会学術総会、みや こめっせ	医療安全管理者らの医療安全管理者養成研修に対 するニーズを把握し、今後の養成研修のあり方へ の示唆を得ることを目的とした。機縁法によって 選出し研究協力が得られた医療安全管理者に対し て、4～5人のグループを形成し、フォーカス・グ ループ・インタビューを実施し、質的に分析し た。、実務的な学習ニーズがあり階層的な研修の 必要性も示唆された。堀込由紀、佐々木美奈子、 中山純果、末永由理、本谷園子、駒崎俊剛、坂本 すが、宮崎久義
7. 急性期病院での直接ケアに おける看護師の看護補助者へ の指示に関する課題	-	2020年12月12 ～13日	第40回日本看護科学学会 学術集会、オンライン開 催	本研究では、患者に影響が大きい直接ケアに着目 して、看護師の看護補助者への指示出しに関する 課題を明らかにすることを目的とした。半構成面 接法による面接を実施し、質的記述的に分析し た。看護補助者の業務の調整や看護補助者が持つ 知識やスキルの把握、指示に関連した情報共有等 の課題があり、また、看護師は看護補助者との協 働に関して経験的にしか学んでいないということ から、看護補助者の能力把握や業務調整及び看護 師に対する体系的な教育が必要であることが示唆 された。堀込由紀、佐々木美奈子、末永由理、小 澤知子、本谷園子、白瀬紗苗、坂本すが

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 看護学科 氏名 内山 かおる

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
小児病棟実習中止に伴う代替え実習の取り組み	一	2020年10月20日	第1回 看護・助産教育支援フォーラム	COVIDにより小児病棟実習中止に伴い、学内における臨床実習疑似体験を計画実施・結果・評価の報告。実際の病棟実習時間にそつ9事例の展開、看護計画に基づくロールプレイに「小児病棟の日常場面」を付加した結果、小児実習・小児における倫理的課題の特性がとらえられていた。

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属      看護学科      氏名      清水美和子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
(著書)  1 「CKD(慢性腎臓病)看護ケアガイド」	共著	2020/6/30	株式会社 照林社	B5判 全140頁 担当部分：「第2章 CKD各ステージ別にみた看護 2：軽度から中等度 黄G1A2, G2A2, G3aA1)」 pp. 24-30. 「第3章 CKD各ステージ別にみた患者のからだ・ ところ・社会への影響 3：透析期 (G5D) e 血 液透析患者のバスキュラーアクセスが及ぼすから だ・ところ・社会への影響」 pp. 121-126. 編著者：岡美智代， 共著者：廣村桂樹，清水美和子，高橋さつき，板 谷真紀子，本井裕二，松元千恵子，石川恵，井手 段幸樹，上星浩子，五十畑昌代，福田愛，木村和 美，高津咲恵子，麓真一，丸山真美

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科                      氏名                      萩原 一美

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
新人看護師への看護師長の教育的支援の研究	単著	2020.3	群馬バース大学紀要	本研究は、看護師長が新人看護師へ行っている教育的支援の傾向と共通性を明らかにすることを目的とした。調査対象は全国の看護師長とし、教育的支援として30の質問項目を設定した。回答を「よく行っている」「時々行っている」「あまり行っていない」「全く行っていない」から1つを選択する調査を行った。682名（有効回答率87.5%）から回答が得られ、看護師長の新人看護師に対する教育的支援の傾向は「時々行っている」項目が28項目、「あまり行っていない」が2項目であった。看護師長が新人看護師へ行っている教育的支援は【評価とフィードバック】【看護技術習得のための協力体制】【安全な夜勤体制の調整】【指導者との対話】【勤務時間管理】の5つの共通性が抽出された。看護師長は新人看護師が、職場適応し、独り立ちできるような支援体制を意識した人的資源管理行動をとっていた

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 看護学科 氏名 桐生 育恵

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
保育所、認定こども園における発達障害児等の保育の現状と連携の課題	—	2020年8月	日本地域看護学会 第23回学術集会、 誌上発表	保育所等における発達障害児等の保育の現状を明らかにし、連携の課題を検討することを目的に、発達障害児等の保育に携わる保育士に半構造化面接を実施し、質的に分析した。その結果、各施設は子どもの特性の理解、保育の工夫、保護者への支援、支援機関の確保等を、独自の努力で行っており、施設の力量による差が生じる可能性が示唆された。（矢島正榮、奥野みどり、廣田幸子、小林亜由美、桐生育恵）
健康診査における血糖値検査の結果とその後の糖尿病の診断との関連	—	2020年12月	第5回 日本糖尿病・ 生活習慣病ヒューマン データ学会年次学術 集会、ハイブリット （福岡県福岡市・ ウェブ）	健康診査で血糖値の検査を受け、その後1年以内の糖尿病の診断の有無を調べ、その関連する要因を明らかにするとともに、糖尿病の診断の有無が翌年の検査の血糖値に及ぼす影響を明らかにすることを目的に調査を実施した。全国健康保険協会群馬支部の被保険者とその家族99,323人を分析した。その結果、血糖値の検査後に糖尿病の診断がある人とならない人の特徴は、検査の結果によって異なることが示唆された。検査で血糖値が高いことが確認された後に糖尿病の診断があった人では、診断後の治療の効果が示唆された。（大庭志野、佐藤由美、下田正宏、石関典子、村上博和、高木理、高橋啓、桐生育恵、齋藤貴之、林邦彦、石川麻衣、風間順子、松井理恵）

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科                      氏名                      安田 弘子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等 の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
成人期にある患者に対する ロールプレイング演習での学 生の学び—退院指導場面に焦 点をあてて—	共著	2020年9月	日本看護研究学会 第46回学術集会	胃切除術を受けた成人期にある患者を対象として ロールプレイング演習を通して、学生は、胃切除 術を受けた成人期にある患者に対して【わかりや すい指導をする大切さ】【患者の背景を踏まえた 指導の必要性】【正確な知識や根拠に基づいた指 導の必要性】など、患者と看護師両者の視点から 患者指導の在り方に関する学びを得ていた。今後 は、学生各々の学びの内容を共有するとともに、 さらに学びを深められるような演習方法を検討し ていく。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) (金子吉美、湯澤香緒里、安田弘子、佐藤亜紀、 高橋翔、小池菜穂子、萩原英子、堀越政孝)

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 看護学科 氏名 湯澤（池田）香緒里

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
成人期にある患者に対する ロールプレイング演習での学 生の学びー退院指導場面に焦 点をあててー	ー	2020年 9月～11月	日本看護研究学会第46回 学術集会 (Web開催)	成人看護学演習における退院指導場面のロールブ レイニング演習をした学生の学びを明らかにするこ とを目的に、学生91名を対象とし質問紙調査を実 施した。その結果、327コードから6カテゴリを抽 出した。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) (金子吉美、湯澤香緒里、安田弘子、佐藤亜紀、 高橋翔、小池菜穂子、萩原英子、堀越政孝)

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 看護学科 氏名 長嶺めぐみ

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
国際看護学入門第2版	共著	2020年8月	医学書院	IV 方法論 応用編 3 在日外国人の医療と看護の「医療通訳」に関する記述を執筆した。(P. 186-187)

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
医療通訳の実態と質向上に向けた課題 —群馬県における派遣型医療通訳の実施報告書を事例として— (査読あり)	共著	2020年	日本国際看護学会誌 第3巻第1号 (P. 32-42)	現在我が国の在留外国人の数は年々増加し、今後も外国人労働者の受入れ拡大に伴い、増加が見込まれている。また訪日外国人の数も増加し、観光地の病院などを患者が受診する機会も増えた。医療機関は国際化対応を迫られており、医療通訳の配置などが望まれる。しかし、現在日本には十分な数の医療通訳者はおらず、その教育面でも様々な課題を抱えている。本研究では、病院で行われている医療通訳の概要を明らかにし、質の高い医療通訳の提供に向けた養成上の課題を明らか調査を行った。

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
Contents necessary for training Japanese medical interpreters as seen from the implementation report of dispatch-style medical interpreters—Overview of dispatch-style medical interpreters in a certain prefecture— (派遣型医療通訳の実施報告書から見る日本の医療通訳養成に必要な内容 —ある県で行った派遣型医療通訳の概要—)	共著	2020年1月	23rd East Asian Forum of Nursing Scholars	Gunma Prefecture has a large number of overseas residents, so in the past, a call center was set up in Hospital A to provide medical interpreting services. This dispatch business was a pilot attempt and has been closed now and there is no call center in the hospital. However, overseas patients are also having medical examinations, and many of them need interpreters. The number of people from overseas has been increasing throughout Japan, and medical interpreters have been dispatched to various places. However, the actual situations of medical interpreter dispatch have not been sufficiently reported. Therefore, it is not clear that in what cases interpretation is highly needed. So clarifying the hospital interpreting needs in the reports of the medical interpreting and dispatch business in Gunma Prefecture, will help train interpreters who can respond to the needs of the hospital. 研究代表者: <u>Megumi Nagamine</u> 共同研究者: Yoshie Mori 共同研究につき担当箇所抽出不可能

その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
海外の基礎看護教育課程における国際看護学とは一文獻レビュー	共著	2020年11月	第4回日本国際看護学会 学術集会	2013年に看護師国家試験出題基準において【看護の統合と実践】の中に「国際化と看護」が設けられ、国際看護学は必修すべき科目となり、2017年学士過程「看護教育モデル・コア・カリキュラム」がカリキュラム作成の参考として示された。一方国際看護学の分野は多岐に渡り全ての国際看護分野を網羅できる人材の層は薄く、外部講師に科目をゆだねざるを得ないという状況もある。各校の独自性は当然尊重されるべきであるが、専門職の少ない国際看護学においてはカリキュラム構成要素の基本的共通理解を得ておくことは必要と考える。そこで日本の国際看護学教育の質向上のため海外ではこの学問をどのように捉えどのような能力を付与しようとしているのかを調べ、日本の国際看護学教育に関する知見を得ることを目的とした。 研究代表者：山田智恵里 共同研究者：長嶺めぐみ、大植崇、森淑江 共同研究につき担当箇所抽出不可能
国際看護学に関する教科書の構成要素	共著	2020年11月	第4回日本国際看護学会 学術集会	1996年の保健師助産師看護師養成所指定規則（以下指定規則とする）改定により、看護基礎教育では「国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考える内容とする。」ことが求められた。さらに2008年の改定の際には、「国際看護」の経験を有する講師による教育が提案され、上記の教育内容が国際看護と言う言葉と結びつくものであることが示された。現在では看護基礎教育において国際看護の教科書が次々と出版されているが、内容について基準とされているものはなく、編者の考えにより違いがある。しかし今後グローバル化の進展に伴い、国際看護学の重要性が増すことを考えると、内容の標準化が必要と考えられる。そのため、これまでにどのような内容が国際看護学の要素として提示されてきたか明らかにすることが標準化推進の鍵となる。本研究では、1996年の指定規則改訂以降に、国際看護（学）の教科書として使用されることを念頭に刊行されたと考えられる書籍の構成要素を明らかにすることを目的とした。 研究代表者：森淑江 共同研究者：長嶺めぐみ、山田智恵里、大植崇 共同研究につき担当箇所抽出不可能
日本における国際看護学教育で強化補完が必要な分野に関する文献検討	共著	2020年11月	第4回日本国際看護学会 学術集会	日本における国際看護学は、現在の指定規則では統合分野の中に位置づけられており、各校は授業に取り入れている。しかし、国際看護学関連の科目が全国で十分に教授されているとは言い難い。この状況の背景には、国際看護学で取り扱う内容が多岐にわたり、その全ての範囲を教授できる人材が少ないという特性がある。従って、多くの看護師養成機関において国際看護教育は限局されていると予測される。そのため、全国の看護師養成機関で教授の強化が求められている内容を明らかにし、その内容を補完する教材の作成が期待される。 そこで本研究では、日本における国際看護学教育に関する文献の検討を行い、その研究動向などから日本の国際看護学教育で強化・補完が必要な分野の示唆を得ることを目的とした。 研究代表者：長嶺めぐみ 共同研究者：大植崇、山田智恵里、森淑江 共同研究につき担当箇所抽出不可能

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科 氏名                      反町 真由

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 看護学科 氏名 廣瀬 文乃

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等 又は学会等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
14 妊娠中のマタニティハラスメント被害を受けての想いと被害時の対処	共同	2020年3月	第34回日本助産学会学術集会	妊娠中にマタハラ被害を受けてた女性がどの様に想い、対処を行ったのかを明らかにしマタハラ被害に対する助産支援を目的とした。妊娠中にマタハラ被害を受けた3名の妊婦に対しインタビュー調査をし、得られた内容を質的に分析した。結果、マタハラ被害を受けることで、妊婦は妊娠と就労の両立に対し否定的な感情を抱く事がわかり、助産師には情報提供等の対応が必要であると考えられた。
15 高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性を強化するプログラムの実践-産後プログラムの評価-	共同	2020年3月	第34回日本助産学会学術集会	高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性を強化するプログラムを実践し、プログラムの評価を行う事を目的とした。プログラムは講義と演習で構成した。夫婦6組12名から得られた自由記述データを質的に分析した。産後プログラムは夫婦の振り返りの場となり、夫婦の思いを交流させる場となっていた。



# 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科 氏名                      吉野めぐみ

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科 氏名                      佐藤美保

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科 氏名                      林 恵

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 看護学科 氏名 高橋 翔

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
成人期にある患者に対するロールプレイング演習での学生の学び—退院指導場面に焦点をあてて—	共著	2020年9月28日(月)～11月8日(日)	日本看護研究学会 第46回学術集会 Web開催	本研究では、より効果的な演習方法の検討に向けて、退院指導場面のロールプレイング演習を通して学生が得た学びを明らかにすることを目的とし、2019年度に成人看護学演習を履修したA大学看護学科3年生91名が作成した「ロールプレイング演習を通しての学び」のレポートから学びに関する文脈を抽出し、質的帰納的に分析した。結果は、学生の学びとして327の文脈が抽出され、〔わかりやすい指導をする大切さ〕〔患者の背景を踏まえた指導の必要性〕〔正確な知識や根拠に基づいた指導の必要性〕〔患者の理解に合わせた指導の必要性〕〔家族への指導の大切さ〕〔患者・家族を尊重した指導の大切さ〕の6カテゴリーが形成された。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 共著者：金子 吉美、湯澤 香緒里、安田 弘子、佐藤 亜紀、高橋 翔、小池 菜穂子、萩原 英子、堀越 政孝

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科                      氏名                      佐藤 和也

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
1 クライシスプラン作成過程における有効な看護師の介入－医療観察法入院対象者3事例の検討		平成21年5月	第5回司法精神医学会（於群馬県・前橋テルサ）	クライシスプラン作成過程における有効な看護師の介入を明らかにした。この研究は、医療観察法病棟に所属する看護師3名を対象に、半構造化面接法を用いて、データを収集し質的帰納的に分析した。結果は、看護師が、「対象者の気持ちに共感し、関係を構築する」「疾病教育と連動させ、注意サインを具体化・整理していく」などの介入を行っていることを明らかにした。 発表者：佐藤和也 共著者：佐藤和也、日向悦二、池田美穂子 本人担当部分：主たる研究遂行者
2 発達障害を持つ対象者への多職種チームアプローチ－医療観察法病棟における治療経験から－		平成22年2月	精神神経学雑誌, 112(2), 181, 2010	渡辺千鶴、佐藤和也、村杉謙次他 本人担当部分：計画立案、データの分析を担当した。
3 看護学実習中の学生自身による問題解決を支援する教員の教授活動		令和2年9月	日本看護学教育学会第30回学術集会	本研究の目的は、看護学実習中の学生自身による問題解決を支援する教員の教授活動を明らかにすることである。Berelson, B.の方法論を参考にした看護教育学における内容分析を適用し、全国の看護基礎教育機関に所属する教員974名に質問紙を配布し、229名から回答を得た。その結果、看護学実習中の学生自身による問題解決を支援する教員の教授活動を表す43カテゴリが形成された。 発表者：佐藤和也 共著者：佐藤和也、松田安弘、山下暢子、服部美香、金谷悦子 本人担当部分：研究計画の遂行、考察、執筆を担当した。

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属                      看護学科 氏名                      星野健

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 理学療法学科 氏名 中 徹

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
29 理学療法学生の初めての長期実習前レジリエンスと評価学実習でのストレスとの関連について (査読付)	共 著	令和2年 3月	リハビリテーション 教育研究 第26号 pp190-191	78名の3年次生の評価実習前にS-Hレジリエンス検査を,実習の後に心理ストレス反応測定尺度SRS-18を測定したところ,ストレスからの回復力を示すレジリエンス能力の程度が高くとも,ストレスの増減とは関連が弱いためレジリエンス能力はストレス発生の予防にはつながらないことが示唆された.ただし,総合レジリエンスはストレス反応の「無気力Jと弱い負の機関がみられることからレジリエンス能力が「無気力」になる程度の予測に役立つ可能性があることを示した.(考察について検討を加えた)鈴木学,北村達夫,北村達夫,浅田春美,橋口優,鳥海亮,中 徹.

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
15 遊ぶことの発達にあたり楽しく遊んで満足できますように	単 著	令和2年 12月	小児リハビリテーション vol.8 (13-14頁)	遊ぶことは、子どもの生活の中でも寝ることと食べることと同じくらい大切なことであることを再認識した。その上で、遊ぶことそのものを目的とする療育が必要であり、断じて遊びを手段してはならないことを強調した。

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 理学療法学科

氏名

高橋 正明

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 理学療法学科

木村 朗

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要
31 運動療法学	共著	令和2年(2020年)4月	メジカルビュー社	メジカルビュー社, 全320頁, 編集: 対馬栄輝, 分担執筆: 木村朗他19名。担当: 第8章1「代謝と運動療法(267頁～274頁)」。糖尿病や生活習慣病では, 正常な生体機能としての代謝の仕組みと運動が及ぼす代謝機能への影響、糖毒性による糖尿病発症の仕組みと、運動による改善の仕組みについて最新知見を加えて記述した。本書は, 運動療法を薬物療法と同じように用いる際に、生理学的・生化学的視点で理学療法の科学と技術の基本原則を初学者に理解しやすいように図解を加え、理学療法学のさらなる発展に貢献する人材を育成することを念頭に置きながら企画, 編集された教科書である。

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
63 Degree of Information Literacy and Accessibility to Information Utilization of Pre-collision Detection Support Technology for Blind Persons(査読付)※	単著	(令和2年)2020年3月	JJPHPT、ISSN2189-5899、No7. 1. pp1-6.	日本の郊外で暮らす失明者を対象として、情報リテラシーの程度が、対人衝突回避支援装置の使いやすさへ影響する程度を、対面調査を実施し分析した。両者の高い相関関係を認めたことを記述した。
64 Dose the Polymorphism of PGC-1α Influence the PWV of the Long-lived person born in the 1941s who Experienced a Rough Meal in Early Childhood?(査読付)※	単著	2020年9月	JJPHPT、ISSN2189-5899、No7. 2. pp1-5.	沖縄県本島北部に在住の1941年以降に生まれた85歳以上の高齢者20名を選択し、においてPGC1αの遺伝子多型性と血管硬度の関連性を分析した。多型正性の影響は尤度をを用いない分析では統計学的な有意性を示さなかったことを記した。
65 コホート研究に基づく地方在住の視覚障害者における自己健康づくりの自信の推移に及ぼす影響における情報リテラシーと加齢の関連性(査読付)※	単著	2020年9月	研究報告アクセシビリティ(AAC)、情報処理会誌、1-6	群馬県の郊外で暮らす視覚障害者のコホート研究の一環としてケースコントロールスタディとして情報リテラシーの程度が、健康づくりの自己効力感へ影響する程度を、5年間の推移について生存時間分析手法を用いて、対面調査を実施し分析した。両者の高い相関関係を認めたことを記述した。
66 Association Between Sarcopenic Obesity and Metabolic Syndrome in Adults: A Systematic Review and Meta-Analysis(査読付)※	共著	2020年2月	Curr Cardiol Rev. 16(2):153-162. (IF=1.35)	PubMedを含む主要な医学ジャーナルを用いて欧州肥満学会で議論されている、サルコペニア肥満の定義となる基準値の定義の明確化を目的としてシステムティックレビューを行った。7815論文が該当し、精査した結果25本の論文を抽出し、2019年時点でのサルコペニア肥満の基準値を示した。Khadra D, Maiwan, El, Ghow, Akira kimura, et-al. Curr Cardiol Rev. (英文)

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
67 A Categorizing the Motivations of Elderly with Disabilities in need of Nursing Care Unit for Physical Activity Using the Narrative Camera Method(査読付)※	共 著	2020年11月	JJPHT (3) ISSN2189-5899. pp1-7	75歳以上の施設入所要介護高齢者11名を対象とし、行動の動機の分析を目的として対面調査とデータの測定を実施した。胸部に着けたタイムラプスカメラ映像と、行動の動機を逐次聞きとりした情報を組み合わせた新開発のナラティブカメラ法を用いた。逐語録はテキストマイニングにより、単語の出現頻度から動機の分類を行った。身体活動の動機は生理学的欲求に基づくものと、非生理学的欲求に基づくものに分類され、さらに嗜好性活動と非嗜好性活動に分類されることを記述した。 「主として研究計画の立案、考察を担当」 Masaya Yanabe, Akira Kimura (英文)
68 施設入所要介護高齢者における身体活動の動機の違いが 脈波伝搬速度の悪化に及ぼす影響(査読付)※	共 著	2020年11月	日本公衆衛生理学療法誌、 ISSN2189-5899、7巻3号. pp25-30.	75歳以上の施設入所要介護高齢者を11名対象に脈波伝播速度に影響を与える行動の原因別特徴を明らかにする目的で研究を遂行した。ナラティブカメラ法を用い、身体活動の動機を生理学的欲求に基づく活動と非生理学的欲求に基づく活動の2つに分類し、それぞれ合計時間の中央値で多い群、少ない群の2群に分けた。結果として生理学的欲求に基づく活動、非生理学的欲求に基づく活動共に脈波伝搬速度に有意な差を示さなかった。運動療法の要素が及ぶ非生理学的欲求による活動リストを発見、または開発することが重要であることが示唆された。 「主として研究計画の立案統計処理、考察を担当」 田辺 将也, 鳥毛 正弘, 木村 朗
69 Relationship between motivation for physical activity and subjective well-being among the elderly who need institutionalized care(査読付)※	共 著	2020年11月	JJPHT、 ISSN2189-5899. pp. 31-37.	75歳以上の施設入所要介護高齢者を11名対象に身体活動の動機と人生観の関連性を明らかにする目的で調査を実施した。動機を4つに分類し、動機ごとの身体活動時間の合計時間の中央値で多い群、少ない群の2群に、日中の生理学的欲求に対し、非生理学的欲求に基づく活動が多い群において期待通りの生活水準を手に入れたという項目が有意に高く、好きな活動が多い群は、自分の人生は退屈と感じている項目が有意に高い結果となった。 「主として研究計画の立案、統計処理、考察を担当」 Masaya Tanabe, Masahiro Torige, Akira Kimura, (英文)
70 The effect of different motivations for physical activity on the amount of physical activity among the elderly who need nursing home care(査読付)※	共 著	2020年11月	JJPHT、 ISSN2189-5899	75歳以上の施設入所要介護高齢者を11名対象に身体活動の動機が及ぼす身体活動量の関連性を明らかにする目的で調査を実施した。動機を4つに分類し、動機ごとの身体活動時間の合計時間の中央値は日中の生理学的欲求の基づく活動が、非生理学的欲求に基づく活動に比べ身体活動量において有意に大きい結果になったことを示した。 「主として研究計画の立案、統計処理、考察を担当」 Masaya Tanabe, Masahiro Torige, Akira Kimura, (英文)

## その他（学会発表）

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の 名称	概 要
190 AIを用いた要介護高齢者の転倒歴推定に有効な身体活動課題における身体中心点加速度データ指標の開発、	単 著	2020年2月20日	日本疫学学会、京都大学（京都市）	AIを用いた要介護高齢者の転倒歴推定に有効な身体活動課題における身体中心点加速度データ指標の開発を行い、実装するために要介護高齢者でステップ動作をキャプチャーし、アバターを人工知能で描出させ、骨格モデルを推定の上、身体中心点を算出し、この値を転倒予測を試みたことを報告した。

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
191 沖縄県の健康長寿地域における高齢者の身体活動に関する研究	単 著	2020年2月29日	日本公衆衛生理学療法研究会、群馬県労使会館（高崎市）	沖縄県の健康長寿地域における高齢者の身体活動に関する研究の歴史と、健康余命を推定するための有効な指標の探索をコホート研究の一環として実施していることを報告した。
192 A study on the relationship between ergonomic factors, pulse wave velocity, and falling accidents in superaged people in Okinawa during simulated agricultural operations、	単 著	2020年10月4-7日	EAS（欧州動脈硬化学会） リスボン（ポルトガル、Web）	沖縄県大宜味村の超高齢者における脈波伝播速度に及ぼす身体活動特性の影響要因として、フルーツ（シーカーサー）の摘み取り動作における反復回数と上肢リーチの距離、動作遂行時の加速度に注目し、その程度を評価した。結果、摘み取り動作時の上肢のリーチの分散が脈波伝播速度と高い相関を示したことを報告した。
197 Does Motion-Induced Blood Pressure Variability Affect Pulse Wave Velocity and Endoglycation Product Relationships in Elderly People in the Okinawa Healthy Longevity Area, Japan?	共 著	2020年10月4-7日	EAS（欧州動脈硬化学会） リスボン（ポルトガル、Web）	沖縄県大宜味村の超高齢者における脈波伝播速度と最終酸生産物（AGEs）の関連性の程度を明らかにする目的で、90歳以上の20名の参加者のAGEsとPWVを測定した。結果、AGEsとPWVは高い相関を示したことを報告した。Tatsuo Kitamura, Akira Kimura
193 Predictors of Independent Living Activities in Elderly People Aged 90 Years and Older Living in Northern Okinawa, Japan, Using A Multi-Level Mixed-Effects Parametric Survival Model	単 著	2020年12月2日	ACRM（アメリカリハビリテーション医学会） アトランタ（USA、Web）	沖縄県大宜味村の超高齢者における健康余命を脈波伝播速度の悪化をイベント発生とみなし、その推定を5年間のコホート研究データを用いて多層パラメトリックパネルデータ分析をもとに、数理的モデルの作成を試みた。その結果、身体活動特性の影響要因として、伝統的な食習慣を有し、フルーツ（シーカーサー）の摘み取り動作における摘み取り動作時の上肢のリーチの分散が大きい場合、脈波伝播速度の悪化が防げていることを発見したこと報告した。
194 動画クリップ視聴後のテキストデータによる推定モデルを用いたコロナ禍で見学不可能な学生成績判定時の効果向上要因の特定	単 著	2020年10月4-7日	日本理学療法教育学会 埼玉県立大学（埼玉県、web）	動画クリップ視聴後のテキストデータによる推定モデルを用いたコロナ禍で見学不可能な学生成績判定時の効果向上要因の特定
195 地域在住高齢視覚障害者集団に対する健康づくり支援プログラムの課題、	単 著	2020年10月20-22日	日本公衆衛生学会 京都大学（京都市、web）	地域在住高齢視覚障害者集団に対する健康づくり支援プログラムの課題として視覚障害者に特異的な認知的課題が存在する可能性が示唆されたことから、複合的障害への支援が必要なケースが存在することを報告した。
196 、コホート研究に基づく地方在住の視覚障害者における自己健康づくりの自信に及ぼす情報リテラシーと加齢の影響、	単 著	2020年8月28日	日本公衆衛生学会 京都大学（京都市、web）	コホート研究に基づく地方在住の視覚障害者における自己健康づくりの自信に及ぼす情報リテラシーと加齢の影響の程度を明らかにすることを目的として、健康リテラシー課題の正答率が下がる年齢を明らかにすることを目指した。結果、75歳以降の視覚障害者では、行動支援装置等を利用するための基本操作において困難を生じている可能性が高いことから、認知課題支援の必要性高いことを関係者が知ることの重要性を報告した。

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 理学療法学科 氏名 鈴木 学

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称 又は発表学会等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
29. 理学療法学生の初めての長期実習前レジリエンスと評価実習でのストレスとの関連について (査読付き)	共著	2020/3/1	リハビリテーション教育研究 vol 26 : 190-191 : 2020	A大学理学療法学科3年生24名を対象とし, 評価学実習前にS-Hレジリエンス検査を実施し, 実習終了後にSRS-18(心理的ストレス反応測定尺度)を実施し, 両者の関連についてSpearmanの順位相関分析にて検討した. ストレス反応の「無気力」と「総合レジリエンス」との間には弱い負の相関 ( $\rho = -0.35$ ) があるが, 有意差はみられなかった. 発表者: 鈴木学, 北村達夫, 浅田春美, 橋口優, 中徹

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 理学療法学科

氏名

村田和香

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要
作業のもつ力を活かす作業療法（小林幸治・土井勝幸編）	単著	令和2年12月	青海社	現場での作用の経験値や対象者の経験を作業療法の教育に活かすことを目的として、人間作業モデルを解説した。「人間作業モデルとクライアントの作業」（p21～p27）を担当した。

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
入所前訪問時に重要な作業を明らかにすることで在宅復帰を可能にした認知症高齢者の事例	共著	令和2年12月	作業行動研究24：118～126	在宅生活を送る認知症高齢者に対して、介護老人保健施設入所前訪問を行い、作業遂行面接等作業を早期から評価し、家族や多専門職と情報共有を図った。チームの協力体制や切れ目ない支援の構築により、在宅復帰促進の可能性を示した。湯浅充，村田和香
Current practices and factors affecting evidence-based occupational therapy practice for patients with dementia in Japan	共著	令和2年	Hong Kong Journal of Occupational Therapy (in press)	日本における認知症患者への作業療法の実践に関する調査研究により、エビデンスに基づく作業療法の状況と理論活用を検討した。Hasegawa A, Takashima R, Yoshida K, Sawamura D, Murata W, & Sakai S

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
コロナ禍対応でみえてきた目指すべきリハビリテーション教育	単著	令和2年10月	医学教育51：564 - 565	特集コロナ禍における医療人育成のあるべき姿について、理学療法・作業療法領域それぞれの専門性を背景とした工夫や試みを報告した。

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 理学療法学科 氏名

目黒力

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
生活環境学テキスト 改訂第2版	共著	2020年11月	南江堂	理学療法士・作業療法士養成課程の学生に必要な「生活環境整備」の知識をコンパクトにまとめた教科書。高齢者や障害者のための住環境整備を中心に、現在の住宅事情から住宅改修の方法、福祉政策を解説。医学的視点で生活機能障害を分析し、他職種と連携しながら生活環境整備を行うことを目指した内容構成が特徴。今改訂では「まちづくり」の章を新設し、さらに広い視点で学習できる構成とした。 共著者：村田伸, 小谷泉, 北島栄二, 白岩加代子, 林悦子, 徳田良秀, 佐藤三矢, 山野薫, 中原雅美, 島ノ江寿, 山田隆人, 幅田智也, 前岡浩, 相馬正之, 岡本加奈子, 目黒力 担当部分 第15章 まちづくり pp 175 - 188

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
地域政策と交通工学— リハビリテーション医療 との連携を目指して—	単著	令和2年3月	日本地域政策研究 第24号	地域政策、特に地域交通環境を整備する際において高齢者や障害者など移動制約者の立場からどのように検討を進めるべきかを具体的に公共交通や移動・交通に対して解説し、そのバリアや制約を広く一般向けに解説したものである。医療側は対象者が将来生活する「まち」に目を向けた展開を目指し、土木工学側からは高齢者・障害者の視点に立った設計・施工をする。これらが互いに連携し協同することで、より迅速な社会復帰と全ての人に住みやすく持続可能な発展性をもった都市設計を可能ならしめるという視点でまとめた。Pp94-99

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 理学療法学科

氏名

宗宮 真

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
1. Clinical effects of polymyxin B-immobilized fiber column direct hemoperfusion for severe bacterial meningitis: A series of 10 cases. (重度の細菌性髄膜炎へのポリミキシンB固定化ファイバーカラム直接血液灌流の効果) (査読付)	共著	令和2年2月	Clin Case Rep 8: pp823-832	重度の細菌性髄膜炎患者の意識障害に、標準的な治療法と組み合わせたポリミキシンB固定化ファイバーカラム直接血液灌流が有効であることを示した。Yoko Suzuki, Shingo Kawakami, Minako Yamada, Makoto Sohmiya, Ken Shibuya, Nobuya Maeda.

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 理学療法学科

氏名

浅田 春美

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
理学療法学生の初めての長期 実習前レジリエンスと評価学 実習でのストレスとの関連に ついて	共著	2020年3月	リハビリテーション教育 研究 vol 26 : 190- 191 : 2020 (査読付き)	評価学実習前にS-Hレジリエンス検査を実施し、 実習終了後にSRS-18(心理的ストレス反応測定尺 度)を実施し、ストレス反応の「無気力」と「総 合レジリエンス」との間には弱い負の相関 ( $\rho = -$ 0.35) があるが、有意差はみられなかった。レジ リエンス能力はストレスからの回復力を示すが、 本研究の結果からこの程度が高くてもストレスの 増減とは関連が弱く、レジリエンス能力が高くても ストレス発声の予防にはつながらないことが示 唆された。鈴木学, 北村達夫, 浅田春美, 橋口 優, 鳥海亮, 中徹

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 理学療法学科 氏名 岡崎 大資

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
標準理学療法学専門分野 理学療法臨床実習とケー スタディ 第3版 3臨床実習に向けて何を準 備するのか？ D倫理的対 応	共著 筆頭	令和2年12月	医学書院	臨床実習に臨む理学療法学生に向けた患者 との倫理的対応方法をインフォームドコン センツの視点から記した。 P82-85 岡崎大資

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 理学療法学科

氏名

城下 貴司

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
修正マリガンAnkle MWMと Y-balanceとの関係性	単著・ 共著の別	2020. 11.	第31回日本臨床スポーツ 医学会学術集会	独自に考案した修正マリガン法の効果をYパラ ンステストで示した。

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 理学療法学科

氏名

黒川 望

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
なし				

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
なし				

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
なし				

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 理学療法学科 氏名 橋口 優

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
8 Immediate Effect on Ground Reaction Forces Induced by Step Training Based on Discrete Skill during Gait in Poststroke Individuals: A Pilot Study (査読付) (脳卒中後片麻痺者の歩行時床反力に対する離散的なスキルに関わるステップトレーニングが及ぼす即時的効果)	共著	令和2年5月19日	Rehabil Res Pract. 2020:2397374.	地域在住の脳卒中後片麻痺者を対象に、ステップ練習が即時的に及ぼす効果について力学的な指標を用いて検討した。 [著者] Wakida M, Ohata K, <u>Hashiguchi Y</u> , Mori K, Hase K, Yamada S.
理学療法学生の初めての長期実習前レジリエンスと評価学実習でのストレスとの関連について	共著	令和2年2月1日	リハビリテーション教育研究 第26号	長期実習の開始前における理学療法学生を対象に、ストレスへの対処法であるレジリエンスの程度やタイプと実際のストレス発生の関係性を検討した。 [著者]鈴木 学, 北村 達夫, 浅田 春美, <u>橋口 優</u> , 鳥海 亮, 中 徹

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 理学療法学科 氏名 宮寺寛子

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
Efficacy of a program to address older adults' challenges of daily living after disasters	共著	2020年12月	Educational Gerontology Volume 46, 2020 - Issue 12, Pages 816-827	活動と参加に焦点を当てた作業療法プログラムを東日本大震災後に被災地域で生活する高齢者を対象に実施し、その効果を検討した。 H Miyadera, H Kawamata, A Tanimira, N Kobayashi, T Ishidai

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 理学療法学科

氏名

後藤遼佑

## 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

## 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
Influences of passive intervertebral range of motion on cervical vertebral form. 椎間関節受動的運動範囲が頸椎形態に与える影響.	共著	2020年	American Journal of Physical Anthropology 172 (2): 300-313	数種霊長類における頸部可動域と頸椎形態の関係を調査した研究である。頸部領域の可動性は一般的に頸椎関節突起や棘突起、横突起の形態や椎体のプロポーション等を反映して規定されると考えられてきた。しかし、本形態計測的研究から、頸椎の形態と受動的関節可動域との関連性が弱いことが分かった。この結果は骨形態以外の要因、たとえば骨周囲の靭帯、筋等の軟部組織が頸部可動性に強い影響を持つことを示唆した。 著者：Neysa Grider-Potter、Thierra K. Nalley、Nathan E. Thompson、後藤遼佑、中野良彦
A comparison of axial trunk rotation during bipedal walking between humans and Japanese macaques. ヒトとニホンザルの二足歩行における体幹回旋運動の比較.	共著	2020年	American Journal of Physical Anthropology 174 (1): 66-75	ニホンザルとヒトが二足歩行で移動する際の胸部と骨盤の回旋運動パターンを明らかにした。ヒトとチンパンジーでは歩行時に位相がずれて、胸部が骨盤に対して相対的に回旋することが知られていたが、それがヒトや類人猿を含むヒト上科に固有の運動パターンなのか、それとも他の霊長類の二足歩行にも広く見られる特徴なのか分かっていなかった。今回の研究でヒトとチンパンジーで類似した胸部と骨盤の回旋パターンが非ヒト上科動物であるニホンザルでも確認された。すなわち、骨盤と胸部の位相ずれがヒト上科動物に特有の運動パターンではなく、二足歩行というロコモーション様式そのものに付随する運動であることが示唆された。 著者：木下勇貴、後藤遼佑、中野良彦、平崎鋭矢
二足歩行の霊長類基盤-類人猿筋電図研究からの考察-	単著	2020年	バイオメカニズム学会誌 44 (2): 96-104	これまで行われた霊長類ロコモーション研究に関する総説論文である。特に類人猿を対象とした筋電図学的研究を総括し、二足歩行の進化史を論じた。また、著者が収集してきたデータからの解釈も適宜加えた。結論としては、近年の研究成果から、自然下で二足歩行を行うヒト上科動物では、二足歩行とそれ以外のロコモーションの間の類似性が報告され始めており、類人猿では類似もしくは共通の制御メカニズムが多数種類のロコモーションを実行している可能性が考えられた。そのような背景から、二足歩行が他のロコモーション様式から派生したと考えられ、特に垂直木登りが二足歩行の前段階として有力なロコモーションであると述べた。 著者：後藤遼佑

その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
テナガザルにおけるブラキエーション時の体幹姿勢制御戦略		2020年10月	第74回日本人類学会大会(中央市)	テナガザルがブラキエーションにおいて移動速度を決定する主たる要因と考えられてた、体幹の回旋運動を計測し、移動速度等との関係を論じた。本研究結果は移動速度と回旋量との間に有意な関係を支持しなかった。また、ブラキエーション時にテナガザルの胸郭と骨盤の回旋運動を計測すると、胸郭と骨盤の間で相対的な回旋が生じていることが分かった。 発表者：木下勇貴、後藤遼佑、中野良彦、平崎鋭矢
ニホンザル樹上四足歩行時における前肢リーチ長と骨盤回旋量の関係		2020年11月	第74回日本人類学会大会(中央市)	ニホンザルが模擬的樹上環境を四足で移動する際の水平面上の骨盤回旋量を計測し、回旋量とリーチ長との関係を論じた。先行研究では、樹上環境のような不連続な枝の上を移動する場合、前肢で正確に樹枝へリーチする必要があると言われていた。そのリーチを規定する要因として水平面における骨盤の回旋量の重要性が示唆されていた。本研究から、ニホンザルの四足歩行時に骨盤の回旋量と前肢リーチ長に有意な相関が認められた。しかしながら、速度等の共変量の影響を現段階で考慮しておらず、統計学的分析について課題を残した。 発表者：設楽哲弥、後藤遼佑、Neysa Grider-Potter、中野良彦
ヒト上科における二足歩行時の体幹動態とその制御メカニズム		2020年12月	第41回バイオメカニズム学術講演会(平塚市)	ヒト、テナガザル、ニホンザルの二足歩行時の体幹運動と傍脊柱筋の活動から、二足歩行時の体幹直立性の進化を論じた。調査した三種全てにおいて類似した傍脊柱筋の活動パターンが確認された。運動学データと合わせると、骨盤に対して頭部が前方へ加速するタイミングに傍脊柱筋が活動することが分かった。傍脊柱筋は全ての種において上半身の前方加速を制動すると考えられた。一方で、ヒト上科(ヒトとテナガザル)に固有の特徴も発見した。傍脊柱筋の活動タイミングから脊椎分節間のずれを解析すると、自然下で二足歩行を行うヒトとテナガザルでは、脊椎分節の間で規則的な活動ずれが確認されたが、一方で常習的二足歩行者ではないニホンザルでは一貫したパターンは見られなかった。すなわち、自然下で二足歩行を行うヒトとテナガザルには傍脊柱筋の活動を制御する固有の神経メカニズムの存在が示唆された。 発表者：後藤遼佑、Neisa Grider-Potter、岡健司、設楽哲弥、中野良彦

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 理学療法学科 氏名 北村 達夫

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
理学療法学生の初めての長期実習前レジリエンスと評価学実習でのストレスとの関連について	共著	令和2年2月	リハビリテーション教育研究 Vol. 26. 190-191. 2020	A大学理学療法学科3年生24名を対象とし、評価学実習前にS-Hレジリエンス検査を実施し、実習終了後にSRS-18(心理的ストレス反応測定尺度)を実施し、両者の関連についてSpearmanの順位相関分析にて検討した。ストレス反応の「無気力」と「総合レジリエンス」との間には弱い負の相関( $\rho=-0.35$ )があるが、有意差はみられなかった。 著者:鈴木学, 北村達夫, 浅田春美, 橋口優, 中衛

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
日本の沖縄県健康長寿地域の高齢者の動作誘導性血圧変動は脈波伝播速度と終末糖化産物関係に影響を及ぼすか?	演者	令和2年10月	EAS CONGRESS 2020	健康長寿は、今日の公衆衛生学の重要なテーマの一つである。そして、健康長寿関連の生体機能の一つである脈波伝播速度と糖と蛋白質のアミノ基のメイラード反応により生じる終末糖化産物は、動脈の老化と損傷の蓄積に極めて重要な指標である。日本の沖縄県で暮らす超高齢者の橈骨動脈脈波伝播速度と最終糖化産物は、安静座位を2分以上とった後、体重および年齢によらず有意な正の比例関係を示した。しかし、動作直後の脈波測定値では、有意な関係性が示さなかった。超高齢者において、上肢末梢動脈の脈波伝播速度に影響を与える急性動作の影響は2分以上の安静によって抑止される可能性が示唆された。発表者:北村達夫, 木村朗
沖縄の超高齢者を対象とした模擬農作業時の人間工学的要因と脈波伝播速度、転倒事故の関係に関する研究	共同演者	令和2年10月	EAS CONGRESS 2020	健康寿命を延ばす生活習慣上の要因として、栄養/遺伝子の影響を調査した研究に比べて、身体活動の影響の調査はまだ不十分です。本研究の目的は、沖縄県大宜味村の高齢者を対象に、この地域で25年間に变化した食生活におけるリン酸塩および亜硝酸ナトリウムの摂取量と人口の血管硬度との関係を明らかにすることであった。リン酸塩および亜硝酸ナトリウムの累積摂取頻度と脈波伝播率との間に正の相関が認められた。筋量率は日本の他の高齢者と差がなかった。動脈硬化の指標となる脈波伝播速度に対する血管周囲環境としての正常機能筋収縮に対するリン酸塩・亜硝酸ナトリウム摂取の累積的影響について 日常生活におけるヘルスリテラシーのエビデンスについて 勉強を続ける必要がある。発表者:木村朗, 北村達夫



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 検査技術学科 氏名 藤田 清貴

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要
1. 臨床検査学講座 免疫検査学 第1版	共著	2020年1月	医歯薬出版	編集：窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子、 分担執筆：窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子、他 担当：第3章（pp107-109, pp110-115, pp122-125, pp134-143, pp199-209, pp220-232） 沈降反応・凝集反応・非標識免疫測定法・免疫電気泳動法・自己免疫疾患関連検査・血清蛋白異常症関連検査
2. 臨床検査学講座 検査機器総論	共著	2020年1月	医歯薬出版	編集：三村邦裕、山藤賢 分担執筆：三村邦裕、山藤賢、藤田清貴、他 担当：第3章 E 免疫血清（p215, pp215-216, p217, pp217-218, pp218-219） 水平回転機（スライディングローター）・マイクロタイター（用手法）・プレートリーダー・プロテティング装置・イムノクロマトリーダー

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
1. 健常人におけるCell-free DNAの特性：ヒストン結合部位の推定	共著	2020年2月	日本染色体遺伝子検査 Vol. 38 No. 1 pp41-47	各増幅領域のCq値の比較からヒストン結合領域を推定し、その領域内にある2種類の増幅領域を見出した。cfDNAを増幅するプライマーを設計する際、ヒストン結合部位に設計することが高性能な測定系を構築する上で重要であり、今回推定した2種類の増幅領域は内存在コントロールとして使用できると考えられた。 （共同研究につき、本人担当部分抽出不可能） 共著者：田胡裕章、長田誠、古田島伸雄、木村鮎子、 <b>藤田清貴</b>
2. Phos-tag対角線電気泳動により明らかになったプロテアソームサブユニットのリン酸化状態	共著	2020年3月	育種学研究 Vol. 22（別冊1号） P. 204	Phos-tag対角線電気泳動により酵母プロテアソームのリン酸化状態を解析、また耐病性育種、作物成長制御などへの利用が考えられるダイズやニンジン等の塩基性7Sグロブリン（Bg7S）の解析も試みた。対角線電気泳動でプロテアソームを分離した結果、検出されたサブユニットに関してはすべてリン酸化されていることを確認できた。大豆やニンジン等のBg7Sに関しては、リン酸化されている分子は検出されなかった。 （共同研究につき、本人担当部分抽出不可能） 共著者：平野久、木村鮎子、佐藤夏美、長田誠、木下英司、 <b>藤田清貴</b>
3. Correlation between Human Papillomavirus Codetection Profiles and Cervical Intraepithelial Neoplasia in Japanese Women (査読付)	共著	2020年11月	Microorganisms, 8(12), 1863.	Uniplex E6/E7 PCR法を使用し、HPVとCINの相関関係を評価した結果、単一の高リスクHPV遺伝子型の検出は、CIN1の69.7%で発生した。また、高リスクHPV遺伝子型の共検出は、CIN1 +症例の4.9%で認められた。さらに、HPV重複感染はCINグレードに関連付けられていない可能性が示唆された。 （共同研究につき、本人担当部分抽出不可能） 共著者：Okayama K, Kimura H, Teruya K, Ishii Y, <b>Fujita K</b> , Fujii M, Oda M, Sasagawa T, Okodo M.
4. Phos-tag diagonal electrophoresis precisely detects the mobility change of phosphoproteins in Phos-tag SDS-PAGE	共著	2020年	J Proteomics 231:104005, 2020	これまでのPhos-tagSDS-PAGEではリン酸化タンパク質の移動度が変わったかどうかを判断することが困難であったが、SDS-PAGEとPhos-tagSDS-PAGEパターンが単一のゲル上に提供されるPhos-tag対角電気泳動によりこれを解決し、塩基性7Sグロブリン、26Sプロテアソームサブユニットなどのさまざまなタンパク質のリン酸化状態を特定した。 （共同研究につき、本人担当部分抽出不可能） Okawara Y., Hirano H., Kimura A., Sato N., Hayashi Y., Osada M., Kawakami T., Ootake N., Kinoshita E., <b>Fujita K</b> .

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1. 国家試験対策と学生を支える大学教員の意識改革の必要性	—	2020年1月	北陸大学教職員研修会	特別講演（藤田清貴）
2. 研究の好奇心から臨床現場への還元と成果～症例の出会いと謎解きの面白さ～	単著	2020年9月	検査と技術 Vol. 48 no. 9 2020 pp1074-1080 医学書院	長年の臨床・教育現場での経験を踏まえ、いかに研究の好奇心が大切か、様々な症例との出会いと“謎解き”がいかに面白いかを紹介しながら、臨床現場への還元とその成果について述べている。

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 検査技術学科

氏名

亀子 光明

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
新版 臨床化学 第3版	共著	2020/2/20	講談社	臨床化学的分析法で免疫学的測定法の免疫化学分析法の特徴，免疫比濁法，免疫比濁法について執筆分担した。[片山善三・柏森裕三・長村洋一/編，Chapter 3 (3.3.1；50頁～52頁，3.3.2；52頁～54頁を分担)]

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 検査技術学科 氏名 小河原 はつ江

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
最新臨床検査学講座 血液検査学	共著	平成28年2月 第1版第1刷 平成30年1月 第1版第5刷 (補訂) 令和2年1月 第1版第6刷	医歯薬出版(株)	全309頁, 分担執筆: 奈良信雄, 小山高敏, 東克巳, 近藤 弘, 三村邦裕, 小川原はつ江, 西岡淳二著, 担当: 第8章 I (160頁～166頁), V (200頁～206頁), 第8章では I 血小板機能検査と V 凝固・線溶系の分子マーカーについて解説した。本書は2013年に「臨床検査技師国家試験出題基準平成27年度版」が発表されたことにあわせて紙面を刷新し、「最新臨床検査学講座」として刊行された。血液検査学の領域における最新の進歩を取り入れ、読者に利用しやすい教科書として出版された。血液検査学のさらなる発展に貢献する人材を育成することはもちろん、現場の臨床検査業務の向上にも役立つことを念頭において、刊行された。

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
24. 生活習慣が及ぼす血清中 サイトカインIFN- $\gamma$ への影響	—	令和2年10月 (2020年)	第27回日本未病学会 学 術総会 (東京)	2018年「生活習慣が末梢血リンパ球サブセットに及ぼす影響について」と題して研究論文を発表(日本未病システム学会雑誌vol. 24, No. 3)。ここではバランスの良い食事がTh2細胞比率に影響を及ぼしていることを明らかにした。Th2細胞はIFN- $\gamma$ の制御を受けていることから、血清中のIFN- $\gamma$ を測定し、生活習慣調査結果との関連を報告した。今回の検討では食事のバランスがIFN- $\gamma$ 濃度と負の相関傾向を示し、Th2細胞優位に傾く可能性が示唆された。 藤本友香、浅見知市郎、柳川益美、時田佳治、古田島伸雄、小川原はつ江、村上正巳
25. 生活習慣が及ぼす血清中 サイトカインへの影響 その 2	—	令和2年10月 (2020年)	第27回日本未病学会 学 術総会 (東京)	生活習慣が末梢血リンパ球に及ぼす影響について研究してきたが、血清中IFN- $\gamma$ 濃度に引き続き、制御性T細胞を誘導する血清中TGF- $\beta$ 濃度を測定したので、生活習慣との関連を報告した。その結果、血清中TGF- $\beta$ 濃度に影響を及ぼす生活習慣を見いだすことができなかった。被験者数が35名と少ないことから更なる検討が必要と思われた。 藤本友香、浅見知市郎、柳川益美、時田佳治、古田島伸雄、林由里子、小川原はつ江、村上正巳

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 検査技術学科 氏名

木村 博一

## 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

## 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
Truncated Class 1 Integron Gene Cassette Arrays Contribute to Antimicrobial Resistance of Diarrheagenic Escherichia coli (クラス1インテグロン遺伝子カセットアレイは下痢原性大腸菌の抗菌薬耐性に寄与する) (査読付)	共著	令和2年1月	Biomed Res Int. 2020: 4908189	クラス1インテグロン遺伝子のカセットアレイが下痢原性大腸菌の抗菌薬耐性に寄与するか否かに関する研究を行った (主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Kubomura A, Sekizuka T, Onozuka D, Murakami K, <u>Kimura H</u> , Sakaguchi M, Oishi K, Hirai S, Kuroda M, Okabe N.
Prolyl isomerase Pin1 regulates the stability of hepatitis B virus core protein (プロリルイソメラーゼPin1はB型肝炎ウイルスのコアタンパク質の安定性を調節する) (査読付)	共著	令和2年1月	Front Cell Dev Biol. 8: 26	プロリルイソメラーゼPin1はB型肝炎ウイルスのコアタンパク質の安定性に関する研究を行った (主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Nishi M, Miyakawa K, Matsunaga S, Khatun H, Yamaoka Y, Watashi K, Sugiyama M, <u>Kimura H</u> , Wakita T, Ryo A.
Engineering cellular biosensors with customizable antiviral responses targeting hepatitis B virus (B型肝炎ウイルスを標的としたカスタム可能な抗ウイルス応答を備えた細胞バイオセンサーの設計) (査読付)	共著	令和2年2月	iScience. 23(3): 100867	B型肝炎ウイルスを標的としたカスタム可能な抗ウイルス応答を備えた細胞バイオセンサーの設計に関する研究を行った質の安定性に関する研究を行った (主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Matsunaga S, Jeremiah SS, Miyakawa K, Kurotaki D, Shizukuishi S, Watashi K, Nishitsuji H, <u>Kimura H</u> , Tamura T, Yamamoto N, Shimotohno K, Wakita T, Ryo A.
Evolutionary dynamics of influenza B strains detected from paediatric acute respiratory infections in central Vietnam (ベトナム中部の小児急性呼吸器感染症から検出されたインフルエンザB株の進化のダイナミクス) (査読付)	共著	令和2年2月	Infect Genet Evol. 81:104264	ベトナム中部の小児急性呼吸器感染症から検出されたインフルエンザB株の進化動態に関する研究を行った (主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Yoshihara K, Minh LN, Okada T, Toizumi M, Nguyen HA, Vo HM, Hashizume M, Dang DA, <u>Kimura H</u> , Yoshida LM.
Koilocytic changes are not elicited by human papillomavirus genotypes with higher oncogenic potential (コイロサイトの変化はより高い発がん性を持つヒトパピローマウイルスの遺伝子型では誘発されない) (査読付)	共著	令和2年3月	J Med Virol. 92(12): 3766-3773	コイロサイトの形態学的変化はより高い発がん性を持つヒトパピローマウイルスの遺伝子型では誘発されないことを明らかにした (主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Okodo M, Okayama K, Teruya K, <u>Kimura H</u> , Noji N, Ishii Y, Fujii M, Oda M, Sasagawa T.

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
Contrasting results from two commercial kits testing for the presence of <i>Clostridium perfringens</i> enterotoxin in feces from norovirus-infected human patients (ノロウイルスに感染したヒト糞便中のウェルシュ菌エンテロトキシン検査キットの差異)(査読付)	共著	令和2年5月	Clin.Lab. 66(5):929-936	ノロウイルスに感染したヒト糞便中のウェルシュ菌エンテロトキシン検査キットの差異に関する研究を行った(主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Ishioka T, Aihara Y, Carle Y, Shigemura H, Kubomura A, Motoya T, Nakamoto A, Nakamura A, Fujimoto S, Hirai S, Oishi K, Nagaoka H, <u>Kimura H</u> , Murakami K.
Molecular evolution of the capsid (VP1) region in human norovirus genogroup II genotype 3 (ヒトノロウイルスGII.3のキャプシド(VP1)領域の分子進化)(査読付)	共著	令和2年5月	Heliyon. 6(5): e03835	ヒトノロウイルスGII.3のキャプシド(VP1)領域の分子進化に関する研究を行った(責任著者として研究企画、論文執筆を行った)。 共著者: Saito M, Tsukagoshi H, Ishigaki H, Aso J, Ishii H, Okayama K, Ryo A, Ishioka T, Kuroda M, Saruki N, Katayama K, <u>Kimura H</u> .
Tokoronin Contained in <i>Dioscorea tokoro</i> Makino ex Miyabe Suppressed $\alpha$ -MSH-Induced Melanogenesis in B16 Cells via Suppression of Classical MAPK Pathway Activation ( <i>Dioscorea tokoro</i> Makino ex Miyabeに含まれるトコロニン、古典的なMAPK経路活性化の抑制を介してB16細胞の $\alpha$ -MSH誘導メラニン形成を抑制する)(査読付)	共著	令和2年5月	Chem Biodiver. 17(6): e2000077	<i>Dioscorea tokoro</i> Makino ex Miyabeに含まれるトコロニンは、古典的なMAPK経路活性化の抑制を介してB16細胞の $\alpha$ -MSH誘導メラニン形成を抑制することを明らかにした(主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Ukiya M, Sato D, <u>Kimura H</u> , Hirai Y, Nishina A.
Molecular pharmacology of ciclesonide against SARS-CoV-2 (SARS-CoV-2に対するシクレソニドの分子薬理学)(査読付)	共著	令和2年6月	J Allergy Clin Immunol. 146(2):330-331	SARS-CoV-2に対するシクレソニドの分子薬理学をドッキングシミュレーションにより明らかにした(筆頭著者・責任著者として研究企画、論文執筆を行った)。 共著者: Kimura H, Kurusu H, Sada M, Kurai D, Murakami K, Kamitani W, Tomita H, Katayama K, Ryo A.
Food workers as a reservoir of extended-spectrum cephalosporin-resistant <i>Salmonella</i> in Japan (本邦におけるセファロスポリン耐性サルモネラ保有食品労働者)(査読付)	共著	令和2年6月	Appl Environ Microbiol. 86(13): e00072-20	本邦の食品取扱従事者におけるセファロスポリン耐性サルモネラ保有に関する研究を行いその保有率を明らかにした(主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Shigemura H, Sakatsume E, Sekizuka T, Yokoyama H, Hamada K, Etoh Y, Carle Y, Mizumoto S, Hirai S, Matsui M, <u>Kimura H</u> , Suzuki M, Onozuka D, Kuroda M, Inoshima Y, Murakami K.
Coinfection with human norovirus and <i>Escherichia coli</i> O25:H4 harboring two chromosomal blaCTX-M-14 genes in a foodborne norovirus outbreak in Shizuoka Prefecture, Japan (静岡県での食品媒介性ノロウイルスの発生における2つのblaCTX-M-14遺伝子を保有するヒトノロウイルスと大腸菌O25:H4の重感染)(査読付)	共著	令和2年9月	J Food Prot. 83(9): 1584-1591	静岡県での食品媒介性ノロウイルスの発生における2つのblaCTX-M-14遺伝子を保有するヒトノロウイルスと大腸菌O25:H4の重感染に関する研究を行った(主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Nagaoka H, Hirai S, Morinushi H, Mizumoto S, Suzuki K, Shigemura H, Takahashi N, Suzuki F, Mochizuki M, Asanuma M, Maehata T, Ogawa A, Ohkoshi K, Sekizuka T, Ishioka T, Suzuki S, <u>Kimura H</u> , Kuroda M, Suzuki M, Murakami K, Kanda T.
Rapid quantitative screening assay for SARS-CoV-2 neutralizing antibodies using HiBiT-tagged virus-like particles (HiBiTタグを使用したSARS-CoV-2中和抗体の迅速な定量スクリーニング法の開発)(査読付)	共著	令和2年9月	J Mol Cell Biol. mjaa047	HiBiTタグを使用したSARS-CoV-2中和抗体の迅速な定量スクリーニング法の開発に関する研究を行った(主要著者として論文執筆を行った)。 共著者: Miyakawa K, Jeremiah SS, Ohtake N, Matsunaga S, Yamaoka Y, Nishi M, Morita T, Saji R, Nishii M, <u>Kimura H</u> , Hasegawa H, Takeuchi I, Ryo A

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
Development of Monoclonal Antibodies and Antigen-Capture ELISA for Human Parechovirus Type 3 (ヒトパレコウイルス3型に対する抗体とモノクロナール抗原捕捉ELISAの開発)(査読付)	共著	令和2年9月	Microorganisms. 8(9):1437	ヒトパレコウイルス3型に対する抗体とモノクロナール抗原捕捉ELISAの開発に関する研究を行った(主要著者として論文執筆を行った)。共著者: Goto K, Yamaoka Y, Khatun H, Miyakawa K, Nishi M, Nagata N, Yanaoka T, <u>Kimura H</u> , Ryo A
Detailed molecular interactions of fapiravir with SARS-CoV-2, SARS-CoV, MERS-CoV, and influenza virus polymerases in silico (ファビピラビルとSARS-CoV-2、SARS-CoV、MERS-CoV、およびインフルエンザウイルスポリメラーゼとのインシリコでの詳細な分子相互作用)(査読付)	共著	令和2年10月	Microorganisms. 8(10):1610	ファビピラビルとSARS-CoV-2、SARS-CoV、MERS-CoV、およびインフルエンザウイルスポリメラーゼとのインシリコでの詳細な分子相互作用に関する研究を行った(責任著者として研究企画、論文執筆を行った)。共著者: Sada M, Saraya T, Ishii H, Okayama K, Hayashi Y, Tsugawa T, Nishina A, Murakami K, Kuroda M, Ryo A, <u>Kimura H</u> .
Zika virus protease induces caspase-independent pyroptotic cell death by directly cleaving gasdermin D (ジカウイルスプロテアーゼはガスデルミンDを直接切断することにより、カスパーゼ非依存性のアポトーシスを誘導する)(査読付)	共著	令和2年11月	Biochem Biophys Res Commun. S0006-291x (20) 32073-8	ジカウイルスプロテアーゼはガスデルミンDを直接切断によりカスパーゼ非依存性のアポトーシスを誘導することを明らかにした(主要著者として論文執筆を行った)。共著者: Yamaoka Y, Matsunaga S, Jeremiah SS, Nishi M, Miyakawa K, Morita T, Khatun H, Shimizu H, Okabe N, <u>Kimura H</u> , Hasegawa H, Ryo A.
Correlation between human papillomavirus codetection profiles and cervical intraepithelial neoplasia in Japanese women (日本人女性におけるヒトパピローマウイルス共検出プロファイルと子宮頸部上皮内腫瘍との相関)(査読付)	共著	令和2年11月	Microorganisms. 8(12):1863	日本人女性におけるヒトパピローマウイルス共検出プロファイルと子宮頸部上皮内腫瘍との相関に関する研究を行った(主要著者として論文執筆を行った)。共著者: Okayama K, <u>Kimura H</u> , Teruya K, Ishii Y, Fujita K, Fujii M, Oda M, Sasagawa T, Okodo M.
Molecular Epidemiology Diagnostics and Management of Respiratory Virus Infections (呼吸器ウイルス感染症の分子疫学診断と管理)(査読付)	共著	令和2年12月	Microorganisms. 8: 2041	呼吸器ウイルス感染症の分子疫学診断と管理に関して概説した(責任著者として論文執筆)。共著者: <u>Kimura H</u> , Hayashi Y, Sada M, Ishii H, Tsugawa T, Ryo A.

## その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 検査技術学科 氏名

長田 誠

## 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

## 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
健常人におけるCell-free DNAの特性 ヒストン結合部位の推定	共著	2020年5月	日本染色体遺伝子検査学会雑誌 38巻1号	血液には、アポトーシスや壊死により体細胞から放出されたCell-free DNA (以下, cfDNA) が存在する. 本研究ではハウスキーピング遺伝子であるGAPDHの領域において, 良好な200bp以下の断片の増幅を得るためエクソン6からエクソン7の領域に5種類の増幅領域となるプライマーを設計した. cfDNAを増幅するプライマーを設計する際, ヒストン結合部位に設計することが高性能な測定系を構築する上で重要であり, 今回推定した2種類の増幅領域は内在性コントロールとして使用できると考えられた. 田胡裕章, 長田 誠, 古田島伸雄, 木村鮎子, 藤田清貴.

## その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
特集検査値を読む2020 レチノール結合蛋白 (RBP)	共著	2020年4月	臨床雑誌 内科 増大 号. Vol. 125(4), 758	レチノール結合蛋白 (RBP)の臨床的意義, 異常値の解釈, ビットフォールと対処法, 異常値を示した場合の対処法, トピックスについて解説した. 長田 誠, 藤田清貴
特集検査値を読む2020 トランスサイレチン (プレアルブミン)	共著	2020年4月	臨床雑誌 内科 増大 号. Vol. 125(4), 759	トランスサイレチン (プレアルブミン)の臨床的意義, 異常値の解釈, ビットフォールと対処法, 異常値を示した場合の対処法, トピックスについて解説した. 長田 誠, 藤田清貴
染色体遺伝子検査の品質保証のための指針 (解説)	共著	2020年5月	日本染色体遺伝子検査学会雑誌38巻1号 Page58-95	遺伝子検査の倫理原則, 遺伝子検査の安全管理, 遺伝子検査の教育活動について最新情報を加え解説した. 石黒晶子, 上野一郎, 奥山虎之, 大星航, 長田 誠, 柿島裕樹, 群司昌治, 佐藤悦子, 佐藤謙一, 柴田典子, 鈴木翔太, 園山正行, 高橋裕一, 南木融, 福塚勝弘, 藤澤真一, 藤巻慎一, 吉田繁, 若井進.

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 検査技術学科 氏名 古田島伸雄

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
生活習慣が及ぼす血清中サイトカインIFN- $\gamma$ への影響	—	2020年10月	第27回日本未病学会学術総会	生活習慣アンケートと血清中のサイトカインIFN- $\gamma$ 濃度の関連性について検討した。前回の検討にて6. 食事のバランスがTh2細胞数に関連があることが明らかとなったが、今回の検討では6. 食事のバランスがIFN- $\gamma$ 濃度に負の相関傾向を示した。以上のことから、バランスの良い食事はTh2細胞優位に傾く可能性を示唆した。 (藤本友香, 浅見知市郎, 柳川益美, 時田佳治, 古田島伸雄, 小河原はつ江, 村上正巳) (共同研究につき、本人担当抽出不可能)
生活習慣が及ぼす血清中サイトカインへの影響 その2	—	2020年10月	第27回日本未病学会学術総会	生活習慣アンケートと血清中のサイトカインTGF- $\beta$ 濃度の関連性について検討した。我々の既報(日本未病学会誌Vol. 24, p11, 2018.)では、制御性T細胞比率は「10. 睡眠の規則性」( $p < 0.05$ , $t = 2.18$ )の項目との間に有意な関連を示した。そこで今回我々は、睡眠の規則性などにTGF- $\beta$ 濃度は影響を受けるのではないかと推察し測定を行ったが、血清中のTGF- $\beta$ 濃度は生活習慣に影響を受けていない可能性が示唆された。  (藤本友香, 浅見知市郎, 柳川益美, 時田佳治, 古田島伸雄, 林由里子, 小河原はつ江, 村上正巳) (共同研究につき、本人担当抽出不可能)



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 検査技術学科 氏名 高橋克典

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要
感染制御と予防衛生 特集 新型コロナウイルス感染症	共著	令和二年9月	メディカルレビュー社	分担執筆：高橋克典 木村博一 他、担当：遺伝子検査の実験室内コンタミネーション防止法。遺伝子実験室における器具や試薬の取り扱い、コンタミ防止策などを解説。
クリーンルームの微小異物・汚染物対策と作業員教育	共著	令和二年11月	技術情報教会	分担執筆：高橋克典 他、担当：第10章 バイオロジカルクリーンルームにおける汚染・異物対策と作業員教育。

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
Two New Terpenes Isolated from Dictyostelium Cellular Slime Molds. (細胞性粘菌から単離された新たなテルペン類) (査読付)	共著	令和二年8月	Molecules 25(12): 2895	これまで細胞性粘菌の柄細胞分化誘導因子として DIF-1 が単離同定されているが、今回、新たに 2 種類のテルペン類が分離同定された。これらのテルペン類は、破骨細胞の分化を抑える作用を認めた。この新規テルペン類を基本骨格として新たな化合物を合成することで、新薬開発への応用が期待できる。(実験の遂行、結果の解析、執筆を担当) 共著者：Sasaki H, Kubohara Y, Ishigaki H, Takahashi K, Eguchi H, Sugawara A, Oshima Y, Kikuchi H.

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 検査技術学科 氏名 岡山香里

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
1. ポケットマスター臨床 検査知識の整理 病理学/ 病理組織細胞学	共著	令和3年 (2020)	医歯薬出版, 170-281.	病理組織細胞学の固定、包埋、特殊染色 法、免疫組織化学染色法について分担執筆 した。

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
1. Molecular evolution of the capsid (VP1) region in human norovirus genogroup II genotype 3. (査読付)	共著	令和2年3月 (2020年)	Heliyon, 6(5), e03835.	系統樹においてGII.3 VP1領域が、約70年 前にGII.6、GII.11、GII.18、およびGII.19 の共通の祖先から分岐しており、比較的 低い分岐を示した。キャプシドタンパク質 には1つの陽性部位と多くの陰性選択部位 が観察された。これらの結果は、GII.3 VP1領域が抗原の変化とともに急速に 進化したことを示唆している。  共著者：Saito M, Tsukagoshi H, Ishigaki H, Aso J, Ishii H, <u>Okayama K</u> , Ryo A, Ishioka T, Kuroda M, Saruki N, Katayama K, Kimura H. (共著者としてデータの解析 を行った。)
2. Koilocytic changes are not elicited by human papillomavirus genotypes with higher oncogenic potential. (査 読付)	共著	令和2年6月 (2020年)	Journal of Medical Virology.	ロジスティック回帰分析により、コイロサ イトは低リスクHPV型 (HPV-6b、HPV-40、 HPV-42、HPV-61、HPV-74、HPV-89、および HPV-90) による感染が明らかになった。 よって、コイロサイトは高悪性度病変への 進行のリスクを予測するための追加の有用 な情報を提供する可能性がある。  共著者：Okodo M, <u>Okayama K</u> , Teruya K, Kimura H, Noji N, Ishii Y, Sasagawa T. (共著者としてデータの収集、解析および論 文の執筆を行った。)
3. ウイルスとは何か-感 染症を発症するメカニズ ム-	共著	令和2年7月 (2020年)	現代化学, 592, 26- 27, 2020.	本稿ではウイルス感染の仕組み、ウイルス の病原性と発症メカニズム、予防と治療 について述べた。現在まで種々の抗ウイル ス薬が開発されてきた。今後はより効果的 かつ種々のウイルス感染に効果のある抗ウ イルス薬の開発が待たれる。  共著者：木村博一, 佐田充, <u>岡山香里</u> , 大 熊博. (共著者としてデータの解析を行っ た。)

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
4. 新型コロナウイルス感染症の疫学(査読付)	共著	令和2年8月 (2020年)	感染制御と予防. 4(1), 4-8.	本稿では2020年9月時点での新型コロナウイルス感染症について概要、疫学を述べた。  共著者: 木村博一, 佐田充, 岡山香里, 藤本友香, 林由里子, 大熊博.(共著者としてデータの解析を行った。)
5. Detailed Molecular Interactions of Favipiravir with SARS-CoV-2, SARS-CoV, MERS-CoV, and Influenza Virus Polymerases In Silico(査読付)	共著	令和2年10月 (2020年)	Microorganisms, 8(10), 1610.	ファビピラビルとSARS-CoV-2、SARS-CoV、MERS-CoV、およびインフルエンザウイルスのRNA依存性RNAポリメラーゼ(RdRp)との間の詳細な分子相互作用を解明するために、in silico研究を実施した。その結果、ファビピラビルがインフルエンザウイルスおよびさまざまなコロナウイルスに対して異なる作用機序を示すことを示唆した。  共著者: Sada M, Saraya T, Ishii H, Okayama K, Hayashi Y, Tsugawa T, Nishina A, Murakami K, Kuroda M, Ryo A, Kimura H. (共著者としてデータの解析を行った。)
6. Correlation between Human Papillomavirus Codetection Profiles and Cervical Intraepithelial Neoplasia in Japanese Women(査読付)	共著	令和2年11月 (2020年)	Microorganisms, 8(12), 1863.	Uniplex E6/E7 PCR法を使用し、HPVとCINの相関関係を評価した結果、単一の高リスクHPV遺伝子型の検出は、CIN1の69.7%で発生し、高リスクHPV遺伝子型の共検出は、CIN1+症例の4.9%で認められた。さらに、HPV重複感染はCINグレードに関連付けられていない可能性が示唆された。  共著者: Okayama K, Kimura H, Teruya K, Ishii Y, Fujita K, Fujii M, Oda M, Sasagawa T, Okodo M. (筆頭者としてデータの収集、解析と論文執筆を行った。)

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 検査技術学科 氏名 木村 鮎子

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
Phos-tag diagonal electrophoresis precisely detects the mobility change of phosphoproteins in Phos-tag SDS-PAGE. (Phos-tag 二次元電気泳動によるPhos-tag SDS-PAGEでのリン酸化タンパク質の移動度変化の検出)	共著	2020/8/1	Journal of proteomics, 231, 104005	1次元目にSDS-PAGE、2次元目に同ゲルにリン酸化タンパク質のリン酸基に親和性をもつPhos-tagを共有結合したアクリルアミドゲルを用いるPhos-tag SDS-PAGEを行うPhos-tag二次元電気泳動法を開発した。本方法を用いて、26Sプロテアソーム複合体や7Sグロブリンを含む種々のモデルタンパク質を用いてタンパク質リン酸化フォームの分離が可能であることが確認できた。 共著者：Yuki Okawara, Hisashi Hirano, Ayuko Kimura, Natsumi Sato, Yuriko Hayashi, Makoto Osada, Takao Kawakami, Norihisa Ootake, Eiji Kinoshita, Kiyotaka Fujita,
Proteomic analysis revealed different responses to hypergravity of soleus and extensor digitorum longus muscles in mice. (プロテオーム解析により、マウスヒラメ筋・長趾伸筋の過重力への応答に違いが見られることが明らかになった)	共著	2020/4	Journal of proteomics 217	28日間の過重力負荷により、マウスのヒラメ筋および長趾伸筋中のタンパク質がどのように変化するかを網羅的に調べるため、プロテオーム解析を行った。結果として、ヒラメ筋ではタンパク質合成、長趾伸筋では酸化的リン酸化に関わるシグナル経路に変化が見られた。また、両筋肉で細胞増殖に関わるスベルミジンとスベルミジン合成酵素の増加が見られたのに対し、長趾伸筋でのミスベルミン酸化酵素が増加しており、過重力下での筋肉増強に関わるものと考えられた。 共著者：Takashi Ohira, Yoko Ino, Yusuke Nakai, Hironobu Morita, Ayuko Kimura, Yoichi Kurata, Hiroyuki Kagawa, Mitsuo Kimura, Kenji Egashira, Shunsuke Moriya, Kyoko Hiramatsu, Masao Kawakita, Yayoi Kimura, Hisashi Hirano
健常人におけるCell-free DNAの特性：ヒストン結合部位の推定	共著	2020/5	日本染色体遺伝子検査学会雑誌 38(1)	リアルタイムPCR法を用いて血中セルフリーDNAを検出する際の対照群として、細胞内での発現量が一定であるハウスキーピング遺伝子(GAPDH遺伝子)の特異的な検出と定量を行うためのプライマー構築と反応条件の検討を行い、これに成功した。 共著者：田胡裕章, 長田誠, 古田島伸雄, 木村鮎子, 藤田清貴

その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
Phos-tag 対角線電気泳動により明らかになったプロテアソームサブユニットのリン酸化状態	-	2020/3	日本育種学会第137回講演会	リン酸化パターン異なるタンパク質(リン酸化フォーム)の分離に有効なPhos-tag対角線電気泳動法を開発し、出芽酵母から精製したタンパク質分解酵素複合体(プロテアソーム)を用いてタンパク質複合体を構成する因子におけるリン酸化フォームの分離・検出を試みた。いくつかのサブユニットにおいて複数のリン酸化フォームの分離・検出に成功した一方で、リン酸化プロテアソーム解析により検出されるリン酸化部位の数に比べ、実際に検出されるリン酸化フォームの数は圧倒的に少ないことが明らかになった。 共著者：平野 久、木村 鮎子、佐藤 夏美、長田 誠、木下 英司、藤田 清貴
プロテオーム解析による超高齢者の心不全憎悪に関連するバイオマーカーの探索的研究	-	2020/9	日本心臓病学会	心不全バイオマーカーとして頻用されるBNPは、非心不全入院の高齢者でも高値を示すことが多い。これに代わる新規バイオマーカーの開発を目指し、BNP高値・低値の超高齢者計20名の血清試料を用いた比較プロテオーム解析を行った。結果、血清プロテオームの個人差が群間変動を上回り、候補分子の検出には至らなかったが、本方法による今後のマーカー探索に関する課題が明らかになり、これについて報告した。 共著者：尾林徹・小谷和彦・国元文生・北村弘文・木村鮎子・平野久
Phos-tag 対角線電気泳動によるヒト 26S プロテアソームのリン酸化状態の解析	-	2020/11	日本電気泳動学会	酵母26Sプロテアソームのリン酸化フォームの検出に成功したPhos-tag対角線電気泳動法を用いて、同様にヒト26Sプロテアソームを用いた解析を行った。結果として、20Sプロテアソームの11サブユニット、19S調節因子の10サブユニットからは1種類のみ、20Sプロテアソームの3サブユニット、19S調節因子の9サブユニットからは2~4種類のリン酸化フォームが検出され、本方法は、ヒト26Sプロテアソームのリン酸化フォームの分離・検出にも有効であることが分かった。 共著者：大川原佑季・木下英司・佐藤夏美・川上隆雄・大竹則久・木村鮎子・長田 誠・林由利子・藤田清貴・平野 久

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 検査技術学科 氏名 荒木泰行

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
Fertilization with human sperm bound to zona pellucida by pressing onto the oocyte membrane.	共著	2020年3月	Human Cell	透明帯に結合した先体反応を起こしている精子をピックアップし、卵細胞膜に精子頭部を押し当てることで受精させる新しい顕微授精の臨床応用に関する研究。
First birth following assisted sperm fusion insemination using sperm bound to zona pellucida.	共著	2020年6月	Journal of Assisted Reproduction and Genetics	精子を卵細胞質に押し当てて受精させる方法にて、臨床で生児を得られた報告。

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
2重管容器およびアルブミンを高分子に置換した凍結保存液を用いたヒト精子凍結方法の検討	-	2020年10月1日 ～23日	第38回日本受精着床学会 総会・学術講演会	2重管を用いることで、直接液体窒素に浸漬しても高い生存率を得られる精子凍結の手技を検討した。また、凍結試薬に含有させる動物由来アルブミンをその他の高分子に置き換える検討を行った。廣澤菜々、荒木泰行、藤村佳子、佐藤雄一、鈴木紀雄、荒木康久
透明帯結合精子を用いた卵細胞膜を破らない授精方法の試み	-	2020年10月1日 ～23日	第38回日本受精 着床学会総会・ 学術講演会	透明帯に結合した先体反応を起こしている精子をピックアップし、卵細胞膜に精子頭部を押し当てることで受精させる新しい顕微授精の臨床応用に関する研究を行った。畠山将太、荒木泰行、荒木康久、黄木詩麗、矢内原敦
抗酸化剤添加培養液と自己卵胞液を用いたGV期卵の体外成熟培養の検討	-	2020年10月1日 ～23日	第38回日本受精着床学会 総会・学術講演会	生殖医療で得られた未熟な卵子の体外誠意塾培養に卵胞液が有効であることを既に報告しているが、今回は抗酸化剤を添加された培養液での有効性を検討した。中橋真朗、藤村佳子、剣持智恵美、椛嶋香央里、荒木泰行、久保祐子、佐藤雄一

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 検査技術学科 氏名

林 由里子

## 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
1. Molecular Epidemiology Diagnostics and Management of Respiratory Virus Infections	共著	2020年	Microorganisms 8(12): 2041, 2020 (IF=4.167)	Kimura H., <b>Hayashi Y.</b> , Sada M., Ishii H., Tsugawa T., Ryo A. 【概要】呼吸器ウイルス感染症の分子疫学診断と管理に関して概説した。
2. Detailed molecular interactions of favipiravir with SARS-CoV-2, SARS-CoV, MERS-CoV, and influenza virus polymerases in silico	共著	2020年	Microorganisms 8(10):1610, 2020 (IF=4.167)	Sada M., Saraya T., Ishii H., Okayama K., <b>Hayashi Y.</b> , Tsugawa T., Nishina A, Murakami K., Kuroda M., Ryo A., Kimura H. 【概要】ファビピラビルとSARS-CoV-2、SARS-CoV、MERS-CoV、およびインフルエンザウイルスポリメラーゼとのインシリコでの詳細な分子相互作用に関する研究を行った。
3. Phos-tag diagonal electrophoresis precisely detects the mobility change of phosphoproteins in Phos-tag SDS-PAGE	共著	2020年	J Proteomics 231:104005, 2020 (IF=3.660)	Okawara Y., Hirano H., Kimura A., Sato N., <b>Hayashi Y.</b> , Osada M., Kawakami T., Ootake N., Kinoshita E., Fujita K. 【概要】これまでのPhos-tagSDS-PAGEではリン酸化タンパク質の移動度が変化したかどうかを判断することが困難であったが、SDS-PAGEとPhos-tagSDS-PAGEパターンが単一のゲル上に提供されるPhos-tag対角電気泳動によりこれを解決し、塩基性7Sグロブリン、26Sプロテアソームサブユニットなどのさまざまなタンパク質のリン酸化状態を特定した。

## その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
1. 新型コロナウイルス感染症の疫学	共著	2020年	感染制御と予防衛生 Vol14(1)  195	新型コロナウイルス感染症について、疫学的な観点から解説した。 共著：木村博一、佐田充、岡山香里、藤本友香、 <b>林由里子</b> 、大熊博

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 検査技術学科 氏名 石垣宏尚

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
9. Molecular evolution of the capsid (VP1) region in human norovirus genogroup II genotype 3 (ヒトノロウイルス遺伝子群II遺伝子型3におけるVP1領域の分子進化) (査読有)	共著	2020年5月	Heliyon 6(5) e03835	Saito M, Tsukagoshi H, <u>Ishigaki H</u> , Aso J, Ishii H, Okayama K, Ryo A, Ishioka T, Kuroda M, Saruki N, Katayama K, Kimura H. ヒトノロウイルスGII.3のVP1領域における分子進化解析を行った。系統学的解析や選択的圧解析の結果、GII.3VP1領域が抗原変異と共に急速に変化したことが示唆された。(データの解析を担当)
10. Two New Terpenes Isolated from Dictyostelium Cellular Slime Molds (細胞性粘菌Dictyostelium属から分離された2つの新規テルペンについて) (査読有)	共著	2020年6月	molecules 25(12) 2895	Sasaki H, Kubohara Y, <u>Ishigaki H</u> , Takahashi K, Eguchi H, Sugawara A, Oshima Y, Kikuchi H. 細胞性粘菌Dictyostelium属から分離されたムコロイジオールとフィルミバシオールは弱い細胞増殖阻害活性や中程度の破骨細胞分化阻害活性を示した。これより細胞性粘菌が産生する多様な二次代謝物質は天然化合物の有望な供給源として期待できることが示唆された。(データの収集を担当)
11. Glucomannan Inhibits Rice Gruel-Induced Increases in Plasma Glucose and Insulin Levels (グルコマンナンは米由来のグリエルが誘発する血漿グルコースおよびインスリンの増加を阻害する) (査読有)	共著	2020年7月	Annals of Nutrition and Metabolism 76(4), 259-267	Yoshida A, Kimura T, Tsunekawa K, Araki O, Ushiki K, <u>Ishigaki H</u> , Shoho Y, Suda I, Hiramoto S, Murakami M. 食事によるグルコース、インスリンの上昇を抑制させる目的で、グルコマンナンの影響を検討した。その結果、食後30分のグルコースおよびインスリンの増加を濃度依存的に抑制することが認められた。(データの収集を担当)
12. Assessment of exercise-induced stress by automated measurement of salivary cortisol concentrations within the circadian rhythm in Japanese female long-distance runners (日本人女性長距離ランナーの概日リズムにおける唾液コルチゾール濃度の運動誘発ストレス評価) (査読有)	共著	2020年8月	Sports Medicine 6(1) 38	Ushiki K, Tsunekawa K, Shoho Y, Martha L, <u>Ishigaki H</u> , Matsumoto R, Yanagawa Y, Nakazawa A, Yoshida A, Nakajima K, Araki O, Kimura T, Murakami M. コルチゾールを用いた運動ストレスの評価を行った。その結果、ECLIAを利用した唾液コルチゾール測定が運動ストレスの比較評価に用いることが出来、過訓練症候群の予防につながる可能性が示唆された。(データの収集を担当)



名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
13. Circulating branched-chain amino acid concentrations are associated with skeletal muscle mass and thyroid function in young Japanese men (若年日本人男性の骨格筋量と甲状腺機能に関連する循環分岐鎖アミノ酸濃度) (査読有)	共著	2020年4月	Research Square in press	Tsunekawa K, Matsumoto R, Ushiki K, Martha L, Shoho Y, Yanagawa Y, <u>Ishigaki H</u> , Yoshida A, Araki O, Nakajima K, Kimura T, Murakami M. 骨格筋量の多いレスリング選手を含む若い日本人男性において、骨格筋量と血清BCAA対チロシン比(BTR)、循環BCAAの指標との関連を評価した。循環BCAAの消費が骨格筋量の増加とともに増加し、骨格筋量とは無関係に甲状腺ホルモンによって促進されることが示唆された。この結果、血清BTRは、アスリートの代謝亢進状態を評価するための有用なバイオマーカーとなる可能性があることがわかった。(データの収集を担当)
14. Attenuation of Lipid Metabolism by Novel Pleiotropic Effects of Konjac Glucomannan (蒟蒻グルコマンナンの新規多面的効果による脂質代謝の減弱) (査読有)	共著	2020年12月	Research Square in press	Kimura T, Yoshida A, Tsunekawa K, Araki O, Ushiki K, <u>Ishigaki H</u> , Shoho Y, Suda I, Hiramoto S, Murakami M. 食前および食後のLPL、GPIHBP1、およびトリグリセリド濃度に対するこんにゃくグルコマンナン(KGM)の影響を調査した。日本人男性被験者を対象に0%または0.8%のKGMを含む米粥を摂取し、OGTTを行った結果、米粥にKGM粉末を添加すると、LPLとGPIHBP1の上昇に伴うトリグリセリドのレベルが低下し、脂質代謝が低下した。(データの収集を担当)

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
8. アスリートにおける骨格筋量と血清分岐鎖アミノ酸チロシン比および甲状腺機能に関する検討	-	2020年2月	日本内分泌学会(群馬)	常川勝彦、石垣宏尚、正保佳史、松本隆太郎、柳川美鷹、荒木修、奈良誠人、木村孝徳、村上正巳 アスリートにおける骨格筋量、血中BCAA濃度、FT3、FT4、TSHを測定し、それぞれの関連性について検討した。その結果、骨格筋量の多いアスリートでは血中BTRが低下しており、骨格筋でのエネルギー消費を反映していると考えられた。甲状腺ホルモンは、骨格筋量とは独立したBCAA代謝に関連している可能性が示唆された。解析実験、データの解析を担当)

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 検査技術学科 氏名

藤本 友香

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
新型コロナウイルスのウイルス学的特徴	共著	2021年1月	内科. 127(1), p11-15	新型コロナウイルスの概要（ウイルス学的、パンデミック様式）、疫学（分子疫学等）、構造について解説を行った。 （木村博一, 岡山香里, 藤本友香, 林由里子） （共同研究につき、本人抽出不可能）
新型コロナウイルス感染症の疫学	共著	2020年9月	感染制御と予防衛生. 4(1), p1-8	新型コロナウイルスの概要（ウイルス学的、パンデミック様式）、疫学（分子疫学等）、構造について解説を行った。系統樹を用い2020年3月時点での全長解析結果を示した。 （木村博一, 佐田充, 岡山香里, 藤本友香, 林由里子, 大熊博） （共同研究につき、本人抽出不可能）

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
生活習慣が及ぼす血清中サイトカインIFN- $\gamma$ への影響	—	2020年10月	第27回日本未病学会学術総会	生活習慣アンケートと血清中のサイトカインIFN- $\gamma$ 濃度の関連性について検討した。前回の検討にて6. 食事のバランスがTh2細胞数に関連があることが明らかとなったが、今回の検討では6. 食事のバランスがIFN- $\gamma$ 濃度に負の相関傾向を示した。以上のことから、バランスの良い食事はTh2細胞優位に傾く可能性を示唆した。 （藤本友香, 浅見知市郎, 柳川益美, 時田佳治, 古田島伸雄, 小河原はつ江, 村上正巳） （共同研究につき、本人担当抽出不可能）
生活習慣が及ぼす血清中サイトカインへの影響 その2	—	2020年10月	第27回日本未病学会学術総会	生活習慣アンケートと血清中のサイトカインTGF- $\beta$ 濃度の関連性について検討した。我々の既報（日本未病学会誌Vol. 24, p1~11, 2018.）では、制御性T細胞比率は「10. 睡眠の規則性」（ $p < 0.05$ , $t = 2.18$ ）の項目との間に有意な関連を示した。そこで今回我々は、睡眠の規則性などにTGF- $\beta$ 濃度は影響を受けるのではないかと推察し測定を行ったが、血清中のTGF- $\beta$ 濃度は生活習慣に影響を受けていない可能性が示唆された。  （藤本友香, 浅見知市郎, 柳川益美, 時田佳治, 古田島伸雄, 林由里子, 小河原はつ江, 村上正巳） （共同研究につき、本人担当抽出不可能）

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 検査技術学科 氏名 三浦 佑介

---

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 保健科学部  
検査技術学科 氏名 川田 悠貴

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
1 質量分析計による血中 IgA-ア ルブミン複合体からのJ鎖 の 検出	筆頭	2020年10月30日	第60回日本臨床化学会 年次学術集会	質量分析計の解析により、IgA-Alb複合体からJ鎖が検出され、多発性骨髄腫で増加する二量体IgAのみがアルブミンとの結合能を有していることが明らかとなった。 共同発表者：藤田清貴、平野久、長田誠、木村鮎子、高橋蓮、宮野ゆかり
2 陰極側に尾を引くアルブ ミン 異常沈降線の発現メカ ニ ズムに関する研究	共同	2020年10月30日	第60回日本臨床化学会 年次学術集会	IgG-アルブミン(Alb)複合体およびIgA-Alb複合体の結合様式や結合比率について検討した。IgA-Alb複合体はS-S結合、IgG-Alb複合体はS-S結合以外の非共有結合であることが明らかとなった。 共同発表者：高橋蓮、久保田つぐみ、霜村成海、竹林亜美、荒井優希奈、森山公晴、宮野ゆかり、川田悠貴、長田誠、平野久、藤田清貴

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 検査技術学科 氏名 宮野 ゆかり

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1 質量分析計による血中IgA-アルブミン複合体からのJ鎖の検出	—	2020年10月30日	第60回日本臨床化学会	質量分析計の解析により、IgA-Alb複合体からJ鎖が検出され、多発性骨髄腫で増加する二量体IgAのみがアルブミンとの結合能を有していることが明らかとなった。 発表者：川田悠貴、藤田清貴、平野久、長田誠、木村鮎子、高橋蓮、宮野ゆかり
2 陰極側に尾を引くアルブミン異常沈降線の発現メカニズムに関する研究	—	2020年10月30日	第60回日本臨床化学会	IgG-アルブミン (Alb) 複合体およびIgA-Alb複体の結合様式や結合比率について検討した。IgA-Alb複合体はS-S結合、IgG-Alb複合体はS-S結合以外の非共有結合であることが明らかとなった。 発表者：高橋蓮、久保田つぐみ、霜村成海、竹林亜美、荒井優希奈、森山公晴、宮野ゆかり、川田悠貴、長田誠、平野久、藤田清貴

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 保健科学部  
検査技術学科 氏名 高橋 蓮

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
1. 陰極側に尾を引くアルブミン異常沈降線の発現メカニズムに関する研究	筆頭	2020年10月30 ～2020年11月1 日	第60回日本臨床化学会年 次学術集会	IgG-アルブミン(A1b)複合体およびIgA-A1b複合体の結合様式や結合比率について検討した。IgA-A1b複合体はS-S結合、IgG-A1b複合体はS-S結合以外の非共有結合であることが明らかとなった。  高橋蓮、久保田つぐみ、霜村成海、竹林亜美、荒井優希奈、森山公晴、宮野ゆかり、川田悠貴、長田誠、平野久、藤田清貴
2. 質量分析計による血中IgA-アルブミン複合体からのJ鎖の検出	共同	2020年10月30 ～2020年11月1 日	第60回日本臨床化学会年 次学術集会	質量分析計の解析により、IgA-A1b複合体からJ鎖が検出され、多発性骨髄腫で増加する二量体IgAのみがアルブミンとの結合能を有していることが明らかとなった。  川田悠貴、高橋蓮、宮野ゆかり、佐藤夏美、林由里子、木村鮎子、長田誠、平野久、藤田清貴

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 放射線学科 氏名 土屋 仁

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
16. Assisting beginners in root cause analysis operations: analysis and recommendations regarding the spread of COVID-19 in nursing facilities for the elderly	単著	2020.9	BMJ Open Quality. <a href="http://dx.doi.org/10.1136/bmjopen-2020-000960">http://dx.doi.org/10.1136/bmjopen-2020-000960</a>	医療事故分析には多くの時間と経験が必要である。そこで、分析未経験者が活用し易い視覚表示型Root Cause Analysisを提案し、その有効性について検証した。分析未経験者は現状把握と分析手法が混乱し、対策案構築に多大な時間を要する。ゆえに事故事象を時系列に並べただけでは現状把握は難しい。そこで我々は、事故概要把握の目的で「業務流れ図」を作成した。「業務流れ図」には手順書の事象と、事故時の事象を患者時間系列に沿って表示する。そしてエラー時と発見時を直線（又は点線）で結び、患者被害程度を書き込むことで事故の全容の表示できる。提案する「業務流れ図」は、事象を視覚化することで発想支援を図ることが可能であり、対策の立案ができ、患者の安全性確保を資することが出来る。土屋 仁

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

# 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 放射線学科 氏名 星野修平

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
新・医用放射線技術実験 (基礎編) 第4版	共著	2020年10月	共立出版	<p>診療放射線技師教育の大綱化された診療放射線技師学校指定規則および国家試験出題基準H32年度版に沿って編集された診療放射線技師養成の実験実習用のテキスト。第4版では、JIS関連、画像診断機器の進展、医用画像関連の動向に対応して内容を見直し改訂された。</p> <p>本人担当部分：ImageJの使用方法として、ImageJの概要、インストール方法、基本的な使用方法、画像解析に必要なツール等を担当した。 p425～p437を担当</p> <p>共著者：田中仁，山田勝彦，安部真治，小田敏弘（編集），山口成厚，西村明久，秋庭弘道，山下一也，杜下淳次，下瀬川正幸，細羽実，<u>星野修平</u> 他</p>

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 放射線学科 氏名 酒井 健一

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 放射線学科

氏名

倉石政彦

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概	要
なし					

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概	要
なし					

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概	要
なし					

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 放射線学科 氏名

渡邊 浩

## 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要
10 核医学分野における診療用放射線の安全利用のための指針策定のガイドライン (第一版)	共著	2020年3月20日	<a href="http://jsnm.org/useful/guidelines/">日本核医学会ホームページ</a> <a href="http://jsnm.org/useful/guidelines/">http://jsnm.org/useful/guidelines/</a>	2019年4月1日、医療法施行規則を改正しこれまで明確ではなかった医療被ばくの規制について適正に管理することを義務付けた。核医学診療はRIを用いる検査・治療であり医療被ばくのの一つである。核医学診療に関わる関係学会等の代表により核医学診療に伴う医療被ばくの適正管理のための指針を策定した。(佐々木雅之, 森 一晃, 阿部光一郎, 稲木杏吏, 犬伏正幸, 大野和子, 久下裕司, 工藤 崇, 藤淵俊王, 細野真, <u>渡邊 浩</u> , 渡部浩司, 石黒雅伸, 五十嵐隆元, 對間博之.) (共同執筆のため担当部分抽出不可能)
11 医療機関における放射線業務従事者に対する放射線管理に関する調査研究	共著	2020年3月1日	労災疾病臨床研究事業費補助金：医療分野の放射線業務における被ばくの実態と被ばく低減に関する調査研究「医療機関における放射線業務従事者に対する放射線管理に関する調査研究」分担研究報告書	2020年4月1日、職業被ばくの線量限度の一つである水晶体の等価線量限度を国際放射線防護委員会 (ICRP) の勧告に基づいて改正した。従来の等価線量限度よりも約1/7も低くなり、医療従事者、特にIVRを実施する医師の線量を大幅に低減する必要がある。そこで、医療分野の放射線業務における被ばくの実態と被ばく低減に関する調査研究の分担研究として「医療機関における放射線業務従事者に対する放射線管理に関する調査研究」を2019年度に実施した結果をまとめた報告書である。(渡邊 浩, 坂本肇, 山本和幸) (共同執筆のため担当部分抽出不可能)
12 日本の診断参考レベル (2020年版) National diagnostic reference levels in Japan (2020)-Japan DRLs 2020- 一般撮影の診断参考レベル	共著	2020年7月3日	<a href="http://www.radher.jp/J-RIME/report/JapanDRL2020.jp.pdf">医療被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME)ホームページ</a> <a href="http://www.radher.jp/J-RIME/report/JapanDRL2020.jp.pdf">http://www.radher.jp/J-RIME/report/JapanDRL2020.jp.pdf</a>	医療被ばくの防護の最適化のために国際放射線防護委員会 (ICRP) や国際原子力機関 (IAEA) は診断参考レベルの策定を推奨している。わが国では医療放射線に関わる関係学会等が組織する医療被ばく情報研究ネットワーク (J-RIME) が2015年にわが国で最初の診断レベルを策定した。その後5年が経過し一般撮影領域の診断参考レベルを改訂し公開したものである。(大野 和子, 浅田 恭生, 五十嵐 隆元, 上間 千秋, 大谷浩樹, 長畑 智政, 藤淵 俊王, <u>渡邊 浩</u> .) (共同執筆のため担当部分抽出不可能)
13 日本の診断参考レベル (2020年版) National diagnostic reference levels in Japan (2020)-Japan DRLs 2020- 核医学検査の診断参考レベル	共著	2020年7月3日	<a href="http://www.radher.jp/J-RIME/report/JapanDRL2020.jp.pdf">医療被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME)ホームページ</a> <a href="http://www.radher.jp/J-RIME/report/JapanDRL2020.jp.pdf">http://www.radher.jp/J-RIME/report/JapanDRL2020.jp.pdf</a>	医療被ばくの防護の最適化のために国際放射線防護委員会 (ICRP) や国際原子力機関 (IAEA) は診断参考レベルの策定を推奨している。わが国では医療放射線に関わる関係学会等が組織する医療被ばく情報研究ネットワーク (J-RIME) が2015年にわが国で最初の診断レベルを策定した。その後5年が経過し核医学領域の診断参考レベルを改訂し公開したものである。(細野 真, 阿部光一郎, 飯森 隆志, 五十嵐 隆元, 石黒 雅伸, 伊藤 照生, 對間 博之, 長畑 智政, <u>渡邊 浩</u> .) (共同執筆のため担当部分抽出不可能)

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要
14 医療放射線の適正管理に関する医療機関ならびに地方医療行政機関の対応ガイド	共著	2020年8月	日本診療放射線技師会 ホームページ <a href="http://www.jart.jp/news/ib0rgt0000006cgw.html">http://www.jart.jp/news/ib0rgt0000006cgw.html</a>	2019年4月1日、医療法施行規則を改正し医療被ばくの規制について適正に管理することを義務付けた。特に、CT、核医学診療、循環器用X線透視装置については医療被ばく線量の管理と記録を義務付けた。しかし、医療被ばくの管理は従来法令では規制が明確ではなかった。そのため、実施する医療機関も確認する地方医療行政機関も適切かつ的確に実施するには指針が必要である。そこで日本放射線公衆安全学会が指針を策定した。(渡邊 浩、目黒靖浩、北山早苗、矢部智、佐々木健、長谷川健、福住徹、川崎英生、佐藤洋一、荒井一正。)(共同執筆のため担当部分抽出不可能)
15 放射線・医療安全管理学	共著	2020年9月	南山堂	本書は主に診療放射線技師養成機関で教科書として使用される。放射線診療を実施する上で診療放射線技師自らの被ばくである職業被ばくと放射線診療を実施することにより患者が受ける医療被ばくの管理は非常に重要である。分担執筆：第8章医療における放射線安全管理(215-248ページ)

## 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
28 原子力災害における表面汚染スクリーニング法の考案—セグメント—	共著	2020年7月	日本診療放射線技師会 雑誌 2020;67(813):22-26.	原子力災害においては放射能汚染の確認、検査(スクリーニング)が重要である。従来、具体的かつ安定的に表面汚染をスクリーニングする方法が示されていなかった。そこで、3分間で合理的に実施できるのセグメント法を考案した。(田島尚人、大石小太郎、濱田順爾、相ヶ瀬あゆ子、井上晴行、沼田恭一、橋本輝美、渡邊 浩)(共同執筆のため担当部分抽出不可能)
29 医療機関ならびに地方医療行政機関に対する改正省令ガイドの必要性	共著	2020年11月	日本診療放射線技師会 雑誌 2020;67 (817):20-26	2019年4月1日、医療法施行規則を改正し医療被ばくの規制について適正に管理することを義務付けた。特に、CT、核医学診療、循環器用X線透視装置については医療被ばく線量の管理と記録を義務付けた。しかし、医療被ばくの管理は従来法令では規制が明確ではなかった。そのため、実施する医療機関も確認する地方医療行政機関も適切かつ的確に実施するには指針が必要である。そこで日本放射線公衆安全学会が会員調査を実施して指針の必要性を明らかにした。(目黒靖浩、渡邊 浩、北山早苗、矢部智、佐々木健、長谷川健、福住徹、川崎英生、佐藤洋一、荒井一正。)(共同執筆のため担当部分抽出不可能)

その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
94 学内実習への取り組み	単著	2020年1月	FD NETWORK TSUBASA https://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/tsubasa/essai/01-26.html	FDネットワーク“つばさ”は、連携する大学・短大・高専におけるファカルティ・ディベロップメント (FD) の立ち上げ・確立・発展を協同で行います。それにより授業改善、カリキュラム・教育制度改革などを実現させ、その成果を共有するとともに、各大学等における特色のある魅力的な教育を開発することを目標とします。この機関より要請を受けて本学科で実施している核医学検査技術学実習の概要について紹介した。
95 放射線安全管理体制の今後	—	2020年1月	栃木県診療放射線フォーラム (栃木県)	2019年4月1日に医療被ばくに関する法令が改正され、2020年4月1日に職業被ばくに関する法令が改正された。診療放射線技師が実施する放射線診療はこの2つの法令を遵守しながら患者に必要なレベルの維持向上を図らなければならない。そこで、改正法の概要と具体的な方策について概説した。(講演 渡邊 浩)
96 放射線安全管理体制の再構築 一核医学を中心に	—	2020年1月	第60回群馬県核医学技術懇話会 (前橋市)	2019年4月1日に医療被ばくに関する法令が改正され、2020年4月1日に職業被ばくに関する法令が改正された。診療放射線技師が実施する放射線診療はこの2つの法令を遵守しながら患者に必要なレベルの維持向上を図らなければならない。そこで、改正法の概要と具体的な方策について核医学を中心に概説した。(講演 渡邊 浩)
97 研究テーマの見つけ方	—	2020年1月	公益社団法人神奈川県放射線技師会主催「研究、発表、論文執筆支援セミナー」(横浜市)	医療機関に勤務する診療放射線技師ならびに診療放射線技師養成機関の学生に対して放射線診療の課題を改善するための研究テーマの見つけ方について概説した。(講演 渡邊 浩)
98 市民公開講座「新時代の病院選び-見極めましょう! 病院の医療被ばく管理指針」	—	2020年2月	第18回神奈川放射線学術大会 市民公開講座 (横浜市)	しかし、放射線診療を受ける患者や家族に法令の趣旨を伝えることが重要である。そこで、公開講座として国民に医療被ばくに関する改正の内容と関わり方について説明した。(講演 渡邊 浩)
99 神奈川県における一般撮影領域の医療被ばく最適化の現状	—	2020年2月	第18回神奈川放射線学術大会 (横浜市)	2019年4月1日、医療法施行規則を改正し医療被ばくの規制について適正に管理することを義務付けた。そこで診療放射線技師の職能団体の一つである神奈川県放射線技師会の活動の一環として一般撮影領域の医療被ばく最適化の現状を調査報告した。(芹田樹、渡邊浩、前原善昭、新田正浩)
100 神奈川県内における血管撮影/IVR分野のDRL調査	—	2020年2月	第18回神奈川放射線学術大会 (横浜市)	2019年4月1日、医療法施行規則を改正し医療被ばくの規制について適正に管理することを義務付けた。そこで診療放射線技師の職能団体の一つである神奈川県放射線技師会の活動の一環として血管撮影/IVR分野のDRLを調査報告した。(岩崎真之、山本和幸、渡邊浩、前原善昭、田島隆人)

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
101 神奈川県内における血管撮影分野の線量調査報告	—	2020年2月	第18回神奈川県放射線学術大会（横浜市）	2019年4月1日、医療法施行規則を改正し医療被ばくの規制について適正に管理することを義務付けた。そこで診療放射線技師の職能団体の一つである神奈川県放射線技師会の活動の一環として血管撮影分野の線量を調査報告した。（岩崎真之、山本和幸、渡邊浩、前原善昭、田島隆人）
102 特別講演「核医学における安全管理」	—	2020年2月	第43回安芸RI倶楽部特別講演（広島）	2019年4月1日に医療被ばくに関する法令が改正され、2020年4月1日に職業被ばくに関する法令が改正された。診療放射線技師が実施する放射線診療はこの2つの法令を遵守しながら患者に必要なレベルの維持向上を図らなければならない。そこで、改正法の概要と具体的な方策について核医学を中心に概説した。（講演 渡邊 浩）
103 最近の医療被ばくと職業被ばくに関する話題	単著	2020年2月1日	長瀬ランダウアNLだよりNo. 506:2	2019年4月1日に医療被ばくに関する法令が改正され、2020年4月1日に職業被ばくに関する法令が改正された。医師や診療放射線技師等の医療従事者は放射線診療はこの2つの法令を遵守しながら患者に必要なレベルの維持向上を図らなければならない。そこで、改正法の概要と具体的な方策について概説した。
104 医療被ばく線量の最適化を实践しよう！—血管撮影・IVR領域。	共著	2020年3月	かながわ放射線だより72(6);14-16:2020	2019年4月1日、医療法施行規則を改正し医療被ばくの規制について適正に管理することを義務付けた。そこで診療放射線技師の職能団体の一つである神奈川県放射線技師会の活動の一環として医療被ばく線量の最適化を实践するための方策について述べた。（岩崎真之、渡邊浩、山本和幸、田島隆人）（共同執筆のため担当部分抽出不可能）
105 医療被ばくの基礎と法改正の概要	単著	2020年3月1日	長瀬ランダウアNLだよりNo. 507:3	2019年4月1日に医療被ばくに関する法令が改正され、2020年4月1日に職業被ばくに関する法令が改正された。医師や診療放射線技師等の医療従事者は放射線診療はこの2つの法令を遵守しながら患者に必要なレベルの維持向上を図らなければならない。そこで医療被ばくの基礎と法改正について概説した。
106 職業被ばくの基礎と法改正の概要	単著	2020年4月1日	長瀬ランダウアNLだよりNo. 508:3	2019年4月1日に医療被ばくに関する法令が改正され、2020年4月1日に職業被ばくに関する法令が改正された。医師や診療放射線技師等の医療従事者は放射線診療はこの2つの法令を遵守しながら患者に必要なレベルの維持向上を図らなければならない。そこで職業被ばくの基礎と法改正について概説した。
107 放射線業務従事者管理とチーム医療としての対応	単著	2020年5月1日	長瀬ランダウアNLだよりNo. 509:3	2019年4月1日に医療被ばくに関する法令が改正され、2020年4月1日に職業被ばくに関する法令が改正された。医師や診療放射線技師等の医療従事者は放射線診療はこの2つの法令を遵守しながら患者に必要なレベルの維持向上を図らなければならない。そこで、放射線業務従事者管理とチーム医療としての対応について概説した。

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
108 PET検査の放射線管理	—	2020年5月	第20回日本核医学会春季大会、PET研修セミナー (Web開催)	PETは核医学診療技術の一つであり放射線防護関係法令を順守して実施する必要がある。主な放射線防護関係法令の一つが放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律であり、この法令では放射性同位元素等の放射線管理を義務付けている。本講演はPET施設に対して法令に基づいた放射線管理の専門的な知識・技術を教示するものでありPETの健全な発展に資する。(講演 <u>渡邊 浩</u> )
109 シンポジウム指定発言：医療現場の問題(2) (一元化の議論を踏まえて)	—	2020年6月	日本保健物理学会第53回研究発表会企画シンポジウム「職業被ばくの個人線量管理～流動性の高い現場の問題」 (Web開催)	世界各国では複数の事業所で働く放射線業務従事者の職業被ばくについて一元化して管理しているがわが国では実現できていない。特に、医療機関で働く医師の中には線量が高く、短時間で医療機関を渡り歩く方がいる。そこで、医療現場の課題として医師を中心とした職業被ばく管理の考え方を示した。(指定発言 <u>渡邊 浩</u> )
110 教育講演「IVRを中心とした職業被ばくの抜本的改革に向けて」	—	2020年9月	第21回千葉アンギオ技術研究会 (Web開催)	2020年4月1日、職業被ばくの線量限度の一つである水晶体の等価線量限度を国際放射線防護委員会 (ICRP) の勧告に基づいて改正した。従来の等価線量限度よりも約1/7も低くなり、医療従事者、特にIVRを実施する医師の線量を大幅に低減する必要がある。そこで、医師を中心とした職業被ばくの抜本的改革方法について具体的に示した。(講演 <u>渡邊 浩</u> )
111 National survey and research on actual circumstances of radiation exposure and reduction of staff members working in nuclear medicine and other radiological procedures in Japan, Grant research of Ministry of Health, Labour and Welfare.	—	2020年10月	Annual Congress of European Association of Nuclear Medicine. October 22-30, 2020. Web OP-423 European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging 2020;47 (Suppl 1): S212.	2020年4月1日、職業被ばくの線量限度の一つである水晶体の等価線量限度を国際放射線防護委員会 (ICRP) の勧告に基づいて改正した。従来の等価線量限度よりも約1/7も低くなり、医療従事者、特にIVRを実施する医師の線量を大幅に低減する必要がある。そこで、医療分野の放射線業務における被ばくの実態と被ばく低減に関する調査研究を2019年度に実施した結果を報告した。(Hosono M, Mikami Y, Watanabe H, Takenaka M, Koba Y, Kanda R, Akahane K, Torisu K, Sakamoto H, Yamamoto K.)
112 研究・発表・論文作成全体の流れと先行研究の検討	—	2020年10月	公益社団法人神奈川県放射線技師会主催「研究、発表、論文執筆支援セミナー」	医療機関に勤務する診療放射線技師ならびに診療放射線技師養成機関の学生に対して放射線診療の課題を改善するための研究・発表・論文作成全体の流れと先行研究の検討方法について概説した。(講演 <u>渡邊 浩</u> )
113 核医学DRLsの改訂の概要と活用のポイント	共著	2020年10月	細INNERVISION 2020;35(10):22-24.	医療被ばくの防護の最適化のために国際放射線防護委員会 (ICRP) や国際原子力機関 (IAEA) は診断参考レベルの策定を推奨している。わが国では医療放射線に関わる関係学会等が組織する医療被ばく情報研究ネットワーク (J-RIME) が2015年にわが国で最初の診断レベルを策定した。その後5年が経過し核医学領域の診断参考レベルを改訂した内容を解説した。(細野 眞、阿部光一郎、飯森隆志、五十嵐隆元、石黒雅伸、伊藤照生、對間博之、長畑智政、 <u>渡邊 浩</u> ) (共同執筆のため担当部分抽出不可能)

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
114 一般撮影の改訂の概要と活用のポイント	共著	2020年10月	INNERVISION 2020;35(10):8-10.	医療被ばくの防護の最適化のために国際放射線防護委員会（ICRP）や国際原子力機関（IAEA）は診断参考レベルの策定を推奨している。わが国では医療放射線に関わる関係学会等が組織する医療被ばく情報研究ネットワーク（J-RIME）が2015年にわが国で最初の診断レベルを策定した。その後5年が経過し一般撮影領域の診断参考レベルを改訂しないようを解説した。（大野和子、上間千秋、浅田恭生、五十嵐隆元、大谷浩樹、地主明弘、長畑智政、藤淵俊王、 <u>渡邊 浩</u> ）（共同執筆のため担当部分抽出不可能）
115 職業被ばくの適正管理のための放射線管理	—	2020年10月	日本放射線公衆安全学会第32回講習会（Web開催）	2020年4月1日、職業被ばくの線量限度の一つである水晶体の等価線量限度を国際放射線防護委員会（ICRP）の勧告に基づいて改正した。従来の等価線量限度よりも約1/7も低くなり、医療従事者、特にIVRを実施する医師の線量を大幅に低減する必要がある。そこで、職業被ばくを適正に管理するための放射線管理について概説した。（講演 <u>渡邊 浩</u> ）
116 医療被ばく線量を管理するための”診断参考レベル”が改訂されました	共著	2020年11月	かながわ放射線だより 73(3);5-8:2020	医療被ばくの防護の最適化のために国際放射線防護委員会（ICRP）や国際原子力機関（IAEA）は診断参考レベルの策定を推奨している。わが国では医療放射線に関わる関係学会等が組織する医療被ばく情報研究ネットワーク（J-RIME）が2015年にわが国で最初の診断レベルを策定した。その後5年が経過し診断参考レベルを改訂したのでその概要を説明した。（ <u>渡邊 浩</u> 、新田正浩、前原善昭、田島隆人）
117 教育講演「放射性廃棄物の管理」	—	2020年11月	第40回日本核医学技術学会総会学術大会（神戸）	筆者は日本核医学技術学会の理事長を務めるとともに核医学における放射線管理・防護領域を専門に研究を行ってきた。医療機関が放射性廃棄物の管理を的確に行うための方策について総論的に記した。（講演 <u>渡邊 浩</u> ）
118 National survey on actual conditions of radiation exposure and reduction for radiological staff members in Japan, Research group of Ministry of Health, Labour and Welfare. （日本における放射線被ばくと被ばく削減の実情に関する全国調査、厚生労働省研究グループ）	—	2020年11月	Digital Poster. Annual Meeting of Radiological Society of North America 2020. Virtual.	2020年4月1日、職業被ばくの線量限度の一つである水晶体の等価線量限度を国際放射線防護委員会（ICRP）の勧告に基づいて改正した。従来の等価線量限度よりも約1/7も低くなり、医療従事者、特にIVRを実施する医師の線量を大幅に低減する必要がある。そこで、医療分野の放射線業務における被ばくの実態と被ばく低減に関する調査研究を2019年度に実施した結果を報告した。 (Hosono M, Mikami Y, <u>Watanabe H</u> , Takenaka M, Koba Y, Kanda R, Akahane K, Torisu K, Yamada T, Sakaguchi K, Sakamoto H, Yamamoto K. )
119 核医学における放射線管理・防護領域の更なる発展に向けて	単著	2020年12月	核医学技術 2020 ; 40 (4) : 439-440	筆者は日本核医学技術学会の理事長を務めるとともに核医学における放射線管理・防護領域を専門に研究を行ってきた。この領域の更なる発展に向けて総論的に記した。



名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
120 一般撮影最適化に向けた労災系グループ病院への管理部門設置の提案	—	2020年12月	第19回日本放射線安全管理学会学術大会 (Web開催)	一般撮影分野の医療被ばく線量の最適化のために労災グループ病院で活動を行っている。この活動を踏まえて管理部門設置について提案した。(宮副浩司、伊藤茂樹、佐藤努、福田智哉、佐野美也子、鳥巢健二、渡邊 浩)

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 放射線学科 氏名 小川 清

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
				なし

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
				なし

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
				なし

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 放射線学科 氏名 加藤英樹

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
教育講座 放射線技術学における研究の進め方：研究計画から論文発表まで 専門分野における英語表現について (II DR分野)	単著	令和2年 (2020/7/1)	日本放射線技術学会雑誌. Vol. 76, No. 7 pp. 743-744	放射線技術学における研究の進め方についての教育講座である。本稿は英語で学会発表するための英語表現やスライド作成、そしてプレゼンテーションの工夫について書かれた。複数の専門領域に渡った紙上講座であり、自身はDR:Digital Radiography分野における、線量と画質、散乱線、幾何学的配置などを含む基本的な表現を示した。
診療放射線技師を養成する大学への訪問 (実施3カ年目の報告)	共著	令和2年 (2020/9/1)	日本放射線技術学会関東支部雑誌. Vol. 23. Pp29-30	診療放射線技師を養成する2大学(北里大学医療衛生学部, 日本医療科学大学保健医療学部)への訪問の報告である。日本放射線技術学会は、学生の研究活動, 学会参加, そして臨床での活躍を支援するために実施している。学生へ向けた学会員のプレゼンテーション, 学生及び教職員との質疑応答などについて報告した。 共著者: 加藤英樹, 諏訪和明

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 放射線学科

氏名

小池正行

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
流星祭企画オープン・スクールにおける展示テーマのアンケート調査結果報告	共著	2021. 3	群馬パース大学紀要第26号	毎年開催される群馬パース大学学園祭「流星祭」における生徒・保護者に対するアンケート調査を3年間実施し、望まれる学園祭への糧とする報告

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
叙勲「瑞宝双光章」を受賞し	—	2020. 10	埼玉県診療放射線技師会: 埼玉放射線	瑞宝双光章の受章挨拶、受章の経緯

# 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 放射線学科 氏名 岩井 譜憲

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 放射線学科 氏名 齋藤祐樹

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
JIS Z 4751-2-54：医用電気機器—第2-54部：撮影・透視用X線装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項の改訂背景とその波及効果	共著	2020年12月	放射線技術学会雑誌Vol. 76	JIS Z 4751-2-54 では、現在、市場に投入されている診断用X線装置の技術水準を考慮に入れた変更が行われ、特に被ばく線量低減を目的とした装置の基本性能・安全性で改定が行われた。ここでは、新たに、規格に追加された検査プロトコルと透視後のX線像に関する各種要求を紹介した。 P. 1333-1337 本人担当部分：共同執筆のため抽出不可 共著者：齋藤祐樹，藤井英樹

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
小児胸部撮影における体指標と画像感度指標の検討	—	2020年4月	第76回日本放射線技術学会総合学術大会	2018年のIEC60601-2-54の改定ですべての検査に自動露出機構を使用して撮影を行うように制定された。しかし、小児X線撮影において多くの施設では自動露出機構を使用しないで撮影が行われている。このため小胸部立位撮影を行った小児患者の体指標を3つのクラスターに分類(k-means法)し、画像感度指標 (S値) の統計量を検討した。年齢、体指標が小さいほど撮影条件のばらつきが大きいことが示唆され、この影響は年齢、体指標が小さいほど発育の影響が大きいためと考えられる。 本人担当部分：共同執筆のため抽出不可 共同研究者：齋藤祐樹，長又新，森岡英美
乳房用X線装置の品質管理システムの開発	—	2020年11月	第30回日本乳癌検診学会学術総会	早期乳がんを抽出するために乳房用X線装置の品質管理が重要である。我々は乳房用簡易形線量計を開発し、臨床施設と地域連携形品質管理連絡会を発足させ、品質管理システムを運用している。これにあわせ、管理データを収集する品質管理プログラムを開発した。同一のユーザーID及びパスワードを与え、データを共有したため、一覧、グラフ表示プログラムで簡便に視覚化することができ日常の装置管理に有用である。 本人担当部分：共同執筆のため抽出不可 共同研究者：齋藤祐樹，小倉泉，根岸徹

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 放射線学科

氏名

谷口 杏奈

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
群馬県内における乳がん検診の実施体制調査	共著	2022年4月	日本乳癌検診学会	群馬県における乳がん検診の実施状況調査を行った。乳がん検診の情報開示状況は、群馬県内35市町村中、集団検診では60.0%（21市町村）、個別検診では34.3%（12市町村）であり、インターネットによる検診の案内は最も一般的な方法ではなく、検診送付物や市町村の広報誌など、個人あてに送付される紙媒体による周知が主であった。また、グラフィ単独検診への移行によって、受診阻害因子を除去し、受診率向上の可能性が考えられた。また、群馬県内の各市町村の受診率と自己負担額には、集団検診において負の相関がみられ、自己負担額が受診行動に影響していることが推察された。

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 放射線学科 氏名 今尾 仁

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要
1 新・医用放射線技術実	共	令和2年10月	共立出版	共立出版，全507頁，安部真治，小田紘弘，小倉泉，小山修二（編） 担当：1.7 超音波検査技術 1.7.1 距離分解能・方位分解能の測定，P. 279-281. 超音波画像診断装置における機能，分解能測定について解説した。

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
1 A retrospective observational study investigating the factors associated with right heart failure in patients with primary acute pulmonary embolism and deep vein thrombosis (深部静脈血栓症を伴う初発性急性肺塞栓症患者における右心不全に関する因子を調査する後向き観察研究) (査読付)	共 (原著)	#####	Journal of General and Family Medicine 21 (3) pp. 63-70	塞栓後の原発性急性肺塞栓症における右心不可のリスクと骨盤および下肢の残存血栓部位の関係は明らかではない。下肢静脈血栓が存在する位置や部位などの評価をおこない、右心不全を伴った肺塞栓症では女性、両足の深部静脈血栓の存在が有意なリスクになることが示唆された。（全体の考察，結論，統計解析を担当した） 共著者：Satoshi Kobayashi, Makoto Muto, Hitoshi Yabe, Masashi Imao, Yukinori Okada
2 X線撮影補助者の防護エプロンの有用性に関する基礎的検討 (Basic Study on the Usefulness of Protective Apron for the Radiography Assistant) (査読付)	共 (原著)	令和2年	日本医療科学大学研究紀要 (第13号) ページ未定	X線胸部一般撮影の撮影補助者の被ばくにおいて、防護エプロンの有無による被ばく線量の差についてLNT仮説を用いて検討した。被ばく線量の減少率は最大80%であった。防護していない部位で最も被ばくした部位は右手手背であった。（全体の考察，結論について担当した） 共著者：角田佳祐、池野利一、延澤忠真、今尾仁、、ほか

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
1 胸部一般撮影時の場所による水晶体被ばくに関する基礎的検討	-	令和2年9月27日	第33回埼玉県診療放射線技師会学術大会要旨集 p. 33	2011年のICRPソウル声明にて水晶体等価線量限度の見直しが勧告された。胸部一般撮影の様々な場所によって水晶体の被ばく量がどの程度変化するか検討し、水晶体の等価線量は操作室および撮影室ドア前において、撮影室内は実施回数制限または防護の必要性が示唆された。 共著者：角田佳祐、池野利一、延澤忠真、今尾仁、、ほか



# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 放射線学科 氏名 丸山 星

## 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

## 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
5「The effects of scattered radiation from a semitransparent edge on MTF measurement: verification of several factors by Monte Carlo simulation」 (Scientific Paper) 「半透過エッジからの散乱線がMTF測定に及ぼす影響;モンテカルロシミュレーションによる因子の検証」	共著	令和2年3月	Physical and Engineering Sciences in Medicine 43(2), 547-556 DOI: 10.1007/s13246-020-00855-6	MTF測定におけるエッジからの散乱放射の影響に焦点を当て、先行研究で確認されたエッジ強調効果をモンテカルロシミュレーションを使用して検証し、air gapや被写体からの散乱線によるMTFへの影響を調べた。エッジからの散乱線による協調効果は、シミュレーションでも確認された。本研究では、air gapが増加するとMTFのピークはより低い空間周波数にシフトするといふ、air gapの変化に対するMTFへの影響の変化を明らかにした。さらに、被写体を付加してもエッジからの散乱線による影響は残ることが分かった。半透過エッジを使用する場合、エッジ材料のK吸収端を超えないようにX線エネルギーを設定する必要があり、実験ジオメトリおよび散乱線による低空間周波数の影響を考慮する必要があると結論づけた。 (実験の遂行、全体の考察、執筆を担当) 共著者: <u>Sho Maruyama</u> , Masayuki Shomisegawa
6「Verification of the influence of the sampling aperture on the digital noise power spectrum」 (EPOS) 「デジタルノイズパワースペクトルに対するサンプリングアパーチャの影響の検証」	共著	令和2年7月	ECR2020 DOI: 10.26044/ecr2020/C-04596	直接変換型FPDで測定されたNPSは、空間周波数軸に対して平坦になるが、これはNPSがpresampled MTFの2乗に比例するという確立された理論と矛盾する。そこで、この研究では、NPSに対するアパーチャの影響を明らかにすることを目的とした。検証にはシミュレーションと実測が用いられた。シミュレーションから得られたNPSは、理論値と非常によく一致した。検証の結果、NPSにはサンプリングアパーチャの影響が含まれていないことが示唆され、実測の結果もこの考えをサポートするものであった。 (実験の遂行、全体の考察、執筆を担当) 共著者: <u>Sho Maruyama</u> , Masayuki Shomisegawa
7「Visualization of blurring process due to analog components in a digital radiography system using a simple method」 (Technical Note) 「簡単な方法を用いたデジタルX線画像システムにおけるアナログ成分によるボケプロセスの可視化」	単著	令和2年11月	Physical and Engineering Sciences in Medicine 43(4), 1461-1468 DOI: 10.1007/s12194-015-0325-2	シミュレーションなどの特別な手法を必要としない、DRシステムの性能を詳細に説明し、アナログ成分によるボケの過程を可視化する方法を提案した。検証にはいくつかのタイプの検出器が使用され、モデル化するために使用される関数の種類やパラメータはシステムによって異なった。各検出器の構造と信号転送過程に基づくと、可視化された結果は信頼できると考えられ、簡便なアプローチによるDRシステムの画質特性の詳細な理解に役立つと結論付けた。 (実験の遂行、全体の考察、執筆を担当) 著者: <u>Sho Maruyama</u>

その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
22「Verification of the effect of sampling aperture on the noise power spectrum」	—	令和2年7月	ECR2020 ウィーン オーストリア (オンライン開催)	NPSに対するアパーチャの影響を明らかにすることを目的として、シミュレーションと実測を用いた理論的な検証を行った。シミュレーションから得られたNPSは、理論値と非常によく一致した。NPSにはアパーチャの影響が含まれていないことが示唆されることを報告した。 (実験の遂行、全体の考察、まとめ、発表などを担当) 共著者: Sho Maruyama, Masayuki Shomisegawa
23「当施設におけるROI画素値を用いた日常管理点検」	—	令和2年11月	第30回日本乳癌検診学会 学術総会 仙台国際センター 宮城県	マンモグラフィシステムにおけるROI画素値を用いた基準値管理幅の設定に関する報告を行った。基準値の幅を2SDとすることでシステムの以上を早期に発見することができる可能性があり、さらに、基準値の定期的な見直しが必要であることを報告した。 (共同研究のため、担当部分抽出不可) 共著者: 谷口 杏奈、木村 風那、太田 裕香、小笠原 百々翔、丸山 星、斎藤 祐樹、倉石 政彦

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 放射線学科・助教 氏名

徳重 佑美子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
流星祭企画オープン・スクールにおける展示テーマのアンケート調査結果報告	共著		群馬バース大学紀要 No. 26 (論文受理通知書あり)	本報告は、オープン・スクールのアンケート調査の結果をもとに来場者の意見や感想を整理し、実施内容の検証と今後の課題について、過去3年間分のアンケート調査結果との比較を行い、検討することを目的として実施した。結果として、展示内容によって来場者の関心の高さに差がみられ、来場者に興味を持ってもらえるような工夫が必要な展示が明確になった。今後も継続して調査を行い、オープン・スクールの満足度向上と放射線学科の認知度向上に貢献したいと考える。 著者：徳重佑美子、共著者：小池正行、丸山星

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 臨床工学科

氏名

尾林 徹

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
Adminstration of Direct Oral Anticoaglant Immediately after Unfractionated Heparin Bolus for the Treatment of Intermediated-High-Risk Pulmonary Thromboembolism.	共著 Nobuhiro Hara, K. Watanabe, <u>Toru Obayashi</u> , et al.	Advanced Published Date: Sep. 28, 2020	Annals of Vascular Disease	中等～高重症度の急性肺塞栓症の急性期の治療について、未分画ヘパリンのボラス投与に引き続いて、従来から行われてきた経静脈的な抗凝固薬の投与ではなく、ワルファリンに変わる新規の経口直接抗凝固薬を投与しても予後に差異がなく安全に使用できることを明らかにした。

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 臨床工学科 氏名

近土真由美

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
「無線通信を利用した輸液ポンプ遠隔監視システムの研究開発意義について」 (査読付)	共著	2020年11月	医工学治療vol. 32 No. 3 : 153-158	無線LANモジュールを搭載した通信機器および輸液ポンプの送液状態をスマートフォンやタブレット端末のスマートデバイスに表示させるソフトウェアを開発し、学内における輸液ポンプ遠隔監視システム検証実験を実施した。本システムは輸液ポンプを遠隔から監視し、アラーム発生時には迅速な対応を促すことで送液中の安全性の向上に有用なデバイスであることが示唆された。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 共著者：吉岡淳、近土真由美、加藤正太、島崎直也、鈴木博子、西本千尋、松田智美、保科正美、芝本隆

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
「光学的原理と体格指数から解析した簡易身長体重計の測定精度とその有用性について」	-	2020年9月	第30回日本臨床工学会（WEB開催）	仰臥位のまま光学的原理で身長を瞬時に測定し、そのデータから体格指数を用いて体重を推定する簡易身長体重計（OHW）の測定精度とその有用性について検証した。結果、OHWの測定値は実測値を同程度であり、高い精度が証明された。さらに、救命救急センターなどへ搬送される意識不明症例に対しても身長・測定が可能のため、薬液投与量算出の際においても適正で安全な治療器大きく貢献でき、その有用性は高い。 共同演者：吉岡 淳、近土真由美、加藤正太、島崎直也、鈴木博子、西本千尋、芝本隆
「加速度センサと揺れ感度機能付き落下防止柵を備えた医療機器充電棚の開発」	-	2020年9月	第30回日本臨床工学会（WEB開催）	医療機器の充電と保管が可能な医療機器充電棚を運用していたが、東日本大震災の影響により充電棚から多くの輸液、シリンジポンプが落下し、医療機器の転倒・落下・移動防止対策が望まれた。そこで、加速度センサと揺れ感度機能付き落下防止柵を備えた医療機器充電棚を開発した。加速度センサを用いて充電棚の揺れや衝撃を検知し、機器落下防止バー降下することでフェンスの役目を果たし、医療機器の棚外への落下を防止することが可能となった。 共同演者：湯浅彩乃、新井莉奈、吉岡淳、近土真由美、加藤正太、島崎直也、鈴木博子、西本千尋、芝本隆

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
「医療機器を対象とした加速度センサを用いた震度の科学的解析」	-	2020年9月	第30回日本臨床工学会（WEB開催）	震災時の医療機器落下は患者やスタッフを危険にさらし、さらに医療機器の破損にもつながる。 そこで、医療機器を対象として震度の科学的解析を加速度センサの原理を用いて行い、医療機器の適正で安全な保管条件について検討した。 その結果、地震による医療機器の落下を防ぐには、感度指数 $\leq 2$ に設置して保管することが必要であり、これによりスタッフの安全や機器の破損が防止できる。 共同演者：新井莉奈、湯浅彩乃、吉岡淳、近土真由美、加藤正太、島崎直也、鈴木博子、西本千尋、芝本隆

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 臨床工学科 氏名 草間 良昌

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 臨床工学科 氏名 佐藤 求

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
6 視覚的表現に優れたロジックトレーナーの製作 (査読付)	共著	2020.3 (実際には7月の発行)	群馬バース大学紀要25号. 25-29	論理演算の理解のため、複数の論理ゲートを自由に組み合わせることのできる教育用の実習機器を製作した。 High信号が送られている配線ではLEDが順次点灯するようにしたため、市販のロジックトレーナーよりも信号の流れが視覚的に追やすくなった。 また、(Low信号時のみならず)使用していない場合にも消灯する回路を実現した。これはOPアンプを普通は忌避される電圧領域で使用することで起きる出力跳躍現象の特殊な利用法である。 Motom Sato, Chihiro Nishimoto

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要



# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 臨床工学科 氏名 島崎直也

## 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

## その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
<p>Simultaneous assessment system of sticking to blood vessel and recirculation rate with TOUGHSiLON Gel artificial blood vessels (タフシロンゲル製人工血管を用いた血管へばりつきと再循環率の同時評価システム)</p>	共著	28-Nov-20	TOIN 15th International Symposium on Biomedical Engineering (Online)	<p>タフシロンゲル製の人工血管を用いた血管へばりつきを高い再現性で実現できる評価システムを製作し、市販の4種類のDLCについて性能比較を試みた。市販されているサイドホール型、エンドホール型、コアクシャル型、パリンドローム型の4種類のDLCをそれぞれ模擬血管内に留置し、DLCの挙動を動画撮影した。その結果、へばりつきが発生する直前のDLCの振動はコアクシャル型が最も小さく、それに応じてへばりつきの発生頻度が最も小さくなる結果となった。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 共著者：Yukino Sasaki, <u>Naoya Shimazaki</u>, Noriaki Nakane, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato</p>
<p>Computational fluid dynamics analysis of venous air trap chamber geometry for reduction of blood coagulation (血液透析中の血液凝固を防ぐ静脈側エアトラップチャンバの最適形状に関するCFD解析)</p>	共著	28-Nov-20	TOIN 15th International Symposium on Biomedical Engineering (Online)	<p>静脈側エアトラップチャンバの各種設計パラメータが、血液凝固の発生に及ぼす影響について理論的な検討を行うために、血液流入口と濾過網の組合せを変えた4種類の静脈側エアトラップチャンバに対してCFD解析を試みた。また、解析結果の有効性を検証するためにPIVによる流れの可視化も試みた。その結果、CFD解析結果とPIVによる可視化結果が良く一致し、静脈側エアトラップチャンバの設計パラメータを、CFD解析によって理論的に決定できる可能性が示された。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 共著者：Naoya Shimazaki, Yoshimasa Shin' e, Noriaki Nakane, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato</p>

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 臨床工学科 氏名 鈴木 博子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
新たに開発した無線通信システムによる輸液ポンプの遠隔監視に関する研究	共著	2020年11月	医工学治療	無線LANモジュールを搭載した通信機器および輸液ポンプの送液状態をスマートフォンやタブレット端末のスマートデバイスに表示させるソフトウェアを開発し、輸液ポンプ遠隔監視システムの検証試験を実施した。本システムは、輸液ポンプを遠隔から監視し、アラーム発生時には迅速な対応を促すことで、送液中の安全性の向上に有用なデバイスである可能性が示唆された。吉岡淳、近土真由美、加藤正太、島崎直也、鈴木博子、西本千尋、松田智美、保科政美、芝本隆

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
1. へばりつき現象の定量評価システムを用いたダブルルーメンカテーテルの最適先端形状に関する研究		2020年5月	第59回日本生体医工学学会大会	生体に近い条件でへばりつき現象の発生を再現、かつ定量的に評価できるシステムについて検討を行った。へばりつき現象の発生を生体外で再現し、脱血圧変化からその発生を定量評価できるシステムを構築することができた。また、CO-DLCの開孔率を変更した際には、先端孔の開孔率25%と50%ではへばりつき現象が発生するまでの時間が長いことが分かった。 鈴木博子、奥 知子、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 光学的原理と体格指数から解析した簡易身長体重計の測定精度とその有用性について		2020年9月	第30回日本臨床工学会	仰臥位のまま光学的原理で身長を瞬時に測定し、そのデータから体格指数を用いて分析して体重を推定する簡易身長体重計を開発し、測定精度とその有用性について検証し、高い精度が検証された。救急救命センターなどへ搬送される意識不明症例に対しても身長と体重が測定できるため、薬液投与量算出を行う上でも適正で安全な治療に大きく貢献でき、その有用性は高いと考える。 吉岡淳、近土真由美、加藤正太、島崎直也、鈴木博子、西本千尋、芝本隆
3. 医療機器を対象とした加速度センサを用いた震度の科学的解析		2020年9月	第30回日本臨床工学会	震災時の医療機器落下は患者やスタッフを危険にさらし、さらに医療機器の破損にもつながる。そこで、医療機器を対象として震度の科学的解析を加速度センサの原理を用いて行い、医療機器の適正で安全な保管条件について検討した。感度指数 $\leq 2$ に設置して保管することが必要であり、これによってスタッフの安全や機器の破損が防止できる。新井莉奈、湯浅彩乃、吉岡淳、近土真由美、加藤正太、島崎直也、鈴木博子、西本千尋、芝本隆
加速度センサと揺れ感度機能付き落下防止柵を備えた医療機器充電棚の開発		2020年9月	第30回日本臨床工学会	医療機器の中には充電機能を有する機器もあり、保管と充電を同時に行うことはスタッフの省力化をサポートする。平成23年3月に発生した東日本大震災では、充電棚から多くの輸液、シリンジポンプが落下し、医療機器の転倒・落下・移動防止対策が望まれた。 加速度センサを用いて揺れや衝撃を検知し、機器落下防止バーが降下することで、充電中の医療機器落下を防止できる医療機器充電棚を開発できた。 湯浅彩乃、新井莉奈、吉岡淳、近土真由美、加藤正太、島崎直也、鈴木博子、西本千尋、芝本隆

## 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 臨床工学科 氏名 西本千尋

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要
みんなの呼吸器 レスピカ	共著	2020年8月1日	株式会社 メディカ出版	<p>治酸素マスクには様々な形状・構造があり、酸素療法ガイドラインでは「マスク内に呼気ガスが溜まらないよう5L/分以上の酸素流量で使用するのが望ましい」とされている。しかし、実際の臨床現場ではガイドラインに沿った正しい使用方法で使用されていないケースが多くある。そこで、吸入酸素濃度や呼気のCO2再呼吸を考慮した酸素マスクの選択と酸素療法時のストレスの低減について記している。</p> <p>編著者：中根正樹、安宅一晃、尾野敏明、関口浩至、横山仁志 一部P116～p120(実験の遂行) 吉岡淳、西本千尋</p>

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要
1 CO連続測定における圧電素子の固定方法が与える加速度脈波への影響	共著	2020年3月	群馬パース大学紀要	<p>圧電センサを用いた非侵襲的連続循環動態モニタリングについての基礎研究としてセンサの固定に用いる最適な医療用テープについて検討を行った。実験には振子による単振動発生装置を作成し圧電素子を固定するテープの素材を変えて実験を行った結果、医療用テープの種類によって圧電センサで得られる波形の波高に違いがみられた。固定に最適な医療用テープはカブレステープであることが明らかになった。(実験の遂行、全体の考察、執筆を担当) 共著者：西本千尋、小野哲治、芝本隆</p>
2 視覚的表現に優れたロジックトレーナーの製作	共著	2020年3月	群馬パース大学紀要	<p>論理演算の理解のため、複数の論理ゲートを自由に組み合わせることのできる教育用の実習機器を製作した。</p> <p>High信号が送られている配線ではLEDが順次点灯するようにしたため、市販のロジックトレーナーよりも信号の流れが視覚的に追いやすくなった。</p> <p>また、(Low信号時のみならず)使用していない場合にも消灯する回路を実現した。これはOPアンプを普通は忌避される電圧領域で使用することで起きる出力跳躍現象の特殊な利用法である。(回路作成、執筆補助) 共著者：佐藤求、西本千尋</p>
3 新たに開発した無線通信システムによる輸液ポンプの遠隔監視に関する研究(査読付)	共著	2020年11月	医工学治療	<p>輸液ポンプの送液作動等の情報を常時監視し、タブレット端末やスマートフォンに送信表示させる遠隔監視システムを考察し開発した結果、学内無線LANネットワークを経由して情報待ち受け者の端末に確実に送信された。アラーム警報時に迅速に対応が可能となることで、医療現場での安全性向上に有用なシステムである。(研究補助) 共著者：吉岡淳、近土真由美、加藤正太、島崎直也、鈴木博子、西本千尋、松田智美、保科政実、芝本隆</p>

その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
唾液アミラーゼ活性値を用いたインターフェイス装着時のストレス評価	共著	2020年9月29日	第30回日本臨床工学会	酸素療法を目的とするインターフェースデバイスは形状は吹き付けや接触部位や面積などは種類により異なり、患者は不快感を生じる可能性が否定できない。ストレス評価指標として有用であるアミラーゼを唾液から測定し、各インターフェイス使用における唾液アミラーゼ活性の変化を3種類のデバイスについて比較検討した。3群間に有意差が生じる結果となった。酸素療法は、低ストレスで快適な装着感に加えて皮膚トラブルの軽減に寄与できるインターフェイスの選択をすることが重要であるとした。 (実験の遂行、全体の考察、執筆を担当) 共著者：西本千尋、吉岡淳、加藤正太、芝本隆
COMPARISON OF STRESS PATIENT EXPERIENCES DURING APPLICATION OF OXYGEN THERAPY WITH THREE TYPES OF INTERFACE DEVICES USING KIT FOR MEASURING AMYLASE ACTIVITY	共著	2020年12月5日	AARC	ストレス評価指標として有用であるアミラーゼを唾液から測定し、各インターフェイス使用における唾液アミラーゼ活性の変化を比較検討した。結果より、鼻カニューレは接触面積が少ないため装着感を減少させストレスが最も少なかった。エコライトマスクは耳下での固定が従来のマスクと比較して不快感を軽減できたと考えられる。酸素療法は、低ストレスで快適な装着感に加えて皮膚トラブルの軽減に寄与できるインターフェイスの選択をすることが重要であるとした。 (実験の遂行、全体の考察、執筆を担当) Nishimoto C, Yoshioka J, Kato S, Shibamoto T
光学的原理と体格指数から解析した簡易身長体重計の測定精度とその有用性について	共著	2019年9月30日	第30回日本臨床工学会	仰臥位のまま光学的原理で身長を瞬時に測定し、そのデータから体格指数を用いて分析し体重を推定する簡易身長体重計を開発しその有用性について検証した。簡易身長体重計の測定身長と体重はどちらも実測値と高い正の相関が得られ、高い精度が検証された。薬剤投与量算出を行う上でも適正で安全な治療に大きく貢献でき、その有用性は高いと考える。(研究補助、統計処理) 共著者：吉岡淳、近土真由美、加藤正太、西本千尋、他
医療機器を対象とした加速度センサを用いた震度の科学的解析	共著	2019年9月30日	第30回日本臨床工学会	震災時の医療機器保護の観点から、医療機器を対象とした震度の科学的解析を加速度センサの原理を用いて行い、医療機器の適正で安全な保管条件について検討した。棚に静置したシリンジポンプと輸液ポンプは震度6弱から落下した。地震による医療機器の落下を防ぐためには震度6弱の揺れを観測したときに落下を防ぐ落下防止バーが作動することが必要であり、これによってスタッフの安全や機器の破損を防止できる。 (研究補助、執筆補助) 共著者：湯浅彩乃、新井莉奈、吉岡淳、西本千尋、他
加速度センサと揺れ感度機能付き落下防止柵を備えた医療機器充電棚の開発	共著	2019年9月30日	第30回日本臨床工学会	震災時における医療機器の落下防止に関する研究として、加速度センサ並びに落下防止バーを備えた医療機器充電棚を開発した。震度の大きさにおける検証結果、揺れ感度を上げるほどに感度が高くなり、弱い振動で落下防止バーが作動した。加速度センサを用いた設定加速度並びに揺れ感度と地震の大きさは相関があることが検証できた。 (研究補助、執筆補助) 共著者：新井莉奈、吉岡淳、湯浅彩乃、西本千尋、他
Study on an organism affected by circumferential runout of roller pump in low cardiac output ECMO	共著	2019年9月19日	生体医工学 (ABE) シンポジウム2020	本研究では豚血液を扱い、医療機器の連続的な物理現象によって、血液成分の変化を確認するのが目的とする。しかしながら、豚血液は一般的なものでなく、個体差により血液成分および血球形態が変化するもので、定量的な実験が困難と言われている。これにはローラポンプの圧閉度が重要な鍵となり、本研究では圧閉度を電気抵抗値を用いて数値化した。さらには豚血液を用いて、圧閉度による血液形態の変化を調査した。 (研究補助) 共著者：加藤正太、吉岡淳、野村保友、西本千尋、他

## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 教養共通教育部 氏名

杉田 雅子

### 著書

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所	概 要

### 学術論文

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要

### その他

名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
Benjamin Disraeli, 『コニングズビー』 (査読付き)	共訳	令和2年3月	Fortuna第31号 欧米言語文化学会誌	Benjamin Disraeliの小説 <i>Coningsby</i> の第4巻 第11章第12章を翻訳。 B5判全146頁 担当部分：第4巻第11章、pp. 55～65 共訳者：杉田雅子、関田朋子

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 教養共通教育部

浅見知市郎

## 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
Non-invasive intravital observation of lingual surface features using sliding oral mucoscopy techniques in clinically healthy subjects	共著	2020 Jan	Odontology	新たに開発した接触型口腔粘膜鏡を用いて、19歳から22歳の28名の女性の舌背を観察した。この結果、接触型口腔粘膜鏡は非侵襲的に生体の舌背を観察するために有用であることが示唆された。 Satoko Tsuchida・Ken Yoshimura・Naoki Nakamura・Naoki Asanuma・Shin-Ichi Iwasaki・Yukio Miyagawa・Shinichi Yamagiwa・Takashi Ebihara・Yuko Morozumi・Tomoichiro Asami・Naoki Kosuge

## その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
生活習慣が及ぼす血清中サイトカインIFN- $\gamma$ への影響	共著	2020年10月31日	第27回末病学会学術総会(オンライン)	IFN- $\gamma$ はウイルス感染によって主にTh1細胞やNK細胞から産生され、ウイルス増殖や腫瘍細胞の排除に関わるサイトカインである。今回大幅に高値を示した3名は9. 休息の項目で16点満点中3点、7点、8点と低い得点を示していた。よって適度な休息は、感染症や腫瘍リスクを下げ適切なIFN- $\gamma$ 濃度を維持できる可能性が考えられた。今回の検討では6. 食事のバランスがIFN- $\gamma$ 濃度に負の相関傾向を示した。以上のことから、バランスの良い食事はTh2細胞優位に傾く可能性を示唆した。 藤本友香、浅見知市郎、柳川益美、時田佳治、古田島伸雄、小河原はつ江、村上正巳
生活習慣が及ぼす血清中サイトカインへの影響その2	共著	2020年10月31日	第27回末病学会学術総会(オンライン)	我々の既報では、制御性T細胞比率は「⑩睡眠の規則性」(p<0.05, t=2.18)の項目との間に有意な関連を示した。そこで今回我々は、睡眠の規則性などにTGF- $\beta$ 濃度は影響を受けるのではないかと推察し測定を行ったが、血清中のTGF- $\beta$ 濃度は生活習慣に影響を受けていない可能性が示唆された。 藤本友香、浅見知市郎、柳川益美、時田佳治、古田島伸雄、林由里子、小河原はつ江、村上正巳

# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 教養共通教育部 氏名

榎本 光邦

## 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概要
1. 時間軸でのアプローチー太田ステージ理論による子どもの発達の評価ー	共著	令和2年12月	ともあ, 小児リハビリテーションVol. 8	ともあ, 全106頁, 分担執筆: 榎本光邦, 岩城敏之, 中磯子, 加藤望, 岸本光夫他, 担当: 特集 1. (16～28頁). 本稿は子どもの発達を促す遊びを, 子どもの発達の段階と時間軸に沿って提案した。その際, 子どもの発達の様子をいくつかの節目で段階分けするために, 太田昌孝(1941～2018)が主にPiagetの発達理論を参考にして作成した“太田ステージ理論”を導入した。 各ステージの説明の最後に, これまで筆者が公立の教育相談センターや, 保育園・幼稚園の巡回相談で担当してきた事例を基に作成した仮想事例を記載し, 各ステージでの支援の例を示した。

## 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概要

## その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1. 言葉にすること・言葉にならないということ: 基礎心理学と人間性心理学の交差V	—	令和2年9月	日本人間性心理学会 第39回大会 (自主シンポジウム) 事務局 群馬パース大学 (オンライン開催)	心理療法は多くの場合言葉を通したやりとりによって進んでいく。芸術療法など言葉以外を媒介とした療法を含めて心理療法で言葉にすることは重要なテーマと言える。一方で, 言葉にならないことが心理療法のプロセスで大きな意味を持つこともある。 榎本は知能検査における被検者の言葉による回答について, 言葉にできたこと・言葉にならなかったことから被検者についてどう見立てるかについて話題提供を行った。 担当: 話題提供 発表者: 宮田周平, 久羽康, 上田紋佳, 藤木大介, 榎本光邦
2. 中途退学学生と進級・卒業学生の精神的健康度に関する比較研究ー中途退学学生と進級・卒業学生のUPI-RSスコアの比較ー	—	令和2年10月～11月	日本心理学会 第84回大会 (ポスター発表) 担当校 東洋大学 (オンライン開催)	UPI-RS60項目のうち, 榎本(2019)が抽出した8項目について, 中退群89名と進級・卒業群89名の合計得点の平均値についてt検定による比較を行った。その結果, 全8項目およびその合計点の平均値について, 中退群の方が進級群よりも得点の平均値が有意( $<.001$ )に高く, 特に項目12「やる気が出てこない」, 項目13「悲観的になる」では約1点の差が, 8項目の合計では約6点の差が見られたことから, これらを大学生の中退のリスクを予測する指標として使用できると考えられた。



## 研究活動の記録（2020年1月～2020年12月）

所属 教養共通教育部 氏名

洞口 貴弘

### 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概 要
なし				

### 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
なし				

### その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
なし				



# 研究活動の記録 (2020年1月～2020年12月)

所属 教養共通教育部 氏名

衣川 隆

## 著書

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所	概 要

## 学術論文

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発表雑誌等の名称	概 要
鏡視下腱板修復術後にストレッチボールエクササイズおよび投球動作訓練を施行し野球投球動作を再獲得した一例	単著	2020年3月	群馬バース大学紀要第25号	

## その他

名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要